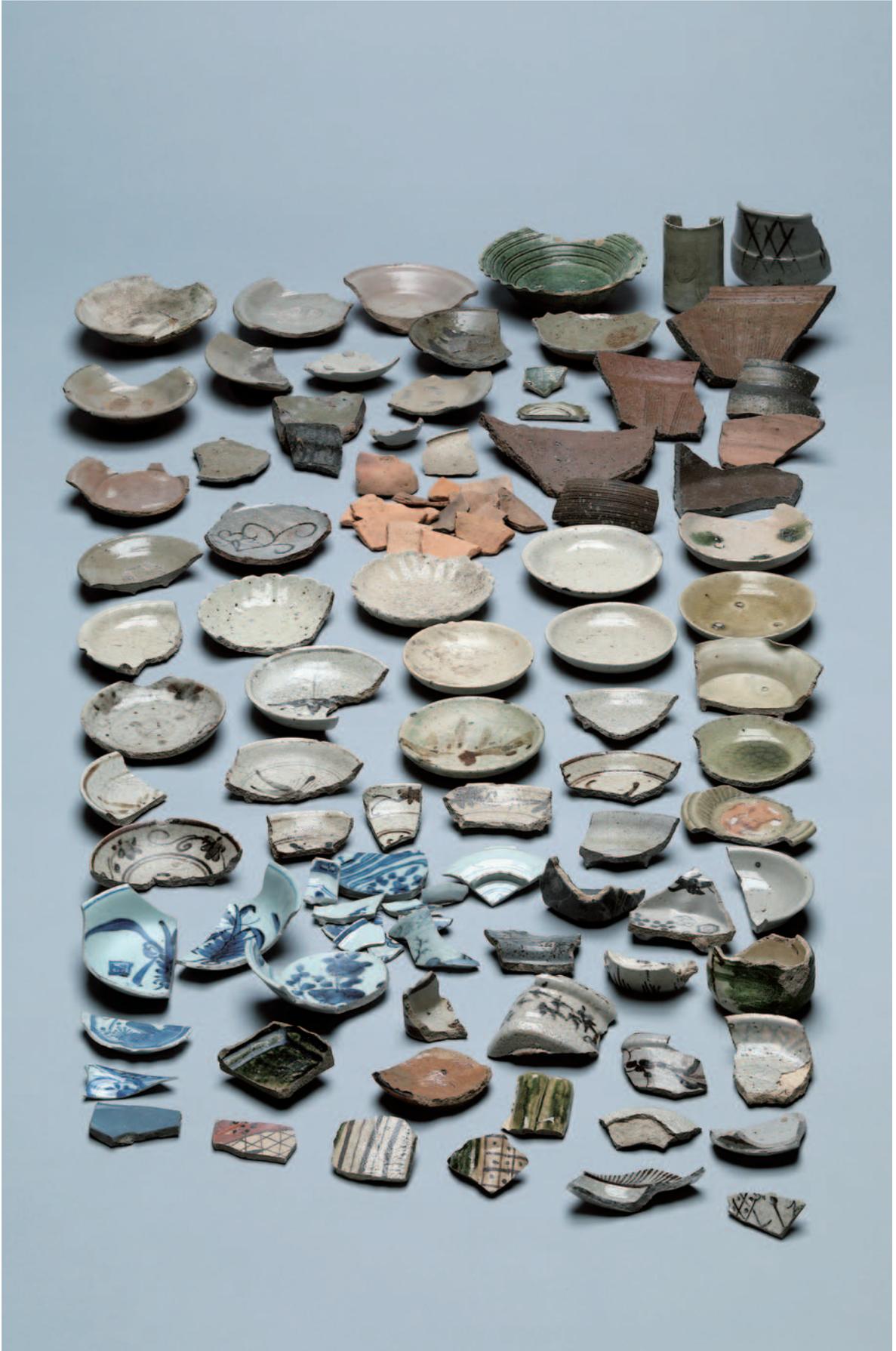


京都市内遺跡詳細分布調査報告

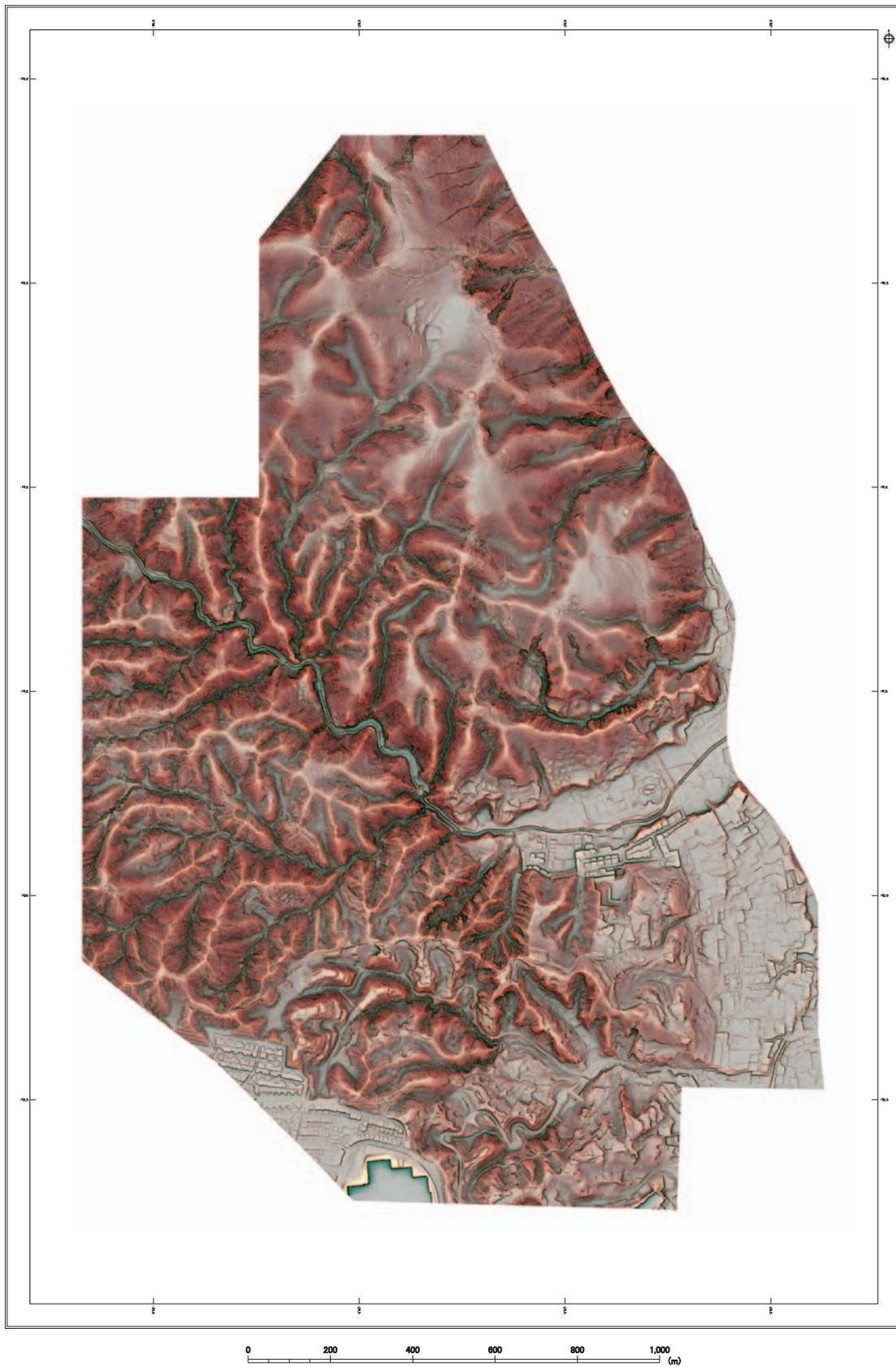
平成 30 年度

2019 年 3 月

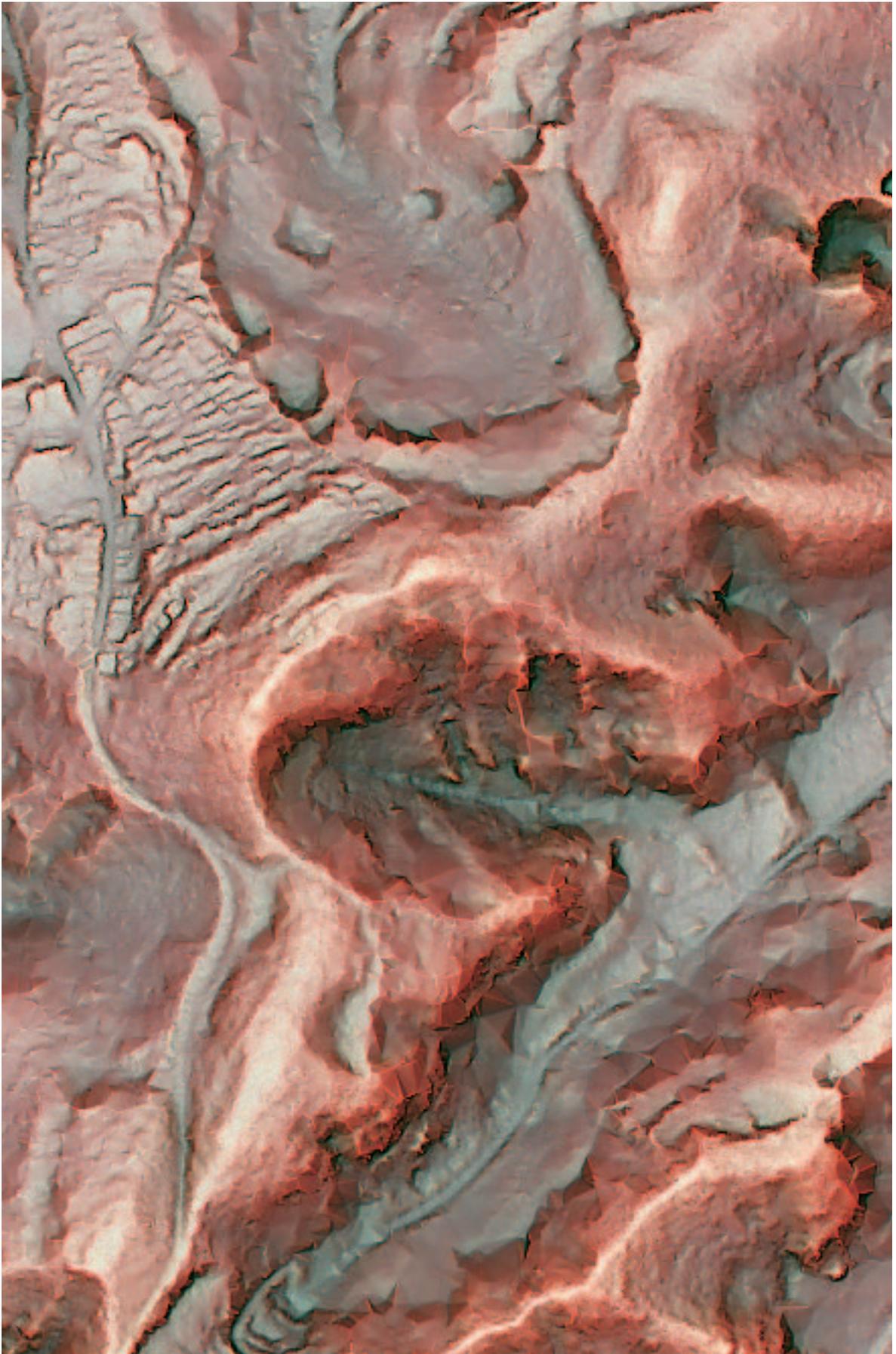
京 都 市 文 化 市 民 局



1 愛宕山遺跡採集遺物集合写真 (17A007)



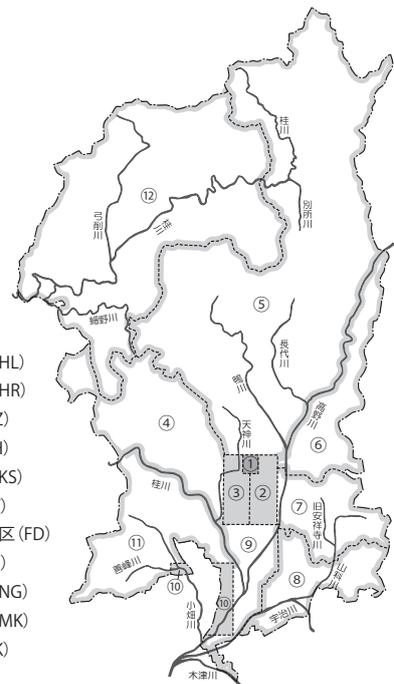
2 山田桜谷古墳と周辺遺跡群 赤色レーザー測量写真 (18A006)



3 山田桜谷古墳群赤色レーザー測量写真拡大図（左が北）（18A006）

例 言

- 1 本書は京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した平成30年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。平成30年1月から12月まで実施した詳細分布調査のうち、重要な成果のあったものについて本文で報告している。
- 2 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。
- 3 本書報告の調査のうち、基準点測量した調査の方位および座標は、世界測地系平面直角座標系VIによる。標高はT. P. (東京湾平均海面高度)による。またこれ以外の場合は、既存公共物などを仮基準点(KBM)として用いている。
- 4 本書で使用した調査位置図は京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/2,500)を調整し、作成したものである。このほか、図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。
図版1～13 1/8,000 図版14～28, 29-1～3 1/10,000 図版29-4 1/25,000
- 5 本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は、一部を除き、小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号,(財)京都市埋蔵文化財研究所,1996年に準拠する。
- 6 本書で使用した土色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』2016年度版に準じた。
- 7 調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており、調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は、平安宮跡,平安京跡,長岡京跡については、官衙・条坊を優先して記載した。
- 8 一覧表の地区分けについては、右の地区設定概念図にもとづいている。
- 9 遺物整理にあたっては、上茶谷美保,上別府亜紀,早川仁志,三枝愛,義井良作,吉本健吾の協力を得た。
- 10 調査及び本書作成は、京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課が担当し,(公財)京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。なお、「II-6 平安京左京九条一坊十二町跡,史跡 教王護国寺境内 付.東寺御影堂(大師堂)の白色資料に関する分析報告」は(公財)京都市埋蔵文化財研究所職員関晃明氏,龍谷大学文学部教授北野信彦氏の玉稿を賜った。



- ① 平安宮(HQ)
- ② 平安京左京(HL)
- ③ 平安京右京(HR)
- ④ 太秦地区(UZ)
- ⑤ 洛北地区(RH)
- ⑥ 北白川地区(KS)
- ⑦ 洛東地区(RT)
- ⑧ 伏見・醍醐地区(FD)
- ⑨ 鳥羽地区(TB)
- ⑩ 長岡京地区(NG)
- ⑪ 南桂川地区(MK)
- ⑫ 京北地区(UK)

地区設定概念図

本文目次

I 調査概要	1
II 平安京左京	6
1 平安京左京四条二坊十二町跡 (17H435)	6
2 平安京左京五条二坊七町跡 (17H587)	16
3 平安京左京五条三坊三町跡, 烏丸綾小路遺跡 (17H624)	19
4 平安京左京六条四坊十五町跡 (17H567)	22
5 平安京左京八条二坊十町跡 (18H205)	24
6 平安京左京九条一坊十二町跡, 史跡 教王護国寺境内 (28N005)	28
III 平安京右京	35
1 平安京右京三条一坊十一町跡, 壬生遺跡 (18H481)	35
2 平安京右京九条一坊十三・十四町跡, 史跡 西寺跡, 唐橋遺跡 (28C090)	37
IV その他の遺跡	39
1 愛宕山遺跡 (17A007)	39
2 市指定名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園, 大原延暦寺別院境内 (17A006)	52
3 得長寿院跡, 白河街区跡, 岡崎遺跡 (18R225)	57
4 円勝寺跡, 岡崎遺跡 (13R450)	59
5 革嶋館跡 (18S132)	62
6 山田桜谷古墳群 (18A006)	64
V 調査一覧	70
報告書抄録	98

挿図目次

地区設定概念図	i
平安京左京四条二坊十二町跡 (17H435)	
図1 調査位置図	6
図2 調査区配置図	6
図3 立会調査地点 断面図	8

図4	第1区全体図	9
図5	第2区全体図	10
図6	出土遺物実測図1	11
図7	出土遺物実測図2	12
図8	遺構変遷図	14
図9	第1区遺構面検出状況	15
平安京左京五条二坊七町跡 (17H587)		
図10	調査位置図	16
図11	遺構位置図	16
図12	No.1地点 西壁断面図	17
図13	No.2地点 南壁・No.3地点 西壁断面図	17
図14	土坑1 出土遺物実測図	18
図15	No.3地点3層 出土遺物実測図	18
平安京左京五条三坊三町跡, 烏丸綾小路遺跡 (17H624)		
図16	調査位置図	19
図17	遺構位置図	19
図18	各調査地点断面図	20
図19	出土遺物実測図	21
平安京左京六条四坊十五町跡 (17H567)		
図20	調査位置図	22
図21	遺構位置図	22
図22	遺構断面図	22
図23	出土遺物実測図	23
図24	落込み (A-A' 間断面)	23
図25	ピット (B-B' 間断面)	23
平安京左京八条二坊十町跡 (18H205)		
図26	調査位置図	24
図27	遺構位置図	24
図28	調査地点断面図	25
図29	調査地点平面・断面図	26
図30	出土遺物実測図	27
平安京左京九条一坊十二町跡, 史跡教王護国寺境内 (28N005)		
図31	調査位置図	28
図32	調査地全景	28
図33	御影堂変遷図	29

図 34 調査区配置図	29
図 35 床下礎石平面図	30
図 36 遺構実測図	31
図 37 土坑 1 壁面	31
図 38 出土遺物実測図	32
図 39 風化が進む南側柱列の礎石	32
図 40 蛍光 X 線スペクトルと生物顕微鏡拡大画像	33
平安京右京三条一坊十一町跡, 壬生遺跡 (18H481)	
図 41 調査位置図	35
図 42 調査地点位置図	35
図 43 遺構平面・断面図	36
図 44 遺構検出状況	36
平安京右京九条一坊十三・十四町跡, 史跡西寺跡, 唐橋遺跡 (28C090)	
図 45 調査位置図	37
図 46 調査地点位置図	38
図 47 各調査地点断面柱状図	38
図 48 出土遺物実測図	38
愛宕山遺跡 (17A007)	
図 49 採集地点位置図	39
図 50 採集地点 (A 地点) 現況	40
図 51 遺物散布状況	40
図 52 遺物実測図 1	42
図 53 遺物実測図 2	43
図 54 遺物実測図 3	44
図 55 遺物実測図 4	44
図 56 遺物実測図 5	45
図 57 遺物実測図 6	45
図 58 遺物実測図 7 及び拓影	46
図 59 遺物写真 1	50
図 60 遺物写真 2	51
市指定名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園, 大原延暦寺別院境内 (17A006)	
図 61 2 区調査前風景	52
図 62 調査位置図	52
図 63 調査区配置図	53
図 64 1・2 区平面及び断面図	54

図 65	1 区東壁	55
図 66	2 区全景	55
図 67	2 区下層堆積状況	55
図 68	出土遺物実測図	55
	得長寿院跡, 白河街区跡, 岡崎遺跡 (18R225)	
図 69	調査位置図	57
図 70	遺構位置図	57
図 71	調査地点断面図	58
図 72	ピット 1 検出状況	58
図 73	土坑 5・6 検出状況	58
	円勝寺跡, 岡崎遺跡 (13R450)	
図 74	調査位置図	59
図 75	遺構位置及び発掘調査検出遺構関連図	59
図 76	遺構断面図	60
図 77	溝 1 出土遺物実測図	61
	革嶋館跡 (18S132)	
図 78	調査位置図	62
図 79	遺構位置図	62
図 80	遺構断面図	63
図 81	ピット 4・5 検出状況	63
図 82	ピット 7 検出状況	63
	山田桜谷古墳群 (18A006)	
図 83	調査位置図	64
図 84	計測飛行ルートと測量範囲	64
図 85	既住の測量図	65
図 86	調査地点位置図	66
図 87	1 号墳墳丘周囲の造成痕跡	67
図 88	山田桜谷古墳群等高線図	67
図 89	2 号墳付近	68

図版目次

- 巻頭図版 1 愛宕山遺跡採集遺物集合写真 (17A007)
2 山田桜谷古墳と周辺遺跡群 赤色レーザー測量写真 (18A006)
3 山田桜谷古墳群赤色レーザー測量写真拡大図 (18A006)
- 図版 1 平安宮
- 図版 2 平安京左京北辺～三条 一・二坊
- 図版 3 平安京左京北辺～三条 三・四坊
- 図版 4 平安京左京 四～六条 一・二坊
- 図版 5 平安京左京 四～六条 三・四坊
- 図版 6 平安京左京 七～九条 一・二坊
- 図版 7 平安京左京 七～九条 三・四坊
- 図版 8 平安京右京北辺～三条 三・四坊
- 図版 9 平安京右京北辺～三条 一・二坊
- 図版 10 平安京右京 四～六条 三・四坊
- 図版 11 平安京右京 四～六条 一・二坊
- 図版 12 平安京右京 七～九条 三・四坊
- 図版 13 平安京右京 七～九条 一・二坊
- 図版 14 下鳥羽遺跡・板橋廃寺・伏見城跡・御香宮廃寺・太閤堤 (小倉堤, 槇島堤)
- 図版 15 伏見城跡・桃山古墳群 (永井久太郎古墳)・御香宮廃寺・指月城跡・泰長老遺跡・
太閤堤 (小倉堤, 槇島堤)・向島城跡
- 図版 16 1 大徳寺旧境内・御土居跡・雲林院跡・上京遺跡・世尊寺跡・北野天満宮・北野廃寺・
北野遺跡 2 岩倉忠在地遺跡 3 船山須恵器窯跡
- 図版 17 1 上総町遺跡・雲林院跡・寺ノ内旧域・上京遺跡・相国寺旧境内・寺町旧域・世尊寺跡・
室町殿跡 (花の御所)・公家町遺跡 2 史跡賀茂御祖神社境内 (下鴨神社)
3 御土居跡
- 図版 18 1 檜原廃寺瓦窯跡・檜原遺跡・三重古墳 2 上久世遺跡 3 中久世遺跡・
下久世構跡・下久世城跡・大藪遺跡・長岡京跡
- 図版 19 長岡京跡・東土川遺跡・久我殿遺跡・久我東町遺跡・羽束師菱川城跡・
羽束師志水町遺跡
- 図版 20 鳴滝藤ノ木町古墳・常盤柏ノ木古墳群・村ノ内町遺跡・常盤仲之町遺跡・法金剛院境内・
太秦馬塚町遺跡・上ノ段町遺跡・広隆寺旧境内・弁天島経塚 (群)・一ノ井遺跡・
森ヶ東瓦窯跡・和泉式部町遺跡・蛇塚古墳
- 図版 21 史跡賀茂御祖神社境内 (下鴨神社)・北白川廃寺・池田町古墳群・北白川追分町遺跡・

- 北白川追分町縄文遺跡・小倉町別当町遺跡・吉田本町遺跡・吉田二本松町遺跡・
吉田橘町遺跡・聖護院川原町遺跡・白河街区跡・岡崎遺跡・法勝寺跡・得長寿院跡・
尊勝寺跡・延勝寺跡・円勝寺跡・史跡南禅寺境内
- 図版 22 寺町旧域・御土居跡・岡崎遺跡・法勝寺跡・史跡青蓮院門旧御所・知恩院跡・
祇園遺跡・建仁寺境内・法観寺旧境内・六波羅蜜寺旧境内・六波羅政庁跡・方広寺跡・
音羽・五条坂窯跡・妙法院境内・法住寺殿跡・鳥部（辺）野
- 図版 23 1 嵯峨遺跡・広沢古墳群・檀林寺跡・宝幢寺境内・嵯峨北堀町遺跡 2 植物園北遺跡・
深泥池窯跡・芝本瓦窯跡
- 図版 24 1 鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡 2 法性寺跡・今村城跡・月輪遺跡 3 小野廃寺・
史跡醍醐寺境内
- 図版 25 1 山科本願寺跡（寺内町遺跡） 2 上里北ノ町遺跡・長岡京跡・大原野岩見遺跡・
上里遺跡・芝古墳群 3 中臣遺跡・中臣十三塚 4 長岡京跡・淀城跡
- 図版 26 1 史跡・名勝嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡 2 福西古墳群・大枝遺跡 3 愛宕山遺跡
4 上ノ段町遺跡・西野町遺跡 5 市名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園・
大原延暦寺別院境内 6 史跡詩仙堂
- 図版 27 1 如意寺跡 2 山科本願寺南殿跡 3 元屋敷廃寺 4 勧修寺旧境内
5 烏丸町遺跡 6 吉祥院日向地藏一字一石大乘妙典塔 7 上鳥羽遺跡
8 下鳥羽遺跡・芹川城跡
- 図版 28 1 深草遺跡 2 稻荷山古墳群・伏見稻荷大社境内 3 安楽行院跡・深草坊町遺跡・
嘉祥寺跡 4 深草向ヶ原町遺跡・がんせんどう廃寺 5 太閤堤（小倉堤，槇島堤）・
向島城跡 6 法界寺旧境内 7 松尾十三塚古墳群・松室遺跡 8 山田桜谷古墳群・
浄住寺（谷之堂）跡
- 図版 29 1 革嶋館跡 2 常照皇寺経塚 3 周山廃寺 4 史跡醍醐寺境内
- 図版 30 平安京左京四条二坊十二町跡 遺構
1 第1区全景 2 第1区全景

表 目 次

表 1	H30年の詳細分布調査件数	1
表 2	詳細分布調査件数の年間推移（その1）	2
表 3	詳細分布調査件数の年間推移（その2）	3
表 4	出土遺物概要表	5
表 5	表採資料組成表	41
表 6	遺物観察表（1）	47
表 7	遺物観察表（2）	48

I 調査概要

本書は、文化庁国庫補助事業に伴う平成30年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本書では、平成30年1月4日から3月30日までの平成29年度分199件、平成30年4月2日から12月28日までの平成30年度分428件をあわせて報告する。

詳細分布調査の総件数は627件で、前年に比べて25件減少している(表1～3)。しかし、この件数は過去10年間で前年に次いで多い件数にあたる。調査の増加は続くと考えられる。地区ごとの増減傾向をみると、平安京内(平安宮・左京・右京地区)が前年314件、今年319件とわずかながら増加している。また、京都市東部(北白川・洛東地区)で、前年78件が今年107件と増加している。他の周辺部は京北地区(前年と同件数)を除いてすべて減少している(前年258件が今年209件)。

2018年11月に2025年の万国博覧会開催が大阪に決定し、ますます関西が国際観光圏化していくと考えられる。その影響は京都市においても前年と同じく宿泊施設建設(大型ホテル、簡易宿所、ゲストハウス、旅館等)の増加に現れている。宿泊施設建設に伴う詳細分布調査は、前年が平成28年から倍増し80件になり、本年も84件と80件台を維持している。前述のように京都東部(北白川・洛東地区)で詳細分布調査が増大していることは、東部に観光地が比較的多く存在していることから観光に関連する建築物が増加していることに起因していると考えられる。

以下、地区ごとの概要を述べる。

①平安宮(HQ)

平安宮域では、平安宮跡、鳳瑞遺跡、聚楽遺跡、聚楽第跡、二条城北遺跡の5遺跡で83件の調査を行った。

今回の調査では特に顕著な成果は得られなかったが、図書寮跡の調査(17K593)で時期不明であるが落込み、大炊寮跡、二条城北遺跡の調査(18K044)で時期不明の土坑、宮内省・太政官跡、聚楽遺跡の調査(17K820)で時期不明の包含層を検出している。

表1 平成30年の詳細分布調査件数

地区	29年度1～3月	30年度4～12月	小計	地区	29年度1～3月	30年度4～12月	小計
平安宮(HQ)	20	63	83	洛東地区(RT)	22	57	79
平安京左京(HL)	46	103	149	伏見・醍醐地区(FD)	13	32	45
平安京右京(HR)	37	50	87	鳥羽地区(TB)	5	14	19
太秦地区(UZ)	8	20	28	長岡京地区(NG)	8	13	21
洛北地区(RH)	15	30	45	南桂川地区(MK)	15	26	41
北白川地区(KS)	9	19	28	京北地区(UK)	1	1	2
				合計	199	428	627

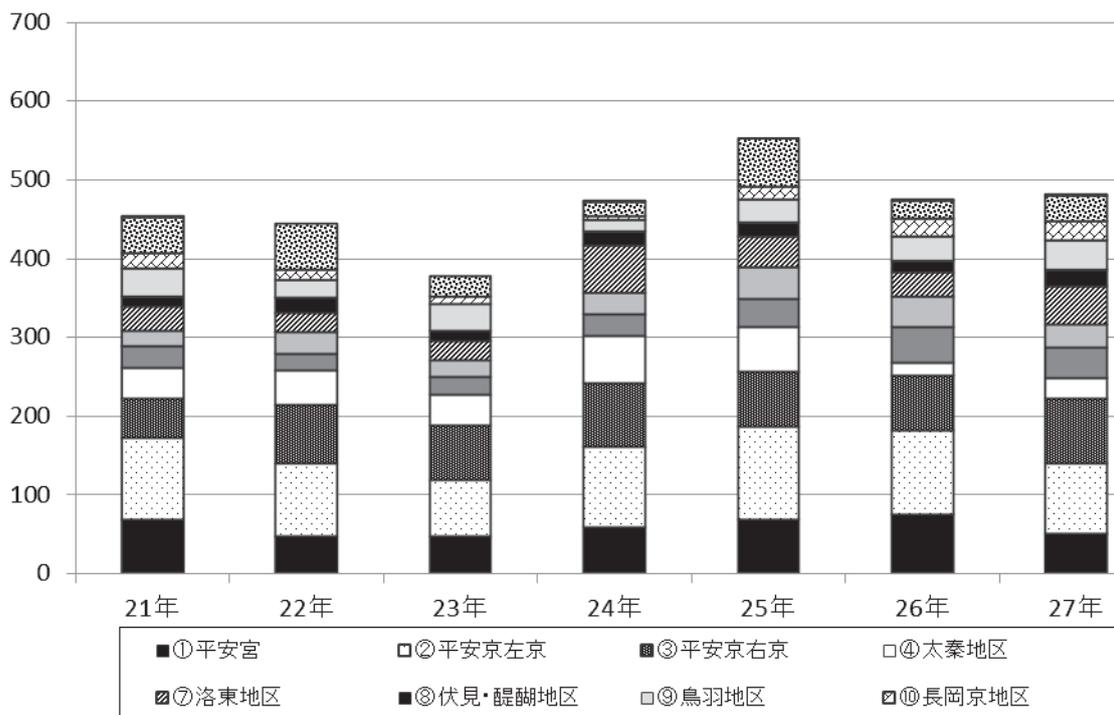
②平安京左京（HL）

左京域では、平安京跡、公家町遺跡、内膳町遺跡、新在家の構え跡、旧二条城跡、二条城北遺跡、高陽院跡、烏丸丸太町遺跡、堀川御池遺跡、妙顕寺城跡、等持寺跡、妙蓮寺の構え跡、烏丸綾小路遺跡、だいうすの城跡、史跡本願寺境内、東市跡、東本願寺前古墓群、寺町旧域、御土居跡、史跡教王護国寺境内、烏丸町遺跡、西京極遺跡、唐橋遺跡、中久世遺跡の24遺跡で149件の調査を行った。

本書では一条三坊十五・十六町跡、新在家の構え跡の調査（17H537）、四条四坊十二町跡の調査（17H437）、五条二坊七町跡の調査（17H587）、五条三坊三町跡、烏丸綾小路遺跡の調査（17H624）、六条四坊十五町跡の調査（17H567）、八条二坊十町跡の調査（18H205）、九条一坊十一町跡、史跡教王護国寺境内の調査（28N005）、九条四坊一町跡、烏丸町遺跡の調査（17H120）を報告する。一条三坊十五・十六町跡、新在家の構え跡の調査（17H537）では、京都御苑内で公家町を区画すると考えられる築地の基礎となる石列を検出している。

このほか、二条三坊七町跡の調査（18H210）で平安時代前期の包含層、二条四坊十三町跡の調査（18H242）で室町時代の土坑、三条三坊四町跡の調査（18H052）で室町時代後半の包含層、三条四坊八町跡、等持寺跡の調査（17H722）で室町時代の土坑と包含層、鎌倉時代の土坑を検出している。五条四坊四町跡、烏丸綾小路遺跡の調査（17H413）で鎌倉時代の土坑、六条三坊十一町跡の調査（17H486）で中世の包含層、八条二坊十三町跡の調査（18H177）では平安時代後期から鎌倉時代の包含層、八条四坊一町跡の調査（18H128）では鎌倉時代の溝状遺構、九条二坊一町跡の調査（17H779）では平安時代の整地層、九条三坊十一町跡、烏丸町遺跡の調査（18H474）

表2 詳細分布調査件数の年間推移（その1）



と九条三坊十四町跡の調査（17H727）では室町時代の整地層を検出している。

また、五条三坊十三町跡，烏丸綾小路遺跡の調査（18H068）では詳細分布調査以前に試掘調査をおこない，調査成果は『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 30 年度』に報告している。

③平安京右京（HR）

右京域では，平安京跡，龍翔寺跡，御土居跡，西ノ京遺跡，壬生遺跡，西院遺跡，西院城跡（小泉城），西京極遺跡，西市跡，衣田町遺跡，西寺跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡の 13 遺跡で 87 件の調査を行った。

本書では三条一坊十一町跡，壬生遺跡の調査（18H481），九条一坊十三・十四町跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡の調査（28C090）を報告する。九条一坊十三・十四町跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡の調査（28C090）では，唐橋遺跡に伴う土器を多量に包含する落込と西寺に伴う整地層を検出している。

このほか，一条二坊十四町跡，御土居跡の調査（18H385）で御土居の版築遺構，二条四坊十五町跡の調査（18H399），四条二坊八町跡の調査（17H611），六条四坊十六町跡の調査（16H351）と七条二坊八町跡の調査（16H351）でそれぞれ平安時代の包含層，九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡の調査（17H276）では弥生時代の東西溝と包含層を検出している。

また，七条二坊七町跡，西市跡，衣田町遺跡の調査（18H108）では詳細分布調査以前に試掘調査をおこない，調査成果は『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 30 年度』に報告している。

④太秦地区（UZ）

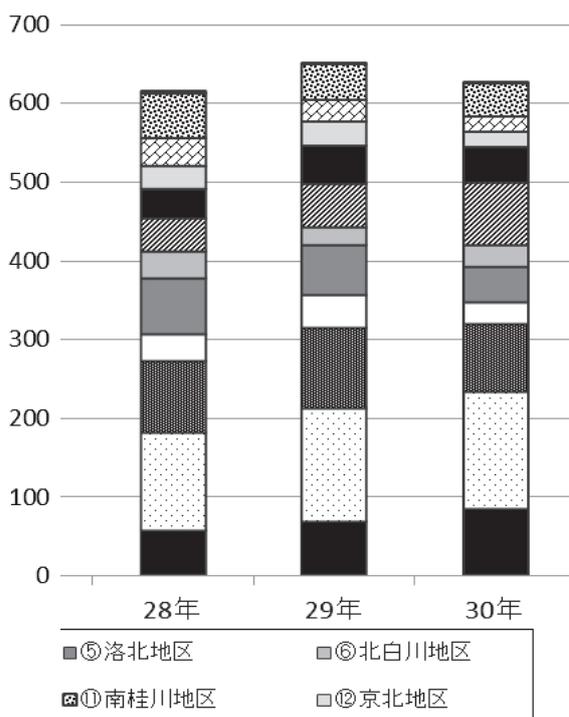
愛宕山遺跡，嵯峨遺跡，檀林寺跡，宝幢寺境内，嵯峨北堀町遺跡，広沢古墳群，鳴滝藤ノ木町古墳，常盤柏ノ木古墳群，常盤仲之町遺跡，西野町遺跡，太秦馬塚町遺跡，上ノ段町遺跡，蛇塚古墳，広隆寺旧境内，弁天島経塚（群），和泉式部町遺跡，森ヶ東瓦窯跡，法金剛院境内の 18 遺跡で 28 件の調査を行った。

愛宕山遺跡の調査（17A007）を報告する。愛宕山山中において多量の桃山時代の茶陶を採集している。

⑤洛北地区（RH）

岩倉忠在地遺跡，深泥池窯跡，芝本瓦窯跡，植物園北遺跡，船山須恵器窯跡，上総町遺跡，御土居跡，大徳寺旧境内，雲林院跡，寺町旧域，史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社），寺ノ内旧域，相国寺旧境内，上京遺跡，室町殿跡（花の御所），世尊寺跡，公家町遺跡，北野天満宮，北野遺跡，北野廃寺の 20 遺跡で 45 件の調査を行った。

表3 詳細分布調査件数の年間推移（その2）



史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）の調査（29N114）では、試掘調査と詳細分布調査を並行しておこなっており、調査成果は『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告する。

このほか、深泥池窯跡の調査（18A002）では遺跡範囲外で遺物を採集しており、遺跡範囲の拡張が必要となった。

⑥北白川地区（KS）

市名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園，大原延暦寺別院境内，北白川廃寺，池田町古墳群，小倉町別当町遺跡，北白川追分町遺跡，北白川追分町縄文遺跡，吉田本町遺跡，吉田二本松町遺跡，吉田橋町遺跡，聖護院川原町遺跡，得長寿院跡，尊勝寺跡，延勝寺跡，円勝寺跡，法勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡，史跡詩仙堂，如意寺跡，史跡南禅寺境内，御土居跡の22遺跡で28件の調査を行った。

市名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園の調査（17A006），得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡の調査（18R225），円勝寺跡，岡崎遺跡の調査（13R450）を報告する。

このほか，小倉町別当町遺跡の調査（18S503）では弥生時代と鎌倉時代の包含層，得長寿院跡，尊勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡の調査（18R424）では中世の包含層を検出した。

⑦洛東地区（RT）

史跡青蓮院旧仮御所，知恩院境内，御土居跡，寺町旧域，祇園遺跡，建仁寺境内，法観寺旧境内，六波羅蜜寺境内，六波羅政庁跡，方広寺跡，法住寺殿跡，音羽・五条坂窯跡，鳥部（辺）野，妙法院境内，法性寺跡，今村城跡，月輪遺跡，山科本願寺跡（寺内町遺跡），山科本願寺南殿跡，中臣遺跡，中臣十三塚，小野廃寺，勸修寺旧境内の23遺跡で79件の調査を行った。

今回の調査では特に顕著な成果は得られなかったが，建仁寺境内の調査（17S782）では時期不明であるが包含層，山科本願寺跡（寺内町遺跡）の調査（17S685）でも時期不明の包含層，小野廃寺の調査（16S099）でも時期不明の包含層を検出した。

また，中臣遺跡の調査（18N289）では詳細分布調査以前に試掘調査をおこない，調査成果は『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告している。

⑧伏見・醍醐地区（FD）

伏見城跡，板橋廃寺，御香宮廃寺，指月城跡，泰長老遺跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳），太閤堤（小倉堤，槇島堤），向島城跡，稻荷山古墳群，伏見稻荷大社境内，安楽行院跡，深草坊町遺跡，嘉祥寺跡，がんせんだう廃寺，深草向ヶ原町遺跡，史跡醍醐寺境内，小野廃寺，法界寺旧境内の18遺跡で45件の調査を行った。

伏見城跡の調査（16F684）では推定松平下野守（結城秀康または松平忠吉）邸の虎口の階段部分をほぼ完全な形で検出することができた。これは本年最大の発見となった。詳細分布調査前に試掘調査・発掘調査を実施しており，試掘調査成果と合わせて『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告している。

このほか，伏見城跡では5箇所（17F011・17F261・17F633・17F597・17F720）で伏見城期と考えられる造成土を検出している。

⑨鳥羽地区 (TB)

烏丸町遺跡，上鳥羽遺跡，鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡，下鳥羽遺跡，芹川城跡，久我殿遺跡，深草遺跡，吉祥院日向地藏一字一石大乘妙典塔，羽束師志水町遺跡，淀城跡の11遺跡で19件の調査を行った。吉祥院日向地藏一字一石大乘妙典塔の調査(18A001)では塔の下から江戸時代に經典の文字を一字を一石に記載した石が多数出土した。

このほか，下鳥羽遺跡の調査(17S741)で古墳時代の包含層，烏丸町遺跡の調査(18S521)で平安時代から鎌倉時代の包含層を検出している。

⑩長岡京地区 (NG)

長岡京跡，上里遺跡，芝古墳群，大原野石見遺跡，大藪遺跡，淀城跡の6遺跡で21件の調査を行った。

今回の調査では特に顕著な成果は得られなかったが，左京九条四坊一町跡の調査(16NG518)で鎌倉時代の包含層を検出している。

⑪南桂川地区 (MK)

史跡・名勝嵐山，嵐山谷ヶ辻子町遺跡，松尾十三塚古墳群，松室遺跡，浄住寺(谷之堂)跡，革嶋館跡，三重古墳，檜原遺跡，檜原廃寺瓦窯跡，上久世遺跡，中久世遺跡，大藪遺跡，下久世構え跡，上里北ノ町遺跡，福西古墳群，大枝遺跡の18遺跡で41件の調査を行った。

今回は顕著な成果はなかったが，中久世遺跡の2箇所の調査で弥生時代の溝(18S223)，弥生時代から古墳時代の湿地状堆積(18S138)を検出している。

⑫京北地区(UK)

周山廃寺，周山古墳群，高梨経塚，高梨遺跡，常照皇寺経塚の5遺跡で2件の調査を行った。今回の調査では特に顕著な成果は得られなかった。

(吉本 健吾)

表4 出土遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内 訳	Bランク点数 (箱数)	Cランク点数 (箱数)	出土箱数 合計
点数 及び 箱数	7点 (箱)	土師器，須恵器，緑釉陶器，瓦器， 瓦質土器，陶磁器，瓦	2箱	10箱	19箱

Ⅱ - 1 平安京左京四条二坊十二町跡（17H435）

1 調査に至る経緯と経過（図1・2）

調査地は、四条通と油小路通の交差点より北に位置する（図1）。平安京復元では、左京四条二坊十二町の東辺に位置し、敷地の一部が油小路の一部にかかる。今回この区画において、共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。その結果、対象地内の複数箇所で行った断面観察により、平安時代前期から江戸時代に至る包含層が良好に残存することを確認した。また、土坑やピット等、複数の遺構を検出した。

このため建設工事を一時中断し、対象面積 186 m²（1区 136 m²，2区 50 m²）に対して延長調査を実施した（図2）。

2 位置と環境（図1）

この町域には、平安時代中期に昭登親王^{あきなり}の御所が、平安時代後期には源行家入道の邸があったとする地歴が残る。

昭登親王（998～1035）は、花山天皇の第二皇子で、万寿2年（1027）に兵部卿、その後中務卿となり、その在任中に薨じた。藤原実資の日記『小右記』には、万寿2年2月に親王御所が火事で焼失した記録が見えている。

また、源行家（1140？～1186）は清和源氏である源為義の十男で、平家討伐を命じた以仁王の令旨を、甥である源頼朝に伝えた人物として著名である。行家は、寿永2年（1183）

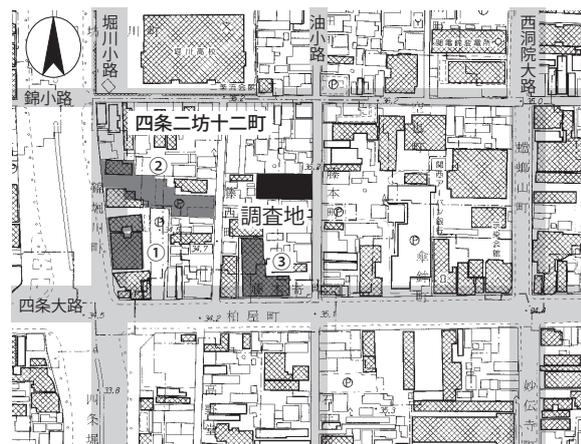


図1 調査位置図（1：5,000）

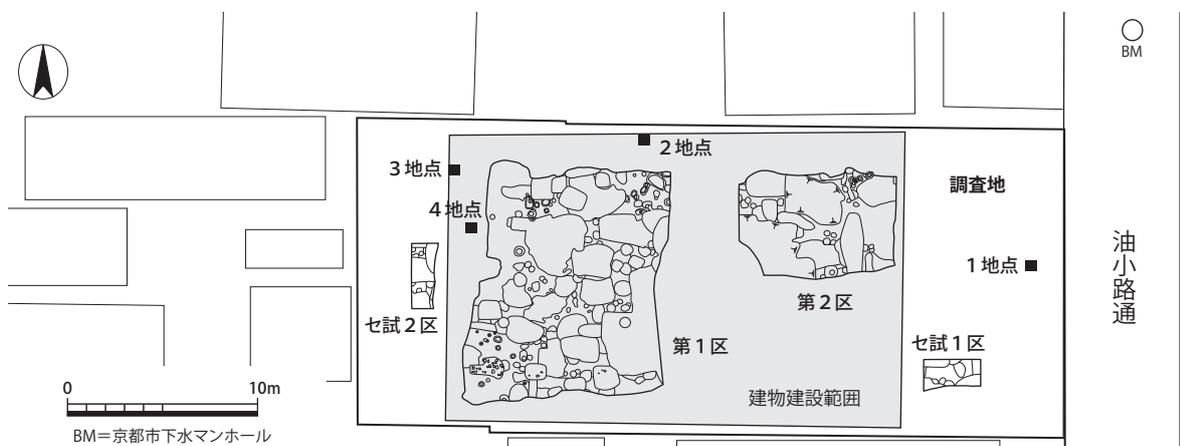


図2 調査区配置図（1：400）

に入京し、従五位下備後守（後に備前守に遷任）に叙されている。その際、この町域に邸を構えたのであろう。行家は3年後に没したが、『尊卑文脈』によると、行家の5世孫までが官人として京内に在住したことがわかる。

これらの資料を裏付けるように、町域で行われた調査では、平安時代や鎌倉時代、室町時代の遺構や包含層が複数箇所を確認されている。昭和56年度に調査地の南西区画（図1-③）で行われた発掘調査では、GL-1.9 mの深度において平安時代～江戸時代の遺構が重複して検出された。また、昭和57年度に町域南西部で行われた試掘調査（図1-①）では、GL-2.0 mの深度において鎌倉時代包含層が、平成24年度にその北側で実施された試掘調査（図1-②）では、GL-2.7 mの深度において鎌倉時代～室町時代の包含層が確認された。

以上の成果から、この町域の遺構面レベルは東が高く、西へ向かって下がること、そのため、邸宅は町域の東半部に集中したことが予測された。

3 調査成果（図2～7）

（1）基本層序（図2・3）

今回の調査では、計画建物範囲のうち4箇所断面観察を行った（図2・3 1～4地点）。

調査地東端のNo.1地点では、BM-1.2 mまで盛土（BMは油小路通上マンホール天端）、-1.35 mまで黒褐色シルト（鎌倉時代包含層）、-1.5 mまで黄灰色シルト（平安時代後期整地層）、以下、灰白色泥砂（平安時代包含層）を確認した。このうち整地層上面では、ピット（13世紀）を1基検出した。

調査地中央北辺のNo.2地点では、BM-1.3 mまで盛土、-1.4 mまで暗灰黄色粘土質シルト（鎌倉時代包含層）、-1.85 mまで黒褐色粘土質シルト（平安時代中期包含層）、-2.0 mまで灰黄褐色砂質シルト（平安時代遺構面基盤層）、以下、褐灰色砂礫（地山）を確認した。鎌倉時代包含層の除去面では土坑1基（13世紀）、平安時代包含層除去面ではピット（時期不明）を2基検出した。

調査地西端のNo.3地点では、BM-0.95 mまで盛土、-1.1 mまで黒褐色粘土質シルト（室町時代包含層）、-1.3 mまで暗オリーブ褐色粘土質シルト（平安時代後期整地層）、-1.5 mまで暗オリーブ褐色粘土質シルト（平安時代包含層）、-1.75 mまで灰黄褐色砂質シルト（平安時代遺構面基盤層）、以下、褐灰色砂礫（地山）を確認した。平安時代後期整地層上面ではピット（12世紀）を1基、平安時代遺構面基盤層上面では、土坑（平安時代中期）を1基検出した。

同じく調査区西端のNo.4地点では、BM-1.25 mまで盛土、-1.5 mまで暗オリーブ色粘土質シルト（平安時代後期整地層）、-1.75 mまで暗オリーブ褐色粘土質シルト（平安時代包含層）、-1.95 mまで暗オリーブ褐色粘土質シルト（平安時代遺構面基盤層）、以下、褐灰色砂礫（地山）を確認した。平安時代後期整地層上面では、土坑（14世紀）を1基検出した。

なお、同敷地内において平成2年度に行われた試掘調査では、対象地内2箇所に調査区が設定されている（図2 セ試1区、セ試2区、図3下段）。調査地東端に設定されたセ試1区では、BM-0.35 mまで盛土、-0.55 mまで室町時代包含層、-1.0 mまで鎌倉時代包含層、-1.25 mまで平

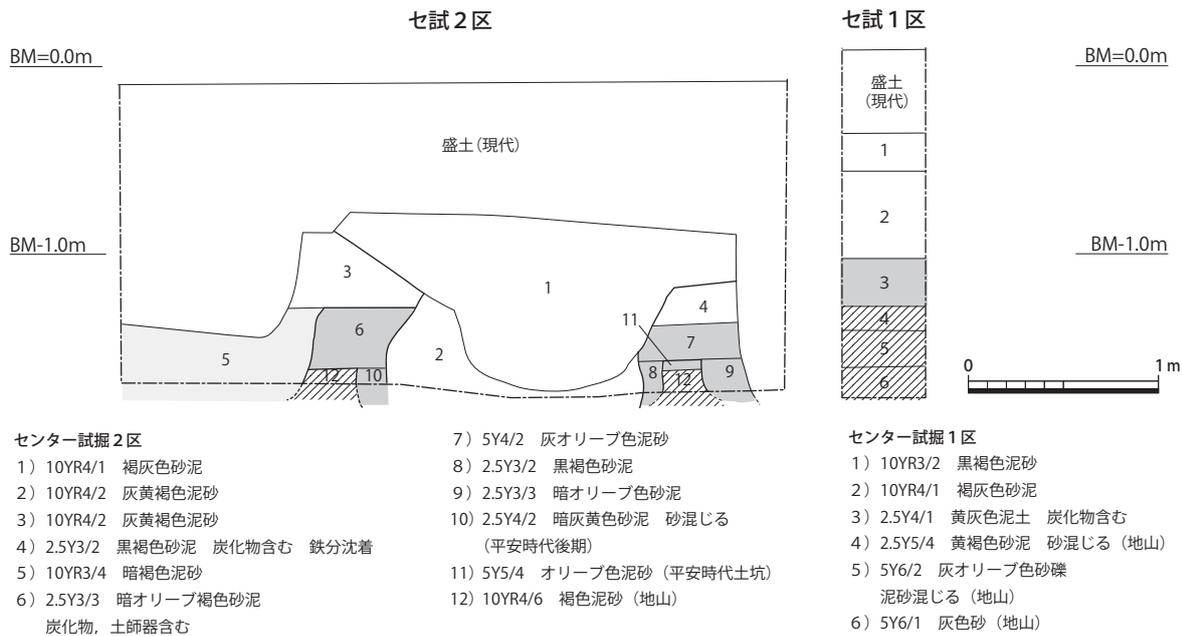
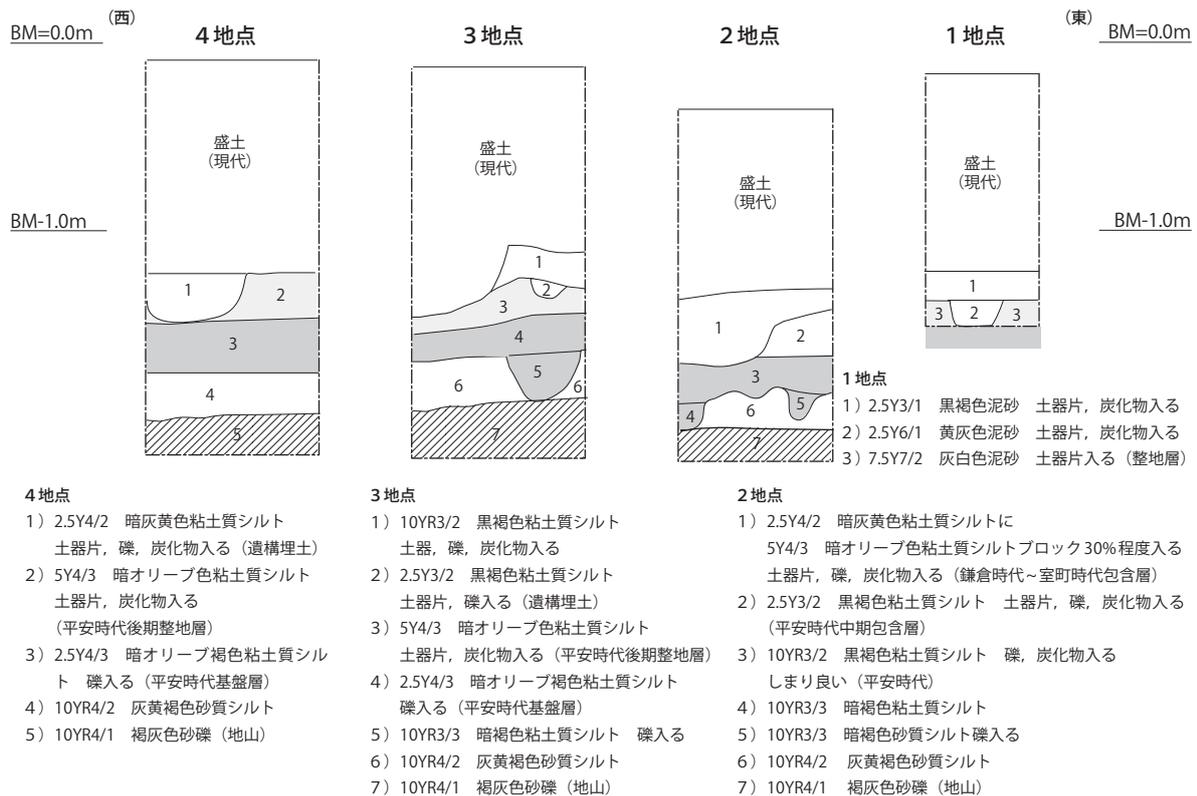


図3 立会調査地点 断面図 (1:40)

安時代後期遺構埋土, -1.4 mまで平安時代遺構面基盤層, 以下, 灰オリーブ色砂礫を主体とする地山が存在する。また, 西端に設定されたセ試2区では, BM-0.75 mまで盛土, -1.25 mまで室町時代包含層, -1.55 mまで平安時代包含層, 以下, 褐色砂礫を主体とする地山が確認されている。

以上のことから, 調査地内には平安時代から室町時代までの包含層が良好に残存すること, また平安時代後期整地層上面と, 平安時代中期包含層下面 (基盤層上面) ではほぼ共通して遺構が

成立することが明らかとなった。

このため今回の調査では、平安時代後期整地層上面で遺構検出をおこなうことを目標とした。

(2) 遺構と遺物 (図4~7)

平安時代後期整地層上面では、平安時代後期~鎌倉時代、室町時代、江戸時代の遺構群を重複して検出した。また、整地層を部分的に除去することにより、平安時代中期の遺構を一部検出した。

平安時代中期の遺構は、東西方向にのびる溝2条(溝3, 溝50)と、小型のピット群である。

調査区南辺の溝3は、検出長4.3m, 最大幅0.7m, 最大深度0.12mを測る。断面形状は不定形な皿形で、底面にはやや凹凸がある。埋土はオリーブ褐色粘土質シルトと暗オリーブ色シルト

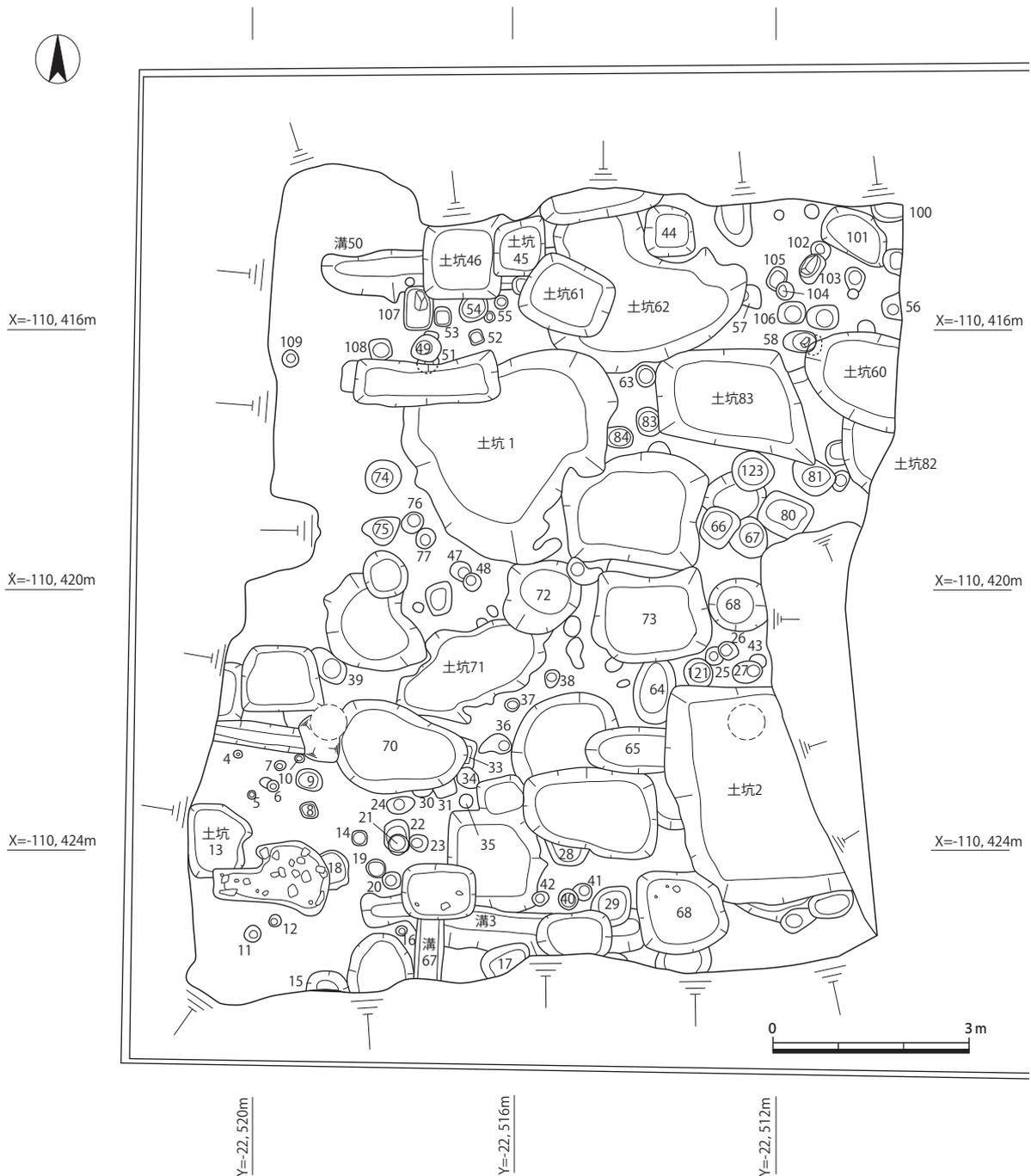


図4 第1区全体図 (1:100)

ブロックの混合層で、平安時代後期整地層と同質である。埋土からは、土師器皿、黒色土器、灰釉陶器、黄釉陶器、緑釉陶器、須恵器甕の細片が出土した（図6-10）。10世紀～11世紀の遺構である。

調査区北辺の溝50は、検出長1.6m、最大幅0.8m、最大深度12cm、平面形状は皿形を呈する。後世の土坑群に切られるが、その間隙に残る埋土から、より東へのびることが明らかである。埋土は暗オリーブ色粘土質シルトとオリーブ黒色シルトブロックの混合層で、炭化物、土器片を少数含む。この混合層は平安時代後期整地層に相当することから、整地前にはすでに存在した施設であったと考えられる。遺構内からは、緑釉陶器鉢1点、黒色土器椀、土師器皿などが出土した（図6-41～43）。10世紀末～11世紀初頭の遺構である。

平安時代後期～鎌倉時代の遺構は、柱穴、ピット、土坑である。

調査区北西部で検出した土坑46は、一辺1.2m程度を測る隅丸方形の平面形状をもつ。最大深度は0.3mと浅いが、断面形状は長方形に近く直立する壁を有する。また埋土の含水率が高く、非常に軟質であることから素掘りの井戸と考えられる。なお土坑46を切って成立する土坑45（15世紀）、さらにこれを切る土坑61（16世紀）はすべて類似した形状をもつ。この地点で井戸の掘り直しが続けて行われた可能性が高い。土坑46の埋土からは、白磁椀、四耳壺、瓦器椀、砥石、平瓦が出土した（図6-36～39）。概ね12世紀～13世紀中葉の製品である。

ピット58は、明確な掘り方をもつ柱穴で、最大径0.5m、最大深度0.22mを測る。柱あたりは径0.35mの円形で、埋土は黒褐色礫混じり粘土質シルトを主体とする。西方に位置するピット49、108や南に位置するピット81とあわせて柱列が想定できるものの、建物の復原は難しい。ピット58の埋土からは、土師器皿、白磁壺、瓦質土器鍋の破片等が出土した。

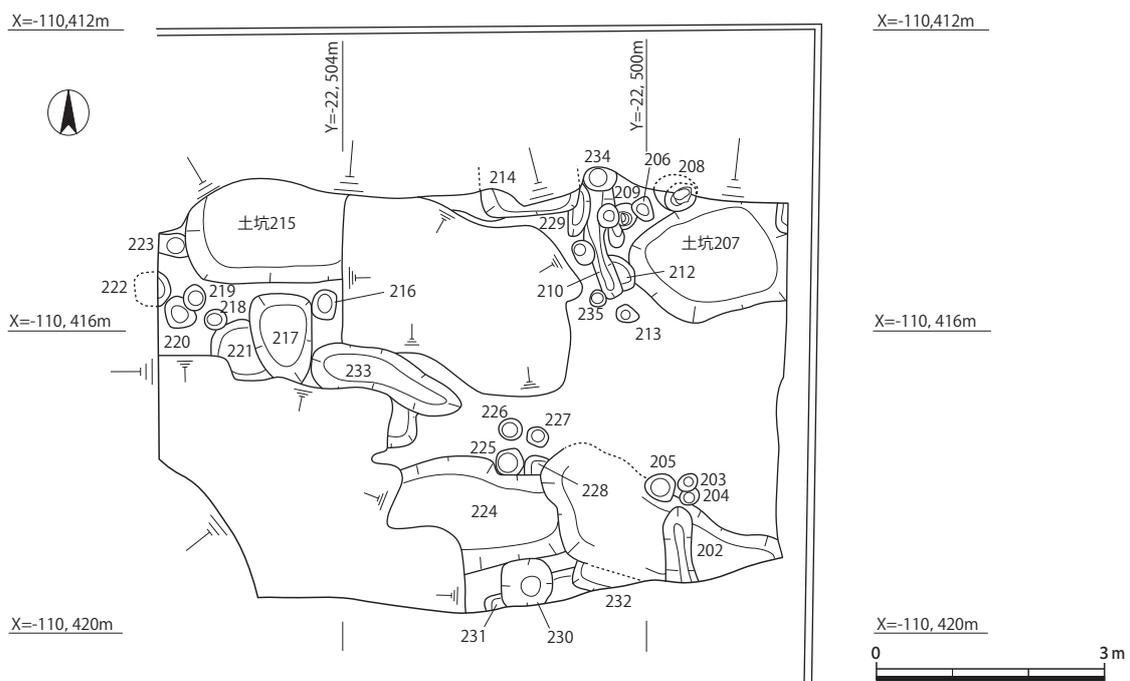


図5 第2区全体図（1：100）

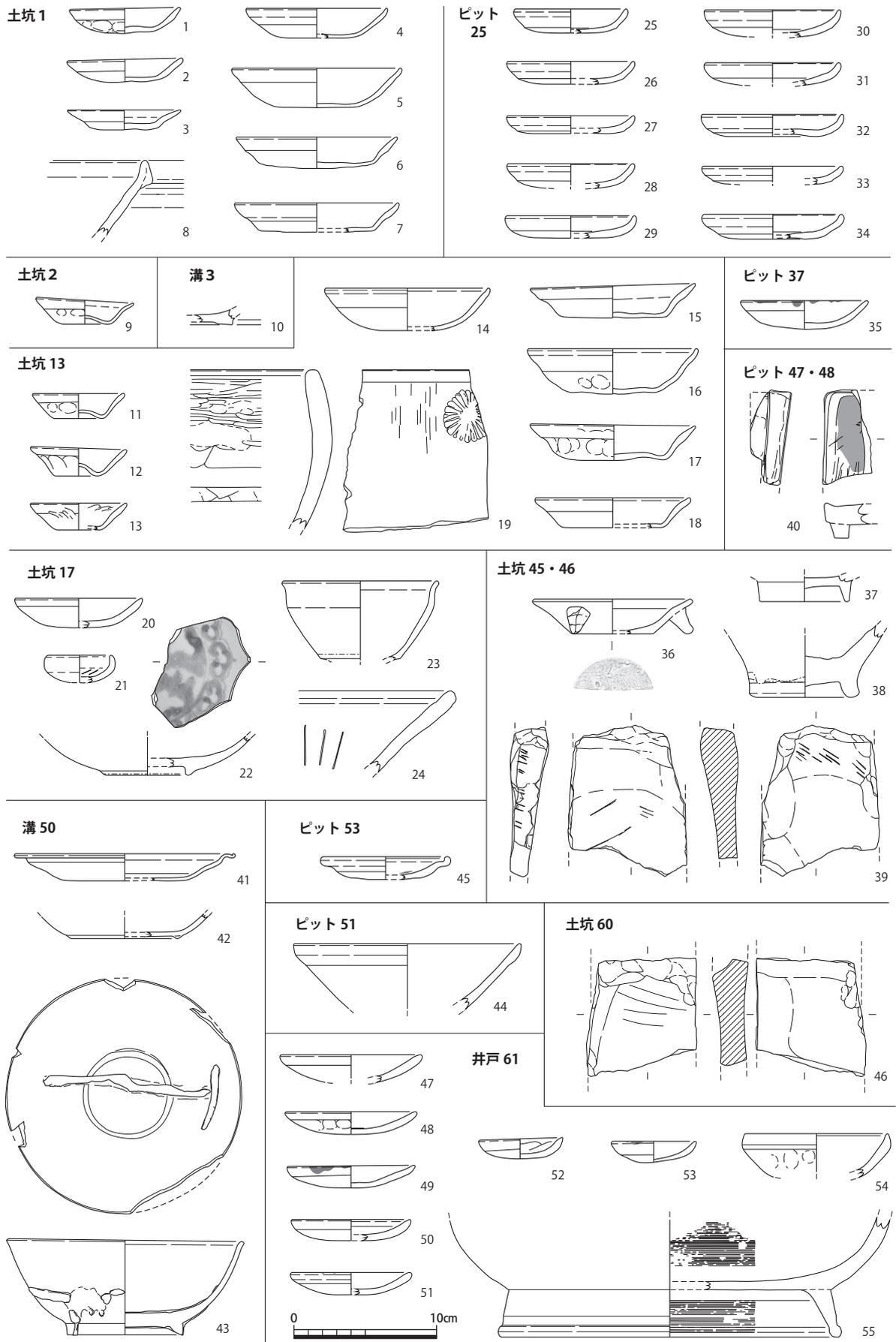


図6 出土遺物実測図1 (1:4)

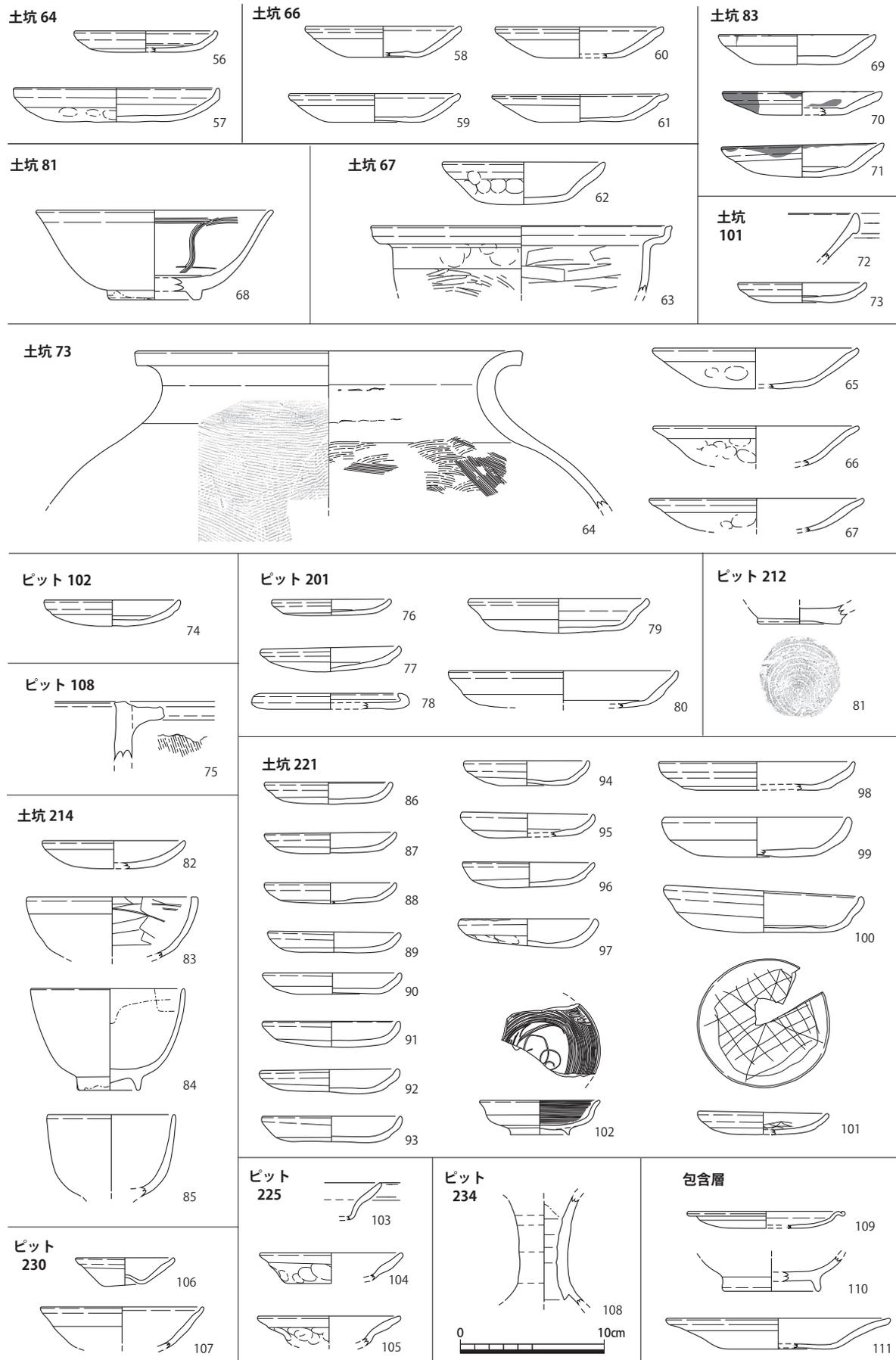


図7 出土遺物実測図2 (1:4)

また、後世の攪乱に損なわれるものの、南辺のピット 20, 41 など、東西方向を指向する柱列も想定できる。ピット 41 の底面には根石が配されている。埋土から、土師器皿、白磁皿等が出土した。

室町時代の遺構は、土坑、ピット、柱穴（柱列）である。前代と同じく、正方位に柱列を復原できる。出土遺物の生産時期から、14 世紀と 15 世紀の遺構に大別できる。

ピット 107 は、長辺 0.65 m、短径 0.45 m を測る隅丸方形の平面形状をもつ。最大深度は 0.28 m を測る。底面を一部を深く掘り窪め、ここに一辺 0.25 m を測る根石を置く。東に位置するピット 57, 56, 南に位置するピット 76, ピット 23, このほかピット 67, ピット 27 などとあわせて掘立柱建物を復原することが可能である。柱間は 2.0 から 2.2 m とばらつくが、概ね 7 尺程度である。第 1 区では 3 間× 4 間を数えるが、第 2 区の柱穴と合わせると 5 間× 3 間の規模をもつ建物として復原することが可能である。ピット 107 の埋土からは土師器皿、常滑焼甕、瓦質土器釜等が出土した。15 世紀の製品である。

このほか、柱列としては復原できないが、根石をもつ柱穴は多く認められる。ピット 103 は、長径 0.6 m、短径 0.35 m を測る柱穴で、最大深度は 0.2 m を測る。遺構内には上面に平坦面をもつ礎石が据えられている。埋土からは土師器皿、須恵器甕が出土した。14 世紀の製品である。

4 まとめ（図 8）

以上、左京四条二坊十二町跡の調査成果について概略を述べた。限られた時間での調査であったが、この町域で平安時代中期から江戸時代に至る遺構群を確認できたことの意味は大きいと考える。以下、出土遺物から検証した遺構の変遷を確認し、まとめとしたい。

平安時代中期 町域に昭登親王の御所が営まれたとされる時期である。既往の調査成果から、微高地である町域の東半部を中心に居住域が広がっていたと解釈される。

今回の調査では、東西方向の溝 2 条とピット群を検出した。この 2 条の溝間は約 10 m で、四行八門の地割りにのるものではない。底面に凹凸が認められることから、むしろ雨落ち溝等を想定するべきであるが、建物を復原できていない以上、ここでは可能性にとどめておく。

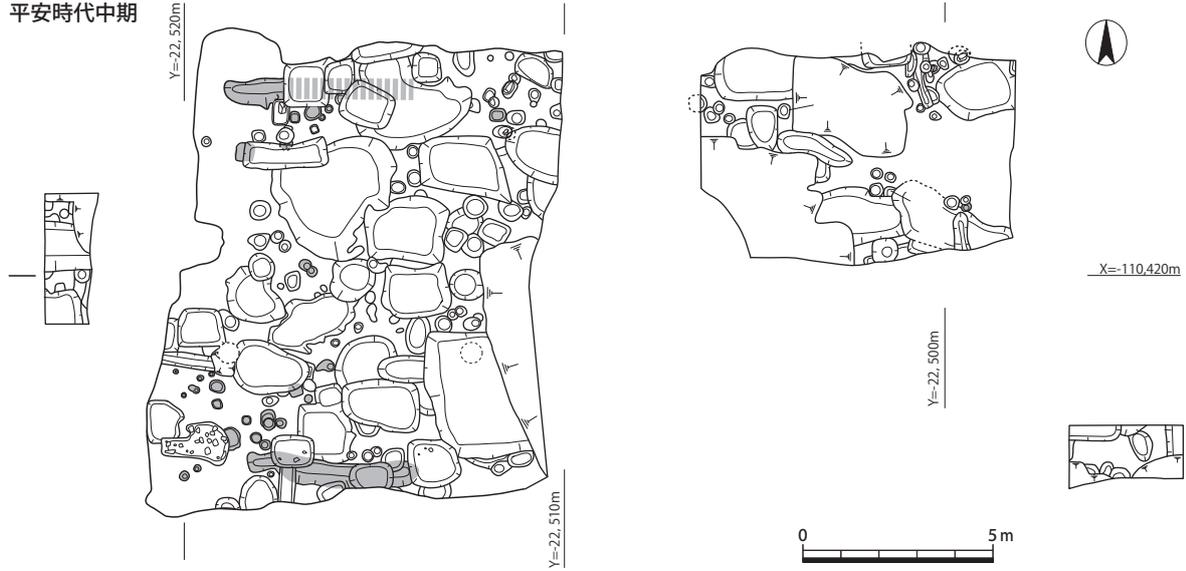
溝内より出土した緑釉陶器の鉢（図 6-43）には、底面中央に大きな亀裂が認められる。焼き損じの類であり、容器として機能したかどうかは不明であるが、溝内から完形に近い状態で出土したことは注目される。またピット 47, 48 からは、墨痕の付着した風字硯の出土があり、識字層の居住を想像させる。

平安時代末期～鎌倉時代 町域に源行家とその後裔が居住したとされる時期である。平安時代後期に敷設された整地層により、敷地内の傾斜はやや緩和された状態となる。

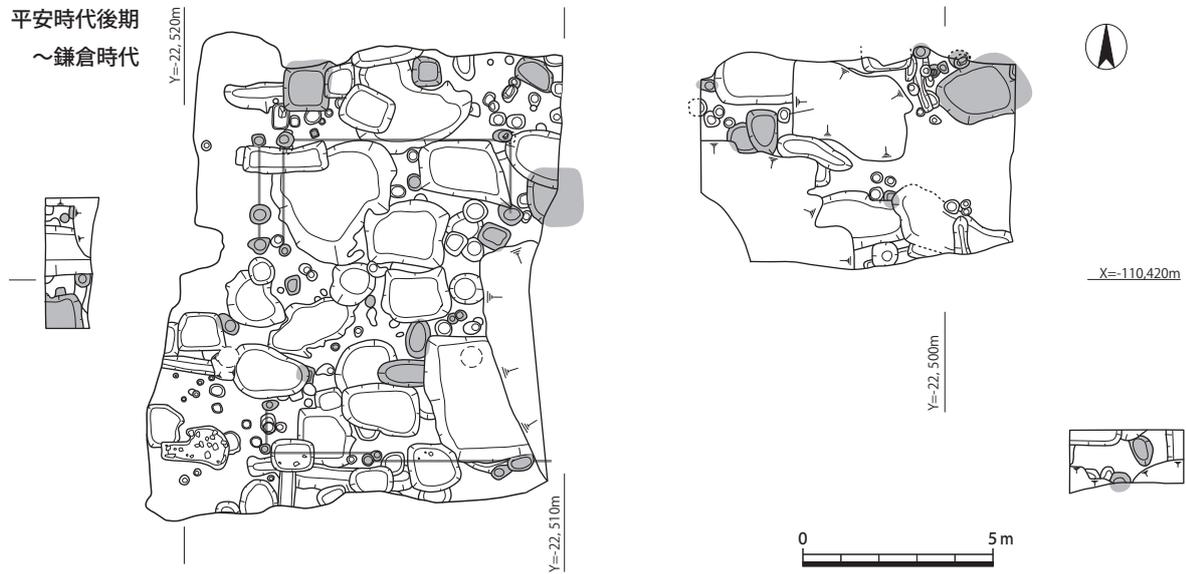
今回の調査では、柱列、土坑、ピットを検出した。建物の復原はできないが、根石や柱あたりをもつ柱穴の存在は、相応の建物が建設されていたことを示す。また、検出された遺構数が多いことから、継続的に居住域として維持されていたと推測される。

第 2 区の土坑 221 からは、内面に格子と「×」を線刻した土師器皿が出土した（図 7-101）。何らかのまじないを行った道具と解される。また、土坑 81 からは、内面を楕状文で装飾する喙門湾

平安時代中期



平安時代後期
～鎌倉時代



室町時代

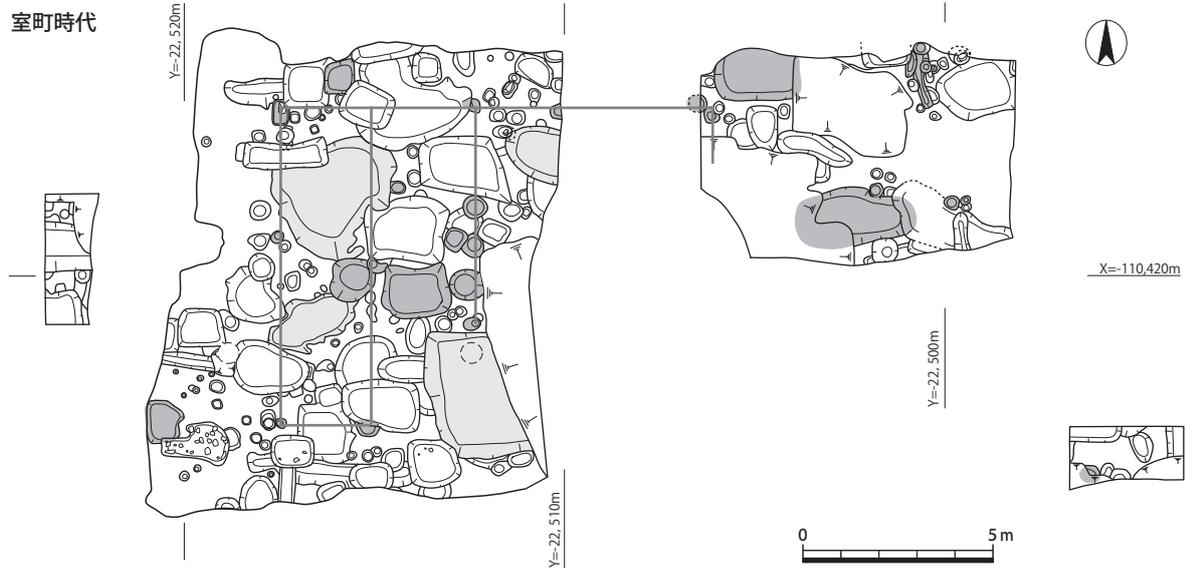


図8 遺構変遷図 (1:200)

系の青磁碗（図7-68）の出土がある。居住者の経済状況や精神文化を知る貴重な資料である。

室町時代 出土遺物と遺構の切あいから、大きく2時期の変遷があったと推測される。14世紀に帰属する遺構は大型土坑であり、その規模と出土遺物の多さから、廃棄土坑であると認識される。逆に15世紀後半に属する遺構群は、根石をもつ柱穴の存在が顕著で、掘立柱建物の復原も可能である。遺物は、土師器皿や瓦質土器、



図9 第1区遺構面検出状況（東から）

砥石等、一般的かつ実用品のみの出土となり、前代までとは異なる居住者の存在を示唆している。

なお、調査区内では、江戸時代前期の遺構も多く、出土遺物も一定量を得ている。左京四条二坊十二町では、小面積の開発が多く、大規模な発掘調査が実施されてこなかった経緯があるが、今回の調査成果を見る限り、小区画での調査であっても得る情報は非常に多い。このため、さらなる調査報告の蓄積により、当該地域の実態が明らかにされることを期待したい。

（黒須 亜希子）

引用文献

調査①：財団法人京都市埋蔵文化財研究所、『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』、1984年。

調査②：京都市文化市民局、『京都市内遺跡試掘調査報告』平成24年度、2013年。

調査③：財団法人京都市埋蔵文化財研究所、『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（発掘調査編）、1983年。

セ試1区・2区：京都市文化観光局、『京都市遺跡試掘調査概報』平成3年度、1992年。

参考文献

財団法人京都市埋蔵文化財研究所、『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』、1999年。

Ⅱ-2 平安京左京五条二坊七町跡 (17H587)

1 調査の経緯 (図10)

本件はホテル新築工事に伴う詳細分布調査である。対象地は下京区岩上通綾小路下の雁金町に位置し、平安京左京五条二坊七町跡の中央部にあたる。当該町に関わる資料などは確認できず、居住者などは不明である。対象地周辺では発掘調査や試掘調査などの事例はなく、様相は明らかでない。ただ周辺ではいくつかの立会調査が行われている。調査地の南西にあたる調査地1¹⁾ではGL-0.9mで平安時代の土坑や包含層が確認され、対象地の北西にあたる調査地2²⁾では-1.05mで平安時代後期の包含層、鎌倉時代の落込みなどが確認されている。調査地3³⁾ではGL-0.32mで室町時代の包含層、-0.49mで鎌倉時代の土坑、-0.63～0.9mで黄褐色砂泥やにぶい褐色砂礫の地山が確認されている。調査地4⁴⁾ではGL-1.88mで平安時代後期の包含層、-2.12mで褐色砂泥の地山に至る。このように、対象地周辺では、平安時代や鎌倉時代、室町時代の遺構が広がっていることが想定できた。

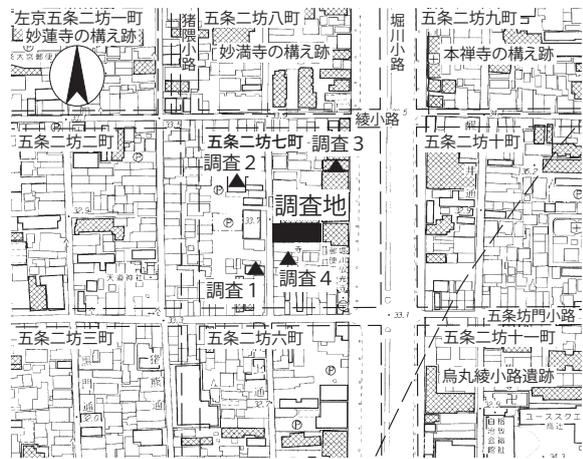


図10 調査位置図 (1:5,000)

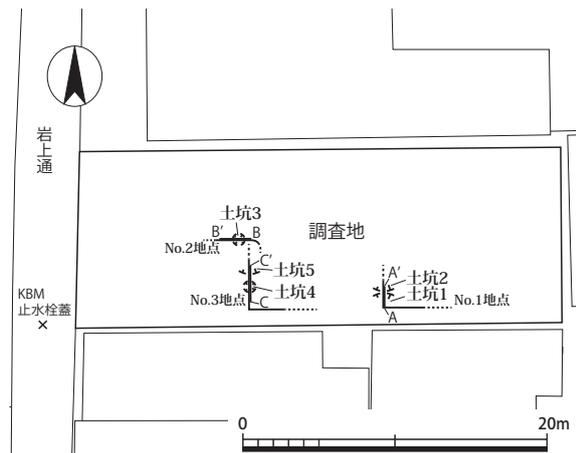


図11 遺構位置図 (1:500)

2 調査成果 (図11～13)

今回の調査では、No.1地点 (A-A')、No.2地点 (B-B') 及びNo.3地点 (C-C') の断面観察を行い、平安時代末期から鎌倉時代初頭にかけての土坑群を確認した。

No.1地点 (A-A') 基本層序は、現代盛土及び近世盛土以下、GL-1.38m (BM-1.25 m) で黄褐色シルトの地山に至る。地山上面で土坑を2基 (土坑1・2) 確認した。土坑1は幅0.8m以上、深さ0.62mである。土坑2は、幅0.36m以上、深さ0.4mである。土坑1からは多量の土師器皿、土坑2からは青磁碗片が出土した。

No.2地点 (B-B') 基本層序は、現代盛土及び暗オリーブ褐色泥砂以下、GL-0.5m (BM-0.3 m) で微砂混じる黄褐色泥砂やにぶい黄橙色砂礫の地山となる。地山上面で土坑1基 (土坑3) を確認し

た。土坑3は、幅0.95m、深さ0.2mである。

No.3地点 (C-C') 基本層序は、現代盛土以下、GL-1.22 (BM-0.7m) mで固く締まる礫混じり黄褐色泥砂、-1.6m (-1.1m) mでにぶい黄褐色泥砂、-1.7m (-1.2m) mで微砂混じるにぶい黄褐色泥砂やにぶい黄橙色砂礫の地山となる。固く締まる礫混じり黄褐色泥砂上面で、土坑を2基(土坑4・5)を確認した。土坑4は幅0.78m、深さ0.5mである。土坑5は幅0.6m以上、深さ0.55mである。両土坑からは、小片ではあるが、鎌倉時代の土師器が出土している。

3 遺物 (図14・15)

今回は5基の土坑を確認したものの、遺物は小片で、図化できるものは少ない。しかし土坑1 (1~26) からは土師器がまとまって出土し、また土坑4・5の遺構面となる包含層 (No.3地点の3層: 27・28) からも遺物が確認できたため、報告する。

1~25は土師器である。1はいわゆるコースター型、2~4は「て」の字状口縁である。15・16・23・25の口縁端部外面には面が施される。17・20・24の口縁部には二段ナデが施さ

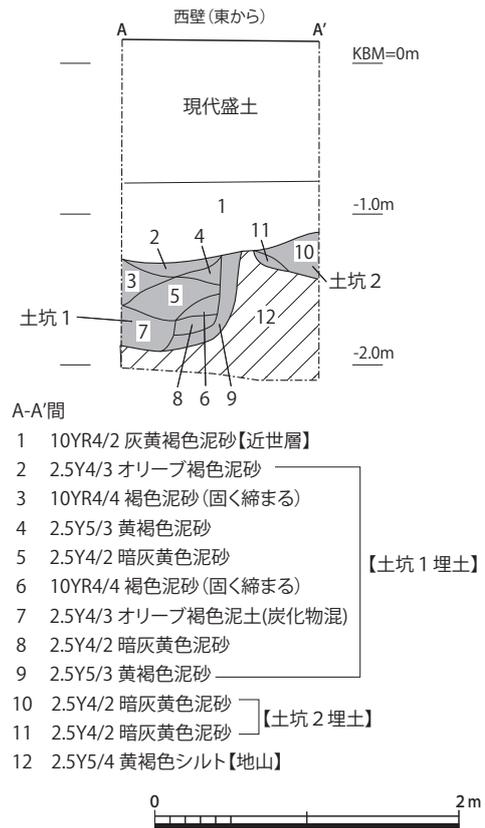


図12 No.1地点 西壁断面図(1:50)

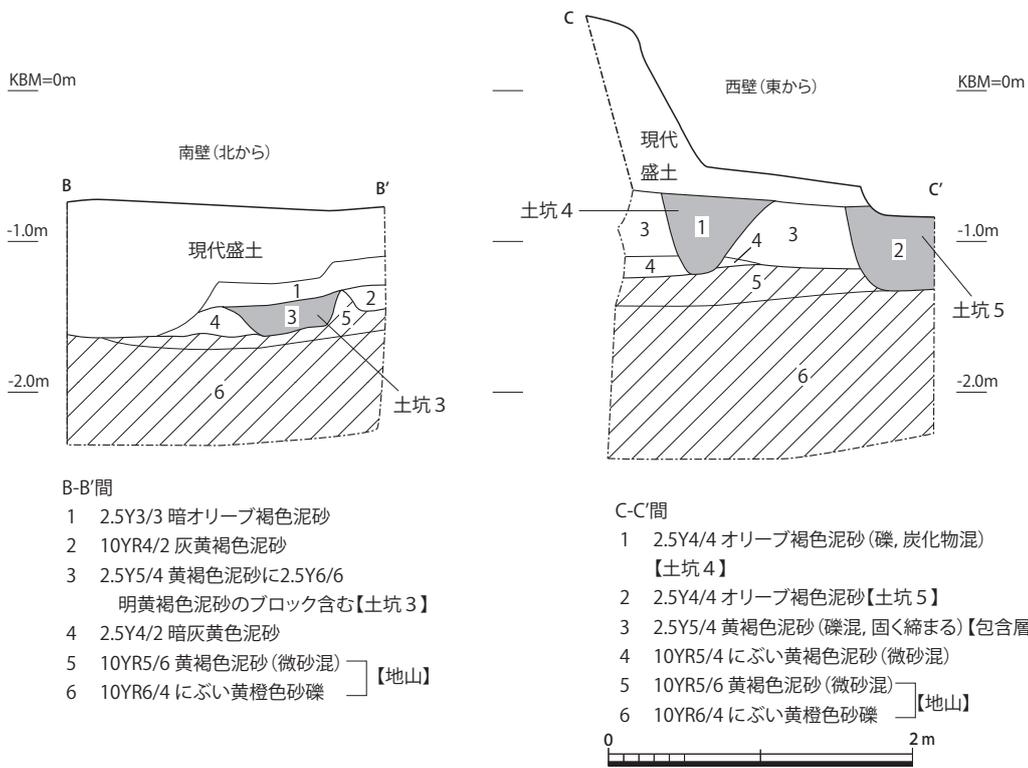


図13 No.2地点 南壁(左)・No.3地点 西壁(右)断面図(1:50)

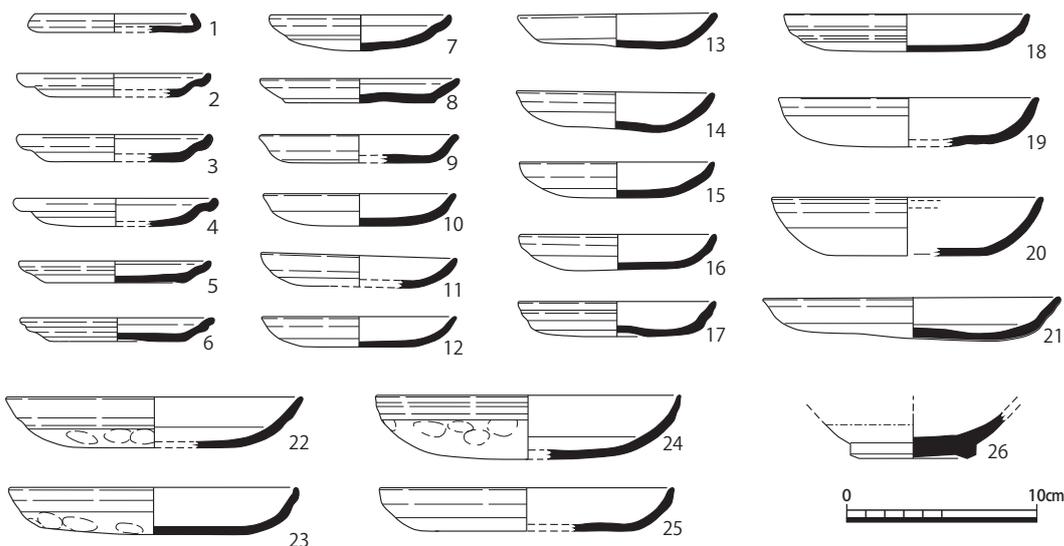


図 14 土坑 1 出土遺物実測図 (1 : 4)

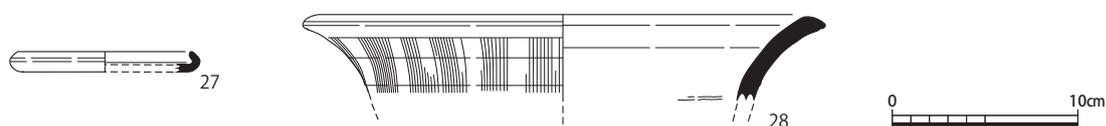


図 15 No.3 地点 3 層 出土遺物実測図 (1 : 4)

れる。26 は白磁碗の高台である。27 はコースター型の土師器皿，28 は須恵器甕の口縁部である。口縁部はハの字に開き外面はハケ目で 9 本で 1 単位の調整が残る。ともに平安時代末期から鎌倉時代初頭のものである。

4 まとめ

今回の調査では，平安時代末期から鎌倉時代初頭と考えられる土坑群を確認した。対象地周辺は発掘調査事例も少なく，史料などにより居住者も特定できず，様相は明らかではない。ただ，これまでの立会調査で確認されている平安時代から鎌倉時代にかけての遺構が密に広がっていることを追認できたことは，五条二坊七町内の様相を明らかにするための一資料となりえる。今後このような調査成果を積み重ねてゆく必要がある。
(清水 早織・奥井 智子)

註

- 1) 「立会一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 56 年度』，京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所，1982 年。
- 2) 「立会一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報 平成 5 年度』，京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所，1994 年。
- 3) 「立会一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報 平成 11 年度』，京都市文化市民局・(財)京都市埋蔵文化財研究所，2000 年。
- 4) 「立会一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成 23 年度』，京都市文化市民局，2012 年。

Ⅱ-3 平安京左京五条三坊三町跡，烏丸綾小路遺跡 (17H624)

1 調査の経緯 (図16)

調査地は，下京区新町通仏光寺下る岩戸山町に位置し，当該地は平安京跡および烏丸綾小路遺跡にあたる。今回，この場所でホテル建設が計画され，平成29年12月14日付けで文化財保護法第93条第1項に基づく届出が提出された。これを受けて詳細分布調査を指導したものである。なお，調査は平成30年3月19・23・26・27・30日に実施した。

本調査地は，平安京左京五条三坊三町跡の南東隅付近にあたり，平安時代中期に菅原是善の『白梅殿』が所在したとされる。

本町域内では，発掘調査はこれまでに実施されておらず，試掘調査については北隣地で平成10年に1件実施されているのみである。また，立会調査も10件ほどしか行われておらず，総じて調査事例が少なく不明な点が多い。これらの調査では，中世を中心とした時期の遺構・遺物などが確認されている一方で，平安時代に遡る確実な遺構はほとんど確認されておらず，平安時代の土地利用については不明確である。なお，場所によってはGL-0.55mで室町時代遺物包含層，-1mで地山が確認されており比較的浅い深度で遺構が確認される傾向にある。

2 層序と遺構 (図17・18)

層序は，現代盛土が1.1～1.5mほどの厚さであり，GL-1.6mで中世遺物包含層（No.1地点の1層・No.2地点の2層，No.3地点の1～3層），-1.85mで平安時代末の整地層である浅黄色泥砂や黄褐色シルト（No.1地点の2層・No.2地点の3層，No.3地点の8層，No.4地点の3層），-2.15m以下は地山（No.1地点の3層・No.2地点の4・5層，No.3地点の9・10層，No.4地点の4・5層）となる。

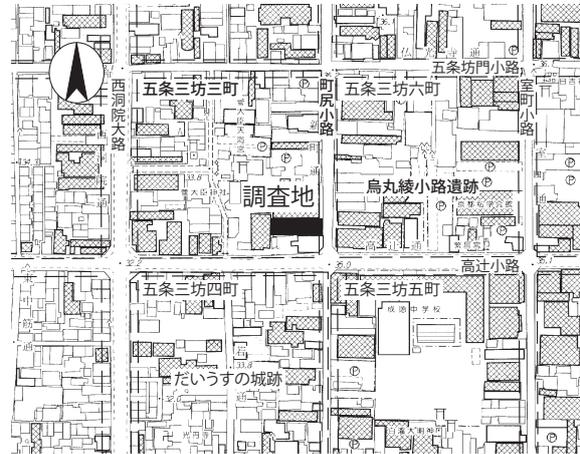


図16 調査位置図 (1:5,000)

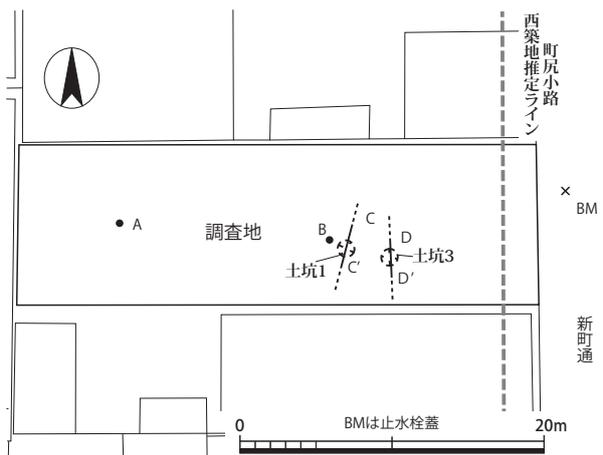


図17 遺構位置図 (1:500)

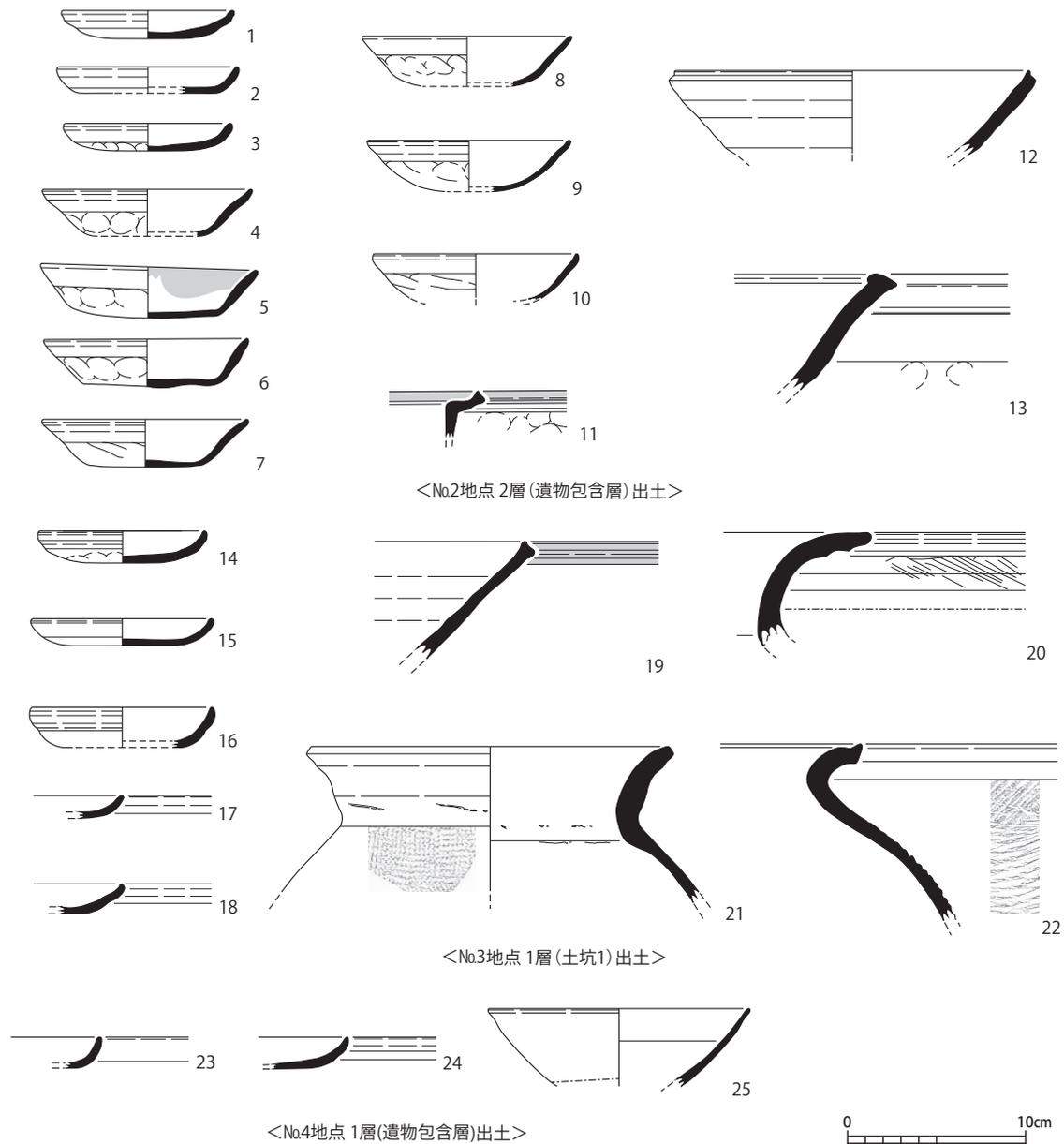


図19 出土遺物実測図 (1:4)

4 まとめ

以上、本調査では各調査地点で整地層や土坑などが良好な状態で遺存しているのを確認した。確認できる遺構・遺物はそのほとんどが中世以降のものであり、周辺の調査事例と同様の傾向を示す。しかし、本調査地点では周辺と比較して多くの遺物が確認できることから、近辺にはさらに多くの遺構が展開する可能性がある。加えて、明確に時期を断定できないものの土坑3の存在やNo.2地点の2層出土遺物に平安時代後期にさかのぼる遺物が含まれることから、平安時代の遺構も周辺に存在する可能性が高い。今後の調査の蓄積が待たれるとともに、遺構面の深度が比較的浅く開発工事の影響を受けやすいことから注視していく必要がある。

(熊井 亮介)

Ⅱ - 4 平安京左京六条四坊十五町跡 (17H567)

1 調査の経緯 (図20)

本件はホテル建設にともなう調査である。調査地は河原町五条交差点の北に位置し、平安京左京六条四坊十五町跡に該当する。当該地では文献史料上邸宅跡などは確認できないが、周辺には大きな邸宅等の記録があり、例えば南に位置する六条四坊十一～十四町には平安時代前期に左大臣源融の『河原院』があったとされ(『拾芥抄』)、北の十六町には右大臣藤原良相が居宅の無い藤原氏の女子のために自邸内に設けた施設である「崇親院」があったという(『拾芥抄』)。これまで周辺の河原町通沿いでは、顕著な遺構・遺物が確認されていない。しかし十六町の南西で、平成26年に古代文化調査会が発掘調査(14H094)を行っており、ここでは平安時代後期～室町時代の遺構面が確認された¹⁾。

今回調査では、対象地の計5か所で土層の確認をおこない、A・B二箇所ですく・落込み・ピットなどの遺構を確認したほか、A地点では少量だが平安時代末期～鎌倉時代の遺物が出土した。

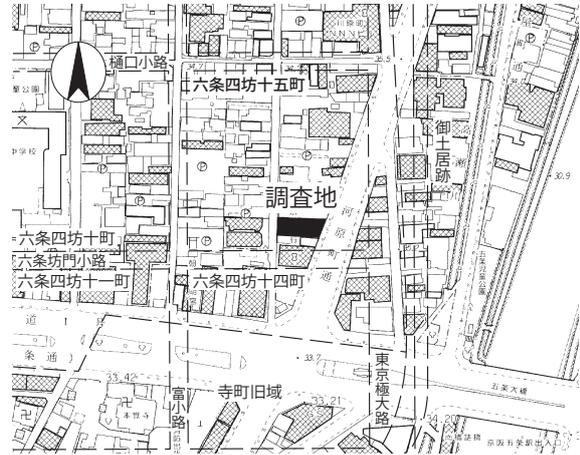


図20 調査位置図 (1 : 5,000)

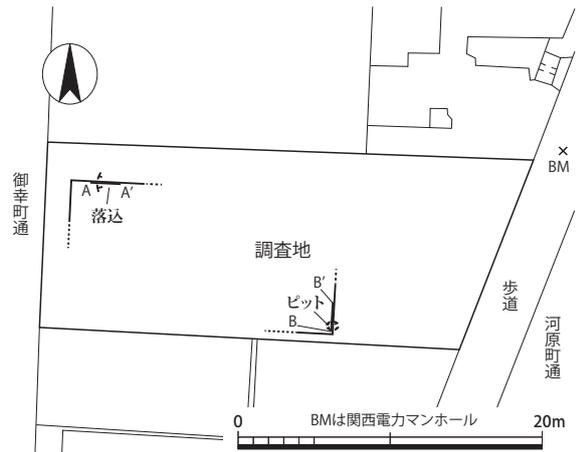


図21 遺構位置図 (1 : 1,000)

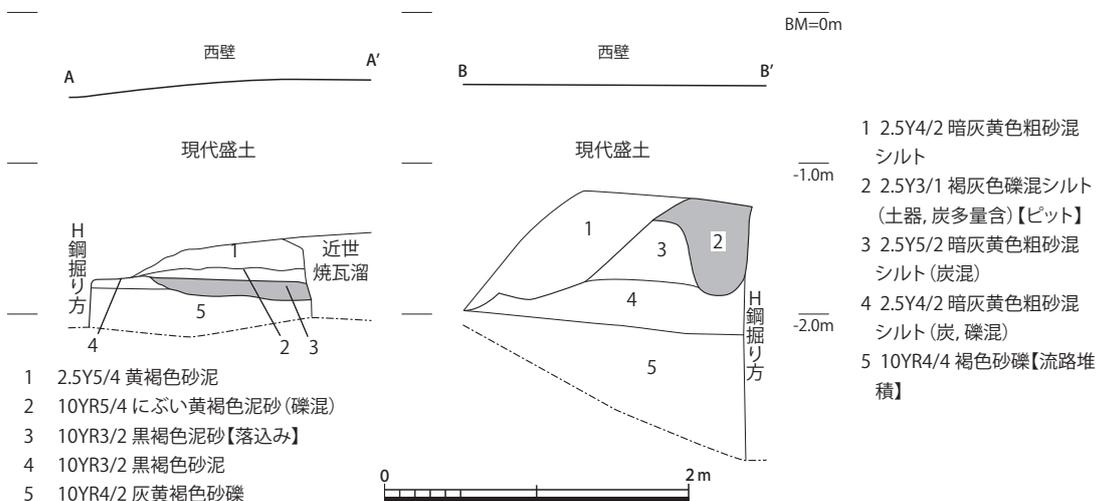


図22 遺構断面図 (1 : 50)

2 層序と遺構 (図21～25)

B地点の層序は、GL-0.7mまで現代盛土、-1.3mまで暗灰黄色粗砂混じりシルト(炭化物混)、-1.6mまで暗灰黄色粗砂混じりシルト(炭化物・礫混)、以下、掘削底である-2.5mまで褐色砂礫(流路堆積)であった。盛土直下において大型土坑(①層、井戸か)1基と、ピット(②層・近世前期)1基を検出した。A地点の落込みから鎌倉時代の遺物が出土している。また同地点のGL-1.2mで黒褐色泥砂からなる平安時代末期～鎌倉時代の包含層も確認している。

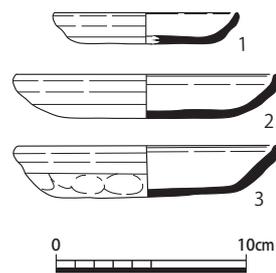


図23 出土遺物実測図(1:4)

落込みから出土した遺物は土師器皿(図23)である。1は口径10.0cm、2・3は口径14.2cmである。落込みの出土遺物が少量のため詳細な時期は不明であるが、V期新～VI期に該当し、平安時代末期～鎌倉時代の遺物と推定される。

3 まとめ

河原町五条は鴨川の屈曲部に近く、付近の詳細分布調査では、これまで流路堆積層のみの確認に留まることが多かった。今回調査で出土した土器は少量だが、調査地の東側では、安定した包含層も確認できており、平安時代後期～鎌倉時代には当地でも生活が営まれていた可能性がある。また、敷地西端で近世の遺構が確認されたことから、近世には河原町通に面した町屋が成立していたことが推測される。

(赤松 佳奈)

註

- 1) 『崇親院跡—平安京左京六条四坊十六町一』古代文化調査会、2015年。

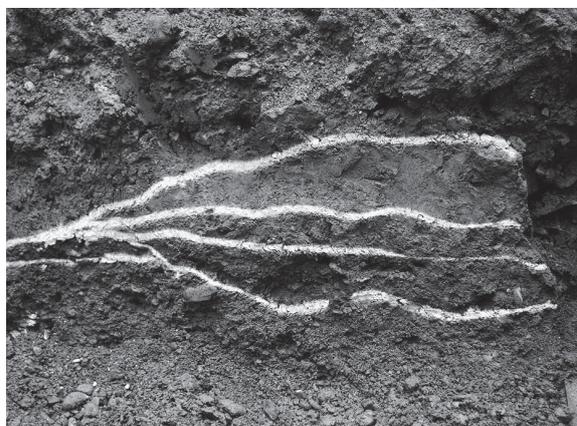


図24 落込み(A-A'間断面)(南から)

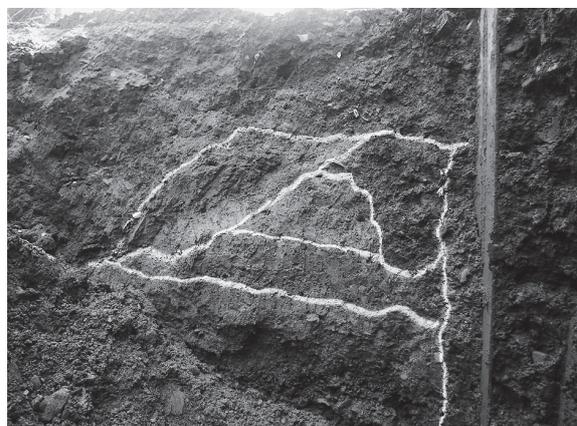


図25 ピット(B-B'間断面)(北西から)

Ⅱ - 5 平安京左京八条二坊十町跡（18H205）

1 調査経過（図26）

調査地は、塩小路通と油小路通の交差点より北に位置する。平安京左京八条二坊十町の北東隅に相当し、敷地の一部が油小路の路面にかかる。今回、この区画に会社事務所の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

その結果、建設に先立つ土留め掘削工事の段階において、平安時代前期から江戸時代前期に至る包含層が良好に残存することを確認した。また、溝やピット等、複数の遺構を検出した。

このため、土留め掘削工事と並行して、部分的に調査区を設定し、遺構面の検出を行った。調査期間は平成30年10月25日～29日のうち計3日間、対象面積は16㎡（1区7.1㎡，2区8.9㎡）である。

2 位置と環境（図26）

調査地が所在する町域には、特に地歴は残されていない。安元2年（1176）に発生した次郎焼亡により、八条二坊の北半部は全焼したとされており、この町域にも少なからずその影響は及んだものと思われる。

その後も官人層が邸宅を構えることはなかったが、周辺の発掘調査成果では、町人や工人の起居を想起させる遺構及び遺物が多数発見されている。

調査区の南30mの地点で昭和57年度に実施された発掘調査（図26-①）では、平安時代前期～鎌倉時代の油小路路面のほか、室町時代の鑄造に関連する土坑が検出されている。

また、調査地より北へ50m隔てた区画で行われた発掘調査（図26-②）では、平安時代～江戸時代に至る油小路路面や室町時代の土坑墓のほか、鏡や刀装具の鑄型を含む鑄造関連資料が多数出土した。

このため、今回の調査でも連続する遺構群の検出が予測された。

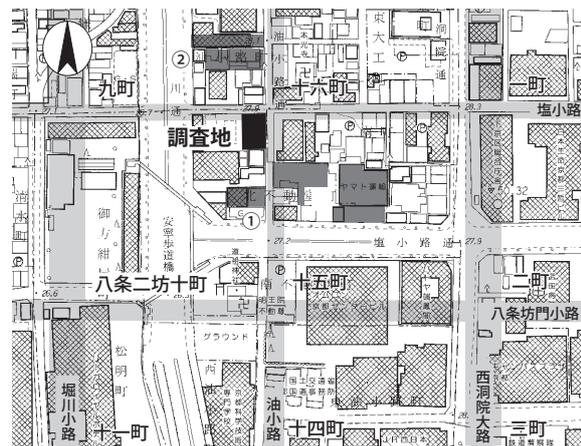


図26 調査位置図（1：5,000）

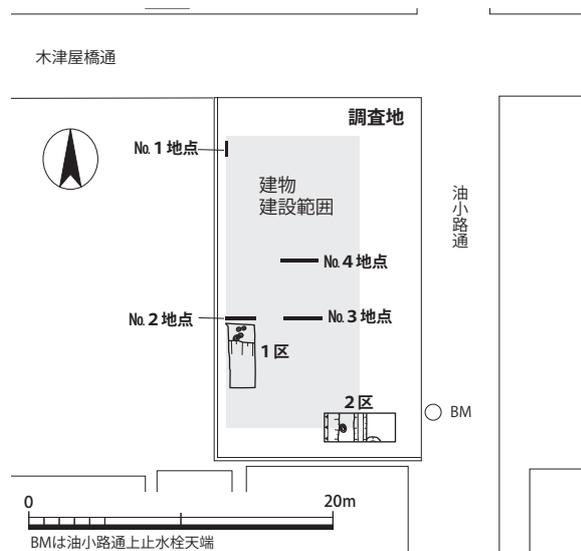


図27 遺構位置図（1：500）

3 調査成果 (図27～30)

(1) 基本層序

今回の調査では、掘削範囲のうち4箇所断面観察を(図27 No.1～4地点), 2箇所で平面検出を行った(図27 1区・2区)。

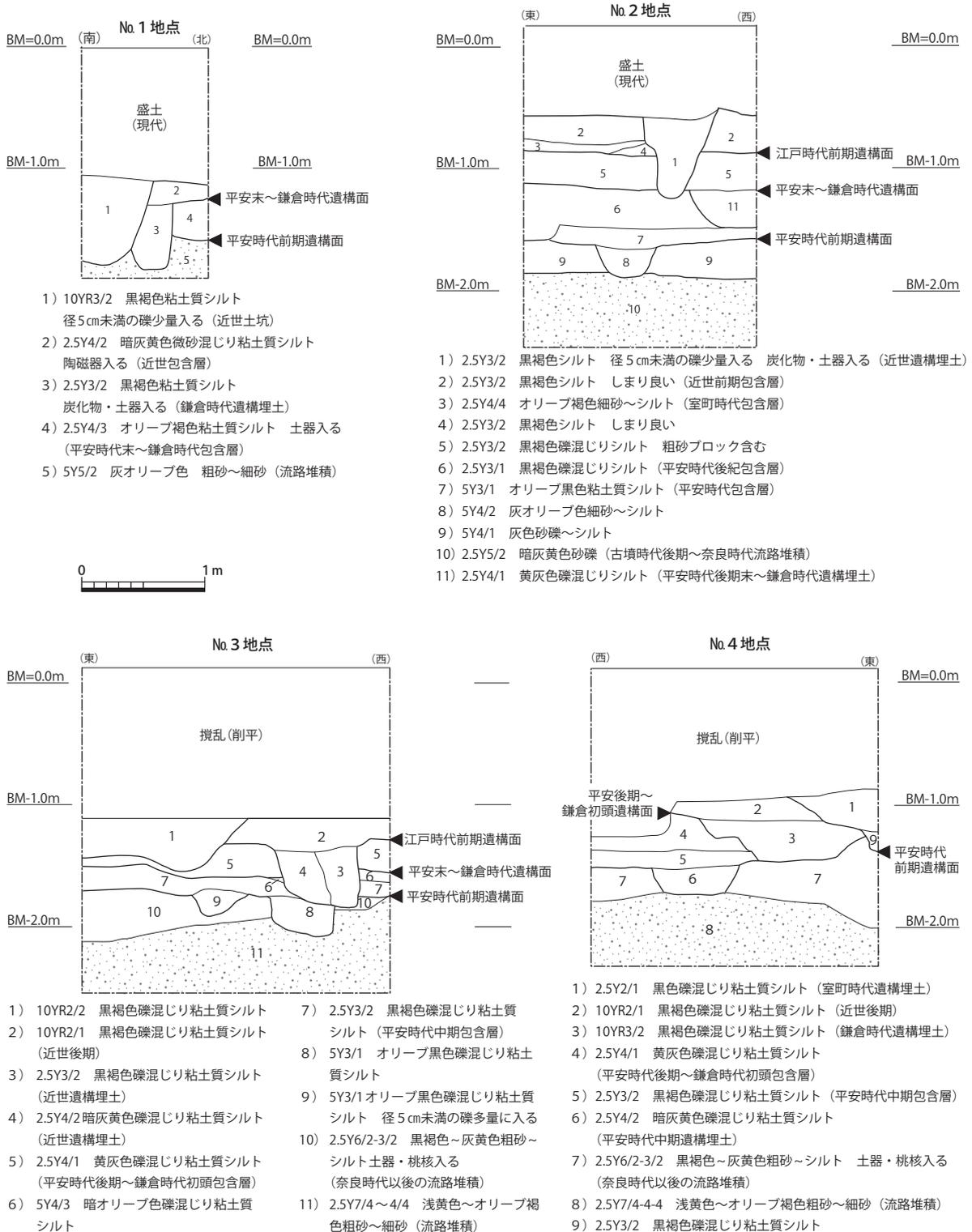


図28 調査地点断面図(1:50)

基本層序は概ねGL-0.8 mまで現代盛土, -1.0 mまで江戸時代前期包含層, -1.3 mまで平安時代後期～鎌倉時代包含層, -1.5 mまで室町時代包含層, -1.7 mまで平安時代前期包含層があり, 以下, 掘削底である-2.7 mまで奈良時代の流路堆積が続く。遺構は, それぞれの包含層の下面にあり, 平安時代前期遺構面, 平安時代末期～鎌倉時代初頭遺構面, 室町時代遺構面, 江戸時代前期遺構面が

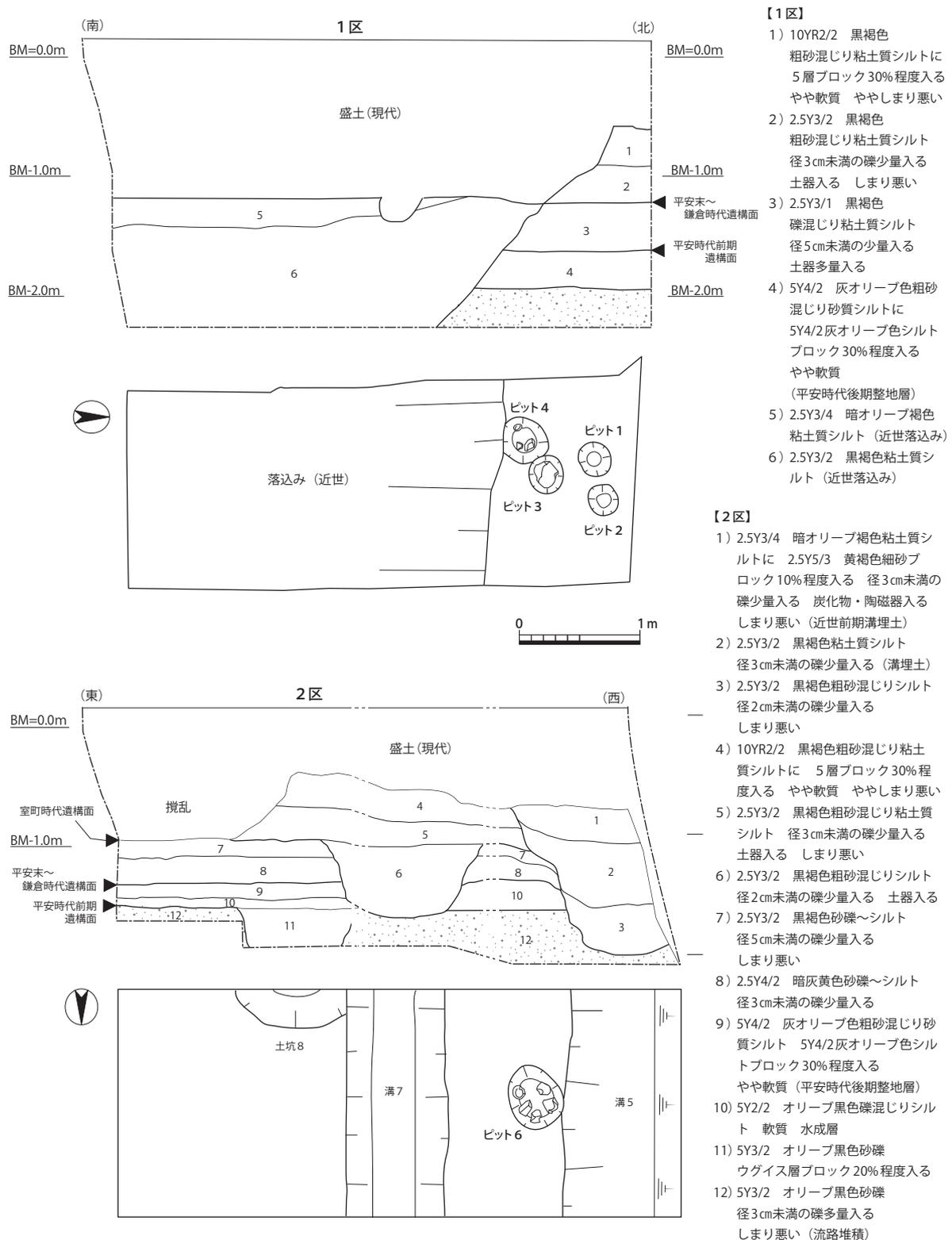


図 29 調査地点平面・断面図 (1 : 50)

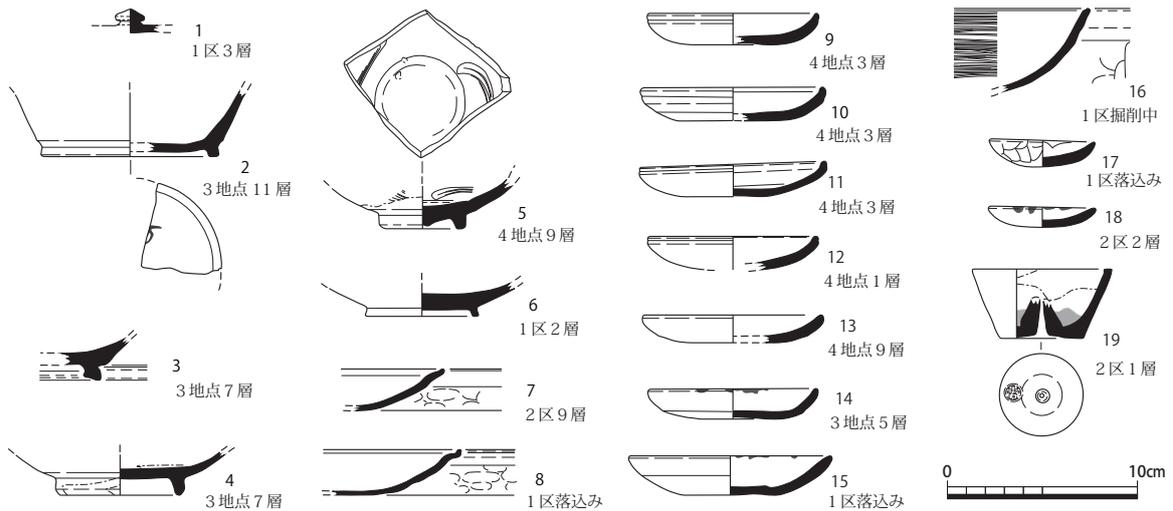


図30 出土遺物実測図（1：4）

介在する。このうち、No.3地点とNo.4地点の平安時代前期遺構面では、宅地の内溝と推測される遺構を確認した。また、奈良時代流路堆積からは、「万」と墨書された須恵器杯身が1点出土した（図30-2）。

（2）遺構

1区では、江戸時代の大規模な落込み（井戸掘り方の可能性がある）とピット4基を検出した。ピット1，3，4は平安時代末期～鎌倉時代，ピット2は室町時代に属する。ピット3の底面には一辺20cmを測る根石が据えられている。またピット4の埋土には拳大の礫が複数含まれている。

2区では、ピット1基と溝2条，土坑1基を検出した。溝5は検出長1.9m，最大深度1.2mを測る直線溝である。No.3地点，No.4地点で確認できる西岸までを含めると，溝幅は1.8～2.0m程度に復原できる。江戸時代前期の油小路の西限を区切る遺構であると推測される。溝7は同じく南北方向に延びる直線溝で，検出長1.9m，最大幅1.3m，断面形状は椀形を呈する。室町時代包含層の下面において成立する。溝5と同じく油小路と宅地を限る溝である可能性があるが，No.3・4地点までは連続しない。

No.3地点，No.4地点では，平安時代前期遺構面において成立する小溝を1条検出した。最大幅0.7mを測る遺構で，両地点の検出位置から鑑みて南北方向へのびると推測される。宅地内溝の可能性はある。

以上，平安京左京八条二坊十町内における詳細分布調査について報告した。近年，周辺地の調査では，鑄造関連遺構や遺物の出土が相次いで報告されている。これらは文献史料には見出すことができない町人や工人の生活を如実に示すものであり，当該地域の実態を示す貴重な情報であると言える。今後の開発計画には，十分な注意が必要である。

（黒須 亜希子）

註・参考文献

調査①：京都市文化観光局，財団法人京都市埋蔵文化財研究所『平安京跡発掘調査概報』，1982年。

II - 6 平安京左京九条一坊十二町跡， 史跡 教王護国寺境内（28N005）



図 31 調査位置図（1：5,000）



図 32 調査地全景（北東から）

1 調査の経緯（図 31・32・34）

東寺の伽藍北西隅に位置する築地で囲われた一角は、空海の住房空間と伝わり、「西院」と呼ばれている。中でも、寝殿が起源とされる御影堂（大師堂）は、空海持仏と伝わる秘仏不動明王坐像と弘法大師坐像が祀られた国宝建造物である。

東寺では、平成 27 年度より 4 箇年の計画で、国宝御影堂の保存修理工事を京都府教育委員会（以下、府教委という）に委託して実施している。工事では、檜皮葺屋根葺き替え等とともに、前堂（礼堂）部分の床板を全て取り外し、床材調査を実施するため（図 32）、府教委の協力のもと床下の確認調査を行った（図 34）。なお、床材調査の結果、柄接ぎや加工工具痕等から、前堂が造営された南北朝時代の床板がそのまま使用されている可能性が指摘されている¹⁾。

床下調査は、平成 29 年 10 月 5・6・12 日、平成 30 年 7 月 23・24 日に実施した。調査の結果、礎石が良好に遺存するとともに、床下の基壇盛土上面は白化粧土で一面が覆われていることが明らかとなった。なお、調査、測量、写真撮影については、（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。また、白化粧土の成分分析を（公財）京都市埋蔵文化財研究所の関晃史氏、龍谷大学教授北野信彦氏から報告して頂いた。

2 御影堂の沿革（図 33）

西院の創建については詳らかではなく、長保二年（1000）の『造東寺年終帳』²⁾に「修理西院」とあるのが初見である。ここに記載される「寝殿」が御影堂の前身建物と考えられ、屋根修理等を行ったことが記されていることから、遅くとも 10 世紀には存在していたことがわかる。長治二

年（1105）には、五間四面の大師御房の檜皮葺を修理している³⁾。当時は不動明王像のみが祀られていたが、延応二年（1240）に弘法大師像が現在のように内々陣に北面して安置されることとなり、御影堂が成立した（図33）⁴⁾。合わせて御影堂御影供が開始され、弘法大師信仰の高まりとともに東寺の寺院活動において、御影堂は重要な位置を占めることとなった。

しかし、康暦元年（1379）、西院西僧房より出火、御影堂を始めとする西院伽藍の全ての建物が焼失するが、朝廷及び幕府の助力もあり、早くも翌年には御影堂を再建、出火時に救出された両像の遷座も行われた。明德元年（1390）には北面に桁行四間梁間五間の礼堂（前堂）と中門が付加され、現在みられる御影堂の構造が整えられている。

なお、御影堂御影供は現在も続けられており、今日では毎月二十一日の「弘法さん」としても親しまれ、多くの参拝者で賑わいを見せる。

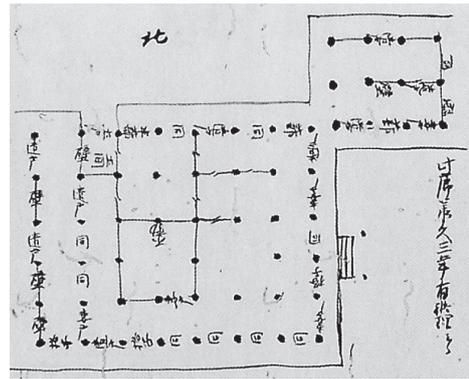
3 床下調査（図35～37）

御影堂の床下の状況から述べる。外観から見る御影堂基壇は亀腹状であるが、実際には縁先の床下のみが盛り上がる土手状となっているとされる⁵⁾。床下には全体的に厚い塵が堆積しており、所々に小動物が運んだと思われるサンダルや菓子袋が点在するほか、小礫や木材の破片も多い。特徴的なものとして、ガラス玉や複数枚重ねられた近世の土師器皿、多数の近世以降の銭貨も認められる。

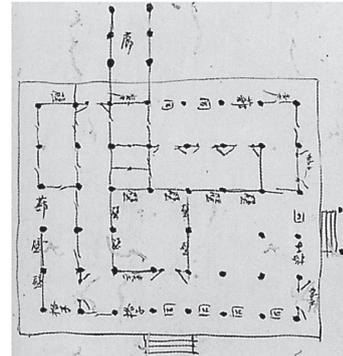
調査は、厚く堆積した塵層の除去から開始し、基壇盛土上面は全面が白化粧土で覆われていることを確認した。また、基壇上面には不定形な凹みが複数認められ、内2箇所で壁面及び断面調査を実施した。礎石及び束石については平面図及び断面図の作成を行った。

礎石調査（図35）

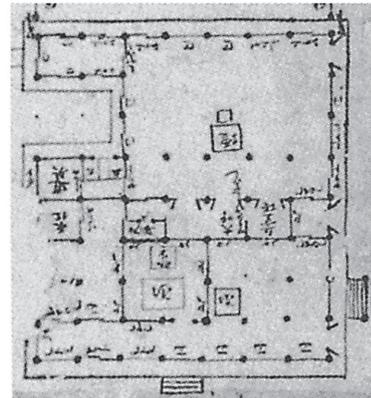
前堂は、側柱列（第1・6・一・五列）の礎石に大型



～延応二年(1240)まで(『東宝記』)



延応二年～康暦元年(1379)まで(『東宝記』)



明德元年(1390)以降(『東寺伽藍指図』)

図33 御影堂変遷図
 (『東寺と弘法大師信仰』から転載)

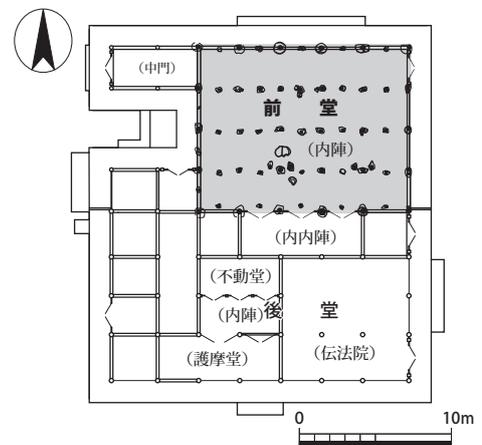


図34 調査区配置図(1:500)

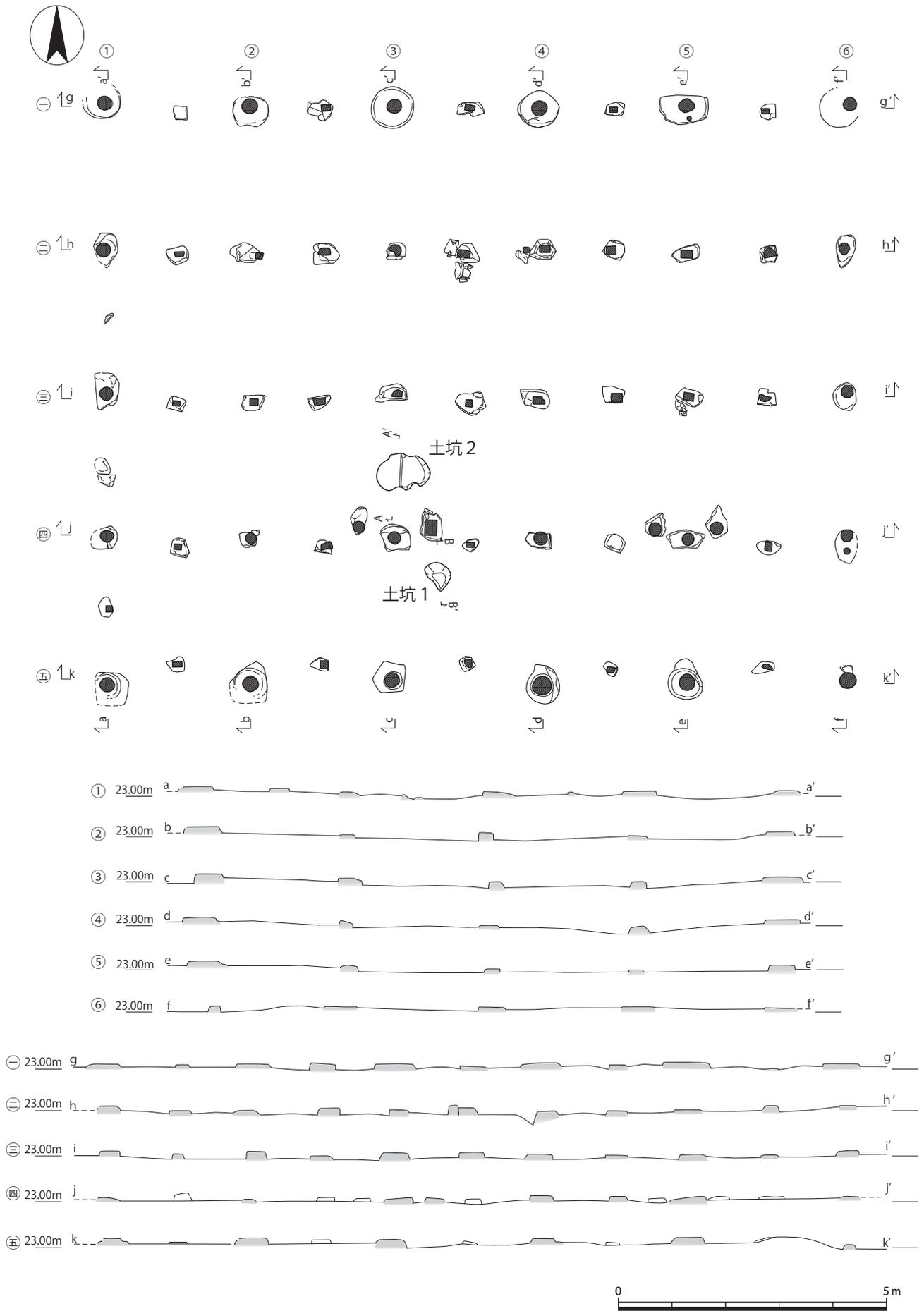


图 35 床下礮石平面图 (1 : 100)

の花崗岩を用い⁶⁾、大引を支える東石と第四列の礎石は、ほぼ未加工の自然石であった。南北の側柱列の花崗岩は特に大型で、露出面での直径は60～90 cmあり、柱座を備えるなど丁寧に加工されたものが多い。また、南側柱列（後堂北側柱列）（第五列）の礎石には被熱による剥離や亀裂が認められ、風化が進んでいるものもある（図39）。自然石の礎石は、直径30～50 cmの大きさで、石材の種類は多彩である。

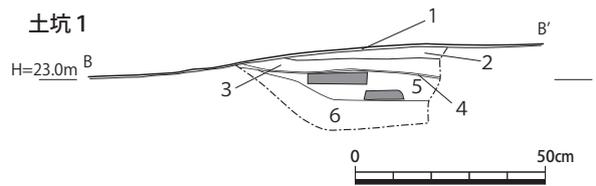
礎石の裾部は白化粧土に覆われ、掘方が認められないが、東石の一部は白化粧土を掘り込んで据え付けられているものもあり、後世に据えたものがあつたことがわかる。ただし、東石は基壇盛土上面に直接据えられたものも多い。

礎石天場は北側柱列（第一列）が標高23.1m、南側柱列（第五列）が23.2mでほぼ同一であるが、東石天場はやや不揃いである。床面は南から第二列までが僅かに高いものの、標高23.0m前後でほぼ平坦である。なお、西院北築地の修理に伴う発掘調査で確認された中世遺構面の標高は22.4m附近である⁷⁾。

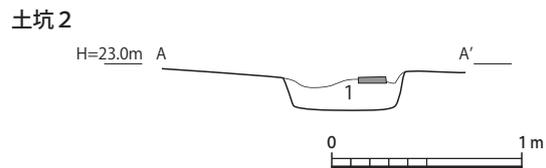
その他の遺構

土坑1壁面（基壇盛土）（図36・37） 土坑1は、内々陣に安置される大師像のほぼ正面に位置し、南北55 cm、東西42 cmの不定形を呈す。壁面に露出する基壇盛土の観察を行った。基壇上面は化粧土と考える厚さ0.03 cmの白色泥土（1層）で覆われ、その直下に炭化物を多量に含む火災層（2層）が3 cm堆積している。GL- 4 cmにて固く締まった浅黄橙色泥砂の盛土（3層）となり、- 8 cmにて厚さ0.02 cmの白色泥土（4層）が再び認められる。白色泥土直下には、瓦及び土師器片を多量に含む灰白色細砂（5層）、-15 cmにて灰白色泥砂（6層）となり、さらに下層へと続く。5層出土の土師器はⅢ期新段階に属するもので、10世紀末～11世紀初頭の年代が与えられる。

土坑2（図36） 土坑2は、第三・四列間に位置する。東西方向の楕円形を呈し、東西100 cm、南北60 cm、深さ15 cmの土坑である。埋土は締まりの無いにぶい黄褐色細砂で、土師器・瓦片を含む。



- 1 白色泥土【基壇表面化粧土】
- 2 7.5YR3/2 暗褐色泥砂【1379年火災層】
- 3 10YR8/3 浅黄橙色泥砂（固く締まる）【基壇盛土】
- 4 白色泥土【焼失前の御影堂化粧土】
- 5 5Y8/2 灰白色細砂（土師器・瓦多量を含む）【基壇盛土】
- 6 7.5YR8/2 灰白色泥砂【基壇盛土】



- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色細砂（土師器・瓦片少量含む）

図36 遺構実測図（1：40・1：20）



図37 土坑1壁面（西から）

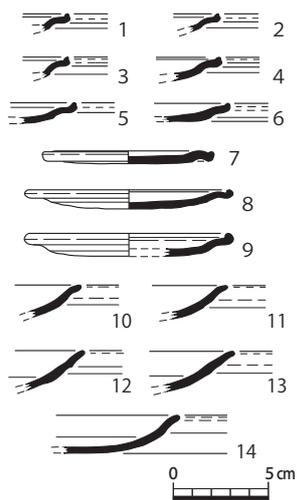


図38 出土遺物実測図（1：4）

4 遺物（図38）

遺物は、土師器皿、ガラス玉等を確認したが、土坑1壁面5層から出土した土師器皿の一部をサンプルとして持ち帰ったのみであり、他は全て現地保存している。

1～14は全て土師器皿又は坏である。口縁端部は外半し、上方に突起する形状のいわゆる「ての字状口縁」と呼ばれる皿（1～9）と、口縁部が外反したままの皿又は坏（10～14）がある。口径が復元できる7～9は、7が8.8cm、8・9が10.6cmである。Ⅲ期新段階に属するもので、10世紀末から11世紀初頭の年代が与えられる。

5 まとめ

前堂の床材調査では、南北朝期の造営時の床材がそのまま使用されている可能性が提示されている。床下調査では、束石に基壇上面を覆う白化粧土を掘り込む掘方が認められるものの、礎石には掘方があるものは認められず、造営後、現在に至るまで床下に及ぶ大規模修理は行われなかったとの見解を補強する成果となった。また、南側柱列（第五列）の礎石には被熱による剥離、亀裂が認められることから、康暦元年（1379）に被災した状態を示していると考えられ、焼失前の礎石を再利用していることになり、再建された御影堂は柱位置や規模を踏襲しているものと捉えられよう。土坑1壁面で確認した現基壇上面の白化粧土直下に炭化物を多量に含む火災層が認められることも、これを裏付けられる。

また、注目すべき成果としては、基壇盛土断面に、ある時期の基壇化粧土と考えられる白色泥土（土坑1-4層）が認められたことである。泥土層直下には10世紀末から11世紀初頭の年代を示す土師器皿を多量に含む盛土層があり、同時期に御影堂の基壇にも手が加えられる大規模な造成が行われた可能性が高い。史料からは長保二年（1000）に西院を修理したことがわかっているが、記載された対象箇所は屋根、遣戸、天井、

爐であり⁸⁾、床下に手を加えた記録はなく、今後検討すべき課題といえよう。

（西森 正晃）

註

- 1) 修理担当の京都府教育委員会文化財保護課長 鶴岡典慶氏による。
- 2) 『東寺と弘法大師信仰』東寺宝物館、2001年に掲載。
- 3) 『東寺修理文書案』2)に同じ。



図39 風化が進む南側柱列の礎石

- 4) 2) に同じ。
- 5) 『東寺の建造物』 東寺宝物館, 1995 年による。
- 6) 側柱の礎石の中で, 南東隅のみ凝灰岩である。
- 7) 第 16 回教王護国寺境内史跡等保存整備事業委員会資料による。
- 8) 『造東寺年終帳』 による。2) に同じ。

付 東寺御影堂 (大師堂) の白色資料に関する分析報告 (図 40)

東寺御影堂 (大師堂) の床面で検出した白色資料について, サンプリングした試料の分析で得られた結果を以下に報告する。

白色資料の出土時に想定された材質として, 土間などによく利用される「漆喰」の可能性が挙げられた。そこで, 漆喰の主成分となる炭酸カルシウムの含有を確認するため, 稀塩酸を滴下する反応試験を実施したが, 炭酸カルシウムの特徴である発泡反応は認められず, 続いて蛍光 X 線を用いた材質調査を実施した。

分析には龍谷大学文学部文化財科学室設置の蛍光 X 線分析装置 ((株) 堀場製作所 MESA-500 型) を使用した。分析時の設定条件は以下の通りである。分析時間は 600 秒, 試料室内は真空, X 線管電圧は 15kV および 50kV, 電流は 240 μ A および 20 μ A, 検出強度は 200.0 ~ 120.0cps である。

蛍光 X 線分析の結果, 検出された元素は主に Fe (鉄) や Ca (カルシウム), Si (ケイ素), Ti (チ

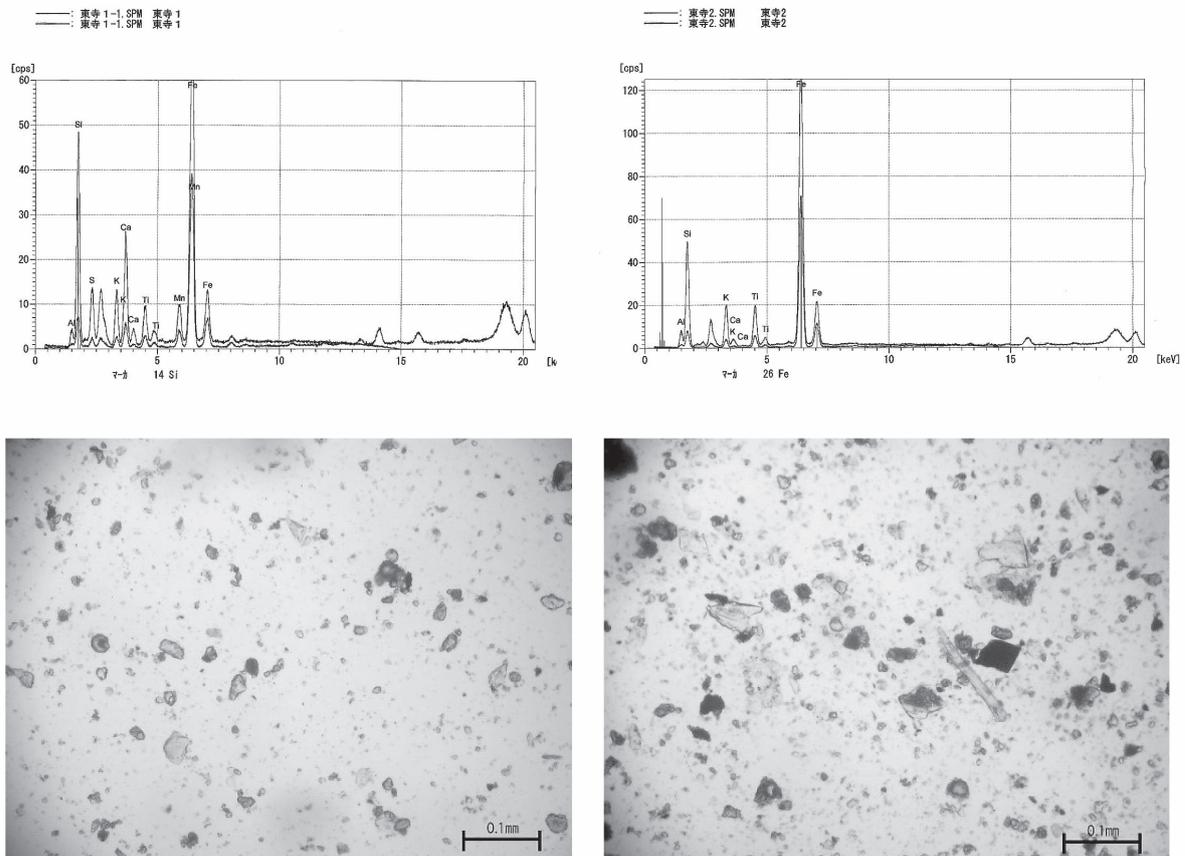


図 40 蛍光 X 線スペクトル (上) と生物顕微鏡拡大画像 (下)

タン) などであり、顔料というよりは土壌を分析した際に得られる元素といえる (図⑩上)。また、生物顕微鏡並びに鉱物用偏光顕微鏡を用いた観察から、試料中に微細なガラス質火山灰と考えられる粒子の含有を確認した (図 40 下)。これにより、白色資料の色調は火山灰によるものの可能性が高いと判断した。

以上の結果、白色資料については壁などの上塗り層に使用される意味での「白土」である可能性は高いといえる。これまでに白土が出土している市内の遺跡としては (公財) 京都市埋蔵文化財研究所が行った調査成果から、平安京右京五条三坊三町跡の建物柱穴⁷⁾や、堀河院跡の池 1810⁸⁾、平安京左京四条一坊二町跡の石組溝 262⁹⁾で確認されており、これらは全て火山ガラスを主体とした白土が壁土の仕上げとして塗られたものと判断がなされている。但し、本稿で述べた東寺御影堂の白色資料に含まれていた火山ガラスに関しては、その可能性を示唆するに留まり、今後の地球科学分野における、より精緻な分析が待たれる。

(関 晃史) (公財) 京都市埋蔵文化財研究所
(北野 信彦) 龍谷大学文学部教授

註

- 7) 『平安京右京五条三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-2, (財) 京都市埋蔵文化財研究所, 2005 年。
- 8) 『平安京左京三条二坊十町 (堀河院) 跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-17, (財) 京都市埋蔵文化財研究所, 2008 年。
- 9) 『平安京左京四条一坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-10, (公財) 京都市埋蔵文化財研究所, 2015 年。

Ⅲ-1 平安京右京三条一坊十一町跡，壬生遺跡 (18H481)

1 調査経過 (図41)

調査地は、JR山陰線二条駅の西に位置する。御池通と六軒町通の交差点の南西にあたり、平安京右京三条一坊十一町の北東隅に相当する。また、弥生時代の集落遺跡である壬生遺跡にも含まれている。今回、この区画に保育所の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

この町域には、特に地歴は残されていない。しかし、発掘調査による成果は顕著で、平安時代を中心とした遺構の発見が報告されている。調査区より南へ50m隔てた区画において昭和61年度に実施された試掘調査では、GL-0.8mの深度において平安時代前期の包含層が確認された(図41-①)。また、調査地の北側隣接地において平成18年度に試掘調査が行われており、GL-0.15～0.6mの深度において、平安時代前期に遡る柱穴、土坑のほか、皇嘉門大路の西側溝が確認されている(図41-②)。さらに同敷地内で行われた詳細分布調査では、GL-1.1mの深度において平安時代後期の池状遺構が確認された。これらの成果を受けて、工事計画は変更され、遺構面が保護されるに至っている。

以上のことから、今回の調査においても、連続する遺構面の存在が予測された。

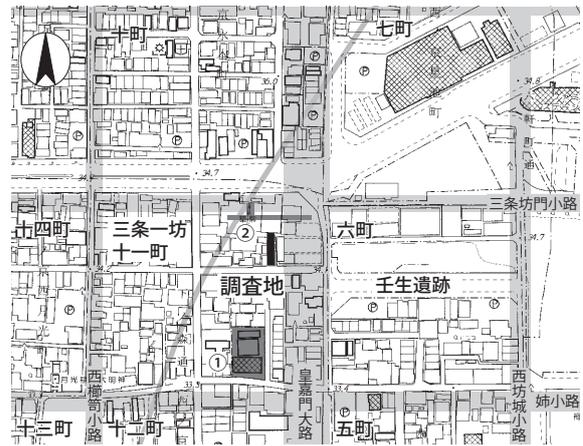


図41 調査位置図 (1:5,000)

2 調査成果 (図42～44)

(1) 基本層序

調査地は、間口が狭く南北に長い形状の敷地である。今回の調査では、建物計画範囲の北東部において遺構検出を行った。

基本層序は、GL-0.35mまで盛土、-0.4mまで黒褐色細砂混じりシルト(室町時代包含層)、-0.55mまで暗オリーブ褐色礫混じりシルト(平安時代前期包含層)があり、その直下に黄褐色砂質シルトを主体とする地山が存在する。遺構面は、この地山上面で検出した。

中近世包含層からは、瓦質土器鉢、施釉陶器、

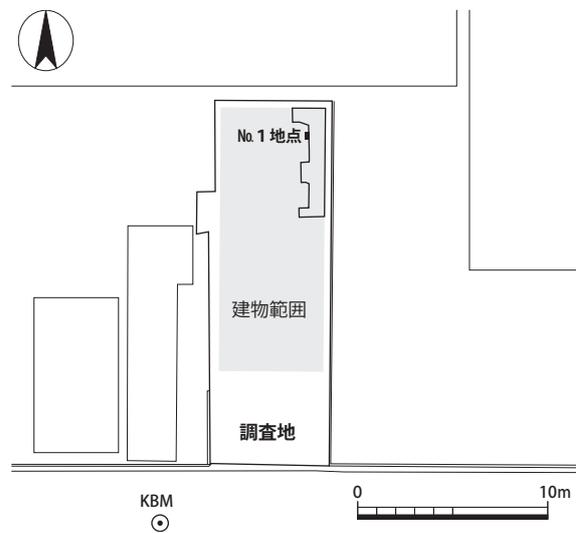


図42 調査地点位置図 (1:400)

白磁等が出土した。また平安時代前期包含層からは、土師器甕や皿の細片が出土した。

(2) 遺構と遺物

遺構面は、敷地の北東部の標高がもっとも高く、南、西に向かって徐々に下がる。このため、北東部では基礎掘削を終えた段階で遺構が露出していた。今回は、この範囲について報告する。

遺構面では、土坑2基、ピット1基、溝2条を検出した。遺構は、それぞれ古墳時代後期、平安時代中期、室町時代の3時期に属する。ピット1は、調査区北半部において検出した遺構で、平面形状は径0.35mを測る円形を呈する。断面形状は碗形で、最大深度は0.2mを測る。遺構内には一辺20cmを測る根石が配されていた。埋土から須恵器鉢、土師器皿、黒色土器椀、平瓦の破片が出土した。10世紀後半の遺構である。

溝4は、北北西-南南東方向にのびる溝で、北端と南端が屈曲してともに西へ続く。検出長は3.7m、最大幅は0.28mを測る。残存深度は浅く、埋土は褐色礫混じりシルトを主体とする。その形状から、竪穴建物の壁溝である可能性が考えられる。埋土からは須恵器甕の破片が出土した。6世紀末~7世紀の遺構である。

以上、平安右京三条一坊十一町跡および壬生遺跡における詳細分布調査について報告した。限られた範囲の調査ではあるが、周辺の調査報告を追認する成果となる。なお今回の対象地では、大部分の遺構面が包含層に保護されるかたちで残存する。このため、今後の開発計画には、十分な注意が必要である。

(黒須 亜希子)

引用文献

調査①：京都市文化観光局，財団法人京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度，1987年。

調査②：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告』平成18年度，2007年。

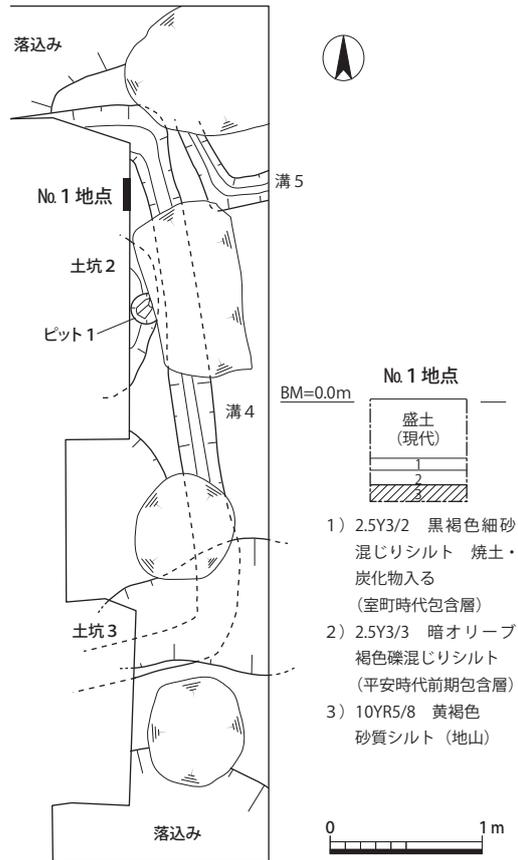


図43 遺構平面・断面図 (1:50)



図44 遺構検出状況 (南から)

Ⅲ-2 平安京右京九条一坊十三・十四町跡， 史跡 西寺跡，唐橋遺跡（28C090）

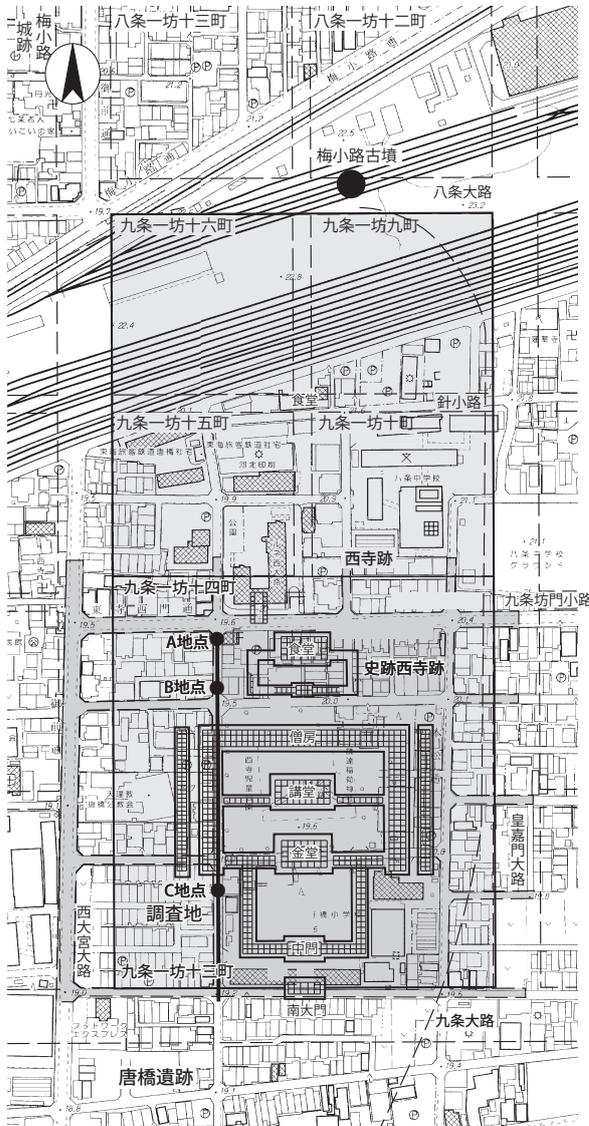


図45 調査位置図（1：5,000）

1 調査の経緯（図45）

本件は、南区唐橋西寺町地先における排水管敷設工事に伴う調査で、史跡西寺跡及び平安京跡、唐橋遺跡に該当する。対象となる工事は、西寺の伽藍西側を南北に貫くもので、途中西僧房を縦断することが想定された。調査期間は、平成29年5月31日から翌年1月11日までの間で、延べ22日に亘り実施した。

西僧房では、これまで数度の発掘調査及び試掘調査を実施しており、礎石抜取穴を6基、柱穴2基、ピット、基壇盛土及び雨落ち溝が確認されている¹⁾。今回は、西僧房に関連する遺構や伽藍内の土地利用状況に関する情報を得ることを目的とした。

調査の結果、西僧房跡では明確な痕跡は認められなかったものの、西寺期の整地層及び弥生時代から古墳時代にかけての集落跡とされる唐橋遺跡に属する遺構・遺物を確認した。

2 遺構・遺物（図46～48）

層序は、対象地全域でほぼ共通しており、現代盛土、耕作土と続き、GL-0.23～0.42mで西寺期の遺物を含む整地層、GL-0.4～0.8mにて灰色～黄灰色、灰黄色砂礫の地山となる。整地層の厚みは場所によって異なり、0.1～0.35mが残る。整地層以外の遺構では、B地点のGL-0.6mにて、地山が成立面と考えられる深さ0.2mの落ち込みがある。遺物は、A地点の整地層から平安時代前期の軒丸瓦、B地点の落ち込みから土師器甕片が出土した。

図48-1は、土師器甕の頸部である。2は、複弁八葉蓮華文軒丸瓦で、中房は大きく圏線で縁取り、蓮子は1+6である。蓮弁は幅広く盛り上がり、間弁は弁端に接する。瓦当裏面には丸瓦を当て、粘土を当てて接合している。牧之阪瓦窯産か。

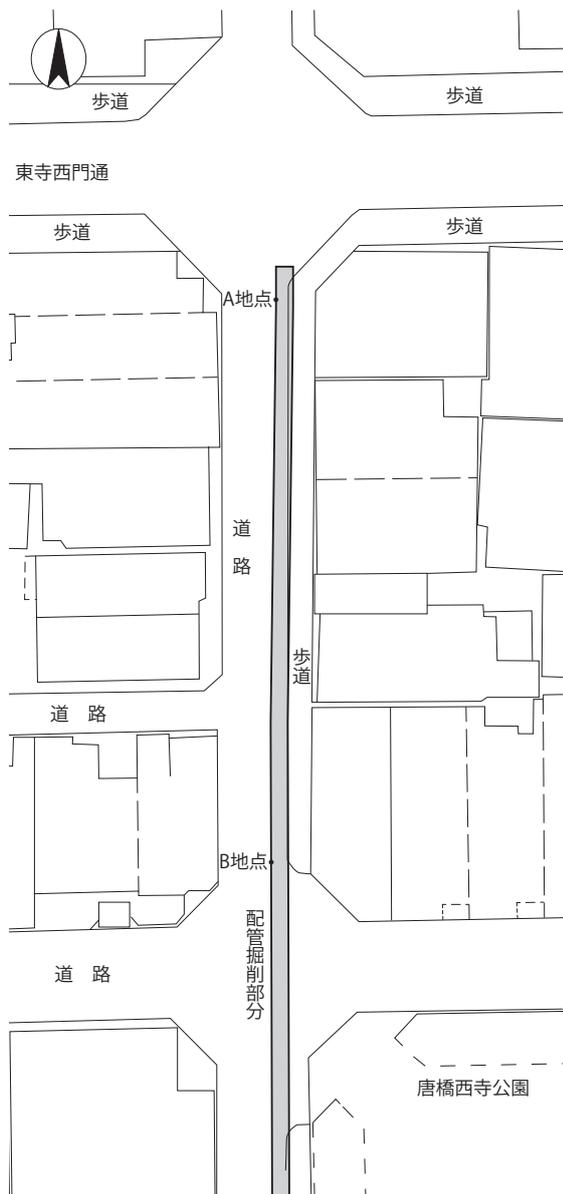


図 46 調査地点位置図 (1 : 500)

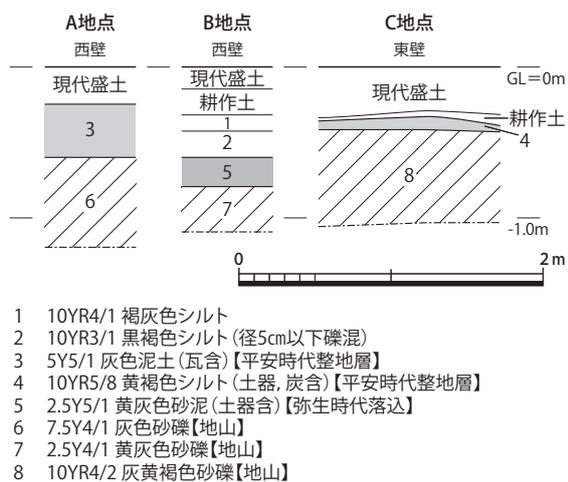


図 47 各調査地点断面柱状図 (1 : 50)

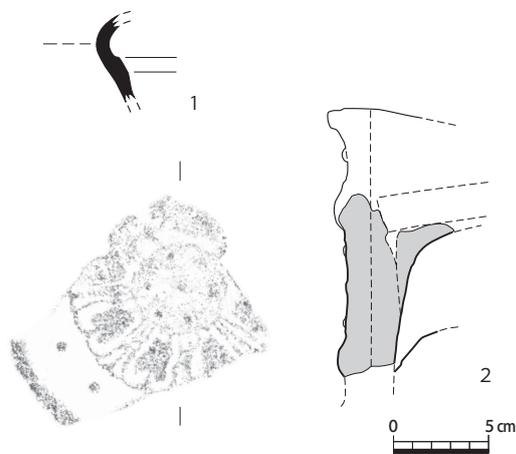


図 48 出土遺物実測図 (1 : 4)

3 まとめ

今回の調査では、西僧房の痕跡は確認できなかったが、西寺期の整地層が広範囲に残存していることを改めて確認できた。遺構面が浅いため、低い基壇と想定される西僧房は削平を受けているものと考えられよう。(西森 正晃)

註

1) 杉山信三『史跡西寺跡』鳥羽離宮跡調査研究所, 1979年。

長宗繁一「西寺跡発掘調査 第19次発掘調査」『平安京跡発掘調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財センター, 1981年。

「史跡西寺跡」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成9年度』京都市文化市民局, 1998年。

IV - 1 愛宕山遺跡（17A007）

1 はじめに（図49）

本件は、市内北西に位置する愛宕山（標高 924m）頂上に鎮座する愛宕神社境内で採集した江戸時代前半を主体とする陶磁器類を報告するものである。

平成 29 年 11 月 24 日、京都市考古資料館に愛宕神社の元権禰宜である岡本周次郎氏が陶磁器等を持参され、同館に寄託された。陶磁器は 17 世紀前半に属するもので、皿、播鉢等の什器以外に、茶の湯の席で用いる向付等が複数認められ、当時大流行したいわゆる桃山茶陶が含まれていることが明らかになった¹⁾。後日、岡本氏より採集地点の案内を受け、白雲寺宿坊が所在したと考えられる頂上直下の平場群の一つから続く急斜面に遺物が散布していることを確認した（図 49・A 地点）（図 50・51）。また、散布地点周辺の踏査を行った結果、北側の異なる平場横の緩い谷部においても陶磁器類の散布を確認した（図 49・B 地点）。この事態を受け、土砂の流出が進むことで遺物が散逸する恐れがあるため、平成 29 年 12 月 2・11 日、平成 30 年 3 月 23 日、4 月 8 日、8 月 1・5 日に踏査を行い、表採に努めた。なお、踏査には平尾政幸氏、南孝雄氏、齋卓史氏の協力を得た。

愛宕山は、平安京の北西（乾）に位置することから、比叡山とともに王城鎮護の霊山として重要視され、古くから神仏習合が進み、廃仏毀釈までは頂上に神宮寺である白雲寺が所在した。本尊に勝軍地藏を、奥之院には太郎坊大権現が祀られ、頂上付近には室町時代後半以降、愛宕五坊（長床坊・教学院・大善院・威徳院・福寿院）と称される宿坊があり、多方面から多くの信仰を集めていた。

ここでは、遺跡・遺物保護の観点から、詳細な出土場所を示すことは差し控えたい。



図 49 採集地点位置図（1：5,000）



図 50 採集地点 (A 地点) 現況 (北から)



図 51 遺物散布状況 (東から)

2 遺物 (図 52～60, 表 5～7)

採集遺物は、安土桃山時代から江戸時代前半にかけての陶磁器類等で、国産施釉陶器、焼締陶器、土師器を始め、輸入陶磁器や国産磁器、金属製品等も含まれる (表 5)。施釉陶器が占める割合が 65% と高く、次いで土師器、輸入陶磁器、焼締陶器と続く。施釉陶器は、美濃産が 8 割以上を占め、他に唐津産や少量であるが高取産も認められる。焼締陶器では、信楽、備前、丹波産があり、東南アジア産のものもある。磁器類では明染付が多く、少量ながら国産の磁器類も含まれる。

また、後述するように、A 地点・B 地点ともに隣接する平場に宿坊が営まれていたと想定でき、文献資料から廃棄年代の下限が特定できることから、採集地点を分けずに報告を行う。個別の採集地点については、表 6・7 の遺物観察表を参照頂きたい。

1～50 は美濃産の施釉陶器である。1～23 は長石釉製品 (図 52) で、菊皿、丸皿、鉄絵丸皿、志野皿があり、採集品の中で占める割合が高い。いずれもロクロ成形で、高台を削り出す。1～3 は菊皿で、口縁部を花卉の先端状に切り取る。1 は内面のみを丸ノミで菊花状に削り出す。2・3 は内面に加え、外面側面に縦方向に沈線を入れ、菊花状に削り出している。4～11 は丸皿で、口径分布は 11.0～12.5 cm である。口縁部がやや内傾するもの (4～7) と外反する端反皿 (8～11) が認められる。大半が内外面ともに 1～3 か所のトチン跡を残す。8 は釉が透明で、貫入が入る。11 も釉の発色が良好である。やや器高が高く 3.2 cm ある。12 は釉が厚くかかり、貫入が入る志野釉の丸皿で、内面側面に鉄絵で袖垣を描く。口縁部は外反する。13～23 は鉄絵丸皿で、口径は 11.6～12.4 cm である。13～16 は、内面の口縁部及び体部と底部の境目の圏線の間に、花唐草を配す。見込みの文様は退化した飛鳥文と思われ、二重線で囲うもの (13・16) と囲わないもの (15) がある。内外面ともに 1～3 か所のトチン跡が残すものが多いが、16 の底部には輪トチン跡が残る。17～23 は見込みに笹を描いたもので、体部と底部の境目の 2 重又は 1 重線で囲う。

24～43 は織部製品である (図 53)。24～30 は筒向付である。24・25 は青織部で、型作り成型で内面に布目が残る。外面に銅緑釉を施す。25 は外面に鉄絵で縦縞を描き、長石釉、銅緑釉

表5 表採資料組成表

種別	産地	種類	器形	点数	比率			
土師器	京都	土師器	皿	43	18.1%			
			壺	1				
			土師器 計	44				
施釉陶器	美濃	織部	向付・鉢	40	83.5%			
			向付・鉢	2				
		志野	皿	3		65.0%		
			不明	1				
			向付・鉢	8				
		志野	皿	6			16.5%	
			不明	1				
			向付・鉢	1				
		長石釉	皿	52				100.0%
			碗・鉢	1				
		灰釉	皿	7				
		鉄釉	不明	1				
		御深井釉	向付・鉢	2				
	白釉	皿	2					
		向付	5					
	御深井釉	その他・不明	1					
		皿	15					
	唐津・高取	灰釉	碗・鉢	3				
			壺	4				
			水指	1				
不明			1					
向付			1					
絵唐津		皿	1					
施釉陶器 計				158	100.0%			
焼締陶器	備前		擂鉢	1	7.4%			
			壺・甕	3				
			小坏	1				
			鉢	1				
	丹波		擂鉢	6				
			擂鉢	1				
	信楽		水指又は花入	1				
			甕	1				
			鉢	1				
	南蛮		鉢	1				
不明		甕・鉢	2					
焼締陶器 計				18				
磁器	中国	明染付	碗・皿	15	9.5%			
			餅花手	皿		1		
		白磁	合子	1				
		青白磁	不明	1				
	伊万里		碗・皿	5				
磁器 計				23				
合計				243	100.0%			

を施す。26は鳴海織部で、ロクロ成形で高台を削り出す。白色土に鬼板を掛け、長石釉を施す。内面及び外面底部近くまで施釉している。27は織部で、ロクロ成形で高台を削り出す。外面体部に鉄絵で文様を描き、長石釉を施す。28は志野織部で、ロクロ成形後、押圧により変形させている。外面口縁部に列点、体部に紅葉を施す。29は鼠志野で、ロクロ成型後に型打ちで四方を入隅としている。碁笥底である。白土に鬼板を施した後に文様を掻き落とし、長石釉を施す。30は青織部で、ロクロ成形後、押圧により変形させている。31はタタラ型打ち成型の鳴海織部の平向付であるが、胎土は白色土で、一部に鬼板を掛け、鉄絵で格子や梅を描き、長石釉を施す。32は青織部筒向付の体部で、型打ち成形で内面に布目を残す。外面に鉄絵で格子に点を描き、長石釉、銅緑釉を施す。33は織部平向付で、外面底部に紐環足を貼り付ける。内面には鉄絵で吊るし柿、唐草、格子に点

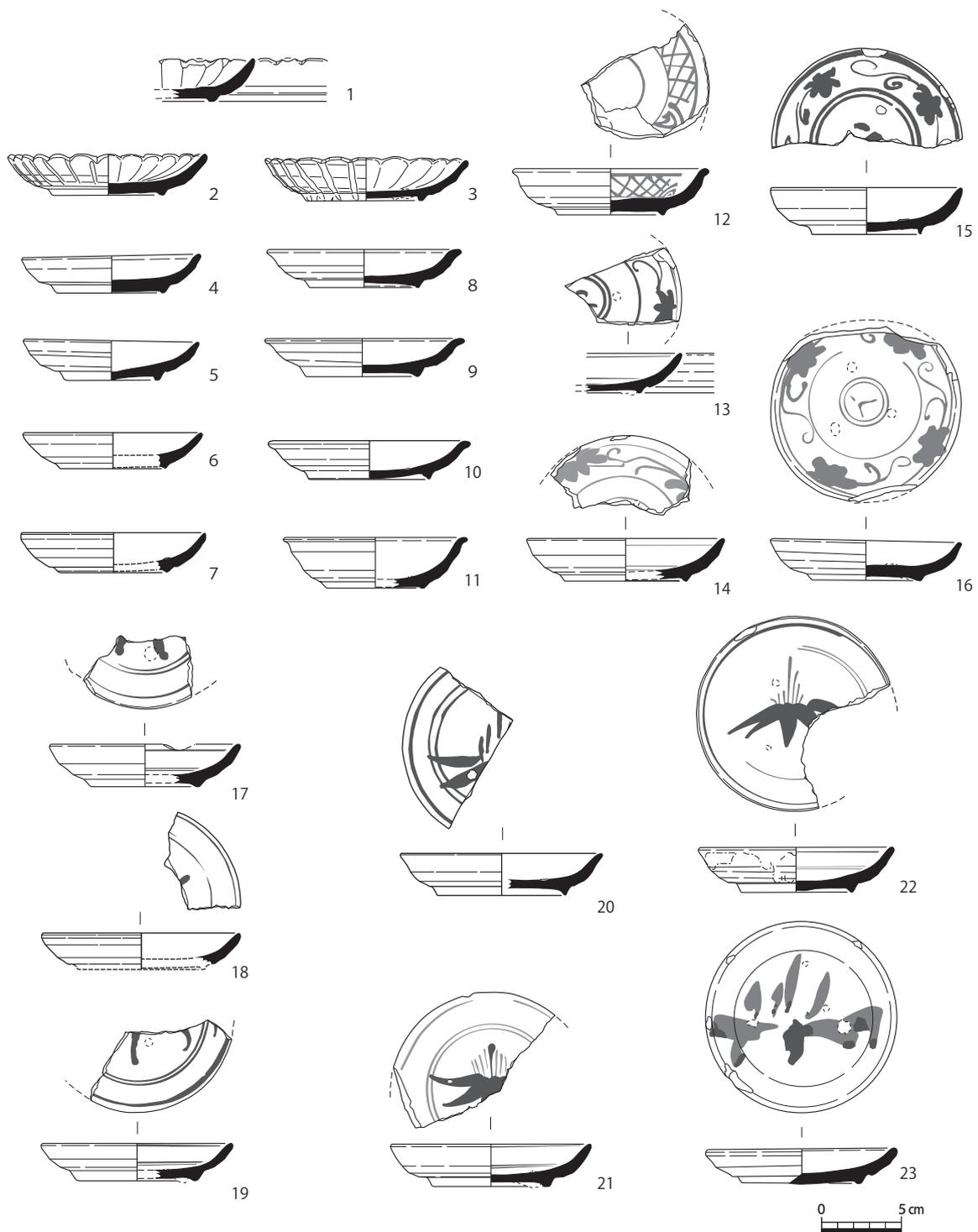


図 52 遺物実測図 1 (1 : 4)

を描き、長石釉を施す。内面にトチン跡が残る。34 はロクロ成形の志野織部鉢の口縁部である。内外面に鉄絵で草花を描き、長石釉を施す。35 は鼠志野鉢又は向付の口縁部である。口縁部は大きく開き、掻き落として草文を描く。内外面ともに白土に鬼板を施した後に長石釉が施されている。36 は織部鉢又は向付の口縁部で、外側に大きく開く。内面には口縁部に鉄絵で縦縞文を描き、長石釉を施す。37 は志野織部鉢の体部から底部で、底部には 3 箇所紐環足が貼り付く。見込みに

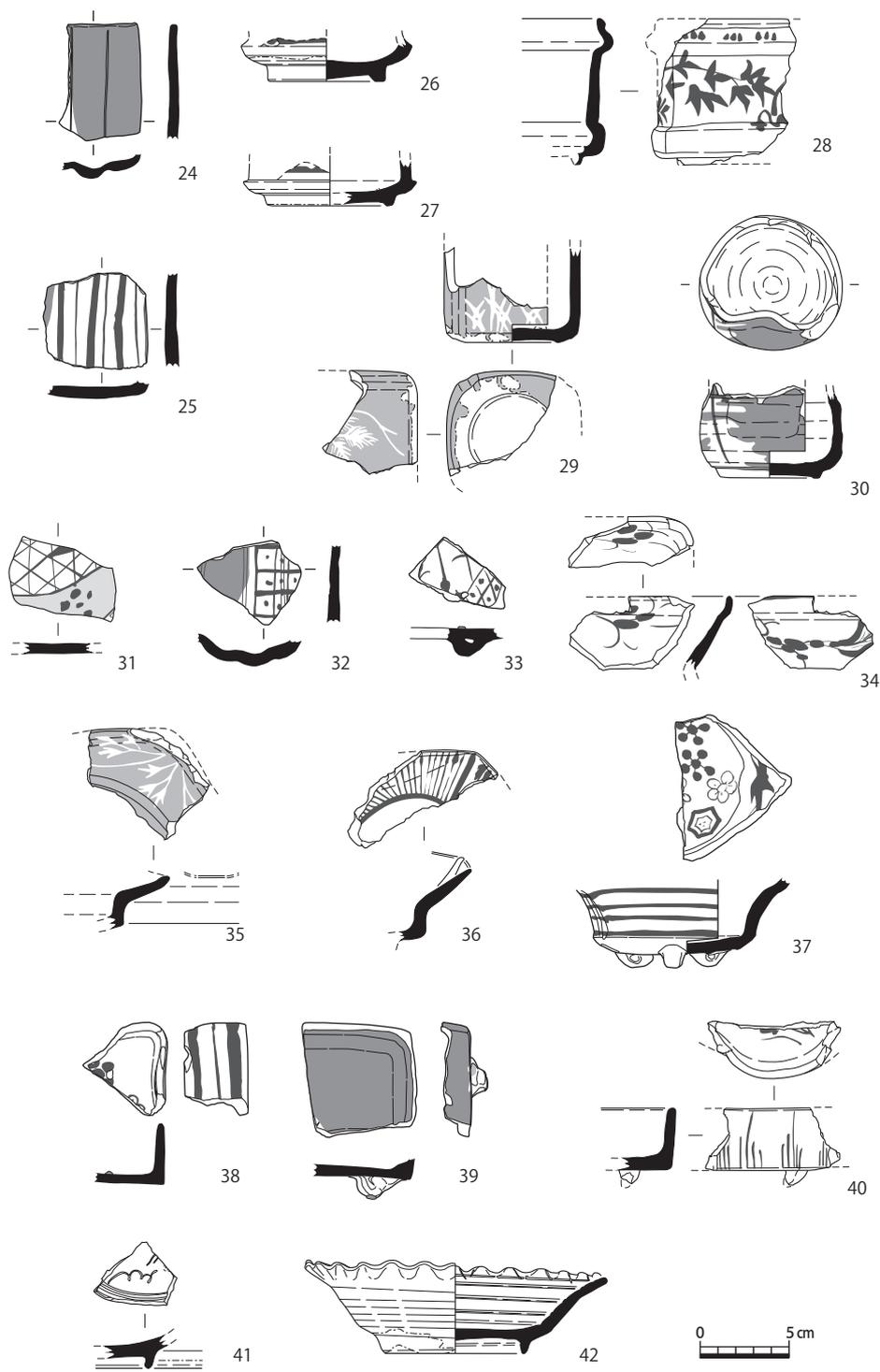


図 53 遺物実測図 2 (1 : 4)

は梅花，亀甲を配し，体部に紅葉，外面体部に横縞を描き，長石釉を施す。38・39はタタラ型打ち成型の織部平向付である。38は内面に梅花，外面に横縞を描き，長石釉を施す。内面にはトチン跡が残る。39は外面底部にはケズリ痕が明瞭に認められる。貼付け紐環足が1か所残り，設置面に銅緑釉が付着する。40は型作りの織部平向付で，見込みと外側面に鉄絵で文様を描き，長石釉を施す。外面底部に一か所の貼付け紐環足が残る。41・42はロクロ成形した総織部である。

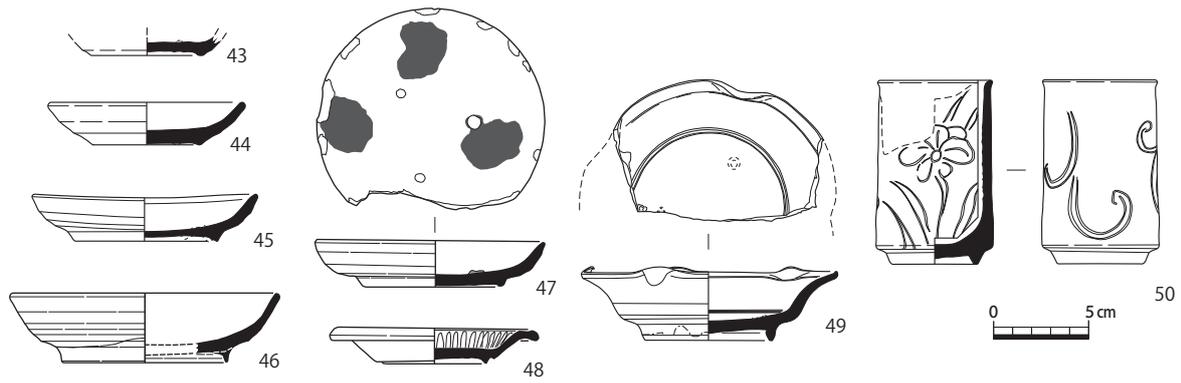


図 54 遺物実測図 3 (1 : 4)

41 は碗で、内面に掻き落としで文様を描き、銅緑釉を施す。42 は内外面ともに全面施釉しており、口縁端部をヘラでヒダをつけ、内面側面に 5 条の沈線を巡らす。

43 ~ 50 は灰釉系の製品である (図 54)。43 は内外面ともに施釉する小皿で、両面に輪トチン跡が残る。44 は全面施釉された丸皿で、高台内に輪トチン跡が残る。45 は丸皿で、内外面に 3 か所のトチン跡がある。46 は胎土が硬質の中皿で、貼付け高台である。47 は内面に緑彩を施し、全面に灰釉を施す丸皿である。内外面にトチン跡が 3 箇所の残る。48 は折縁ソギ皿である。口縁部は外反し、端部はやや肥厚する。内外面に輪トチン跡がある。49・50 は御深井釉である。49 は鉢でロクロ成形後、口縁端部をおさえ、内側に折り曲げている。内面の体部と底部との境目に

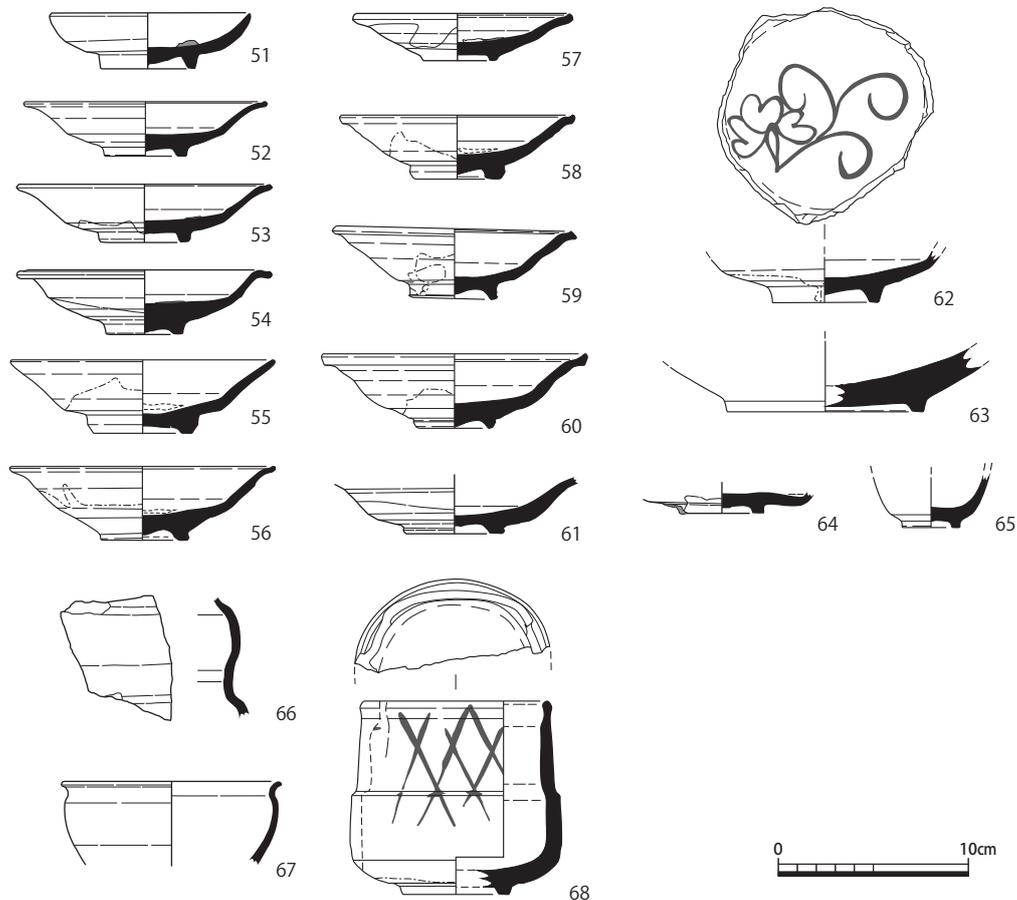


図 55 遺物実測図 4 (1 : 4)

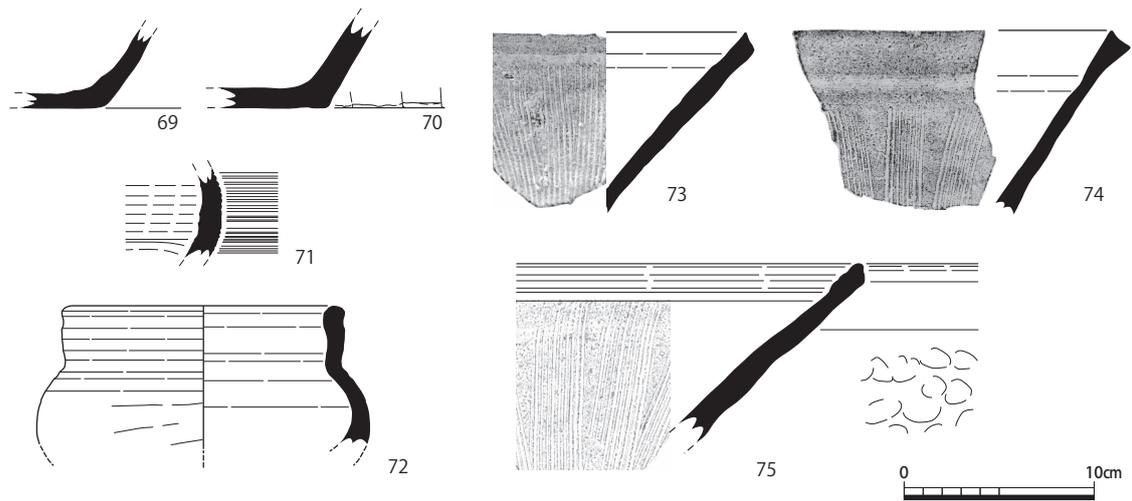


図 56 遺物実測図 5 (1 : 4)

沈線を巡らす。内面にトチン跡が2か所残る。50はロクロ成形の筒向付である。外面に沈線で花文(アヤマカ)及び釣り針状の文様を描き、御深井釉を全面に施す。高台内に輪トチン跡がある。

51～68は唐津産の施釉陶器である(図55)。51～61は灰釉の皿で、同一器種では美濃長石釉丸皿に次いで高い割合を示す。口径12～13cmの口径のものが多く、口縁部が内湾して立ち上

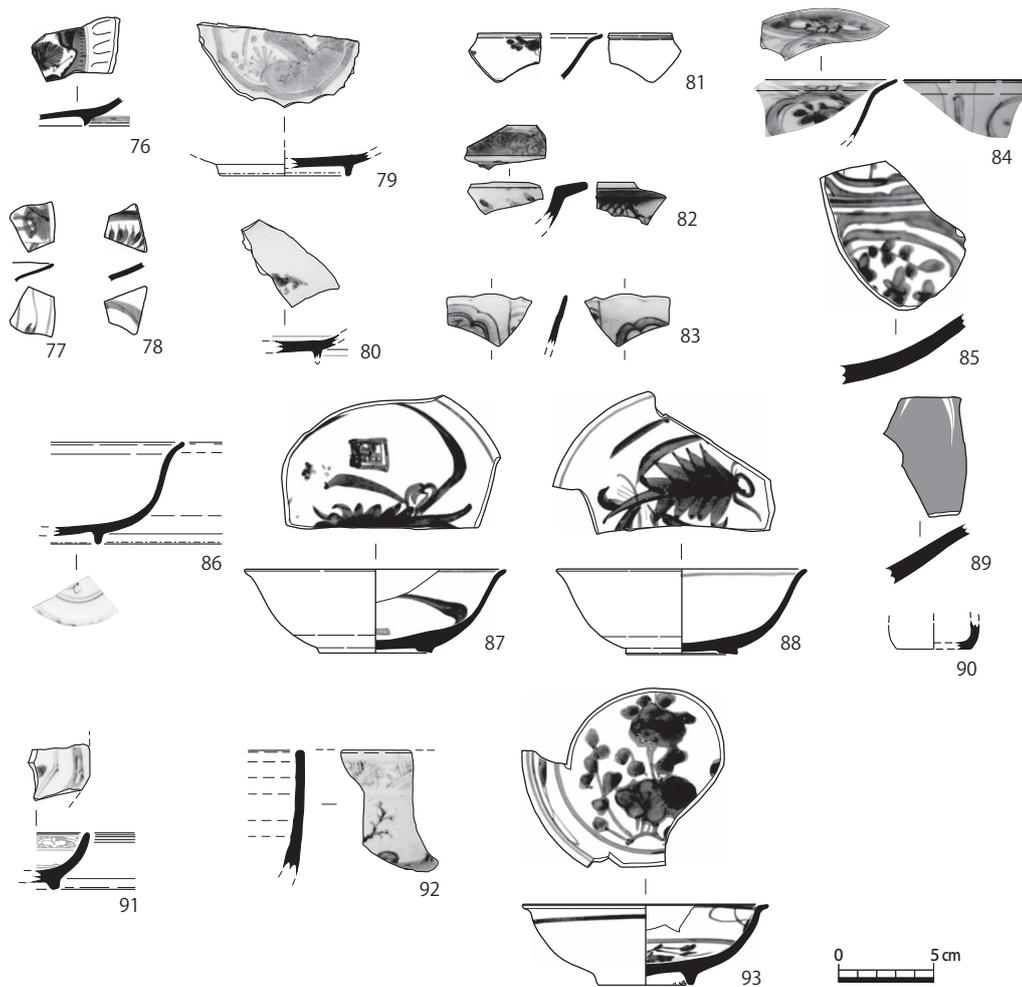


図 57 遺物実測図 6 (1 : 4)

がるもの(51), 体部中ほどで屈曲し, 口縁端部が外反するもの(52~54・56)と直線的なもの(55)や口縁端部が外反し, 上方に摘み上げられたもの(57~60)などがある。いずれも釉薬を内面から外面体部下半まで施し, 内外面に3か所の胎土目又は砂目を残すものが大半である。62は絵唐津の鉢又は向付である。見込みに鉄絵で草文を描き, 灰釉を施す。63は大鉢の底部で, 内面に灰釉を施す。64は灰釉の皿底部か。やや歪んでおり, 体部が下る。65は飴釉が施された水指の破片と思われる。内外面ともに施釉されている。器壁が薄く高取産の可能性がある。66は鉢で口縁は外反する。土灰釉が施されているが, 焼成不良のため, 無釉に見える。67は灰釉の壺底部である。68は絵唐津の筒向付である。ロク口成形後, 押圧により変形させている。外面に鉄絵で草文を描き, 灰釉を施す。

69~75は焼締陶器である(図56)。69・70は備前産で, 69は鉢, 70は甕底部である。71はヴェトナム産と考えられる鉢体部である。外面に横方向に糸目をつける。72は備前産と思われる小型の壺で建水の可能性もある。73~75は丹波産の播鉢で, 73が播目6条, 74が7条, 75が10条である。

76~90は輸入磁器(図57)である。89の藍地餅花手と90の白磁を除き, 全て明~清初の染付である。小型の製品が多く, 小皿や小碗が多い。81・83・84・86~88は碗, 90は合子以外は皿類である。87・88は文様が共通する組物の碗で, 清代初頭まで下る可能性がある。91~93は肥前産の磁器で, 91・93は高台に砂が付着する。91は小型の角皿, 92は半筒碗か。93は染付の碗である。

94~107は土師器皿, 108は土師器小壺, 109は銭貨である(図58)。土師器は破片が多く, 口径が復元できるものは少ないが, 9cm代前半~10cm代のものが多い。口縁端部に端面を持つもの(94~99・107)と器壁がやや肥厚し, 口縁端部がやや丸みを持つもの(100~106)がある。XI期中~新段階に属するもので, 17世紀第二四半期を中心とした年代が与えられる。108は塩壺として用いられたものである。109は「元符通寶」で, 北宋の元符元年(1098)年に鑄造された北宋銭である。

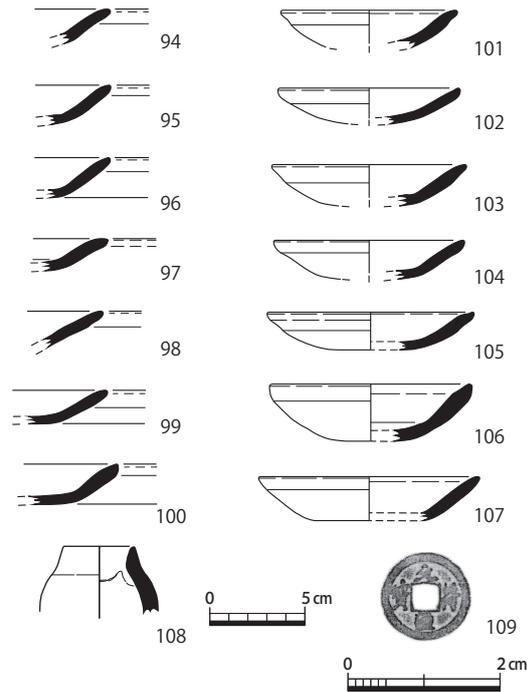


図58 遺物実測図7(1:4)及び拓影(1:2)

表6 遺物観察表(1)

No.	産地	種別	器種	成形	底部	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	備考	採集地点	
1	美濃	長石釉	菊皿	ロクロ	削り出し高台	20			2.7			A	
2		長石釉	菊皿	ロクロ	削り出し高台	95	12.2	6.8	2.6		目跡：内外面3	A	
3		長石釉	菊皿	ロクロ	削り出し高台	70	12.5	7.2	2.8		目跡：内外面3	B	
4		長石釉	丸皿	ロクロ	削り出し高台	100	11.0	6.7	2.4		目跡：内面3	A	
5		長石釉	丸皿	ロクロ	削り出し高台	100	10.8	5.4	2.6		目跡：内外面3	A	
6		長石釉	丸皿	ロクロ	削り出し高台	15	11.2	6.4	2.3			A	
7		長石釉	丸皿	ロクロ	削り出し高台	10	11.6	6.8	2.6			A	
8		長石釉	端反皿	ロクロ	削り出し高台	55	12.0	6.8	2.4		釉が良く溶ける、貫入あり 目跡：内面2、外面3	A	
9		長石釉	端反皿	ロクロ	削り出し高台	100	12.3	6.9	2.4		目跡：内外面3	A	
10		長石釉	端反皿	ロクロ	削り出し高台	25	12.4	7.2	2.5		目跡：内外面1	A	
11		長石釉	端反皿	ロクロ	削り出し高台	45	11.2	6.2	3.2		釉がよく溶ける	A	
12		志野	丸皿	ロクロ	削り出し高台	25	12.0	6.8	3.0	内面側面：袖垣か	目跡：外面1	A	
13		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	15			2.5	内面：見込に飛鳥？ 側面に紅葉唐草	目跡：内外面1	A	
14		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	30	12.2	7.6	2.7	内面：側面に紅葉唐草	目跡：内外面1	A	
15		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	50	12.0	6.8	3.0	内面：見込に飛鳥？ 側面に紅葉唐草	目跡：内外面1	A	
16		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	80	11.7	6.7	2.7	内面：見込に飛鳥？ 側面に紅葉唐草	目跡：内面3， 外面輪トチン	不明	
17		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	20	11.8	6.8	2.7	内面：見込に笹？	目跡：内外面1	A	
18		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	15	12.4		(2.0)	内面：見込に笹？		A	
19		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	30	11.8	7.2	2.4		目跡：内外面1	A	
20		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	35	12.4	8.0	2.7	内面：見込に笹	目跡：内面1，外面2	A	
21		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	40	12.4	7.3	2.7	内面：見込に笹	目跡：内面1，外面2	A	
22		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	75	12.0	6.9	2.9	内面：見込に笹	目跡：内面2，外面3。 釉が厚く、火ぶくれあり	A	
23		長石釉鉄絵	丸皿	ロクロ	削り出し高台	100	11.6	7.4	2.2	内面：見込に笹	目跡：内面4，外面5。 文様が粗雑	B	
24		織部	筒向付	型打ち			5				内面に布目残る。青織部	A	
25		織部	筒向付	型打ち			5				外面：鉄絵で縦縞 内面に布目残る。青織部	A	
26		織部	筒向付	ロクロ	削り出し高台	15		6.4		外面：不明	鳴海織部	A	
27		織部	筒向付	ロクロ	削り出し高台	5		6.4	(2.5)	外面：不明	目跡：内面1	A	
28		織部	筒向付	ロクロ後押圧	削り出し高台	40			8.3	外面：列点，紅葉		A	
29		鼠志野	筒向付	ロクロ後型打ち	削り出し碁笥底	30		5.0	(5.3)		目跡：内面2	A	
30		織部	筒向付	ロクロ後押圧	削り出し高台	40		5.6	(5.3)			A	
31		織部	向付	タタラ型打ち							白色土に鬼板	不明	
32		織部	向付	ロクロ後型打ち？			5					A	
33		織部	向付	タタラ型打ち	貼り付け紐環足							目跡：内面1	A
34		鼠志野	鉢	ロクロ					(4.1)	内外面：草花		不明	
35		織部	鉢	ロクロ			15		(3.0)	内面：草		A	
36		織部	鉢	ロクロ後押圧			15		(4.7)	内面：縦縞	志野織部	A	
37		織部	鉢	ロクロ	貼り付け紐環足	30			(5.2)	内面：梅花，亀甲，紅葉 外面：横縞	目跡：外面1。志野織部	A	
38		織部	向付	タタラ型打ち			5			内面：梅花。外面：横縞	目跡：内面1。内面布目痕	B	
39		織部	向付	タタラ型打ち	貼り付け紐環足	10					底部外面ケズリ。青織部。 内面布目痕	B	
40		織部	向付	タタラ型打ち	貼り付け紐環足	10			(4.3)	内面：不明。外面：縦縞	内面布目痕	A	
41		織部	碗	ロクロ	削り出し高台	5			(1.8)	内面：不明	総織部	A	
42		織部	鉢	ロクロ	削り出し高台	70	16.8	7.6	5.3	内面：5条の圏線	目跡：内外面3。総織部	A	
43		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	40		5.8	(1.0)		目跡：内外面輪トチン	A	
44		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	70	10	5.6	2.3		目跡：外面輪トチン。総釉	B	
45		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	100	11.6	7.5	2.5		目跡：内外面3	A	
46		灰釉	皿	ロクロ	貼り付け輪高台	10	14.4	8.8	3.7		目跡：重ね焼き	A	
47		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	80	12.0	7.2	2.6	内面：3カ所の銅緑彩	目跡：内外面3	A	
48		灰釉	折縁へぎ皿	ロクロ	削り出し高台	60	10.8	5.2	2.0		目跡：内外面輪トチン	A	
49		御深井釉	鉢	ロクロ	削り出し高台	45	11.4	6.6	4.0		目跡：内外面2	A	
50		御深井釉	筒向付	ロクロ	削り出し高台	70	5.8	4.5	9.8	外面：花，釣り針？	目跡：外面輪トチン。総釉	A	

表7 遺物観察表(2)

No	産地	種別	器種	成形	底部	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	備考	採集地点
51		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	40	10.8	4.9	3.0		目跡：内面胎土目	A
52		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	50	12.6	4.2	2.9		目跡：内外面胎土目。総釉	B
53		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	70	13.2	4.6	3.1		目跡：内外面胎土目	B
54		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	80	13.2	4.0	3.5		目跡：内外面胎土目	B
55		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	40	13.8	5.2	3.9		目跡：内外面砂目	B
56		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	70	13.8	4.5	3.9		目跡：内外面胎土目	B
57		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	55	12.2	3.6	2.6		目跡：内外面胎土目	B
58		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	50	12.0	6.5	3.4		目跡：内外面胎土目	B
59		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	70	12.4		3.9		目跡：内外面胎土目	A
60		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	40	13.8		4.0		目跡：内外面胎土目	A
61		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台	70		5.2	(3.0)		目跡：外面胎土目	B
62		絵唐津	鉢	ロクロ	削り出し高台	60		5.6	(2.4)	内面：草花		A
63		灰釉	大皿	ロクロ	削り出し高台	40		10.2	(3.3)			A
64		灰釉	皿	ロクロ	削り出し高台			4.3	(1.2)		目跡：外面胎土目	B
65		鉛釉	水指か	ロクロ							高取産か	B
66		灰釉	鉢	ロクロ		20	11.0		(4.4)		焼成不良	A
67		釉	小壺	ロクロ	削り出し高台	40		3.0	(2.6)			B
68		絵唐津	筒向付	ロクロ後押圧	削り出し高台	40		5.6	10.3	外面：格子		A
69	備前	焼締陶器	鉢	ロクロ					(4.4)			A
70		焼締陶器	甕	ロクロ					(4.8)			A
71	南蛮	焼締陶器	鉢	ロクロ					(4.5)	外面：糸目		A
72	備前	焼締陶器	小壺	ロクロ		20	14.8		(7.2)			B
73		焼締陶器	播鉢	ロクロ		20			(9.6)	播目：6条		A
74	丹波	焼締陶器	播鉢	ロクロ		15			(9.6)	播目：7条		B
75		焼締陶器	播鉢	ロクロ		20			(9.4)	播目：10条		B
76		染付	皿	ロクロ		10				内外面：不明		B
77		染付	皿	ロクロ						内外面：不明		B
78		染付	皿	ロクロ						内外面：不明		A
79		染付	皿	ロクロ		30		6.6	(1.2)	内面：鳥		A
80		染付	皿	ロクロ		10			(1.1)	内面：不明		A
81		染付	碗	ロクロ						不明		B
82		染付	皿	ロクロ					(2.4)	不明		B
83		染付	碗	ロクロ						不明		B
84	輸入	染付	碗	ロクロ	削り出し輪高台	20			3.1	不明		A
85		染付	皿	ロクロ						不明		B
86		染付	碗	ロクロ		15			5.4	外面：高台内不明		A
87		染付	碗	ロクロ	削り出し蛇の目高台	55	13.6	5.6	4.4	内面：草文？	88と組物	B
88		染付	碗	ロクロ	削り出し蛇の目高台	45	13.4	5.6	4.4	内面：草文？	87と組物	B
89		餅花手	皿	ロクロ						藍地餅花手		B
90		白磁	合子	ロクロ				4.0	(1.3)		外面底部，内面施釉なし	B
91		染付	角皿	ロクロ					3.0	不明	高台砂付着	A
92	肥前	染付	筒形碗	ロクロ					(6.5)	不明		A
93		染付	碗	手びねり		60	12.8	4.8	4.2	内面：見込に花	高台砂付着	B
94		土師器	皿	手びねり		15			(1.8)			A
95		土師器	皿	手びねり		15			(2.1)			A
96		土師器	皿	手びねり		15			(2.2)			A
97		土師器	皿	手びねり		15			(1.8)			A
98		土師器	皿	手びねり		15			(1.9)			A
99		土師器	皿	手びねり		15			(1.8)			A
100		土師器	皿	手びねり		15			(2.2)			A
101	京都	土師器	皿	手びねり		25	9.2		(2.0)			A
102		土師器	皿	手びねり		20	9.6		(1.9)			A
103		土師器	皿	手びねり		20	10.1		(2.2)			A
104		土師器	皿	手びねり		20	9.9		(2.1)			A
105		土師器	皿	手びねり		25	10.8		2.0			A
106		土師器	皿	手びねり		25	10.6		3.0			A
107		土師器	皿	手びねり		25	10.6		2.3			A
108		土師器	塩壺	手びねり		30	3.8		(3.0)			A

(数字)は残器高

3 まとめ

今回、愛宕神社境内で採集された遺物群は、17世紀前半に位置付けられるものであり、採集資料ながら、施釉陶器が占める割合が非常に高く、市内の同時代の消費遺跡から出土する遺物群とは大きく異なっている。この比率は、同時代にやきものを扱う商店が集約していた三条通の「せともの屋町」界隈の出土品と同じ傾向を示しており、特異な状況といえる。当時の消費地遺跡では、施釉陶器の割合が低いことから、これらが高級食器であり、日常生活に用いるものではなく、供応用であったことを示している。愛宕山の祭神、愛宕大権現は火伏せの神であるとともに、軍神としても崇められたため、多くの信仰を集め、庶民だけでなく、豪商や大名が数多く参詣している²⁾。参詣の折には、宿坊にて能や酒食の接待、茶会があったことが知られており³⁾、供応用として多くの高級食器を備える必要があったことがわかる。

採集地点については、近世の地誌類に描かれた宿坊群が所在した現在社務所がある平場よりも上部に位置する平場から投棄された状況を示している。愛宕山は正保二年（1645）の全山焼亡したことが知られており、近世に愛宕山の変遷を記した『寺院記』に宿坊群がかつて「鉄鳥居之内、廊下左右二有」とあり、「正保炎上以後今之处移」とあることから⁴⁾、宿坊群が火災後に現在社務所がある平場に移転したことを示しており、採集地点上部の平場には1645年まで宿坊が所在したことがわかる。したがって、今回採集した遺物は1645年を下限とする資料であり、土師器皿の年代観からも祖語はない。

今回の採集品は、これまで廃仏毀釈によって大きく改変され、数少ない記録しか残されていない神仏習合時代の愛宕山の活動を具体的に示すだけでなく、下限年代が明らかな桃山陶器の資料として貴重である。採集品には、御深井釉の製品など、これまで三条せと物や町界隈では出土していない製品も含まれている。採集品の廃棄年代の下限である17世紀第二四半期は、それまで京都で出土する施釉陶器で高い割合を占めていた美濃産の製品が激減し、国産の磁器類が増加する過渡期に位置づけられる重要な年代であることから、今後は比較検討を通して、京都における桃山陶器の流行と流通の変遷を明らかにしていく必要がある。

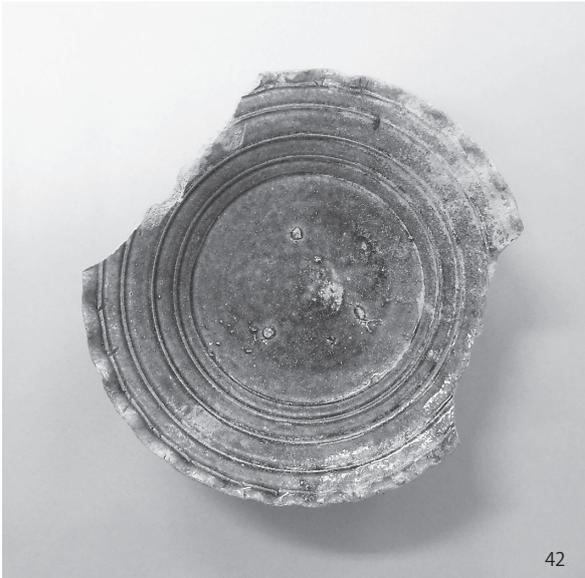
（西森 正晃）

註

- 1) 愛宕神社寄託資料については、「愛宕神社境内採集の「桃山茶陶」について」『京都市文化財保護課研究紀要2』京都市文化市民局文化財保護課、2019年にて紹介している。
- 2) 愛宕大権現は軍神として大名から厚い信仰が寄せられ、明智光秀や毛利輝元、小早川隆景、伊達政宗臣下の片倉小十郎等が参詣している。徳川家康も江戸開府にあたり、愛宕大権現を勧請し、愛宕神社を開いている。
- 3) 『宗湛日記』天正十五年三月二十八日条、『輝元公上洛日記』天正十六年八月九日条
- 4) 『寺院記』（『愛宕山と愛宕詣り』佛教大学アジア宗教文化情報研究所、2004年による）



图 59 遺物写真 1



42



56



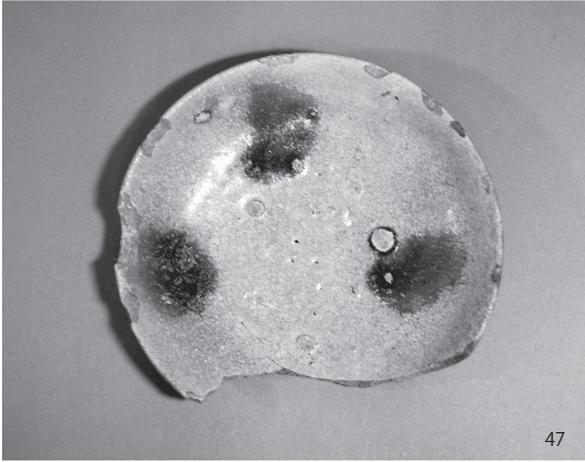
59



42



68



47



72



48



87



50



93

图 60 遗物写真2

IV-2 市指定名勝三千院有清園庭園及び聚碧園庭園， 大原延暦寺別院境内（17A006）

1 調査の経緯（図61～63）

三千院は比叡山延暦寺の寺坊であり、近世には円徳院，円融院，梶井門跡とも号していたが，明治4年（1871）に門跡号が廃され，以後三千院の名が用いられている。本堂は，平安時代末期の阿弥陀三尊像（国宝）を祀る阿弥陀堂（重要文化財）である。

三千院では，平成27年度より阿弥陀堂を含む市指定名勝三千院有清園庭園の修理事業を実施しており，同年度には池東岸及び中島に対して，（公財）京都市埋蔵文化財研究所による考古学的調査を実施，園内の基盤層が山土とほぼ同様の砂質の強い土層であること，護岸の石積工法から作庭時期が江戸時代初期である可能性が指摘されている。



図61 2区調査前風景（南東から）

今回の調査は，整備委員会にて池の西岸が本来阿弥陀堂基壇と接していた可能性が指摘されたため，その事実確認と出土する遺物から作庭時期を探ることを目的として実施したものである。

調査区は委員の指導のもと，池西岸と基壇間の園路上に2箇所設定した（図63）。調査は平成29年2月15・16・18～21日の計6日間実施し，面積は合計2.5㎡である。なお，調査注の掘削及び苔の移植，埋め戻し作業に至るまで，（株）中根庭園



図62 調査位置図（1：5,000）

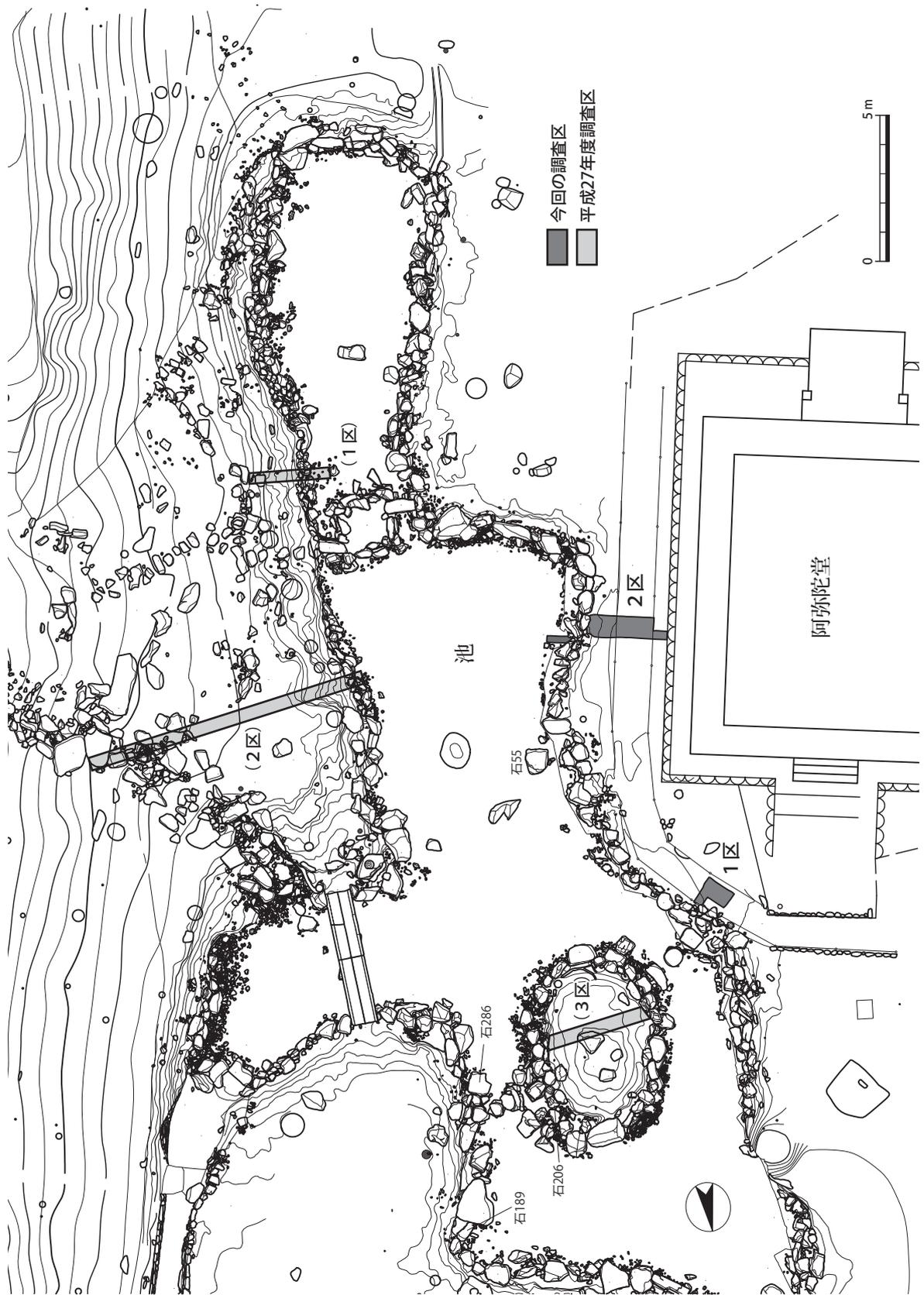
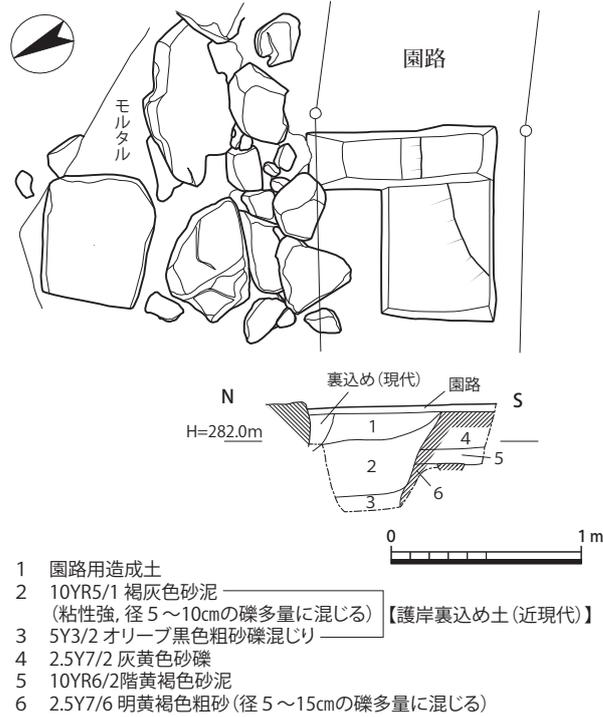


図 63 調査区配置図 (1 : 200)

1区



2区

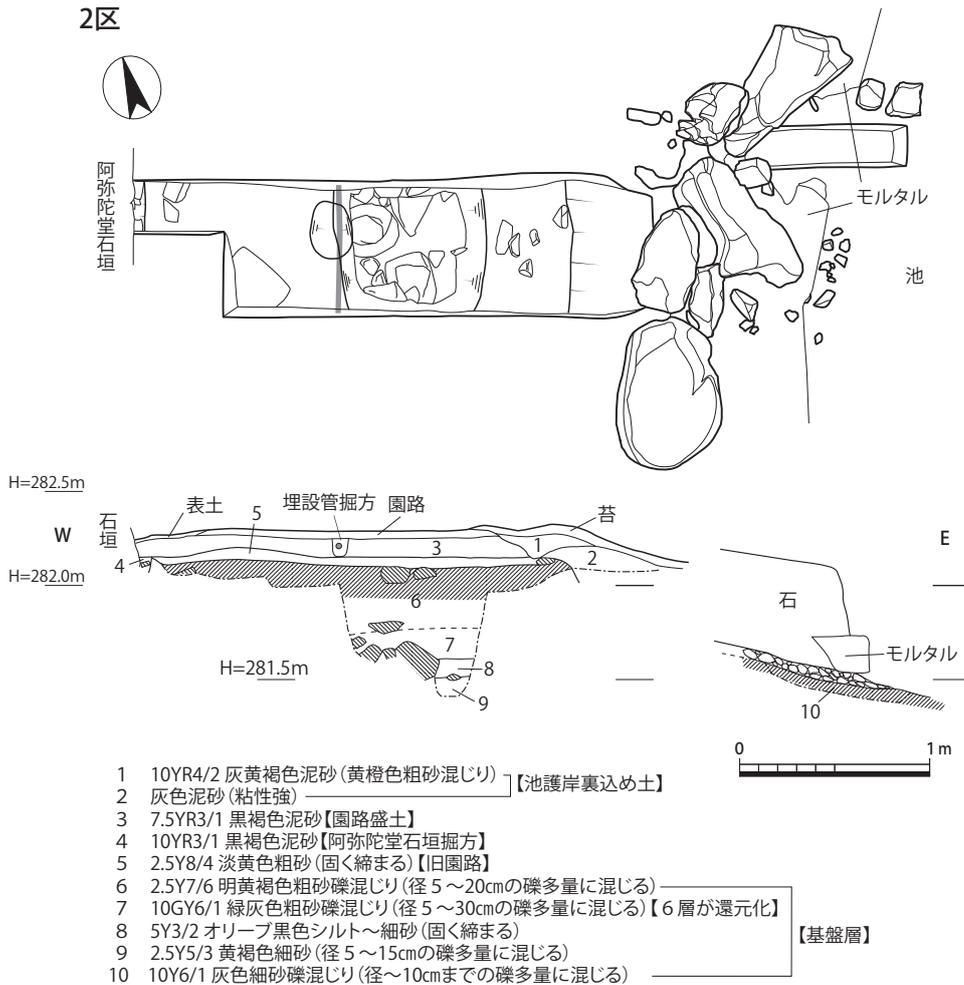


図 64 1・2区平面及び断面図 (1:40)

研究所の協力を得た。

調査の結果、阿弥陀堂基壇と池西岸間には、山土に類似した砂質の強い基盤層が園路盛土直下で確認できることから、池築造当初から阿弥陀堂基壇には接していないことが明らかとなった。また、平安時代から江戸時代までの土師器皿が出土したものの、作庭時期を特定することはできなかった。

2 遺構・遺物 (図63～68)

1区 (図63～65) は阿弥陀堂基壇北東側に設定した。層序は、現園路表土以下、GL-0.03mで灰黄色砂礫、-0.24mにて灰黄色砂泥、-0.32mにて礫 (花崗岩) を多量に含む明黄褐色粗砂と続く。灰黄色砂礫を掘り込んで、現在の護岸石積みの掘方 (裏込め土) となる。裏込め土からはガラス片等が出土している。

2区は基壇東側に設定した (図63・64・66・67)。層序は、現園路表土以下、GL-0.04mで黒褐色泥砂の盛土、-0.14mにて固く締まった淡黄色粗砂の旧園路路面、-0.2mにて径5～20cmの礫 (花崗岩) を多量に含む明黄褐色粗砂の基盤層、-0.68mにて固く締まったオリブ黒色シルト～粗砂、-0.78mにて礫を多量に含む黄褐色細砂となる。作庭時期を探る目的で池の汀を掘り下げた2区東端では、池底が灰色細砂礫混じりで、護岸石は池底に小石を密に詰めて敷いた上に据えられていた。

1・2区の遺物は、園路造成土、護岸裏込めから出土した土師器等が出土したが図化できるものは少ない。ここでは、平成27年度以降の修理事業で出土した遺物も併せて報告する (図68)。出土地点を示す石Noは (株) 中根庭園研究所が護岸石等の石材に付した番号である (図63)。

1～7は全て土師器皿である。1の口縁部は内外面ともにナデを施す。端部はやや上方に突起す



図65 1区東壁 (南西から)



図66 2区全景 (南東から)



図67 2区下層堆積状況 (南東から)

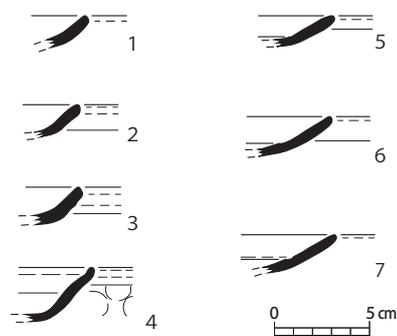


図68 出土遺物実測図 (1:4)

る。2の口縁部はナデによる凹みが生じ、僅かに外反する。端部は三角形状を呈す。3の口縁部は、ナデによる2段の凹みが生じ、端部は上方に突起している。1～3は平安時代後期～鎌倉時代に属するものである。4はやや深手の皿で、外面体部下半は指オサエによってやや外反する。口縁端部はやや内側に屈曲し、上方に突起する。鎌倉時代か。5～7は底部内面に明瞭な凹線状の圈線が認められる。いずれも器高は低く、18世紀代に属するものであろう。

1は石286, 2は石189, 3は石208, 4・7は石286, 5は2区護岸裏込め(2層), 6は石55付近から出土した。

3 まとめ(図65・66)

1区の灰黄色砂礫, 2区の礫を多量に含む明黄褐色粗砂以下の土層は, 造成土の可能性もあるが, 遺物を全く含んでおらず, 花崗岩が風化した土層と考えられる(図67)。調査地は扇状地上に位置しており, 上流には花崗岩帯が広がることを鑑みると, 地山由来の基盤層と判断できる。両区とも, 園路舗装土直下が基盤層であることから, 池の西岸は当初より阿弥陀堂には達しておらず, 西岸の大きな造り替えはなかったと捉えられよう。ただし, 1区では護岸石裏込め土からガラス片が出土したことから, 堂北東附近の護岸は, 近現代に積直しを含めた造り替えがあったことがわかる。

作庭時期については, 古くは平安時代に遡る土師器皿が出土しているが, 阿弥陀堂が平安時代から当地に所在するため, 同時期の遺物の出土が池の作庭時期を示しているとは判断できないため, 特定できなかった。今後の調査に期待したい。

(西森 正晃)

IV-3 得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡（18R225）

1 はじめに（図69）

今回の調査では、計画建物範囲のうち調査地は、東山通と二条通の交差点より北西に位置する（図69）。京都外国語大学岡崎キャンパスの西側にあり、推定される得長寿院の西限付近に相当する。今回、この区画に簡易宿舍の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

得長寿院は、鳥羽上皇の御願により長承元年（1132）に落慶法要が営まれた寺院である。「千鉢観音堂」の別称をもつ御堂は平忠盛の造営によるもので、堂内には丈六聖観音像とその左右に聖観音像を各五百体並べたとされている。その内容から、忠盛の子清盛が造営した三十三間堂に匹敵する建物規模を誇るものとみられるが、元暦2年（1185）の地震により倒壊したと記される（中山忠親『山塊記』）。

周辺ではこれまでに試掘調査や発掘調査が実施されているが、この建物の発見には至っていない。昭和52年度に、京都外国語大学敷地内で実施された発掘調査（図69-①）では、GL-0.8mの深度において平安時代から鎌倉時代の遺構面が確認され、得長寿院の南限（二条大路末の北限）を示すと推定される東西溝や川原石を敷きつめた配石遺構が検出された。

また、平成元年および平成13年度に、遺跡範囲の東限付近で2度にわたって試掘調査が行われた区画（図69-⑤）では、平安時代後期の柱穴が複数検出されたため、計画建物の設計変更を指導している。

その後、遺跡内では複数回にわたる試掘調査（図69-②～④）が実施され、GL-0.7～0.8mの深度において平安時代末～鎌倉時代の包含層がいずれも確認されている。ただし顕著な遺構が検出されていないことから、本調査には至っていない。このため今回の調査では、遺構検出の有無に焦点が絞られた。



図69 調査位置図（1：5,000）



図70 遺構位置図（1：500）

2 調査成果（図70～73）

今回の調査では、計画建物範囲のうち、得長寿院の西限に相当する西半部において断面観察を実施した。その結果、平安時代末～鎌倉時代初頭のピット及び土坑を計6基検出した。

基本層序は、GL-0.3mまで盛土、-0.4mまで包含層であり、この直下においてオリーブ褐色細砂混じりシルトを主体とする地山に達する。地山上面は2地点と3地点の間が最も高く、東西へ向かって徐々に下がる。この地山上面を成立面とするピットを北壁で4基、土坑を西壁で2基検出した。いずれも断面形状は深い椀形もしくは逆台形で、明確な掘り方をもつ。埋土は、鈍い黄褐色～灰黄褐色礫混じりシルトを主体とする。包含層からは、土師器皿（13世紀?）の細片が少量出土した。

以上のとおり、今回の調査では得長寿院の西限付近において複数の遺構を検出した。限られた範囲内に一定数の遺構が存在することは、この地点に何らかの建物が存在したことを予測させる。得長寿院の構造はいまだ不明な点が多いものの、今後の調査成果の積み重ねにより、解明されることを期待したい。

（黒須 亜希子）

註・参考文献

調査①：財団法人京都市埋蔵文化財研究所『昭和52年度京都市埋蔵文化財調査概要』，2011年，pp72-73。

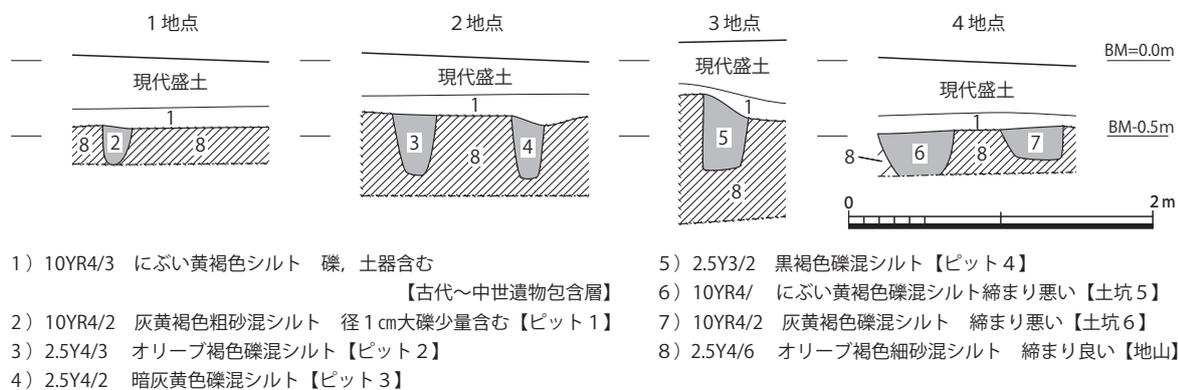


図71 調査地点断面図（1：50）



図72 ピット1検出状況（南から）

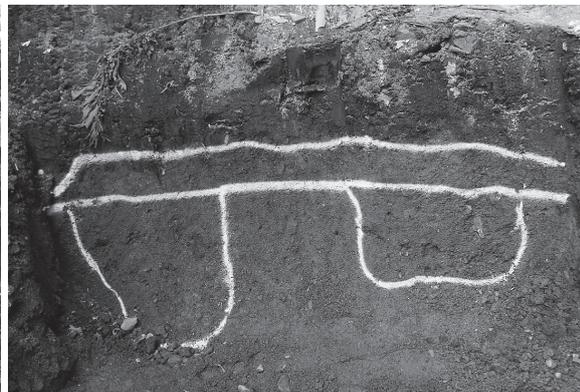


図73 土坑5・6検出状況（東から）

IV-4 円勝寺跡，岡崎遺跡（13R450）

1 調査の経緯(図74)

本件は京都市美術館改修工事に伴う詳細分布調査である。対象地は京都市美術館内の北広場部分にあたり，周知の埋蔵文化財包蔵地の円勝寺跡，岡崎遺跡に該当する。

京都市美術館は，再整備のため平成26年度から平成29年度にかけて，複数回に分けて発掘調査が行われている。特に調査地西側の平成26年度調査¹⁾では，弥生時代後期から古墳時代初頭の環濠や円勝寺と成勝寺の境と考えられる南北溝などが確認されたほか，江戸時代末期の

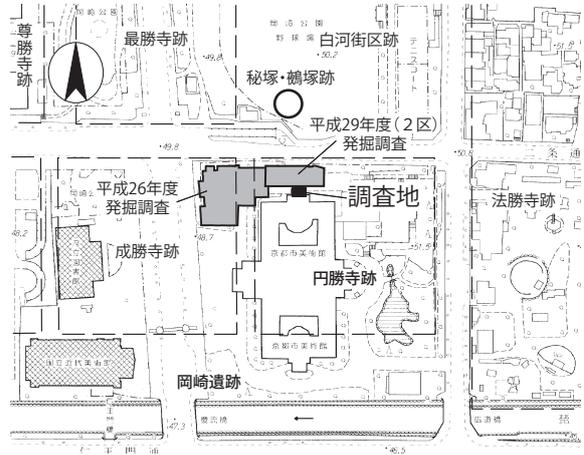


図74 調査位置図（1：5,000）

加賀藩邸に関連すると考えられる近世の東西堀やそれに伴う柵列や橋の基礎などが確認されている¹⁾。また調査地北側に隣接する平成29年度調査²⁾では，平安時代中期の整地と考えられる土坑状の遺構や平安時代末期から鎌倉時代の二条大路末の南側溝，建物，柵，井戸，室町時代から江戸時代の耕作痕跡のほか，平成26年度調査で確認されていた近世の東西堀（堀27）に伴う柵列の延長が確認されている²⁾。

2 調査成果（図75・76）

今回の調査ではNo.1地点（A-A'）とNo.2地点（B-C-D）の断面観察を行った結果，東西方向の溝を確認した。各地点での所見を述べる。

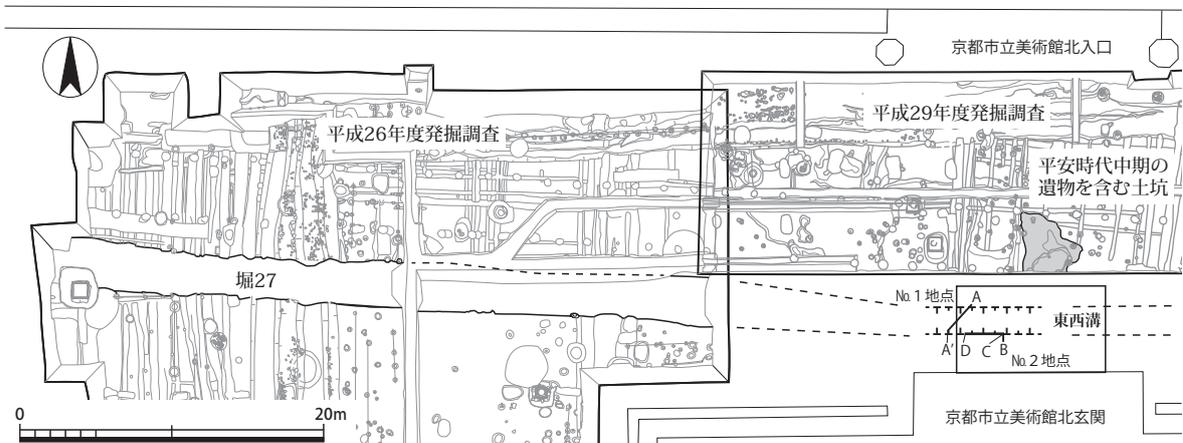


図75 遺構位置及び発掘調査検出遺構関連図（1：1,000）

No.1地点 (A-A')

基本層序は、現代盛土以下、GL-0.55m で細砂混じりのオリーブ黒色粘質土、-0.86m で黒褐色粘質土、-0.98m で地山である礫混じりにぶい黄橙色粗砂、以下、-1.24m で灰白色粗砂、-1.7 m で浅黄色粗砂、-2.18m で明黄褐色微砂が上層に含む黒褐色粘土に至る。確認した溝は、黒褐色粘質土(図3-6層)上面で成立していた。検出規模は幅 1.16m, 深さは 0.34 ~ 0.58m である。南側には直径 0.1 m の木杭を確認した。杭の先端は溝埋土を突き抜け、地山に達する。護岸に伴うものと考えられる。溝の埋土は、細砂を含む灰色シルトやオリーブ黒色粘土、黒褐色シルト~細砂である。溝埋土からわずかに平安時代中~後期の土師器や瓦片が出土している。

No.2地点 (B-C-D)

基本層序 (B-C) は現代盛土及び固く締まるオリーブ褐色泥砂以下、GL-0.6 m で溝埋土である暗オリーブ褐色泥砂や黒褐色泥土、-1.05m で地山である微砂混じり黒褐色泥砂、-1.2m で礫混じりにぶい黄褐色粗砂、-1.3 m でにぶい黄橙色砂~粗砂、-1.65m で灰黄色砂、-2.38m で灰色砂に至る。溝の南側にあたる部分は (C-D), 横板と木杭で護岸が施されている。板材は約 0.3 m, 長さ 1.1 m 以上, 厚さは約 0.05m で、二段分確認できた。板材に伴う木杭はいずれも直径 0.1m で、杭の間隔は 0.3 ~ 0.4m である。東端で確認した杭は残存長が 1.16m ある。溝埋土からは小片であるが平安時代中~後期の土師器や瓦片が出土している。

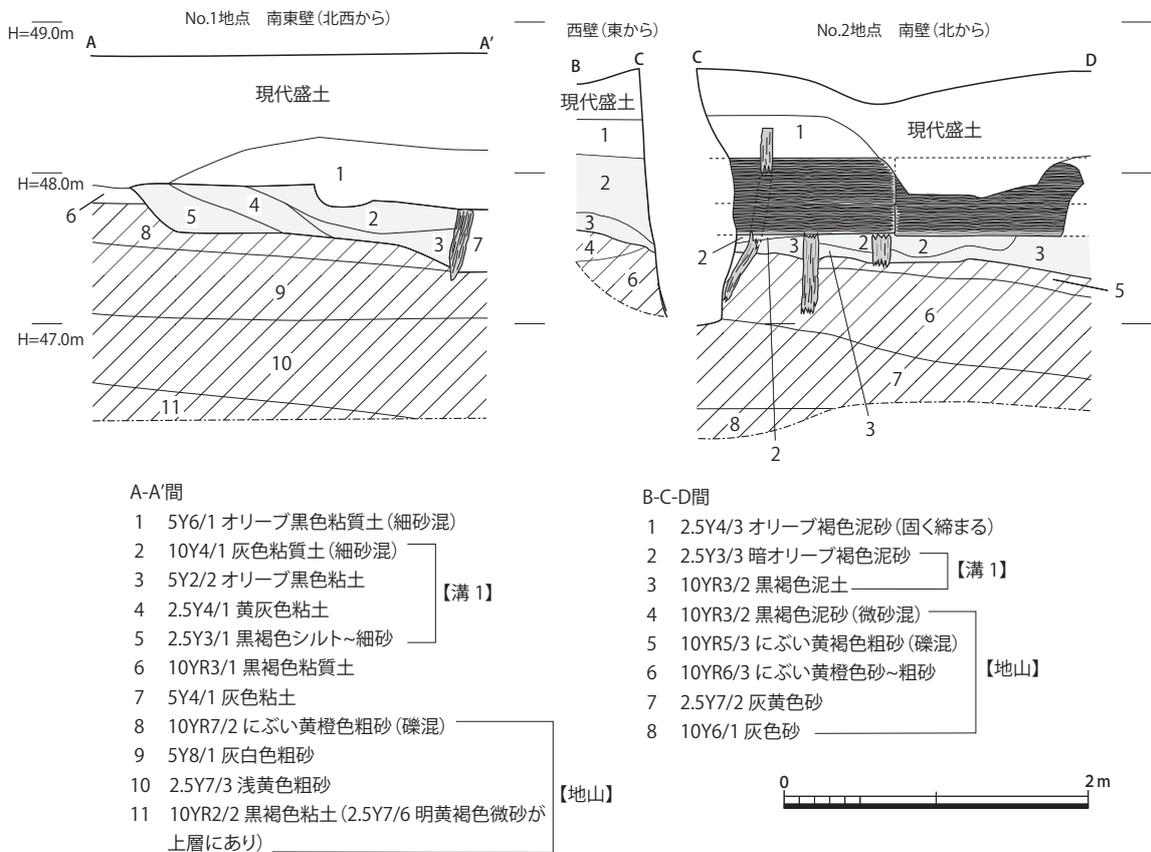


図 76 遺構断面図 (1:50)

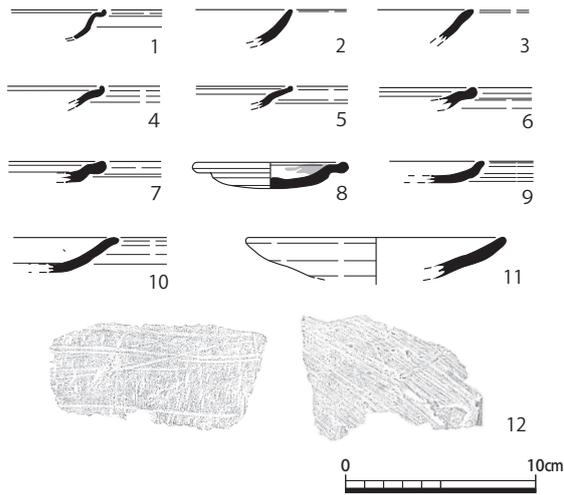


図 77 溝 1 出土遺物実測図 (1 : 4)

3 遺物

今回の調査では溝埋土と考えられる土層から小片ながら遺物が出土している。1～3はNo.1地点2層，4～12はNo.2地点2層から出土している。1～12は土師器皿である。1・4～8は口縁部が「て」の字状に成形され，9の口縁部には二段ナデを施す。12は丸瓦片である。内面に布目痕跡が確認できる。これら遺物の年代は京都Ⅲ～Ⅳ期，平安時代中～後期と考えられる。

4 まとめ

今回の調査では南側が護岸されている東西方向の溝を確認した。この溝は図 75 で示したように平成 26 年度調査で確認されている近世の堀 27 の延長上にあたる。また堀 27 の南壁には板材や割竹，丸杭を用いた護岸がほどこされており，今回確認した溝と同じ様相を示すことから，同一遺構と考えられ，加州屋敷（加賀藩前田屋敷）に伴う溝が対象地にまで及んでいることを確認した。しかし今回の溝埋土からは近世と判断できる遺物は確認できず，平安時代中期～後期の土師器皿片や瓦片などが出土している。対象地北側の平成 29 年度調査では図 75 に示したように溝に近接する場所で平安時代中期の土坑状の遺構が確認され，またその上面には平安時代後期の整地土が確認されているとのこと³⁾から，混入したものと推測できる。混入品ではあるが，対象地内での平安時代の状況を表す一資料と考えられる。

(清水 早織・奥井 智子)

註

- 1) 「円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』2014-13，公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所，2015年。
- 2) 「円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所，現在報告書作成中。近日刊行予定。図 1 には 2 区のみを掲載。
- 3) 平成 29 年度調査については，公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所柏田有香氏より調査成果などのご教示を得た。

IV-5 革嶋館跡 (18S132)

1 調査経過 (図78)

調査地は阪急電鉄京都線桂駅の南西に立地する。中世土豪である革嶋氏の居館跡である革嶋館跡の西半部に位置し、かつてその中心と目されていた三宮神社の西側に近接する。今回、この区画に共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

革嶋館は、平安時代末期に近衛家の荘園であった革嶋荘の経営に関わる政所屋敷が中世には館となり、後に堀と土塁で防御する平城へ発展したものと考えられている。城主は清和源氏佐竹氏の系譜を引く革嶋氏で、平安時代末期に近衛基通領の革嶋南荘に来住し、以後、荘園の下司職を務めた氏族である。室町時代には幕府御家人となったが、本能寺の変で明智光秀に属したため、所領を失ったとされる。しかしその後、江戸時代には再び革嶋地域の地主となった。

江戸時代以後の革嶋館の様相は、『革嶋家文書』(京都府総合資料館所蔵)に詳しく、土塁と堀で囲まれた館の状況が絵図に描かれている。近年では、発掘調査により、その具体的な様相が明らかとなりつつある。

平成20年度に遺跡範囲の南東部で行われた発掘調査(図78-①)では、室町時代～江戸時代の屈曲する堀が検出され、館の南東隅部分であると推定された。続く平成21年度の発掘調査(図78-②)では、東西にのびる堀が北へ曲がる様子が確認されたことにより、館の南西隅であることが明らかとなった。この堀の形状は『革嶋家文書』絵図とほぼ合致することから、当該時期の館がこの地点に存在したことが確実視される。

一方、平成29年度に今回の調査地より北側で行われた試掘調査(図78-③)では、南半部に設定した調査区より鎌倉時代の瓦器を含む土坑が1基検出された。続く今回の調査では、同時期のピット群及び土坑を検出した。これにより、周辺において中世初頭期に遡る遺構が集中することが明らかとなった。

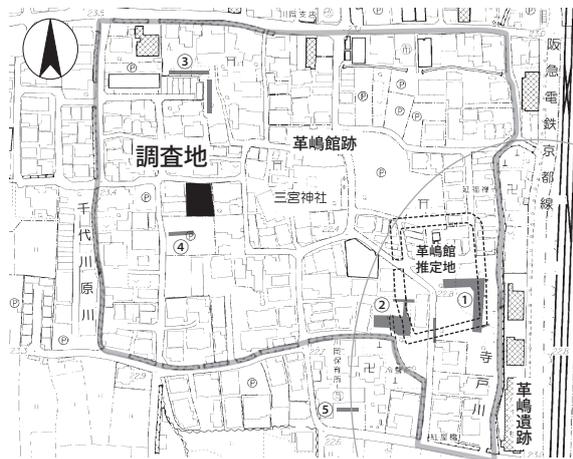


図78 調査位置図 (1:5,000)



図79 遺構位置図 (1:500)

2 調査成果 (79～82)

今回の調査では、計画建物範囲のうち、地山を大きく掘り込む北東部及び北西部において断面観察を行った。その結果、北東部（1地点）では、GL-0.15mまで盛土、-0.4mまで鈍い黄褐色礫混じりシルト（炭化物含む、中世包含層）、があり、この下面において鈍い黄褐色砂礫を主体とする地山を確認した。地山上面では、径30～40cmを測るピットを3基検出した。このうち、最大深度20cmを測るピット2からは、瓦器椀（13世紀）と土師器皿の破片が出土した。

北西部（2区）ではGL-0.35mまで盛土、-0.5mまで1地点と同質の中世包含層があり、以下、掘削底である-0.75mまで鈍い黄褐色砂礫（地山）を確認した。地山上面では、ピット3基、土坑1基を検出した。このほか、中世包含層からは、東播系須恵器鉢、瓦器椀の破片（ともに13世紀）が出土した。

以上のとおり、今回の調査では限られた範囲内に一定数の遺構が存在することが明らかとなった。これにより室町時代以前の段階で、周辺に人々の集住があった可能性が高まったと言える。革嶋館の前身となる革嶋荘政所屋敷である可能性も含めて、今後の調査情報を待ちたい。

（黒須 亜希子）

註・参考文献

調査①：財団法人京都市埋蔵文化財研究所、『革嶋館跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2009-6、2009年。

調査②：京都市文化市民局、『京都市内遺跡発掘調査報告』平成21年度、2010年、pp.93-107。

京都府教育委員会『京都府中世城館跡調査報告書 第3冊 一山城編一』、2014年、pp.185-187。

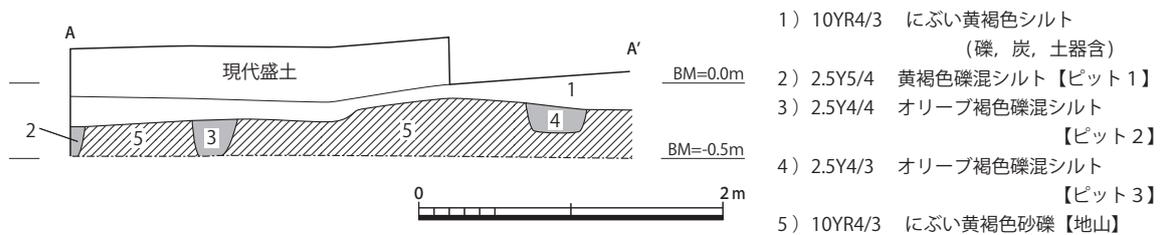


図80 遺構断面図 (1:50)



図81 ピット4・5検出状況(北西から)



図82 ピット7検出状況(南から)

IV-6 山田桜谷古墳群（18A006）

1 調査の経過

山田桜谷古墳群は西京区山田桜谷町および下山田下園尾町に所在する。同古墳群は西山連峰から東に伸びる尾根上に立地し、2基の前方後円墳から構成される（図83）。

古墳群の所在する桂川右岸域一帯は、「乙訓地域」と総称される。この地域では、これまでに388基の古墳が確認され、大正時代から調査が進んだことで、首長墓の変遷モデルが提示され¹⁾、古墳時代の政治・社会を考える上で欠かせない地域のひとつと言える。平成28年度には首長墓系譜に連なる11基の古墳が「乙訓古墳群」として国史跡に指定され、平成30年度には8基の古墳が追加指定された。山田桜谷古墳群も、広義の乙訓古墳群に含まれ、将来にわたる保存・活用が求められる。しかし、近年多発する豪雨や台風災害などによる墳丘への影響は看過できない状況である。そのため、遺跡の現状を正確に把握することを目的に、地形測量を実施することとなった。

測量は地域全体の中での古墳群の位置付けを明らかにするために、西京区松尾から山田、御陵を含む一帯で実施した（図84）。また、その範囲の大部分を山林が占めていることから、樹木の間でも地盤面できる航空レーザー測量を選択した。測量はアジア航測株式会社に委託し、実機ヘリによる計測をおこなった。計測日は平成30年4月21日、飛行高度500m、飛行速度20m/秒、測量範囲は3.22km²

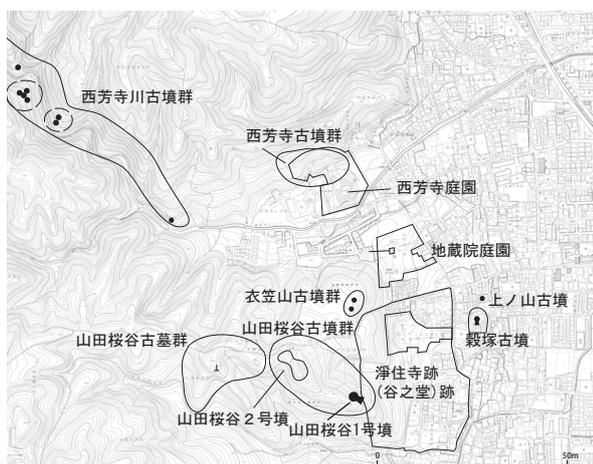


図83 調査位置図（1：25,000）

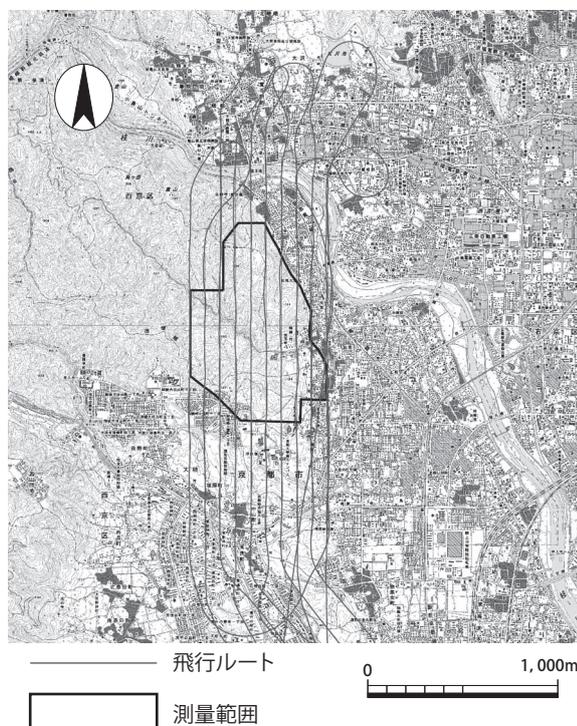


図84 計測飛行ルートと測量範囲（1：40,000）

とし、計測密度を10点/m²以上、計測コースは10コースとした。測量後、10月29日および12月27日に、2度の現地踏査をおこない、測量成果と現状の照合に努めた。

2 山田桜谷古墳群の概要

山田桜谷古墳群は昭和61年に(財)京都市埋蔵文化財研究所職員が付近を踏査中に発見した²⁾。丘陵の稜線上に2基の古墳が存在し、丘陵東側の標高107m付近に所在する前方後円墳を1号墳、その北西、標高123m付近に位置するものを2号墳としている。2号墳の墳丘周辺は後世の改変が大きく、正確な墳形の把握はできなかったが、両地点で埴輪を採集・報告している。採集埴輪から、1号墳は5世紀後葉、2号墳は5世紀中葉と想定された。

その後、平成元年に京都大学考古学研究会が墳丘の測量調査を実施し、1号墳が墳長48m、2号墳が直径40m以上の墳丘を有することが判明した³⁾。2号墳の墳形はなおも確定できなかったが、報告段階では前方後円墳であろうと推定している。

同古墳群の発見以前には、山田地区周辺の首長墓として巡礼塚古墳や穀塚古墳などが知られていたが、丘陵上に立地するものは知られていなかった。また、時期的にも5世紀中葉は空白期間となっていたため、首長墓系譜の空白を埋める重要な古墳群である。

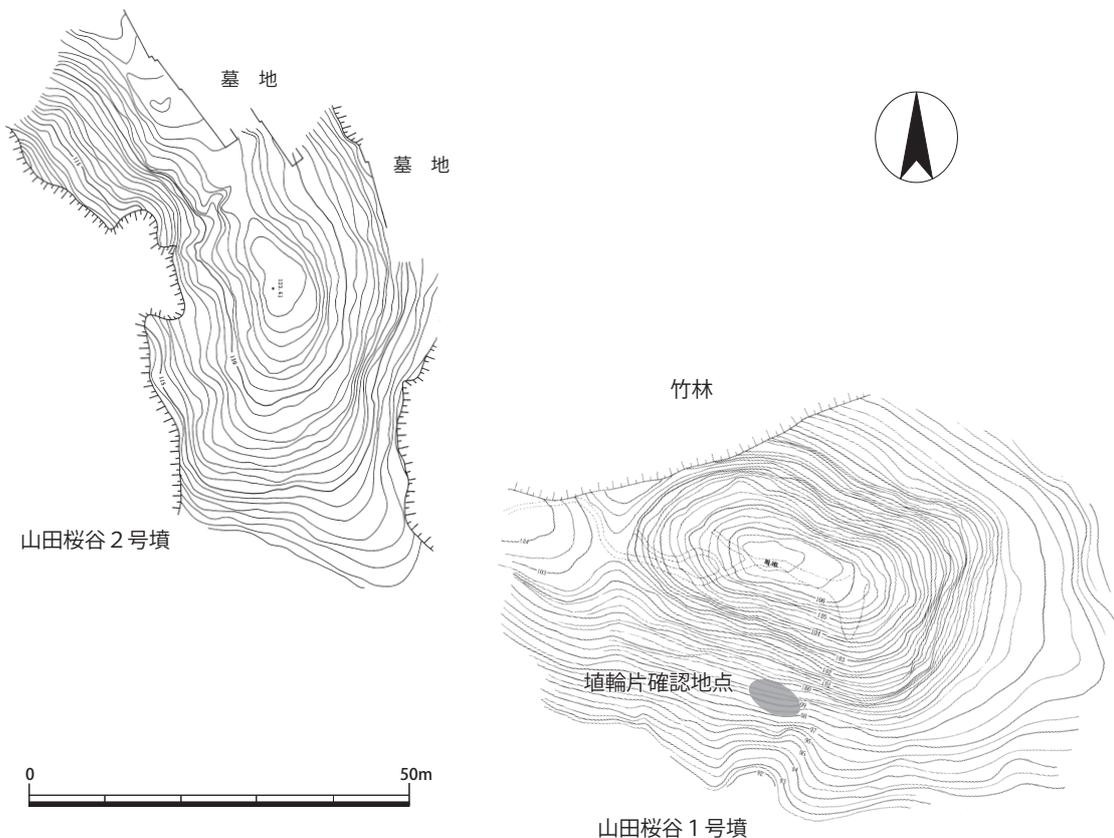


図85 既往の測量図(1:1,000)

※方位には補正を加えている。

なお、京都大学考古学研究会作成の測量図と、今回作成した測量図を照合すると、方位のズレが見て取れた。そのため、踏査時に方位磁針によって京都大学考古学研究会作成図の方位を補正し、両測量図を重ね合わせて、前者に補正を加えた（図 85）。あくまでも応急的な処置であるため、今後より正確な図面を作成する必要がある。

3 調査成果

測量調査後に現地踏査を実施し、測量図と現況の照合をおこなった。両調査から得られた所見を報告する。赤色立体地図上では、1号墳の所在地点（図 86- 調査地 1）、2号墳の所在地点（同調査地 2）に加え、2号墳の北西約 270 m 地点の尾根上に平坦地および隆起地形を確認した（同調査地 3）。両古墳とこの平坦地の 3 地点を重点的に踏査した。

調査地 1（山田桜谷 1号墳） これまでの所見では、1号墳は墳長 48 m の前方後円墳とされている。今回の測量図上でも、くびれ部を視認することができ、前方後円墳であることが追認できた。

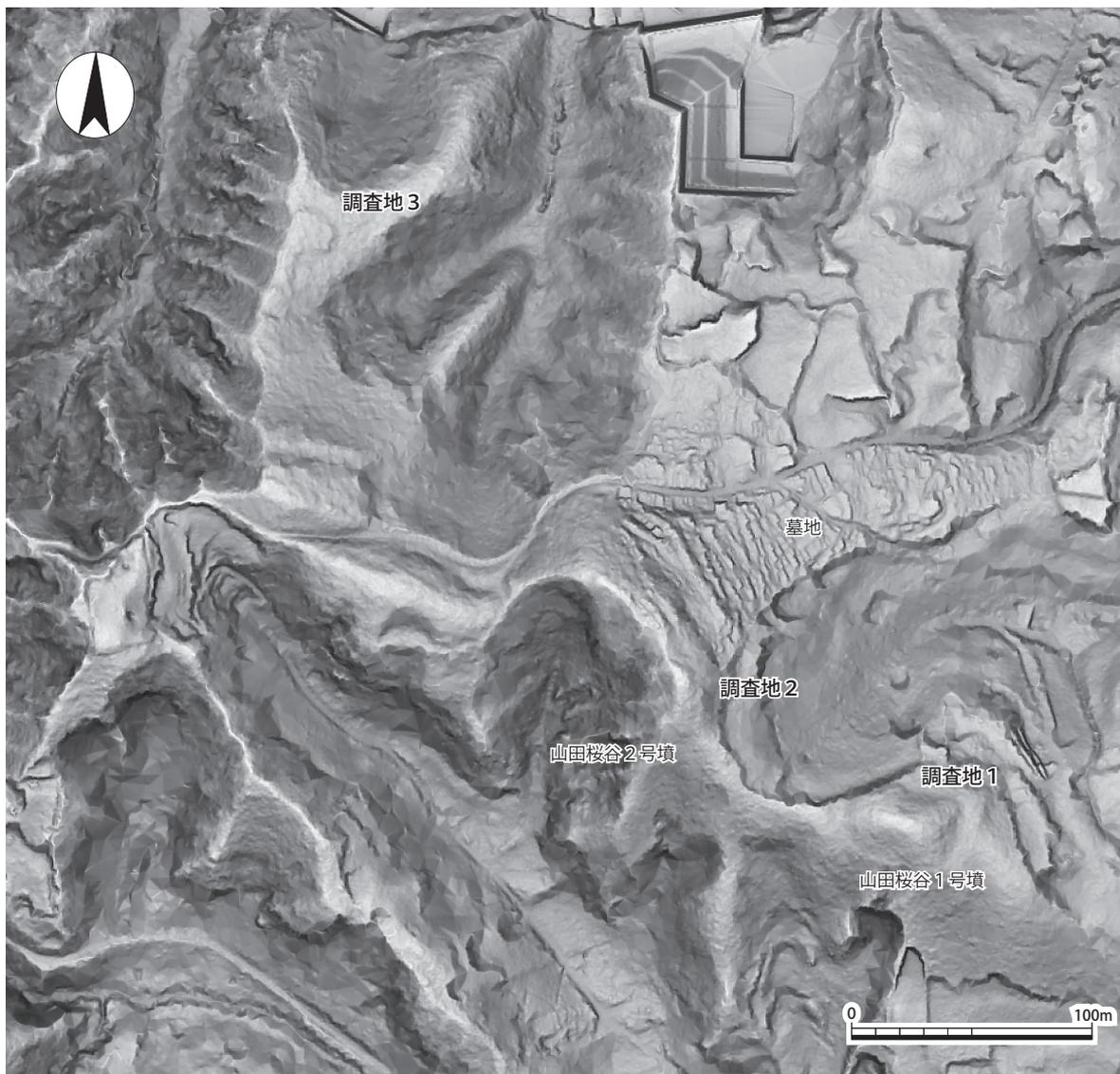


図 86 調査地点位置図（1：3,000）

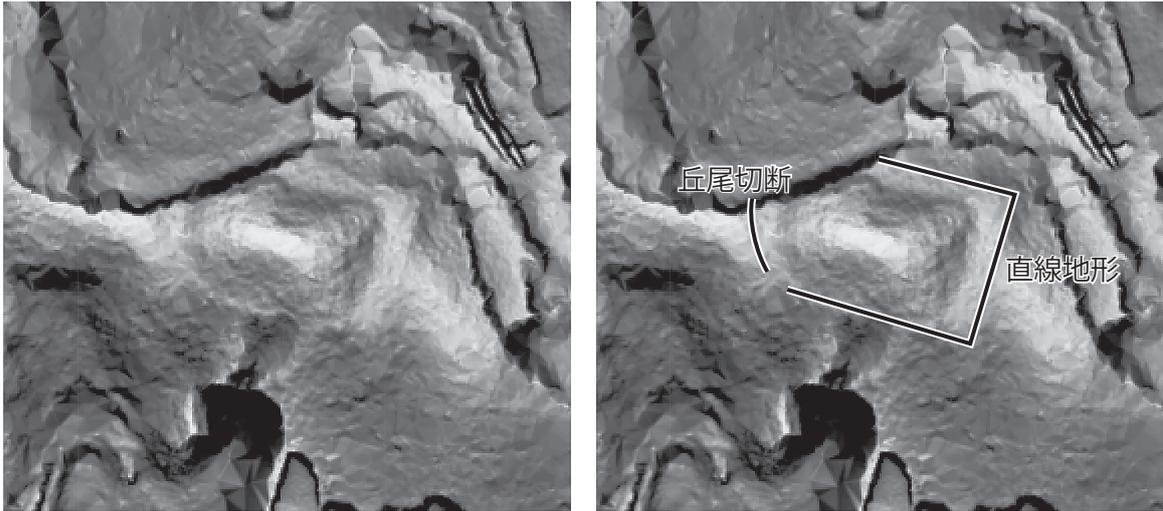


図 87 1号墳墳丘周囲の造成痕跡（スケールアウト）

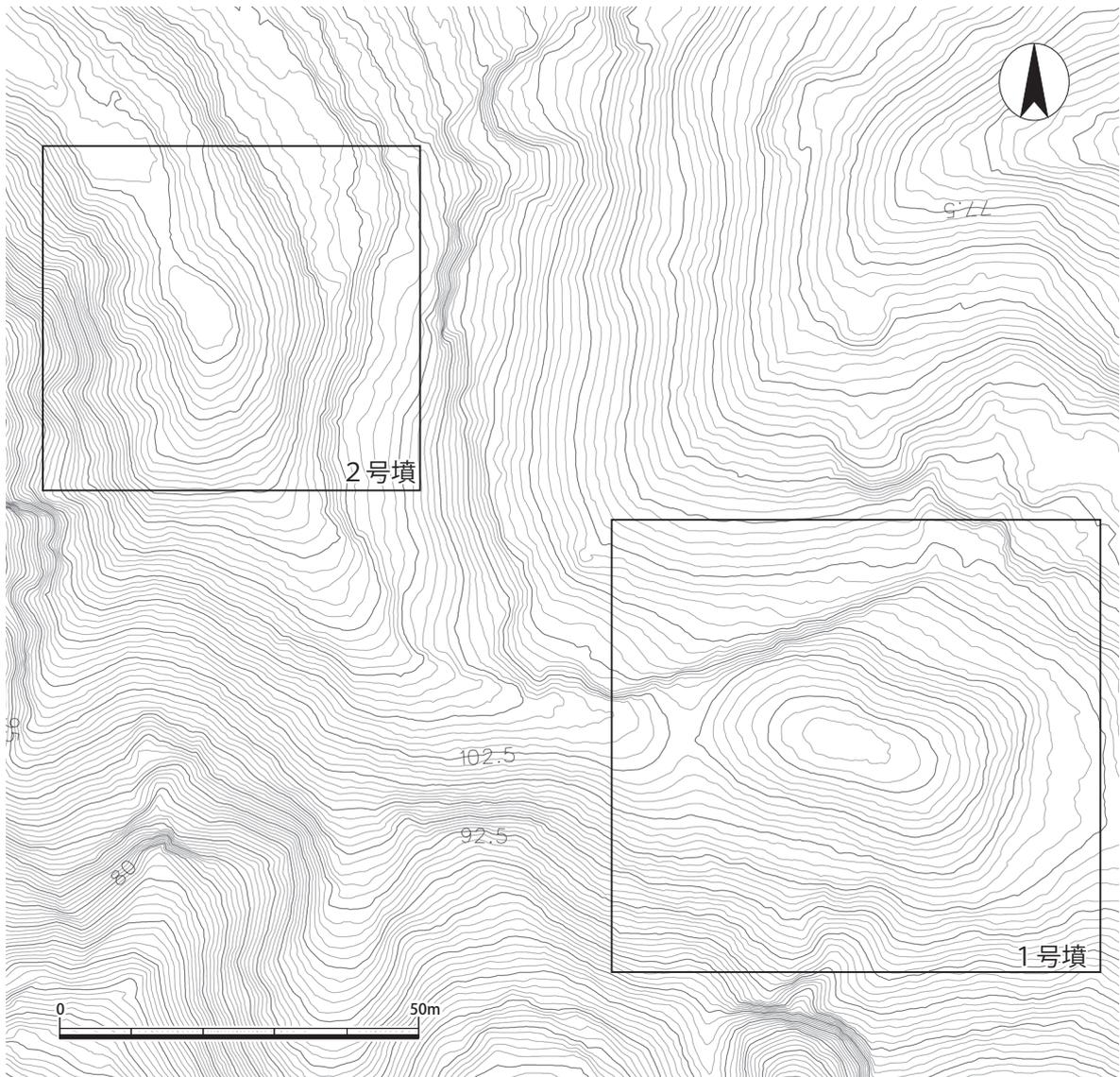


図 88 山田桜谷古墳群等高線図（1：1,000）

また、赤色立体地図からは墳丘北辺および東辺の、これまで想定されていた墳丘の範囲外に、墳形に沿って直線的な段状地形が存在することが見て取れる（図 87）。また南辺でも、やや墳丘との間が狭いものの、並行する直線地形が存在する。これらは、従来の測量図からは確認できておらず、今回の測量図によって初めて確認できた。現地踏査時には樹木の繁茂により、この直線地形は視認できておらず、その実態に言及することができない。古墳造営に伴う造成の痕跡であると考えられるが、今後その性格を追求したい。さらに後円部西側尾根には丘尾切断の痕跡が見て取れ、墳丘外の造成がはっきりと確認できた。北西部は大規模な崩落によって墳丘の一部が失われているが、この崩落による崖面は北側の墓地部分にまで及んでいる。古墳造営以後のある段階で、大規模な土砂崩れが起きたと推定でき、防災的な観点からも注視すべき地形と言えよう。

なお、墳丘上では台風等の影響による倒木があり、根から起きている樹木も複数存在した。それによる墳丘への影響も懸念される。また、墳丘南側のくびれ部付近では埴輪片を採集している。図化に足る大きさの破片ではないが、5世紀後葉という従来の年代観と矛盾するものではない。

調査地 2（山田桜谷 2号墳） 従来、前方後円墳の可能性を指摘されてきたが、後世の地形改変が大きく、墳形の確定ができていない。今回の赤色立体地図でも尾根上の高まりは確認できるものの、墳形の捕捉はできなかった（図 89）。墳丘と想定されている範囲の北東側は墓地化し、尾根の東西両側が崩落している状況であり、現況からの墳形把握は困難である。今後、地中の状況を確認することで墳形・墳丘規模の復元を進めたい。

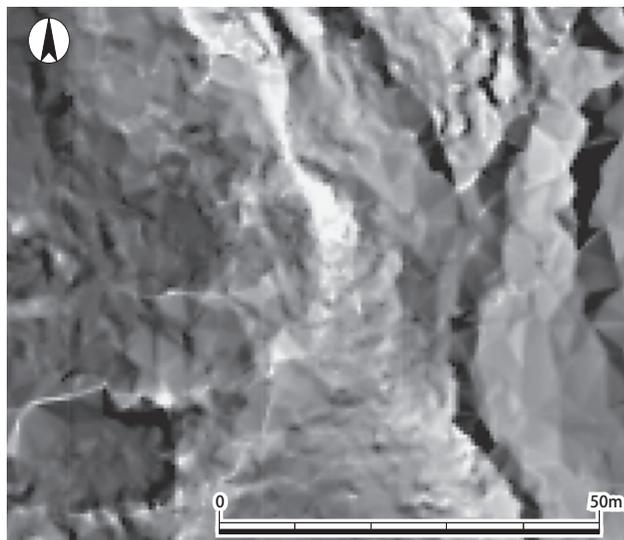


図 89 2号墳付近（1：1,000）

調査地 3 2号墳北西約 270 mの地点である。平坦地上の隆起地形が未発見古墳である可能性があったため、現地を踏査した。現地で確認した結果、古墳の存在を示す痕跡は確認できず、赤色立体地図上の隆起地形は約 0.5 mの高まりであることが判明した。遺物などの散布もないことから、古墳に関連するものではないと判断した。

4 まとめ

山田桜谷古墳の状況を中心に報告したが、今回の測量によって周辺の遺跡との位置関係も明確にすることができた（巻頭図版 2）。山田桜谷古墳の北側、北西側には衣笠山古墳群、西芳寺古墳群、西芳寺川古墳群が所在する。これらのうち、後二者は西芳寺川を隔て、山田桜谷古墳群と対峙するような位置関係にあることが、よりはっきりと視認できた。古墳時代後期の群集墳であるこれらの古墳群と首長墓である山田桜谷古墳群を同じ俎上で議論できないことは言うまでもないが、この地域

における古墳の選地を考えるための好材料となろう。

赤色立体地図の特性を活かした成果として、1号墳の北辺、東辺に見える直線地形、丘尾切断地形の確認があげられよう。これまでの測量図では確認できておらず、現地踏査でもはっきりと視認できない程度の段差が地図上に明確に現れている。赤色立体地図が古墳の形態を明らかにするために有効な手段であることが、改めて認識できたと言えよう。

今回の調査によって、山田桜谷古墳群についての基礎資料を得ることができた。今後、発掘調査を含めた詳細な調査を実施し、同古墳群についての未だ不明確な要素を解明するとともに、今回の測量で新たに判明した要素の追求を進めることで、山田地区、ひいては乙訓地域の歴史の中に、山田桜谷古墳群を位置付けていきたい。

(清水 早織・新田 和央)

註

- 1) 都出比呂志「古墳時代首長系譜の継続と断絶」『待兼山論叢』史学編22, 1988年など。
- 2) 丸川義広・上村和直「山田桜谷古墳群」『昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所, 1988年。
- 3) 標智仁ほか「山田桜谷1号墳測量調査報告」『第41とれんち』京都大学考古学研究会, 1989年。
石川政澄ほか「山田桜谷地域調査報告」『第42とれんち』京都大学考古学研究会, 1990年。

V 調査一覧

I 2018年 1～3月期(平成29年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡	上・中立売通六軒町東入三軒町地先	2/1, 14, 3/5～23, 4/5～19, 5/2	GL-0.47mで黒褐色シルト, -0.53mで黒褐色礫混シルト, -0.66～-0.8mでにぶい黄褐色砂質シルトの地山。	17K673	HQ555	1
大蔵省跡	上・六軒町通仁和寺街道上る四番町～六軒町通今出川下る三軒町地先	2/15・20, 3/1	GL-0.3～-0.85mで明褐色礫混シルトの地山。	17K580	HQ583	1
大蔵省跡	上・仁和寺街道七本松東入上る一番町地先	2/20～4/5	GL-0.15mで黒褐色泥砂, -0.3～-0.8mで明黄褐色シルトの地山。	17K733	HQ591	1
図書寮跡	上・下ノ森通下長者町下る東入鳳瑞町地先	17/12/12～ 18/2/14	GL-0.3mで黒褐色泥砂, -0.6～-0.9mでにぶい黄褐色砂礫の地山を切って黒色泥砂(にぶい黄褐色砂礫ブロック含)の落込。	17K593	HQ479	1
図書寮跡	上・三助町, 鳳瑞町地先(京都市道)	3/28	GL-0.98～-2.8mで浅黄色砂礫の地山。	17K562	HQ656	1
宴松原跡	上・下ノ森通下長者町下る東入鳳瑞町～七本松通下長者町下る西入三番町地先	17/12/5～ 18/2/14	GL-1.0mまで盛土。	17K581	HQ466	1
宴松原跡, 鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町地先	1/17, 18 26・30, 2/14, 3/1	GL-0.45mで黒褐色シルト, -0.58mで黒褐色粘質シルトの近世包含層, -0.77mで黒褐色粘質シルト, -0.85mで黄褐色シルトの地山。	17K648	HQ531	1
宴松原跡	上・下ノ森通下長者町下る東入鳳瑞町地先	3/12・20	GL-0.43～-0.55mで黒褐色泥砂。	17K764	HQ629	1
掃部寮・内蔵寮跡	上・上長者町通千本西入五番町地先	2/21, 3/1	GL-0.5mまで盛土。	17K732	HQ594	1
内蔵寮跡	上・仁和寺街道下る千本通西入六番町地先	3/19・20, 4/3・5・19	GL-0.7mまで盛土。	17K792	HQ636	1
真言院跡	上・下立売通七本松東入下る長門町～聚楽廻西町地先	3/1～23, 4/5	No.1; GL-0.55～-0.8mで明黄褐色粘質土。 No.5; GL-0.15～-0.7mで黒褐色泥砂。	17K647	HQ611	1
中和院跡, 聚楽遺跡	上・下立売通千本西入稲葉町466-3	3/12	GL-0.17mで黒褐色粗砂混粘土質シルトの近世包含層, -0.33mで黒褐色礫混じり粘土質シルト。	17K706	HQ627	1
南所跡, 聚楽第跡	上・日暮通下立売上る西入分銅町569-3	3/12・13	GL-0.3mまで盛土。	17K749	HQ628	1
内匠寮跡, 鳳瑞遺跡	中・西ノ京左馬寮町地先	17/12/19～ 18/1/17	GL-0.78～-0.8mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	17K612	HQ494	1
豊楽院跡, 聚楽遺跡	中・聚楽廻中町41-4	1/25	GL-0.17mで暗褐色礫混粘土質シルト, -0.43～-0.51mで暗褐色粘土質シルト(締め悪い)。	17K632	HQ545	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町～聚楽廻中町地先	3/1・15	GL-1.05～-1.4mで明黄褐色粘質土の地山。	17K728	HQ608	1
朝堂院跡, 聚楽遺跡	上・千本通下立売下る小山町908-30	1/25・26・ 29	GL-0.22～-0.46mで暗褐色シルト。	17K551	HQ544	1
宮内省・太政官跡, 聚楽遺跡	上・美福通丸太町下る主税町地先	3/23・26	GL-0.5mで黒褐色泥砂(炭化物含)の時期不明包含層, -0.7～-0.8mで黄褐色泥砂。	17K820	HQ650	1
民部省跡	上・竹屋町通千本東入主税町911(市立二条中学校内)	3/23	GL-1.25mまで盛土。	17K750	HQ638	1
廩院跡	上・竹屋町通美福東入主税町地先	2/5・8	GL-0.68mまで盛土。	17K087	HQ559	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺三坊七町跡, 公家町遺跡, 内膳町遺跡	上・京都御苑3	17/7/7～ 18/11/29	GL-0.37mでにぶい黄褐色粘質土, -0.61mでにぶい黄褐色粘質土を切って黒褐色粘質土の土坑, -0.71mでにぶい褐色粘質土を切って土坑, -0.9～-0.95mでにぶい黄褐色粘質土(上面に硬化面)。	16H474	HL187	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条三坊十五・十六町跡, 新在家の構え跡	上・京都御苑13の一部	17/12/28~18/10/11	近世の築地基礎石列を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。	17H537	HL 506	3
一条四坊九町跡	上・京都御苑438	1/29	GL-0.7mまで盛土。	16H154	HL 549	3
一条四坊九町跡	上・京都御苑2の一部	3/12・13	GL-0.75mまで盛土。	17H774	HL 631	3
二条二坊十六町跡, 高陽院跡, 二条城北遺跡	上・小川通丸太町上る上鍛冶町331-1	2/13・14・19・21	GL-0.73mでにぶい黄褐色礫混粘土質シルトの近代包含層, -0.95mで黄褐色砂礫の近世洪水層, -1.12mで褐色粘土質シルト, -1.32~-1.56mで暗褐色礫混粘土質シルトの時期不明包含層。	17H651	HL 576	2
二条三坊十町跡, 烏丸丸太町遺跡	中・室町通丸太町下る道場町11-1	17/12/25~18/3/30	GL-2.27mで暗褐色粘質土(焼土含), -2.5~-3.5mで黄褐色砂礫の地山。	17H331	HL 502	3
三条一坊二町跡	中・西ノ京職司町36, 80-1	3/2・6	GL-1.2~-1.8mで明黄褐色砂礫の地山。	17H568	HL 612	2
三条一坊七町跡	中・西ノ京職司町63-2	1/5・9	GL-0.7mでにぶい黄褐色砂質シルトの旧表土, -0.78~-1.29mで黄褐色細砂と明黄褐色微砂互層の河川堆積。	17H549	HL 508	2
三条一坊十四町跡	中・神泉苑御池下る神泉苑町17-1他7筆	2/16	GL-0.61mで明赤褐色泥砂の焼土, -0.71mで灰褐色泥砂, -0.88mでの暗灰黄色砂泥(粘質)を切って暗灰黄色泥砂の土坑, -1.07mで暗灰黄色砂礫。	17H719	HL 584	2
三条二坊九町跡, 堀川御池遺跡	中・二条堀川東入矢幡町301, 油小路通二条下る二条油小路町284, 堀川通二条下る土橋町1	17/7/19, 12/22, 18/4/23	GL-0.7mで褐色泥砂(炭含), -0.91mで黄褐色泥砂の近世包含層。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	17H119	HL 215	2
三条二坊九町跡, 堀川御池遺跡	中・堀川通二条下る土橋町14-1	1/31	GL-0.93mで赤褐色砂礫の近世以降包含層, -1.32mでオリーブ褐色礫混シルトの時期不明包含層(土師器), -1.54mで灰黄褐色砂礫の地山。	17H393	HL 554	2
三条二坊十六町跡, 妙顕寺城跡	中・西洞院通二条下る二条西洞院町643, 643-2, 小川通二条下る古城町359-3	1/11・17・18	GL-1.7mまで盛土。	16H307	HL 520	2
三条三坊十五町跡	中・車屋町通押小路下る塗師屋町339, 341	3/1	GL-0.98mで灰黄褐色粘質土の江戸中期包含層, -1.24mでにぶい黄褐色粘質土, -1.53mで明黄褐色粘質土, -1.72mで黄褐色粘質土, -1.94mでにぶい黄色粘質土の中世後期包含層, -2.04mで明黄褐色砂質シルト, -2.14mで暗灰黄色粘質シルト, -2.21~-2.25mで青灰色粘質シルト。	17H447	HL 609	3
三条四坊八町跡, 等持寺跡	中・堺町通二条下る杉屋町634, 柳馬場通二条下る等持寺町22-2	3/14・22・30, 4/2・3	GL-1.06mでオリーブ褐色細砂混シルトの室町包含層, -1.35mでオリーブ褐色粘土質シルトの地山を切って暗灰黄色細砂混シルトの室町土坑とオリーブ褐色粘土質シルトの鎌倉土坑, -1.97~-2.2mでオリーブ褐色細砂混シルトの地山。	17H722	HL 633	3
四条一坊七町跡	中・壬生馬場町29-3	2/5	GL-0.23mで暗灰黄色泥砂, -0.41mで明黄褐色砂礫の地山, -0.93~-2.1mで明黄褐色砂礫の地山。	17H625	HL 560	4
四条二坊十二町跡	中・油小路通四条上る藤本町549, 醒ヶ井通錦小路下る藤西町592-1	1/12~31, 2/1~14	平安後期~室町の遺構群を検出。本報告6ページ。	17H435	HL 523	4
四条二坊十三町跡	中・蟻螂山町461-1, 461-2	3/6・9・12	GL-2.7mで褐色砂礫の地山。	17H125	HL 618	4
四条三坊四町跡, 烏丸綾小路遺跡	中・新町通四条上る小結棚町438-1, 2, 炭之座町410	2/21・27	GL-1.9mまで盛土。	17H626	HL 595	5
四条三坊十四町跡	中・東洞院通蛸薬師下る元竹田町640, 640-3	3/22	GL-1.2mまで盛土。	17H654	HL 645	5
四条四坊五町跡	中・堺町四条上る八百屋町542-1の一部, 545, 547-2	2/19	GL-0.5mまで盛土。	17H396	HL 588	5
五条二坊一町跡, 妙蓮寺の構え跡	下・黒門通四条下る下り松町167	3/12	GL-1.33mで黒褐色粘土質シルトの室町以降包含層, -1.5~-2.01mでオリーブ褐色砂礫の地山。	16H303	HL 630	4
五条二坊七町跡	下・岩上通綾小路下る雁金町411, 409-1, 409-2	2/16, 3/2~12	平安末~鎌倉の土坑群を検出。本報告16ページ。	17H587	HL 582	4
五条二坊十四町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通仏光寺下る本柳水町782	2/13・23・27, 3/9	GL-0.76mで明黄褐色微砂の地山, -1.16~-1.82mで明黄褐色微砂の地山。	17H472	HL 574	4
五条三坊三町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・新町通仏光寺下る岩戸山町436-1, 436-2, 436-3, 436-4	3/19・23・26・27・30	鎌倉の土坑を検出。本報告19ページ。	17H624	HL 639	5
五条四坊二町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・高倉通綾小路下る竹屋町388-2他4筆	3/5	GL-0.35mまで盛土。	17H681	HL 613	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条四坊四町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・高倉通高下葛籠屋町507-2	1/29	GL-1.02mで灰黄褐色泥砂の中世包含層を切って 黒色粘質土の時期不明土坑, -1.36~-1.46mで黄 色砂礫を切ってにぶい黄褐色粘質土の鎌倉土坑。	17H413	HL 550	5
五条四坊十二町跡	下・高辻通柳馬場東入雁金町160	1/29~2/6	GL-1.4mまで盛土。	17H586	HL 551	5
六条二坊九町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・醒ヶ井通松原下篠屋町59	17/5/24~ 18/7/4	GL-1.0mまで盛土。	17H084	HL 071	4
六条二坊十三町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通五条下る小柳町502-1, 503-1	2/13	No.1 ; GL-0.7mで黒褐色粘土質シルトの近世近 代焼瓦層, -1.2mで黒褐色粘土質シルトの中世包 含層, -1.3~-2.0mまで黄褐色シルトの地山を 切って暗オリーブ褐色シルト(礫多量混)の柱穴と 暗褐色粘土質シルトの時期不明ピット。No.2 ; GL-0.51mで暗褐色シルト(炭化物, 焼土, 焼瓦 含)の近代包含層, -0.74mで暗褐色砂礫の近世 洪水層, -0.9~-1.02mで黒褐色砂質シルトの近 世包含層。	17H667	HL 578	4
六条三坊十一町跡	下・横諏訪町318,316	1/22・26・ 29	GL-1.04mでにぶい黄褐色泥砂の中世包含層を 切って黒褐色泥砂(炭化物含)の時期不明ピット, -1.36mで黄褐色砂泥, -1.8~-2.14mで黄褐色砂 泥の地山。	17H486	HL 536	5
六条四坊七町跡	下・堺町通五条上る俵屋町228-1, 228-3, 230-1, 230-2	2/13・19	GL-1.7mまで盛土。	17H517	HL 575	5
六条四坊十五町跡	下・西橋詰町743, 745, 799-9	1/19	GL-1.14mでにぶい黄褐色砂礫の氾濫堆積, -1.72~-2.18mで黒褐色泥砂の近世包含層。	15H746	HL 534	5
七条二坊三・七町 跡, 史跡本願寺境内	下・堀川通花屋町下る門前町60	1/23・26, 2/2	GL-0.7mまで盛土。	29N047	HL 539	6
八条一坊十一町跡	下・観喜寺町35-1他	2/1	GL-0.8mまで盛土。	17H401	HL 556	6
八条三坊一町跡	下・西洞院通七条下る東塩小路町 607-12	3/6・7	GL-1.45mまで盛土。	17H340	HL 619	7
八条四坊七・八町跡	下・小稲荷町48他 地内	3/23	GL-0.6mまで盛土。	17H497	HL 651	7
九条一坊四町, 右 京六条三坊三・十 一・十四町, 四坊 三・六・十一・十 四町跡, 西京極遺 跡, 御土居跡, 唐 橋遺跡, 中久世遺跡	南・四ツ塚町, 久世中久世三丁目, 吉祥院九条町, 右・西院南寿町, 西院久保田町他 地先	1/12・15・ 25	No.1 ; GL-0.8mで旧耕作土, -1.14~-1.47mで明 黄褐色シルトの地山。No.2 ; GL-0.6~-1.04mで 褐色シルトとにぶい黄色砂泥の互層の地山。	17H563	HL 524	6・ 10・ 18
九条一坊十一町跡, 史跡教王護国寺境内	南・九条町1	17/10/5~ 18/7/24	康暦元年(1379)の焼土層を検出。本報告28ペー ジ。	28N005	HL 660	6
九条一坊十五町跡, 史跡教王護国寺境内	南・九条町1	1/26・29・ 30	GL-0.22~-0.4mで明黄褐色シルトの地山。盛土 内から近世土師器皿が纏まって出土。	28N069	HL 547	6
九条一坊十五町跡, 史跡教王護国寺境内	南・九条町1	3/26	GL-0.15mまで盛土。	29N102	HL 654	6
九条三坊九町跡, 烏丸町遺跡	南・東九条上殿田町42他	1/23・24, 3/15	GL-0.04mで暗灰黄色礫混砂質シルト(炭化物含), -0.22mでオリーブ褐色砂質シルトの地山, -0.61~-0.8mで褐色砂礫の地山。	16H697	HL 538	7
九条三坊十四町 跡, 烏丸町遺跡	南・東九条北烏丸町19-1	17/12/20~ 18/2/22	No.1 ; GL-0.8mで黒褐色粘土質の近世包含層, -1.0mで褐灰色粘土の湿地状堆積を切って時期不 明土坑, -1.1~-1.2mで黄灰色細砂の地山。No.2 ; GL-0.75mで黒褐色泥砂の近世包含層を切って黄 灰色泥砂の近世土坑, -1.03~-1.3mでオリーブ灰 色シルトの地山。	17H610	HL 496	7
九条三坊十五町 跡, 烏丸町遺跡	南・東九条西山王町1他	1/22, 2/22, 3/2	GL-0.59mでにぶい黄色粘質シルト, -0.89~ -0.96mで暗灰黄色細砂。	16H092	HL 535	7
九条三坊十五町 跡, 烏丸町遺跡	南・東九条西山王町5-6	3/6・8	GL-0.7mで黒色泥砂の旧耕作土, -0.82mでオ リーブ褐色泥砂の旧耕作土, -1.0mで灰オリー ブ色砂の河川堆積, -1.14mでオリーブ褐色砂礫 の河川堆積。	17H766	HL 620	7
九条四坊一町跡, 烏丸町遺跡	南・東九条東山王町15, 15-2	2/26, 3/12	GL-0.86mで灰黄色砂, -1.33mで灰色シルト, -1.69~-1.83mでオリーブ色砂礫の地山。	17H754	HL 596	7
九条四坊九町跡	南・東九条東岩本町15-22	1/9	GL-0.55mまで盛土。	17H592	HL 512	7

平安京右京(HR)

遺 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊二町, 一条二坊一町跡	上・仁和寺街道御前西入下横町～ 仁和寺街道天神東入北町 地先	17/11/14～ 18/3/13	No.3 ; GL-0.7mで暗褐色粘質土の時期不明包含層。 No.4 ; GL-0.7～-0.9mで黄褐色粘質土の地山。	17H532	HR 420	9
北辺二坊八町跡	北・大將軍西町188	2/13	GL-0.3mまで盛土。	17H645	HR 577	9
一条三坊十一町跡	中・西ノ京馬代町11-1, 11-4	2/16・27	GL-0.39mで灰黄褐色粗砂混粘土質シルト。	17H671	HR 585	8
二条四坊十三・十 四町跡, 龍翔寺跡	右・太秦安井奥畑町19-8, 22-15, 29	3/19・22・ 23	GL-0.52mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層。 -0.6～-0.79mで黄褐色シルトの切った黒色泥砂と にぶい黄褐色シルトの時期不明土坑2。試掘調 査済地点。	17H512	HR 642	8
三条二坊三町跡, 西ノ京遺跡	中・西ノ京樋ノ口町4, 6, 7	1/9・17	GL-1.02mで濁灰色泥砂(礫混), -1.26～-1.47m で黄褐色微砂～シルトの地山。	17H618	HR 515	9
三条二坊十町跡, 西ノ京遺跡	中・西ノ京東中合町 地先	17/9/11～ 18/12/5	巡回時掘削終了。	17H185	HR 302	9
三条二坊十四町跡, 西ノ京遺跡	中・西ノ京下合町2の一部	3/6	GL-0.4mまで盛土。	17H704	HR 621	9
三条四坊十四町跡	右・山ノ内西八反田町1-1, 五反田 18の一部, 太秦安井一町田町15-2, 太秦安井松本町12-2の一部	3/7	GL-1.57～-2.18mで黄褐色泥砂(微砂混)の地山。	17H653	HR 623	8
三条四坊十五町跡	右・太秦安井一町田町14他	17/12/22, 18/07/04	GL-2.5mまで盛土。	17H379	HR 500	8
四条一坊三町跡	中・壬生御所ノ内町47-4	1/9・16	GL-0.9mまで盛土。	17H573	HR 514	11
四条二坊八町跡	中・壬生上大竹町13	2/5	GL-0.57mで浅黄色泥砂～砂礫, -0.93mで黒褐色 シルトの平安包含層, -1.07mでにぶい黄色砂礫, -1.1m～-1.16mで浅黄色シルトの地山。	17H611	HR 563	11
四条三坊六町跡	右・西院春栄町53-2, 53-25, 53-3	1/25・26・ 30, 2/8	GL-0.64mで暗灰黄色泥砂(マンガン多量含), -0.77mで暗灰黄色泥砂の時期不明包含層, -0.93～-1.38mで明黄褐色シルトの地山。	17H683	HR 546	10
五条一坊十一町跡	中・壬生松原町2-4	2/8	GL-0.64mまで盛土。	17H547	HR 562	11
五条一坊十三町跡	中・壬生下溝町44-3	1/10	GL-0.61mで旧耕作土, -0.76mでにぶい黄褐色 シルトの地山, -1.19～-1.34mでにぶい黄褐色 細砂の地山。	17H332	HR 519	11
五条二坊八町跡, 壬生遺跡	中・壬生西土居ノ内町24-4	1/16・17・ 25	GL-0.38mで黒褐色泥砂のシルトを切った黒褐色 シルトの時期不明柱穴, -0.57mで黄褐色シルト の地山, -0.68mで灰黄色微砂の地山, -0.87～ -1.23mで暗灰黄色砂礫の地山。	17H488	HR 528	11
五条二坊九町跡, 御土居跡	右・西院三蔵町25	3/22・30	GL-0.34mで黄灰色シルトの近世包含層, -0.68m で灰黄色砂礫の氾濫堆積, -0.83mで黒褐色粘土 の湿地状堆積, -0.94～-1.12mで灰黄色砂礫の地山。	17H738	HR 646	11
六条一坊十二・ 十三町, 七条一坊 九・十六町跡	下・中堂寺栗田町93	2/7・9・ 14・19, 3/15, 4/4・ 18・24・ 25, 5/8・ 15, 6/27, 7/25	No.5 ; GL-1.35mで黒褐色粗砂混粘土, -1.5～ -1.7mで黒色微砂混粘土～粘土質シルト(ラミナ 入)の湿地状堆積。No.7 ; GL-1.38mで黄灰色砂 泥, -1.58mで灰褐色砂泥(砂礫混), -1.79mで黄 灰色シルトの湿地状堆積, -2.05mでオリブ黒 色シルト(微砂混)の湿地状堆積。No.8 ; GL-1.44m で黄褐色シルトの地山。	17H655	HR 572	11・ 13
六条一坊十六町跡	下・中堂寺庄ノ内町24-6	2/1・8	GL-0.85mまで盛土。	17H615	HR 557	11
六条二坊十・ 十一町, 六条四坊 十・十一町跡	右・西院東水中町(西大路五条交差 点), 西院月双町(葛野大路五条交差 点)	1/9・10	巡回時掘削終了。	17H316	HR 513	10・ 11
六条四坊十六町跡	右・西京極葛野町6-1・2・3・4・ 7	2/5・8	GL-0.6mで灰黄色泥砂の土壌化層, -0.96mでに ぶい褐色粗砂(固く締まる), -1.15mで灰色シル トの平安包含層(土師器), -1.39～-1.65mで灰色 シルトの平安包含層。	16H351	HR 561	10
七条一坊九・十六 町跡, 衣田町遺跡	下・西七条西八反田町～西七条東八 反田町 地先	17/8/23～ 18/12/20	GL-1.4mまで盛土。	17H333	HR 269	13
七条二坊二町跡, 西市跡, 衣田町遺跡	下・西七条東石ヶ坪町61の一部, 62の一部	3/15	GL-0.32mで灰黄褐色粗砂混シルト, -0.44mで 暗灰黄色粘土質シルト, -0.56mで黄灰色細砂混 粘土質シルト, -0.67～-0.71mで黄灰色細砂。	17H682	HR 635	13

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
七条二坊八町跡	下・西七条東御前田町39-1, 西七条御前田町52-1	2/2・7・13・22, 3/22	GL-0.84mで褐灰色シルトの平安包含層(瓦), -0.91mで褐灰色微砂～粗砂の地山, -1.01mで灰黄色粗砂の地山, -1.59mで灰黄褐色砂礫の地山。	17H244	HR 558	13
七条四坊十三町跡	右・西京極西川町42の一部	1/24	GL-0.68mで旧耕作土, -0.8mでオリブ褐色シルト(炭混), -0.98mでオリブ褐色砂質シルト, -1.09mで暗オリブ褐色砂礫, -1.27m～-1.62mで暗灰黄色砂礫の地山。	17H609	HR 543	12
八条二坊十一町跡, 衣田町遺跡	下・七条御所ノ内中町50-2	3/28, 4/4	GL-0.21mで旧耕作土, -0.44mで灰褐色粘質土の湿地堆積, -0.84mで灰色粘質土の湿地堆積, -1.11～-2.64mで灰黄色砂礫の地山。	17H710	HR 657	13
九条一坊九町跡, 西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋門脇町21-2(1号地)	17/8/17・23, 18/1/12	GL-0.28mで暗褐色粘土質シルトの弥生包含層を切って灰黄褐色粘土質シルトの弥生東西溝(弥生土器壺), -0.45mでにぶい黄褐色粘土質シルトの弥生包含層, -0.52～-0.58mで灰黄褐色粘土質シルトの弥生包含層。	17H276	HR 245	13
九条一坊九町跡, 西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋門脇町21-3(2号地)	17/8/17, 18/1/12	GL-0.33mでにぶい黄褐色粘土質シルトの時期不明包含層, -0.43mでにぶい黄褐色粘土質シルト(鉄分沈着), -0.59～-1.5mで黄褐色粘土質の地山を切って灰黄褐色粘土質の時期不明土坑。	17H283	HR 252	13
九条一坊十町跡, 西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋門脇町29-6の一部, 29-7の一部	1/5	GL-0.3mまで盛土。	17H582	HR 509	13
九条一坊十二町跡, 西寺跡	南・唐橋花園町3(8号地)	17/7/10～18/1/30	GL-0.28mで灰色砂質土の旧耕作土, -0.39mで灰黄褐色砂礫の地山, -0.86～-1.13mで褐灰色砂礫の地山。	17H134	HR 195	13
九条一坊十二町跡, 西寺跡	南・唐橋花園町3(9号地)	17/7/11・18, 18/1/29	GL-0.09mで旧耕作土, -0.24mで褐灰色シルト(粘質, マンガン多量含)を切って褐灰色シルト(鉄分多量含)の落込。	17H135	HR 196	13
九条一坊十二町跡, 西寺跡	南・唐橋花園町3(1号地)	17/7/12, 18/2/16	GL-0.07mで暗褐色シルトの旧耕作土, -0.14mで暗灰黄色粘土質シルトの旧耕作土, -0.2mで褐色粘土質シルトを切ってオリブ褐色シルトの平安落込。	17H127	HR 188	13
九条一坊十二町跡, 西寺跡	南・唐橋花園町3(2号地)	17/7/12～18/12/18	GL-0.20mでにぶい黄褐色シルトの地山。	17H128	HR 189	13
九条一坊十二町跡, 西寺跡	南・唐橋花園町3(4号地)	17/7/13～18/12/18	GL-0.32mで黄灰色粗砂。	17H130	HR 191	13
九条一坊十二町跡, 西寺跡	南・唐橋花園町3(5号地)	17/7/13～18/8/9	GL-0.3mでにぶい黄褐色泥砂の旧耕作土, -0.65～-0.7mで黄灰色粗砂の地山。	17H131	HR 192	13
九条一坊十三・十四町跡, 史跡西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋西寺町地先	17/5/31～18/1/11	唐橋遺跡の落込, 西寺期の整地層を確認。 本報告37ページ。	28C090	HR 094	13
九条四坊四町跡	南・吉祥院中河原里南町5	2/7	GL-0.17mでにぶい黄褐色砂泥, -0.4mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	17H590	HR 573	12
九条四坊六町跡	南・吉祥院中河原里北町3, 4, 5, 7の一部, 8の一部	3/20	GL-0.63mで黒褐色細砂混シルトの旧耕作土, -0.69mで黄灰色細砂混シルト, -0.75～-0.82mで褐色粘土質シルトの地山。	16H524	HR 643	12

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
愛宕山遺跡	右・嵯峨愛宕町1	17/12/2～18/8/5	桃山茶陶を多量に採集。 本報告39ページ。	17A007	UZ 632	26-3
嵯峨遺跡, 檀林寺跡	右・嵯峨天龍寺立石町5-10他	3/8～28, 4/2・5, 6/19・26, 7/19	GL-0.25mで暗褐色シルト, -0.4mで黒褐色シルトの時期不明包含層, -0.65mで褐色粘土質シルトの地山, -0.78mで褐色砂礫シルトの地山。試掘調査地点。	17S029	UZ 625	23-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨大覚寺門前井頭町地内	3/2・6・14	GL-0.8～-1.4mで黄褐色シルトの地山。	17S687	UZ 614	23-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨五島町1-64	2/27	GL-0.18mまで盛土。	17S666	UZ 603	23-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
嵯峨遺跡, 嵯峨北堀町遺跡	右・嵯峨天龍寺今堀町15-42(F号地)	2/16・19	GL-0.15mまで盛土。	17S680	UZ 586	23-1
広沢古墳群 一ノ井遺跡	右・嵯峨広沢池下町 右・太秦垣内町3-111	2/7・8 2/16	GL-0.7mまで盛土。 GL-0.12mで黒褐色礫混シルト, -0.28mで黄褐色 礫混シルトの地山。	17S641 17S711	UZ 571 UZ 587	23-1 20
法金剛院境内	右・花園寺ノ内町2-4, 18	3/7・14	GL-0.4mまで盛土。	17S697	UZ 624	20

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
植物園北遺跡	北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町1 地内	17/11/27, 12/18・ 19・20・ 21・25・ 26, 18/1/9	No.1 ; GL-1.0mで浅黄色粘質土の時期不明包含層, -1.4mで黄褐色粘質土(縮りやや無), -1.8~-2.55mで黄褐色粘質土(縮り有)の地山。No.4 ; GL-0.45mで黄色砂礫の地山, -0.55~-0.75mで暗褐色砂礫の地山。	17S369	RH 449	23-2
植物園北遺跡	北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町45	3/14	GL-0.3mまで盛土。	17S696	RH 634	23-2
植物園北遺跡	左・松ヶ崎芝本町20-8	3/28・30	GL-0.37mでオリーブ褐色礫混シルト(炭化物含)の時期不明包含層, -0.47~-0.57mで褐色シルトの地山。	17S814	RH 658	23-2
植物園北遺跡, 芝本瓦窯跡	左・松ヶ崎芝本町 地内	2/6~12/25	GL-0.67~-0.92mで旧耕作土。	17S686	RH 568	23-2
上総町遺跡	北・小山東大野町 地先	2/20・23, 3/5・13・ 30	GL-0.1mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層, -0.33mで明褐色砂質土, -0.4~-0.7mで褐灰色砂礫。	17S729	RH 592	17-1
上京遺跡, 寺ノ内旧域	上・上立売通小川西入御三軒町~ 小川通上立売上る挽木町 地先	17/9/22~ 18/7/23	GL-0.6mまで盛土。	17S364	RH 325	17-1
上京遺跡	上・烏丸通鞍馬口下る東入上御霊中 町456-4	1/11	GL-0.5mで黒褐色礫混シルトの近世包含層。	17S583	RH 521	17-1
上京遺跡	上・大宮通五辻下る観世町114-4, 117, 118-1, 120-1, 122, 五辻通 大宮西入五辻町36, 36-1	3/5・9	GL-2.47mで明黄褐色シルトの地山, -2.72~-2.98m で灰色シルトの地山。	17S449	RH 615	16-1 17-1
北野遺跡	北・平野烏居前町84-4, 85-2	1/23	GL直下で黒褐色シルトの時期不明包含層, -0.3~-0.4mで黄褐色シルトの地山を切って黒褐色 シルトの時期不明ピット(土師器)。	17S548	RH 542	16-1
北野天満宮	上・馬喰町931	17/6/19~ 18/5/2	No.1 ; GL-0.13mで黒色泥土, -0.40~-0.47mでに ぶい黄色細砂。No.3 ; GL-0.3mでオリーブ褐色泥 砂の近世包含層, -0.58mで黄褐色泥砂(礫混)。	17S004	RH 124	16-1
室町殿跡 (花の御所)	上・中御霊岡子町136	2/20	GL-0.42mまで盛土。	17S721	RH 590	17-1
室町殿跡 (花の御所)	上・室町通上立売下る裏築地町98- 1, 98-2	1/15・16・ 29	GL-0.2mまで盛土。	17S555	RH 526	17-1
室町殿跡 (花の御所)	上・室町通今出川上る裏築地町~ 烏丸通今出川上る御所八幡町 地先	2/28, 3/1・ 5・7・13	GL-0.2mで暗オリーブ褐色礫混粘土質シルトの近 世包含層, -0.4~-0.8mまで褐色砂礫。	17S622	RH 605	17-1
史跡賀茂御 祖神社境内 (下鴨神社)	左・下鴨泉川町59	2/15, 3/19	GL-0.19mまで褐色砂泥の時期不明盛土。	29N061	RH 564	17-2
公家町遺跡	上・寺町通石薬師下る西側染殿町 658 地内	17/11/28~ 18/1/19	GL-0.68~-0.92mで暗褐色泥砂。	17S368	RH 453	17-1

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
市名勝三千院有 清園庭園及び聚 碧園庭園, 大原 延暦寺別院境内	左・大原来迎院町540	2/15・16・ 18・20・ 21	山土由来の基盤層を確認。本報告52ページ。	17A006	KS 617	26-5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
小倉町別当町遺跡，北白川追分町遺跡，北白川追分町縄文遺跡	左・北白川堂ノ前町～北白川小倉町地内	2/6・9， 3/5，4/17・ 26，5/2・ 11・16	№3；GL-0.15mで黒褐色粘質土の地山，-0.3mで黒色粘質土の地山，-0.5mで灰黄褐色粘質土の地山，-0.75mで明黄褐色砂礫混粘質土の地山，-1.23～-1.3mで黄色砂礫の地山。№4；GL-0.22mで灰黄褐色砂質土の時期不明包含層，-0.62～-1.1mで黒色粘土。	17S528	KS 567	21
吉田本町遺跡，吉田二本松町遺跡	左・吉田本町他 地内	1/23	GL-0.5mまで盛土。	17S658	KS 540	21
白河街区跡	左・白川通，浄土寺馬場町～鹿ヶ谷上宮ノ前町 地内	17/7/11～ 18/1/30	№1；GL-0.28mで灰黄褐色微砂，-0.53mでにぶい黄褐色微砂，-0.68mで黒褐色泥砂(炭化物含)の時期不明包含層，-0.95～-1.68mで明黄褐色粗砂の地山。№10；GL-0.26mで南北方向石列，-0.42～-1.55mで黄褐色砂礫の地山。	17S140	KS 202	21
法勝寺跡，岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町22	2/26， 3/12	GL-1.45mまで盛土。	17R735	KS 597	21
法勝寺跡，岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町22	2/26	GL-0.33mまで盛土。	17R736	KS 598	21 22
史跡詩仙堂	左・一乗寺門口町，一乗寺小谷町，一乗寺松原町	1/12， 3/12	GL-0.25～-0.4mで灰白色粗砂の盛土。	29N044	KS 522	26-6
如意寺跡	左・鹿ヶ谷桜谷町1-1	3/20	GL-0.09mで暗灰黄色礫混シルト，-0.31mで黒褐色礫混シルト，-0.47～-0.62mで褐色細砂礫。	17S672	KS 644	27-1
史跡南禅寺境内	左・南禅寺福地町86	2/27・28， 3/1	GL-0.55mでにぶい黄褐色砂礫混粘質土，-0.9～-1.1mで明黄褐色砂質土と灰色シルトの互層。	29C103	KS 604	21

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡青蓮院旧仮御所知恩院境内建仁寺境内	東・粟田口三条坊町69-1	2/20	GL-0.12～-0.19mで褐色砂質土。	29C118	RT 593	22
	東・粟田口三条坊町	3/16・23	GL-0.55mまで盛土。	17S782	RT 637	22
	東・大和大路四条下る三丁目博多町69-1，69-2	1/17・19	GL-0.49mでにぶい黄褐色シルトの近世包含層，-0.65mで黄褐色泥砂，-0.85mでにぶい黄褐色泥砂，-1.05～-1.27mで褐色粗砂の時期不明包含層。	17S638	RT 533	22
寺町旧域	下・寺町通四条下る貞安前之町614-54，河原町通四条下る二丁目稲荷町318-6	3/22・26 8/15	GL-0.64mでにぶい黄褐色砂礫を切って黄褐色泥砂の落込，-1.13～-1.56mで褐色砂礫の氾濫堆積。	17S770	RT 649	22
法住寺殿跡，六波羅政庁跡	東・茶屋町527	3/22	GL-0.15mまで盛土。	17S674	RT 648	22
法住寺殿跡，六波羅政庁跡	東・茶屋町527	3/26	GL-0.25mまで盛土。	17S783	RT 652	22
法住寺殿跡，六波羅政庁跡，方広寺跡	東・茶屋町527	3/19，4/5	GL-0.33mまで盛土。	10S038	RT 640	22
山科本願寺南殿跡	山・音羽千本町7-9	2/5・8・9	GL-0.15mまで盛土。	17S561	RT 565	27-2
元屋敷廢寺	山・大塚元屋敷町62-40	3/8・13・ 15	GL-0.41mで黄褐色礫混シルトの地山，-0.64mで褐色礫混シルトの地山，-1.22mで褐色砂礫の地山，-1.42～-2.28mで褐色砂礫の地山。	17S716	RT 626	27-3
中臣遺跡	山・西野山中臣町41-1，46，50，中島井町126	17/5/24・ 26・29， 17/8/17	GL-0.69mで旧耕作土，-0.83mでにぶい黄褐色シルト(灰黄色シルトブロック混)，-1.01mで黄褐色シルト。	16N458	RT 082	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺東金ヶ崎町55	17/12/27～ 18/1/30	GL-1.5mまで盛土。	17N578	RT 505	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺西金ヶ崎388	1/9	GL-0.3mまで盛土。	17N538	RT 517	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺東金ヶ崎町30の一部	1/18	GL-0.15mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	17N630	RT 532	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町47-1，48，49-1，50-1，51-1	1/23・26・ 31	GL-1.62mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	17N022	RT 541	25-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
中臣遺跡	山・東野舞台町57-15, 57-13	1/26	GL-0.13mで黄褐色砂礫の氾濫堆積, -0.28mで暗灰黄色砂礫の氾濫堆積。	17N546	RT 548	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺東金ヶ崎町30の一部	2/15	GL-0.2mまで盛土。	17N700	RT 581	25-3
中臣遺跡	山・西野山中臣町26-170, 26-60の各一部	3/6	GL-0.32mで旧耕作土, -0.41mで褐色泥砂, -0.69~-0.94mで黄褐色泥砂の地山。	17N742	RT 622	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺西栗栖野町113-5(3号地)	3/6	GL-0.33mまで盛土。	17N693	RT 616	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺西栗栖野町113-2(1号地)	3/19	GL-0.25mまで盛土。	17N692	RT 641	25-3
小野廃寺	山・小野御所ノ内町~伏・醍醐御陵東裏町 地内	1/9~8/2	No 1 ; GL-0.43mで暗オリーブ褐色シルトの時期不明包含層。No 4 ; GL-0.22mでにぶい黄色細砂(小礫混), -0.46~-1.60mで明褐色泥砂の地山。	16S099	RT 516	24-3
勸修寺旧境内	山・勸修寺西北出町84	1/5	GL-0.3mまで盛土。	17S556	RT 510	27-4
勸修寺旧境内	山・勸修寺仁王堂町8-1, 8-2	3/22	GL-0.66mまで盛土。	17S212	RT 647	27-4

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山町西尾~深草大亀谷大山町	17/8/21~ 18/12/21	GL-0.12mで褐色泥砂の土壌化層, -0.4mで赤褐色シルト~泥砂(固く締まる)の造成土, -0.46mで黄褐色粗砂の造成土。	16F293	FD 261	15
伏見城跡	伏・観音寺町210-1, 211-1, 金森出雲6-1	17/12/22~ 18/5/14	GL-1.45mで明黄褐色砂礫混粘質土の伏見城期造成土, -1.83mで黒褐色粘質土の地山, -1.86mで明黄褐色粘質シルトの地山, -2.13~-2.26mで浅黄色砂礫の地山。	17F633	FD 501	14
伏見城跡	伏・丹後町地内	17/12/25・ 26, 18/1/9・ 18・19・ 30, 2/8・ 22	GL-0.45mで褐灰色砂(固く締まる)の時期不明路面, -0.52mで黄褐色粗砂, -0.62mで黄褐色粗砂, GL-1.05mで暗灰黄色泥砂(固く締まる)の時期不明路面, -1.17~-1.3mで黄褐色粘土(固く締まる)の時期不明路面。	17F377	FD 503	14
伏見城跡	伏・銀座町三丁目323の一部, 322-3の一部	17/12/28, 18/1/4・ 9・18	GL-0.48mでオリーブ褐色泥砂(炭化物含)の伏見城期造成土, -0.56~-0.72mで褐色泥砂の伏見城期造成土。	17F597	FD 507	14
伏見城跡	伏・桃山町下野27-1, 27-10の一部	2/7, 5/31, 6/7~11	近世の推定松平下野守(結城秀康, 松平忠吉邸)の虎口を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。	16F684	FD 570	15
伏見城跡	伏・御駕籠町118	2/26・27	GL-1.15mまで盛土。	17F584	FD 599	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町5-2	2/28	GL-0.58mまで盛土。	17F452	FD 606	15
伏見城跡, 御香宮廃寺	伏・御香宮門前町176	17/5/8~ 18/12/25	GL-1.19mで褐色砂質土の近世包含層, -1.25mで黒褐色泥砂の地山を切って暗褐色シルトの近世土坑, -1.95~-2.39mで明黄褐色シルト。	16F751	FD 057	14
伏見城跡, 指月城跡, 泰長老遺跡	伏・桃山泰長老159	17/12/15~ 18/12/21	GL-0.15mで黄褐色泥砂の伏見城期造成土。	17F261	FD 489	15
伏見城跡, 桃山古墳群 (永井久太郎古墳)	伏・桃山町島津60-6	2/28	GL-0.44mで明黄褐色砂礫混粘質土の伏見城期造成土。	17F720	FD 607	15
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町22	1/30	GL-0.3mまで盛土。	29C087	FD 553	24-3
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐醍醐山国有林無番地(醍醐山国有林31・33林班)	2/26, 3/2, 6/4	GL-0.1mで黄褐色泥砂, -0.31mで黄褐色泥砂の地山, -0.67~-1.07mで明褐色粘土の地山。	29N056	FD 600	29-4
小野廃寺	伏・醍醐古道町地内	3/27, 4/2~ 10, 5/17~ 31, 6/12~ 26, 7/20~ 30, 8/2~21	No 11 ; GL-0.2mで明褐色シルトの地山, -0.38mでにぶい黄色シルトの地山, -0.95~1.21mで浅黄色シルトの地山。No 12 ; GL-0.35mでオリーブ褐色シルトの時期不明包含層, -0.55mで灰黄色砂礫, -1.15mで黄色粗砂の地山。	17S418	FD 653	24-3

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町315, 316	2/13・14・16・22	No.2 ; GL-0.53mで暗オリーブ色シルトと暗オリーブ色粘土質シルトの旧耕作土, -0.66mでオリーブ褐色シルト, -0.8mでオリーブ褐色砂質シルト, -0.9mで暗オリーブ色細砂～シルトの河川堆積, -0.96mで黄灰色微砂～シルトの河川堆積, -1.06mで黄灰色砂礫の河川堆積。	17T313	TB 579	24-1
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽西芹川町74-3	3/27・29・30	GL-0.66mで暗灰黄色シルト, -0.77mで灰オリーブ色細砂混シルト, -0.81～-0.9mで暗褐色粘土質シルトの古墳包含層(土師器壺, 須恵器甕体部)。	17S741	TB 655	27-8
久我殿遺跡	伏・久我本町4-186	2/5	GL-0.43mで黄灰色シルトの旧耕作土, -0.54mで灰色泥砂の旧耕作土, -0.61mで灰色砂泥, -0.68～-0.89mで灰白色微砂の地山。	17S543	TB 566	18-3 19
久我東町遺跡	伏・久我東町他 地内	2/19	GL-0.7mで旧耕作土, -1.1mで緑灰色粘土の湿地状堆積, -1.35mで暗オリーブ灰色粘土の湿地状堆積, -1.1mでオリーブ灰色粘土の時期不明湿地状堆積。	17S376	TB 589	19
深草遺跡	伏・深草キト町15-3	3/29	GL-1.43mまで盛土。	17S515	TB 659	28-1

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺三坊十四町跡, 大藪遺跡	南・久世大藪町371-2, 372, 374-1の一部	2/26	GL-0.19mまで盛土。	17NG640	NG 601	18-3
左京一条四坊十三町跡	伏・久我本町11-10	1/9	GL-1.12～-1.35mで旧耕作土。	17NG607	NG 518	18-3 19
左京二条四坊四・八町跡、東土川遺跡	南・久世東土川町376-4, 376-14, 376-15	1/12	GL-1.06mまで盛土。	17NG395	NG 525	1 19
左京五条四坊十三町跡	伏・羽束師古川町 地内	17/12/12・25, 18/1/9, 5/31	No.1 ; GL-1.0mで灰色粘質土(炭化物含)の湿地状堆積, -1.25mでオリーブ灰色粘質土の湿地状堆積, -1.35～-1.55mで灰色粘質土の湿地状堆積。 No.2 ; GL-0.7mでオリーブ黒色粘土, -1.02mでにぶい黄褐色泥砂。	17NG552	NG 483	19
左京六条四坊五町跡	伏・淀樋爪町122他 地内	1/22, 8/15	GL-2.26mまで護岸に伴う現代盛土。	17NG480	NG 537	19
左京九条三坊五・十二町跡, 淀城跡	伏・淀本町225	17/11/7～18/11/30	GL-1.01mで暗灰黄色粘質土, -1.13～-1.42mで黄色細砂。	17NG294	NG 406	25-4
左京九条三坊十四町跡	伏・納所妙徳寺13-1	2/6	GL-1.09mでにぶい黄色シルト, -1.3mで灰色砂泥, -1.47mで灰褐色砂泥, -1.59mでにぶい黄色砂泥, -1.98mで黒色シルト(細砂混), -2.23mで灰色砂礫。	17NG540	NG 569	25-4
左京九条四坊一町跡	伏・納所星柳他 地内	1/16・25	GL-1.25mで暗オリーブ灰色微砂混粘土(植物遺体含), GL-0.18mで暗緑灰色微砂混粘土, -0.36mで緑灰色微砂混粘土の鎌倉包含層(瓦器椀), -0.56～-0.99mで暗緑灰色微砂混粘土。	16NG518	NG 529	25-4

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
松尾十三塚古墳群	西・嵐山宮ノ前町35-12, 35-18	1/5	GL-0.59mで旧耕作土, -0.7~-0.79mで黄灰色粘土質シルト(炭化物含)。	17S527	MK511	28-7
浄住寺(谷之堂)跡	西・山田南町27-3の一部	1/29	GL-0.42~-0.7mで黄橙色シルトの地山。	17S617	MK552	28-8
革嶋館跡	西・川島玉頭町8-9, 10, 11-1の一部, 11-2, 11-5	17/12/12・15, 18/4/4	GL-0.15~-0.35mで明黄褐色シルトの地山。	17S389	MK484	29-1
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目112(4号地)	17/7/12, 18/4/16	GL-0.15mで旧耕作土, -0.25~-0.95mで明黄褐色シルトの地山。	17S164	MK172	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目112(5号地)	17/7/12, 18/4/16	GL-0.65~-0.8mで明黄褐色シルトの地山。	17S165	MK173	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目112(8号地)	17/7/13, 18/4/16	巡回時掘削終了。	17S168	MK176	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目112(9号地)	17/7/13, 18/4/16	GL-0.08mで灰黄褐色シルトの地山, -0.5mでにぶい黄橙色細砂の地山, -0.78~-0.95mでにぶい黄橙色シルトの地山。	17S169	MK177	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目112(6号地)	17/7/19, 18/4/16	GL-0.36~-0.64mでにぶい黄色泥砂の地山を切つて暗灰黄色シルトの時期不明南北溝。	17S166	MK174	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目112(7号地)	17/7/19, 18/4/16	巡回時掘削終了。	17S167	MK175	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町五丁目32-7	1/16	GL-0.4mまで盛土。	17S407	MK530	18-3
福西古墳群	西・大枝中山町~北福西町 地内	17/7/24~18/4/4	GL-0.25~-0.7mで褐色粗砂混粘土質シルトの地山。	17S141	MK221	26-2
福西古墳群	西・大枝中山町3-153, 3-225	2/13	GL-0.47~-0.52mで褐色細砂混粘土の地山。	17S529	MK580	26-2
福西古墳群	西・大枝中山町7-205	2/26・27	GL-0.9mまで盛土。	17S746	MK602	26-2
福西古墳群	西・大枝中山町7-202 (2号地)	12/18	GL-0.6mまで盛土。	17S745	MK610	26-2
福西古墳群, 大枝遺跡	西・大枝北福西町二丁目~大枝南福西町一丁目他 地内	17/10/18~18/4/10	GL-1.15mで明黄褐色砂泥(礫混, 固く締まる)の地山。	17S086	MK377	26-2

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
周山廃寺, 周山古墳群, 高梨経塚, 高梨遺跡	右・京北町中山39-4(周山中学校敷地)他	1/15・24, 8/1	No.3 : GL-0.25mで暗褐色粘土質シルト(炭化物含), -0.63~-0.53mで黄褐色礫混シルトの地山。 No.4 : GL-0.85mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明包含層, -1.3mで明黄褐色泥砂の地山。	16S433	UK 527	29-3

II 2018年 4～12月期(平成30年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
兵庫寮跡	上・仁和寺街道七本松東入一番町108-2, 108-3	7/9	GL-0.3mまで盛土。	18K273	HQ 181	1
兵庫寮跡	上・下ノ森通一条下る西町～一番町地先	10/31, 11/1・8	GL-0.2mで黒褐色泥砂, -0.5～-0.6mでにぶい黄褐色砂礫。	18K518	HQ 371	1
大蔵省跡	上・六軒町通今出川下る西入三軒町～六軒町通今出川下る四番町地先	4/27～5/21	GL-0.65～-0.73mで黒褐色泥砂(炭化物含)の近世包含層。	18K040	HQ 063	1
大蔵省・主殿寮跡, 聚楽第跡	上・東西俵屋町167～今新在家町205-11地先	5/15～6/12	GL-0.95mまで盛土。	18K087	HQ 082	1
大蔵省跡, 聚楽第跡	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町地先	10/5	GL-1.35mまで盛土。	18K488	HQ 321	1
主殿寮跡, 聚楽第跡	上・今新在家町445-4地先～新白水丸町462-106地先	4/6・9・19, 5/2	GL-0.1mで黒褐色砂混粘質土の近世包含層, -0.3～-0.7mでにぶい黄褐色砂礫混粘質土。	17K830	HQ 008	1
主殿寮跡, 聚楽第跡	上・一条通浄福寺東入南新在家町346の一部, 347-1の一部	11/30	GL-0.2mまで盛土。	18K557	HQ 416	1
茶園跡, 聚楽第跡	上・新白水丸町462-53～下鏡石町208-11地先	6/21～28, 7/4・11	GL-0.65mまで盛土。	18K155	HQ 149	1
茶園跡, 聚楽第跡	上・鏡石町10-1～10-10地先	11/12	GL-0.5mまで盛土。	18K555	HQ 391	1
内教坊跡, 聚楽第跡	上・和泉町通上長者町上る和水町439-42	6/22	GL-0.44mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	18K112	HQ 152	1
内教坊跡, 聚楽第跡	上・和泉町通上長者町上る和水町439-41	6/22	GL-0.27mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	18K135	HQ 153	1
内教坊跡, 聚楽第跡	上・神明町444地先	9/27	GL-0.25mまで盛土。	18K408	HQ 310	1
内教坊跡, 聚楽第跡	上・神明町440-2～443-17地先	10/2・5・18, 11/7	GL-0.7mまで盛土。	18K472	HQ 315	1
正親司跡	上・仁和寺街道下ノ森西入鳳瑞町地先	10/26～11/7	GL-0.2mで黒褐色粗砂混シルトの近世包含層, -0.48～-0.65mで黒色礫混粘土質シルト。	18K533	HQ 360	1
右近衛府跡, 鳳瑞遺跡	上・下立売御前東入西東町地先	4/27, 5/7・8・9	GL-0.7mまで盛土。	18K039	HQ 062	1
右近衛府跡, 鳳瑞遺跡	上・御前通妙心寺道東入天満屋町地先	5/10～31	GL-0.85mまで盛土。	18K041	HQ 076	1
宴松原跡	上・六軒町通下長者町下る七番町332-1の一部	5/17	GL-0.35mまで盛土。	18K047	HQ 088	1
宴松原跡	上・利生町地先	8/2	GL-0.9で灰白色砂礫の地山, -1.36～-1.59mまで黄色砂礫の地山。	18K302	HQ 215	1
宴松原跡	上・下長者町通六軒町東入利生町地先	10/9	GL-1.0～-1.45mでオリーブ褐色砂礫の地山。	18K423	HQ 325	1
宴松原跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町247-44, 247-57	10/26	GL-0.3mまで盛土。	18K475	HQ 359	1
宴松原跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町245-15の一部	12/13	GL-0.23～-0.35mで明黄褐色シルト。	18K541	HQ 440	1
宴松原跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町245-16の一部	12/13	GL-0.39～-0.56mで明黄褐色泥砂(小礫混)。	18K542	HQ 441	1
宴松原跡	上・下長者町通六軒町西入利生町291-8	12/20	GL-0.3mまで盛土。	18K616	HQ 448	1
縫殿寮跡	上・下長者町通土屋町西入二本松町17	7/12・13	GL-0.36mまで盛土。	17K268	HQ 188	1
縫殿寮跡	上・弁天町298～299-5地先	10/22・26	GL-1.2mまで盛土。	18K505	HQ 347	1
左近衛府跡, 聚楽第跡	上・大宮通上長者町下る東堀町615-13	6/28	GL-0.37mまで盛土。	18K122	HQ 161	1
左近衛府跡, 聚楽第跡	上・東堀町地先	10/23	GL-1.25～-1.56mでオリーブ褐色泥砂。	18K490	HQ 354	1
左近衛府跡, 聚楽第跡	上・下長者通大宮西入東辰巳町地先	12/12	GL-2.0mまで盛土。	18K531	HQ 436	1
職御曹司跡	上・金馬場町170-6～170-1地先	7/13～23	GL-1.05mまで盛土。	18K156	HQ 191	1
職御曹司跡	上・天秤丸町193-3～193-6地先	10/3～18	GL-0.55mまで盛土。	18K443	HQ 316	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
内裏跡	上・弁天町301～弁天町301-13 地先	4/10～20	GL-0.7mまで盛土。	18K019	HQ017	1
内裏跡	上・土屋町通出水上弁天町305-1	5/22	巡回時掘削終了。	18K060	HQ097	1
内裏跡	上・弁天町300-2～300-11 地先	10/24～11/7	GL-0.6mまで盛土。	18K504	HQ357	1
内裏跡	上・弁天町308-3～308-5 地先	11/7・8	GL-0.4mまで盛土。	18K506	HQ383	1
内裏跡, 聚楽遺跡	上・千本通下立売下る小山町908-95の一部, 914の一部, 下立売通千本東入下る中務町489-62の一部	4/9	GL-0.15～-0.26mで暗褐色泥砂。	17K816	HQ011	1
内裏跡, 聚楽遺跡	上・千本通下立売下る小山町908-95, 914-1, 下立売通千本東入中務町489-62	5/14	GL-0.4mまで盛土。	18K078	HQ080	1
内裏跡, 聚楽第跡	上・東神明町270-1～田村備前町 地先	10/17	GL-0.5mまで盛土。	18K444	HQ344	1
内裏跡, 聚楽遺跡	上・下立売通千本東入田中町477-18	11/28・29	GL-0.4mまで盛土。	18K526	HQ413	1
内裏跡, 聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町490-3	12/6・7	GL-0.42mでにぶい黄褐色泥砂。	18K602	HQ425	1
内膳司跡	上・出水通千本東入尼ヶ崎横町350-3	4/13, 5/7	GL-1.06mでにぶい黄褐色シルト, -1.25mで黒褐色シルト, -1.40mでにぶい黄褐色シルト, -1.64～-1.77mで灰黄褐色粘質土。	17K299	HQ026	1
真言院跡	上・下立売通千本西入稲葉町436-1	5/11	GL-0.3mまで盛土。	17K790	HQ032	1
南所跡, 聚楽第跡	上・田村備前町243-3～田村備前町201 地先	4/16・17・18・20	GL-0.4～-0.7mで黒褐色粘土の近世包含層(土師器皿, 近世陶器)。	18K020	HQ033	1
造酒司跡, 鳳瑞遺跡	中・聚楽廻松下町12-37の一部, 12-40	6/21	GL-0.44mで灰黄褐色泥砂。	18K130	HQ148	1
左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町9-16	10/16・17	GL-0.26～-0.38mで浅黄色砂質土の地山。	18K139	HQ337	1
左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町9-17	10/16・17	GL-0.22mまで盛土。	18K140	HQ338	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町104-3	4/6	巡回時掘削終了。	17K852	HQ009	1
豊楽院跡, 聚楽遺跡	中・聚楽廻中町53-3	12/21	GL-0.42mで暗褐色シルト, -0.53mで明黄褐色シルトの地山。	18K650	HQ449	1
豊楽院跡, 聚楽遺跡	中・聚楽廻中町46-1 地内	12/26	GL-1.5mまで盛土。	18K543	HQ452	1
朝堂院跡, 聚楽遺跡	中・聚楽廻中町43-8	8/8	GL-0.3mまで盛土。	18K329	HQ226	1
朝堂院跡, 聚楽遺跡	中・聚楽廻中町53-9	10/15	GL-0.25mまで盛土。	18K414	HQ335	1
内舎人跡, 聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町490-24	6/11	GL-0.57mまで盛土。	18K055	HQ129	1
内舎人跡, 聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町490-23	8/20	GL-0.3mまで盛土。	18K322	HQ237	1
主水司跡, 二条城北遺跡	上・主税町914～936 地先	9/5, 11/12	巡回時掘削終了。	18K407	HQ265	1
大膳職跡, 二条城北遺跡	上・一丁目839-4～842 地先	6/5～7/4	GL-0.44mでにぶい黄褐色砂泥の近世包含層, -0.6～-0.8mで黒褐色砂泥(炭含)。	18K157	HQ111	1
大膳職跡, 二条城北遺跡	上・三丁目672-1, 左馬松町775, 778, 南伊勢屋町756-2	6/13	GL-0.65mで明黄褐色粗砂～砂礫, -0.82mで明黄褐色シルト(よく締まる), -1.03～-1.35mまでにぶい黄褐色シルト(よく締まる)。	17K777	HQ132	1
大膳職跡, 二条城北遺跡	上・松屋町通丸太町上る三丁目669-1	8/6	GL-0.65mまで盛土。	18K331	HQ220	1
大炊寮跡, 二条城北遺跡	上・左馬松町792-1～792-2 地先	9/26	GL-0.35mで褐色シルトの地山を切ってにぶい黄褐色シルトの時期不明土坑(土師器皿)。	18K044	HQ306	1
大炊寮跡	上・丸太町通黒門東入薬屋町535-125	12/10	GL-0.6mまで盛土。	18K619	HQ428	1
太政官跡, 聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町1038-1	8/29	GL-0.53mまで盛土。	18K276	HQ255	1
太政官跡, 聚楽遺跡	上・竹屋町通千本東入主税町 地先	9/3～10/23	GL-0.3mで褐色泥砂, -0.35m～-0.65mで黄褐色シルトの地山。	18K387	HQ262	1
太政官跡, 聚楽遺跡	上・竹屋町通千本東入主税町 地先	9/3・14, 10/18・19	GL-0.9mまで盛土。	18K386	HQ261	1
治部省跡	中・西ノ京内畑町9の一部	9/10・11	GL-0.3～-0.35mで灰黄褐色泥砂。	18K353	HQ271	1
式部省跡	中・西ノ京小堀町2-59	12/25	GL-0.44～-0.55mで黄色砂礫の地山。	18K658	HQ451	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊八町跡, 内膳町遺跡	上・小川通一条下る小川町203他	7/2・10・ 13	GL-1.19で灰黄褐色泥砂の近世包含層, -1.6mで灰黄色砂礫, -1.9~-2.76mで黄灰色砂礫の地山。	18H058	HL 168	2
北辺三坊三町跡, 内膳町遺跡	上・元土御門町地内	8/8・24	GL-0.15mで暗褐色砂礫シルト, -0.33mで褐色粘土質シルト(炭化物多量, 火事痕跡)の近世~近代包含層, -0.48mでにぶい黄褐色礫混粘土質シルトの近世整地層, -0.55mでにぶい黄褐色礫混シルト(拳大礫多量), -0.85mでにぶい赤褐色シルト(焼土多量含)の近世包含層, -1.0~-1.3mで黒褐色礫混シルトの中近世包含層。	18H187	HL 227	3
一条二坊十三町跡	上・榎木町通油小路東入東魚屋町355-1, 355-3	11/26	GL-0.3mまで盛土。	18H577	HL 408	2
一条三坊五町跡, 旧二条城跡	上・室町通榎木町上る武衛陣町232	8/24・27, 9/6・10	GL-0.48mで暗褐色礫混シルト(貝殻)の近世包含層, -0.83mで黄褐色粘土質シルトの時期不明整地層, -1.05mで暗褐色シルト混砂礫, -1.17~-1.47mでオリーブ褐色砂礫。	18H213	HL 252	3
一条三坊十五町跡, 新在家構え跡, 旧二条城跡	上・京都御苑13の一部	8/20・21・ 28, 9/3・ 5・19・25・ 26・27・ 28, 10/10	No.7 ; GL-0.51~-0.79mで暗灰黄色泥砂の近世包含層。No.11 ; GL-0.16mで褐灰色砂質土, -0.29mでにぶい黄褐色砂質土(固く締まる)の時期不明整地層, -0.39mでにぶい黄色砂質土(固く締まる)の時期不明整地層。	18H001	HL 238	4
二条二坊四町跡, 二条城北遺跡	上・大宮通榎木町下る一丁目841, 843, 843-1	9/14・19, 11/8	GL-0.52mで近世包含層, -0.68mでにぶい黄褐色泥砂の地山を切って近世土坑, -0.99mで黄橙色シルトの地山, -1.37~-1.91mで明黄褐色砂礫の地山。	18H311	HL 284	2
二条二坊八町跡, 二条城北遺跡	上・堀川通丸太町上る上堀川町133	7/12・17・ 18・19・ 23・25・26	No.2 ; GL-0.76mでにぶい黄褐色泥砂(炭化物含), -0.86~-1.55mでオリーブ褐色砂礫の地山を切って灰黄褐色粘質泥砂(拳大礫混)の近世土坑。	18H198	HL 187	2
二条二坊十・十五町跡, 高陽院跡, 二条城北遺跡	中・油小路通丸太町下る大文字町50他	6/13	GL-0.4mで近代焼土層, -1.0~-1.7mで近世包含層。	17H642	HL 138	2
二条三坊二町跡	中・新町通丸太町下る大炊町215-1他	5/21, 7/23	GL-1.0mまで盛土。	18H125	HL 094	3
二条三坊三町跡	中・釜座通竹屋町下る亀屋町327-1, 327-4, 弁財天町297	8/23	GL-0.6mまで盛土。	18H152	HL 248	3
二条三坊七町跡	中・丸太町新町大炊町186, 188	9/13・14・ 19	GL-1.52mで灰色泥砂の平安前期包含層, -1.71~-1.9mで灰色粗砂。	18H210	HL 283	3
二条三坊十一町跡, 烏丸丸太町遺跡	中・両替町通夷川上る松竹町134	6/8~28, 7/10	No.1 ; GL-1.08mで黄褐色砂泥, -1.26~-1.42mで灰黄色砂泥。No.2 ; GL-0.72mで近世焼土層, -0.95~-1.23mで浅黄色粗砂。	18H066	HL 116	3
二条四坊二町跡, 烏丸丸太町遺跡	中・間之町通竹屋町上る大津町655- 2, 東洞院通丸太町下る三本木町 440-1	4/10・12・ 20・23・24	GL-0.5mで明赤褐色焼土(瓦含), -0.59mでにぶい黄褐色泥砂, -0.67mでにぶい黄褐色泥砂, -0.72mで黒褐色泥砂(土師器, 炭化物含)の近世包含層, -0.89mでオリーブ褐色泥砂(拳大礫多量, 染付, 炭化物含)の近世包含層。	17H690	HL 019	3
二条四坊五町跡, 烏丸丸太町遺跡	中・高倉通二条上る天守町764	4/10・16・ 20, 5/1	GL-1.95mまで盛土。	17H359	HL 018	3
二条四坊十町跡, 烏丸丸太町遺跡	中・四丁目180 地先(裁判所前 西行)	5/23	GL-0.7~-1.15mで灰黄褐色粘質土の近世包含層。	17H838	HL 098	3
二条四坊十三町跡	中・御幸町通二条上る達磨町609, 610	9/21・27・ 28, 10/1	GL-1.85~-2.87mで暗褐色砂礫の地山を切って灰黄褐色粗砂(礫混)の室町土坑(土師器)。	18H242	HL 295	3
二条四坊十五町跡, 烏丸丸太町遺跡	中・富小路通丸太町下る榎屋町~麩 屋町通丸太町下る舟屋町 地先	5/31~ 11/22	No.3 ; GL-0.92mで褐灰色粗砂, -1.1~-1.27mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層。No.4 ; GL-0.82mで黄色泥砂, -1.1mでオリーブ色粗砂, -1.45~-2.1mで灰オリーブ色砂礫の地山。	18H137	HL 109	3
三条一坊一・二町跡	中・西ノ京北聖町68-5の一部	10/9	GL-0.4mで黒褐色礫混シルトの近代包含層。	18H480	HL 326	2
三条二坊四町跡	中・新シ町通姉小路下る上一文字町 305-1, 307	5/23・24	GL-0.65mまで盛土。	18H006	HL 099	2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条二坊五町跡	中・岩上通姉小路下る上八文字町476	6/8・11	GL-0.48mで黄褐色泥砂の時期不明整地層, -0.52mで灰黄褐色泥砂の時期不明整地層, -0.66mで黄褐色泥砂の時期不明整地層, -0.69m で灰黄褐色泥砂の時期不明整地層, -0.8mで灰白 色泥土の時期不明整地層, -0.91~-1.25mまで黄 褐色シルト(礫混)の地山。	18H021	HL 115	2
三条二坊十四町跡	中・壺屋町457-2	8/23, 9/10・ 13・20, 10/1・4	GL-1.53mで暗オリーブ褐色砂礫を切って暗オ リーブ褐色砂礫(拳大礫多量含)と暗灰黄色粗砂の 近世以降土坑, -1.58mで褐色泥砂(焼土, 炭含) の近世包含層, -1.93~-2.03mで灰褐色泥砂。	18H303	HL 249	2
三条三坊二町跡	中・釜座通押小路下る下松屋町724- 3他	5/17・24	GL-0.35mで淡黄色細砂の時期不明包含層, -0.67mにぶい黄褐色細砂(礫混), -0.91~-2.27m で黒褐色礫混粘質土。	17H795	HL 086	3
三条三坊二町跡	中・釜座通二条下る上松屋町704, 704-6	6/11・14・ 18	No 1 ; GL-0.47mでにぶい黄褐色泥砂(礫混), -0.94mで灰黄褐色泥砂, -1.11mで明赤褐色泥砂 (炭含), -1.36mで灰黄色粗砂, -1.63mで黄褐色 泥砂, -1.85mで黄灰色泥砂の中世包含層(土師 器), -1.88mで灰白色粗砂, -1.91m~-2.02mで 黄色シルトの地山。	17H765	HL 128	3
三条三坊四町跡	中・西洞院通姉小路下る姉西洞院町 524, 524-1, 525, 525-1, 525-2	5/23・24・ 30	No 2 ; GL-1.15mで暗灰黄色粘質土の室町後半包 含層, -1.34mで暗灰黄色粘質土を切って黄灰色 細砂の土坑, -1.44mでオリーブ褐色礫混粘質土, -1.68~-2.09mで明黄褐色礫混粘質土。No 3 ; GL-1.5~-2.0mで明黄褐色砂礫を切って灰黄褐色 泥砂(上部を径5cm大礫が覆う)の中世土坑。	18H052	HL 100	3
三条三坊五町跡, 烏丸御池遺跡	中・衣棚通姉小路下る突抜町130, 131	6/15・20	GL-1.13mで黄灰色泥砂の近世包含層, -1.73~- 2.08mで暗黄灰色泥砂の近世包含層。	17H818	HL 139	3
三条三坊十町跡, 烏丸御池遺跡, 二条殿御池城跡	中・室町通押小路下る御池之町314 他2筆	6/12・27, 7/18~26, 8/22・31	GL-3.02~-3.6mで明黄褐色砂礫の地山。	17H743	HL 130	3
三条三坊十三町跡, 烏丸御池遺跡	中・烏丸通三条上る場之町604	4/2	GL-1.28~-1.42mで黄灰色泥砂(炭化物含)の近世 包含層。	17H763	HL 001	4
三条三坊十三町跡, 烏丸御池遺跡	中・烏丸通姉小路下る場之町586-2外, 姉小路通東洞院西入車屋町245-2外, 東洞院通三条上る曇華院前町451-4外	4/17	GL-3.0m程で石仏頭部を検出。	15H092	HL 041	4
三条四坊一町跡	中・東洞院通二条下る瓦之町382-1, 384	11/12・ 19・20	GL-1.24mで明黄褐色粘質土, -1.1mで暗灰黄色 粘質土の時期不明包含層(土師器, 黒色土器, 瓦, 上面非常に固く締まる), -1.33~-1.34mでオリ ーブ黄色粘質土(炭化物少量含)の時期不明包含層。	18H569	HL 389	3
三条四坊二町跡	中・東洞院通押小路下る船屋町399, 401, 押小路通高倉西入左京町124-1	12/10・11	GL-1.2mまで盛土。	18H583	HL 430	3
三条四坊七町跡, 烏丸御池遺跡, 等持寺跡	中・御所八幡町他	4/26~5/24	GL-1.00~-1.60mで黒色泥砂(粘性有)。	18H057	HL 058	3
三条四坊七町跡, 等持寺跡	中・堺町通押小路下る扇屋町646	10/29, 11/5・12・ 19・29	GL-0.67mで黒褐色砂泥(拳大礫混), -1.01mで灰 黄褐色泥砂の中世包含層(土師器), -1.46~-1.86m で黄褐色泥砂(微砂混)。	18H084	HL 362	3
四条一坊一町跡	中・壬生朱雀町25-13	10/22	GL-0.66mで灰黄褐色泥砂, -0.93mで灰オリーブ 色粗砂の地山, -1.1~-1.33mで明褐色砂礫の地山。	18H393	HL 349	4
四条二坊三町跡	中・猪熊通蛸薬師下る下瓦町588, 590	6/21・25	GL-0.21~-0.39mで灰黄褐色泥砂。	18H081	HL 144	4
四条二坊四町跡	下・黒門通四条上る立中町~堀川通 三条下る下八文字町地先	8/3, 12/4	GL-1.1mまで盛土。	18H327	HL 218	4
四条二坊九町跡	中・油小路通三条下る三条油小路 町165, 165-1, 168-1	4/11・23	GL-1.42~-1.62mで褐色シルトの近世包含層。	17H643	HL 020	4
四条二坊十四町跡	中・錦小路通油小路東入空也町487	5/9・10・ 14・16・ 17	No 3 ; GL-1.22mで暗灰黄色泥砂, -1.6mで黄灰 色泥砂の時期不明包含層を切って黒褐色泥砂の時 期不明土坑, -2.06~-2.15mでにぶい黄色シルト を切って黄褐色砂泥の時期不明ピット。	17H725	HL 073	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
四条二坊十四町跡	中・古西町452, 空也町498	6/13	GL-0.61mで灰黄褐色泥砂, -0.9mで黄灰色泥砂, -1.1~-1.51mで灰白色砂礫の地山。	17H233	HL 133	4
四条三坊一町跡	中・柳水町81, 81-1, 80-6の一部	11/16	GL-0.91mで淡黄色細砂の地山。	18H532	HL 401	5
四条四坊二町跡, 烏丸御池遺跡	中・藤屋町187-3	4/16・18	GL-1.35mまで盛土。	17H850	HL 034	5
四条四坊七町跡	中・高倉通六角下る和久屋町357, 357-2	6/14	GL-0.65mまで盛土。	18H092	HL 137	5
四条四坊十四町跡	中・寺町通蛸薬師下る円福寺前町278	12/18・21	No.1 ; GL-0.96mで褐灰色泥砂, -1.2mで黄褐色細砂を切って褐灰色泥砂の時期不明土坑。No.2 ; GL-1.14~-1.35mでオリブ褐色粗砂の時期不明包含層。	18H431	HL 446	5
四条四坊十六町跡	中・御幸町通三条下る八百屋町111-1	6/5	GL-0.7mまで盛土。	17H699	HL 112	5
五条二坊四町跡	下・高辻大宮町138	10/30	GL-0.97mで明黄褐色砂泥の地山, -1.17mで灰色細砂の地山, -1.45~-1.64mで褐色粗砂の地山。	18H447	HL 370	4
五条二坊九町跡, 本禅寺の構え跡	下・醒ヶ井通四条下る高野堂町405-1, 409の一部, 413-1, 415-2, 415-3, 417, 堀川通四条下る四条堀川町272-5, 272-6	9/11・13・14・20, 10/1・15	GL-1.0mまで盛土。	18H150	HL 278	4
五条二坊十六町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通四条下る妙伝寺町713-1, 713-2, 713-3, 713-4, 715, 717	8/29	GL-1.15~-2.7mで明黄褐色砂礫の地山。	17H459	HL 256	4
五条三坊四町跡, だいうすの城跡, 烏丸綾小路遺跡	下・新町通高辻下る御影町467, 469	6/14	GL-2.08~-2.41mで黄色シルトの地山。	18H095	HL 136	5
五条三坊五町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・新町通高辻下る御影町462-3	4/20	GL-1.92mで明黄褐色粘質土の地山。	17H724	HL 049	5
五条三坊十三町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・東洞院通高辻下る燈籠町562他	11/29, 12/13・14・17	GL-0.54mで暗灰黄色泥砂を切ってオリブ黄色泥砂の土坑, -0.73mで灰オリブ色砂泥(固く締まる)を切って黒褐色泥砂と暗灰黄色泥砂(炭化物含)の平安中期土坑(土師器皿), -0.88mでにぶい黄色砂泥, -1.03~-1.12mでオリブ黄色シルト。 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。	18H068	HL 414	5
五条四坊十二町跡	下・麩屋通高辻下る鍵屋町204	4/12・16	GL-0.69mで明赤褐色泥砂の焼土, -0.75mで炭化物層, -0.77mで褐灰色泥砂, -0.82mでにぶい黄褐色砂泥の近世包含層, -1.07mでオリブ褐色砂泥の近世包含層。	17H785	HL 021	5
五条四坊十三町跡	下・寺町通高辻下る京極町485-1・2, 484, 484-2, 486, 486-1, 松原通麩屋町東入石不動之町699-2	10/3~9	GL-1.19mで炭・近世陶器を含む暗灰黄色泥砂の近世層を確認。	18H458	HL 312	5
五条四坊十三町跡	下・寺町通高辻下る京極町494	11/19	GL-0.73mでにぶい黄色粗砂の近世包含層, -0.92mで黄褐色砂泥の近世包含層, -1.24mでにぶい黄褐色泥砂の近世包含層(瓦器), -1.81~-2.11mで灰黄褐色砂礫の地山。	18H415	HL 402	5
六条一坊七町跡	下・中堂寺壬生川町22, 22-1, 23, 38, 42	4/12・19	GL-1.01mで黄褐色シルトの地山, -1.25~-2.21mで褐色砂礫の地山。	16H541	HL 025	4
六条一坊十六町跡	下・上長福寺町244, 245, 216-9	7/2	GL-0.35mまで盛土。	17H457	HL 167	4
六条二坊三・四町跡	下・猪熊通五条下る柿本町671, 699-2	5/1	GL-0.15mまで盛土。	17H678	HL 064	4
六条二坊七町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・五条通堀川西入柿本町575	12/10・11・14	GL-0.82mで暗灰黄色泥砂の中世包含層, -0.93mで浅黄色細砂の地山, -1.23~-1.78mで黒褐色砂礫の地山。	18H243	HL 429	4
六条二坊十一町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・油小路通五条下る中金仏町215-6	9/10	GL-1.67mでオリブ黄色シルトの時期不明整地層, -1.8mで黄灰色シルト, -2.01mで灰白色砂泥, -2.14mで灰色粗砂, -2.22~-2.68mまで浅黄色粗砂~砂礫。	17H829	HL 272	4
六条三坊三町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・楊梅通西洞院東入八百屋町64	7/26・27・30	GL-0.99~-1.31mで灰黄褐色粘質泥砂を切って褐色泥砂(礫混, 炭化物含)の時期不明土坑。	18H283	HL 203	5
六条三坊四町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通五条下る小柳町495-2	10/10・11	GL-0.5mまで盛土。	18H193	HL 329	5
六条三坊七町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・万寿寺通室町西入長刀切町211-1他	4/20, 5/2・15	GL-1.21mで褐灰色粘質土の近世包含層, -1.66~-1.93mで褐灰色粘質土。	17H751	HL 050	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条三坊十町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・室町と新町の間五条上る小田原町232	10/12・ 15・17・ 19	No.2 ; GL-1.55mでオリーブ黄色粘質シルトの時期不明包含層, -2.15mで灰オリーブ粘質シルトの中世包含層(土師器), -2.47mで灰オリーブ粘質土(炭化物含), -2.52~-2.7mでにぶい黄色細砂の地山。No.3 ; GL-1.37mで明黄褐色粘質土, -1.56mで同層を切って灰黄褐色粘質土の中世土坑, -2.06mで黄灰色砂礫の時期不明包含層。	18H237	HL 333	5
六条三坊十町跡, 烏丸綾小路遺跡	下・諏訪町通五条上る高砂町375	11/8・12・ 16	GL-1.36~-1.88mで灰黄色砂質土の地山。	18H534	HL 385	5
六条三坊十一町跡	下・楊梅通室町東入横諏訪町307-2, 309-3	11/15	GL-0.33mで灰黄褐色粘質土(炭化物少量含)の近世後半包含層, -0.66mで褐灰色粘質土, -0.78mでにぶい黄褐色粘質土(上面硬化, 焼土少量含), -0.88~-1.22mで暗灰黄色粘質土(炭化物少量含)。	18H575	HL 397	5
六条三坊十三町跡	下・大坂町397-2, 397-3, 下平野町481-2, 483, 488	5/7・8・15	GL-0.64mで灰色泥土(炭含), -0.94~-1.14mで暗灰黄色砂泥。	18H037	HL 070	5
六条三坊十三町跡	下・下平野町481-3, 483-1	9/28, 10/1・12	GL-1.24mで褐灰色粘質土, -1.9~-2.15mで褐灰色粗砂の地山。	18H366	HL 311	5
六条四坊二町跡	下・万寿寺通高倉西入万寿寺亀屋町182	9/5	GL-0.22mまで盛土。	18H352	HL 266	5
六条四坊四町跡	下・間之町通五条下る二丁目塗師屋町116	12/4	GL-0.18mで明褐色泥砂の焼土層, -0.25mで灰黄褐色泥砂, -0.37~0.41mまで赤褐色泥砂の焼土層。	18H405	HL 423	5
六条四坊七町跡	下・高倉通五条上る亀屋町164, 168, 168-1	10/10	GL-0.7mまで盛土。	18H271	HL 328	5
六条四坊八町跡	下・堺町通松原下る鍛冶屋町244-7, 244-3	11/8	GL-2.48~-2.51mで黄色細砂礫の地山。	18H262	HL 384	5
六条四坊十三町跡	下・高瀬川筋五条下る平居町497, 498-1, 498-2	8/6・7・ 20・24	GL-1.43mで暗灰黄色砂礫の近世流路堆積, -3.13~-1.85mでオリーブ褐色砂礫の流路堆積。	18H153	HL 221	5
六条四坊十五町跡	下・御幸町通五条上る安土町616他	5/7~7/19	鎌倉の落込を検出。本報告22ページ。	17H567	HL 069	5
七条一坊四町跡	下・朱雀正会町6-1の一部	4/25~5/11	GL-1.38mまで盛土。	17H826	HL 056	6
七条二坊十二町跡, 東市跡	下・油小路通七条上る米屋町165, 166	7/3	GL-1.18mで灰色シルト, -1.37mで暗灰黄色砂礫の氾濫堆積。	18H151	HL 171	6
七条三坊十三町跡, 東本願寺前古墓群	下・常葉町754 地先(烏丸七条 北行)	5/21	GL-1.35mまで盛土。	17H839	HL 091	7
七条四坊八町跡, 寺町旧域	下・富小路通五条下る本塩竈町527	8/22	GL-0.98mまで盛土。	18H209	HL 245	7
七条四坊十六町跡	下・加茂川端六軒町西入波止土濃町345, 六軒町通高瀬川筋東入早尾町161	6/18・21・ 22・27	GL-0.45mで暗灰黄色砂泥, -0.63mで黄褐色粗砂, -0.70mで暗灰黄色砂泥, -0.81mでにぶい黄色微砂, -0.97mでオリーブ褐色砂泥, -1.10mで黄褐色砂礫, -2.32~-2.66mで黒褐色砂礫。	17H846	HL 140	7
七条四坊七町跡, 寺町旧域	下・高倉町花屋町下る若松町435-1, 富小路通花屋町下る唐物町437	7/3	GL-1.17mで灰黄褐色砂泥の近代包含層, -1.46~-1.79mで褐色砂礫の地山。試掘調査後の調査。	18H204	HL 172	7
八条一坊一町跡	下・観喜寺町13他12筆	8/30	GL-1.8mまで現代攪乱。	18H124	HL 258	6
八条一坊十五町跡	下・観喜寺町地内	5/18, 11/12	GL-0.95mまで盛土。	17H375	HL 089	6
八条二坊七町跡	下・岩上通木津屋橋下る伊勢松町115-1	8/6・8・9	GL-0.7mまで盛土。	18H192	HL 223	6
八条二坊十町跡	下・油小路木津屋橋下る北不動堂町490-2, 491	10/23~ 11/2	奈良の流路, 平安~江戸のピットと溝を検出。本報告24ページ。	18H205	HL 355	6
八条二坊十三町跡	下・猪熊通三哲下る上夷町152, 154	8/6・8・9	GL-0.9mで暗灰黄色泥砂, -1.12mで黒褐色泥砂の平安後期~鎌倉包含層, -1.36mで暗灰黄色砂泥の平安後期~鎌倉包含層。	18H177	HL 222	6
八条三坊一町跡, 東本願寺前古墓群	下・七条通新町西入夷之町708	8/1・3	GL-1.12mで黒褐色泥砂の近世包含層, -1.57mで灰黄褐色泥砂の近世包含層, -1.91mで暗灰黄色粗砂の氾濫状堆積, -2.08mで黒褐色粗砂の氾濫状堆積, -2.29mで明黄褐色粗砂の地山。	17H652	HL 211	7
八条三坊十五町跡	下・東洞院通塩小路下る東塩小路町地先	6/8	巡回時掘削終了。	18H163	HL 121	7
八条三坊十六町跡, 東本願寺前古墓群	下・七条通烏丸東入真芋屋町218	9/18・20・ 27	GL-1.27mで黄灰色砂礫の地山, -1.62~-2.21mで黄灰色砂礫の地山。	18H396	HL 289	7

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
八条四坊一町跡	下・七条通間之町東入材木町491他	10/4・11・24, 11/7	No.2 ; GL-1.76mで灰黄褐色粘質土, -2.09mで灰黄褐色粘質土(拳大礫多量混), -2.37mでにぶい黄褐色粘質土(礫多量混)を切って黒褐色粘質土の室町土坑(土師器皿, 瓦質釜), -2.65mでにぶい黄色砂礫, -2.8mで浅黄色微砂~シルト, -3.08~-3.2mで明黄褐色細砂。No.3 ; GL-2.2mでオリーブ褐色粗砂を切って黄灰色泥砂(微砂・拳大礫混)と黒褐色泥砂(粗砂含)の鎌倉東西溝状遺構(土師器)。	18H128	HL 318	7
八条四坊九町跡	下・上之町他 地内	7/31	GL-0.8~-1.55mで浅黄色砂礫の地山。	18H234	HL 207	7
八条四坊九町跡	下・西木屋町通七条上る新日吉町137	11/14	GL-0.75~-1.52mでにぶい黄色細砂の地山。	18H439	HL 392	7
八条四坊十六町跡	下・川端町 地内	7/25・27	GL-0.89mでにぶい黄褐色泥砂, -1.68~-2.76mで明褐色砂礫の地山。	18H233	HL 201	7
八条四坊十六町跡	下・七条通木屋町下る大宮町465	10/9	GL-1.23mでオリーブ褐色礫混シルトの近世後期包含層。	18H411	HL 324	7
八条四坊十六町跡, 御土居跡	下・上之町他 地内	11/2	GL-0.35~-0.49mまでオリーブ褐色砂礫の河川堆積。	18H294	HL 374	7
八条四坊十六町跡	下・川端町 地内	11/2	GL-0.35mまで盛土。	18H295	HL 375	7
九条二坊一町跡	南・東寺東門前町70	5/17・18・21・22	No.1 ; GL-0.50mで浅黄色シルトを切って暗灰黄色泥砂と灰色粘質土の室町東西溝。No.2 ; GL-1.17mでオリーブ黒色泥砂の近世包含層, -1.38mで灰色シルトの地山を切って灰色シルトの室町南北溝(底部竹敷く), -1.61~-1.98mで黄褐色粗砂の地山。No.3 ; GL-0.46mで灰黄褐色粘質土, -0.8mでにぶい黄褐色粘質土の平安整地層を切って黒褐色粘質土の時期不明土坑, -0.94mでにぶい黄褐色粘質土の地山, -1.33mで黒褐色粘質シルトの地山, -1.52~-2.21mで浅黄色粘質シルト。	17H779	HL 085	6
九条二坊二町跡	南・東寺東門前町49-1	10/29・31	GL-1.21mで暗灰黄色泥砂, -1.52~-1.74mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	18H388	HL 363	7
九条二坊九町跡	南・西九条池ノ内町60-1の一部, 60-2	11/15	GL-0.46mで黄灰色砂質土(炭ガラ含)の近代包含層, -1.35~-1.63mで黒褐色粘質土。	18H567	HL 396	6
九条二坊十町跡, 烏丸町遺跡, 御土居跡	南・西九条池ノ内町94-3, 94-4	6/27, 7/4	GL-0.16mで褐灰色泥砂(礫混), -0.27mで暗灰黄色粗砂(礫混), -0.37mで黒褐色泥砂の近世包含層, -0.59~-1.99mで黒褐色砂礫と粗砂の互層の氾濫堆積。	17H803	HL 159	6
九条三坊二町跡, 烏丸町遺跡	南・西九条院町24-1	7/11~27	GL-1.53~-2.98mでにぶい黄褐色砂礫の流路堆積。	18H260	HL 185	7
九条三坊十一町跡, 烏丸町遺跡	南・東九条北烏丸町6-6, 6-8	9/27	GL-0.66mで灰黄色粘土の室町包含層, -1.0mで黒褐色粘土, -1.15mで灰白色粘土。	18H474	HL 309	7
九条三坊十三町跡, 烏丸町遺跡	南・東九条烏丸町53 地先(大石橋 東行西詰)	5/22	GL-0.35mで黒褐色粘質土, -0.65mで黄灰色粘質土, -0.8~-1.15mで暗灰黄色細砂混粘質土。	17H837	HL 090	7
九条三坊十四町跡	南・東九条北烏丸町15	5/1・8	GL-0.98mで灰黄褐色粘質土の室町整地層, -1.12mで褐灰色~明黄褐色微砂混粘質土の地山, -1.39~-2.02mでにぶい黄褐色細砂の地山。	17H727	HL 065	7
九条四坊一町跡, 烏丸町遺跡	南・東九条東山王町15-1	5/9	GL-0.66mで灰白色微砂の地山, -0.83~-0.98mで灰色細砂の地山。	17H731	HL 074	7
九条四坊一町跡, 烏丸町遺跡	南・東九条東山王町14-1	5/28	平安末期~鎌倉の東洞院大路東側溝を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。	17H120	HL 104	7
九条四坊十三町跡, 烏丸町遺跡, 九条河原城跡	南・東九条河西町31-3	5/14・18	GL-0.76mで暗灰黄色泥砂, -0.91mで灰白色粗砂, -1.11~-2.40mで明褐色砂礫。	17H730	HL 081	7

平安京右京(HR)

遺 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊四町跡	上・一条通御前西入三丁目西町87-1, 87-2	7/9	GL-0.48mまで盛土。	18H200	HR 182	9
一条二坊七町跡	上・上ノ下立売通御前西入二丁目堀川町527, 527-2	10/30	GL-0.50mでにぶい黄褐色泥砂(小礫混), -0.69mでにぶい黄褐色泥土。	18H340	HR 369	9
一条二坊十四町跡, 御土居跡	中・西ノ京北円町 地内	11/14・16・21・29	GL-0.22mで褐色混礫シルト, -0.4mで褐色混礫シルトの御土居版築堆積, -0.53mで黄褐色混礫シルトの御土居版築堆積, -0.63mで黄褐色混礫シルトの御土居版築堆積, -0.77~-0.81mでオリブ褐色混礫シルトの御土居版築堆積。	18H385	HR 395	9
一条三坊十三町跡	右・花園藪ノ下町2-3の一部	8/22・27	GL-0.35mで黒褐色礫混粘土質シルト, -0.79mで黒褐色細砂〜シルト, -0.89mで黄褐色砂泥の地山, -1.3~-1.96mで黄褐色砂礫の地山。	18H227	HR 246	9
二条二坊三町跡	中・西ノ京冷泉町98-1, 98-2	10/17・19	GL-1.04~-1.47mで黄灰色砂礫の地山。	18H236	HR 342	9
二条二坊七町跡	中・西ノ京平町125	8/28	GL-0.4mまで盛土。	18H181	HR 254	9
二条二坊十町跡, 西ノ京遺跡	中・西ノ京中御門東町103-1	7/23	GL-1.44mまで盛土。	18H191	HR 199	
二条二坊十五町跡, 西ノ京遺跡	中・西ノ京中御門東町1-2, 46	9/13・14・18	GL-1.6~-1.7mで黒褐色泥土。	18H323	HR 287	9
二条四坊三町跡	右・太秦安井藤ノ木町8-3, 8-12, 25の一部	9/10・12	GL-0.2mでにぶい黄褐色泥砂の旧耕作土, -0.46mで黄色シルトの地山を切って黒褐色泥砂の時期不明土坑, -0.63~-0.9mで淡黄色砂礫の地山。	18H326	HR 273	8
二条四坊九町跡	右・太秦安井車道町19-25の一部, 19-26の一部	9/25	GL-0.18~-0.31mで明褐色シルトの地山。	18H395	HR 298	8
二条四坊十四町跡	右・太秦安井辻ノ内町3-1	11/12	GL-0.63~-1.0mで黄色細砂礫の地山。	18H368	HR 390	8
二条四坊十五町跡	右・太秦安井北御所町15	11/21・22・28	GL-0.45mで黒褐色細砂混シルトの平安包含層, -0.55~-1.10mで黄褐色礫混粘土質シルトの地山を切ってピット。	18H399	HR 407	8
三条一坊十一町跡, 壬生遺跡	中・西ノ京東月光町24-1	11/29	平安の溝を検出。本報告35ページ。	18H481	HR 415	9
三条四坊十一町跡	右・山ノ内五反田町9-1の一部	5/16	GL-0.72mで暗灰黄色泥砂, -1.10~-1.42mで明黄褐色シルト。	17H807	HR 083	8
三条四坊十三町跡	右・山ノ内西八反田町4-2	6/20	GL-0.2mまで盛土。	18H098	HR 146	8
三条四坊十三町跡	右・山ノ内西八反田町1-1, 山ノ内五反田町18, 太秦安井一町田町15-2	8/1	GL-4.0mまで盛土。	18H316	HR 212	8
四条一坊二町跡	中・壬生花井町1-4, 1-5, 1-8, 1-9	8/2	GL-0.7mまで盛土。	18H249	HR 216	11
四条二坊十五町跡	右・六角通西大路西入西院西今田町16-23	10/9	GL-0.47mで暗灰黄色礫混シルト, -0.65~-0.7mで黄褐色礫混粘土質シルトの地山。	18H401	HR 323	11
四条三坊七町跡	右・西院春栄町19-8	5/22・23・30	GL-0.93mでにぶい黄褐色シルト, -1.2~-1.81mで明黄褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトと褐灰色シルト(明黄褐色シルトブロック混)の土坑。	17H834	HR 095	10
四条四坊八町跡	右・山ノ内中畑町23-1, 2	10/19	GL-0.5mまで盛土。	18H370	HR 346	10
五条一坊二町跡, 御土居跡	中・壬生高樋町65-6	7/27・31	No.1 ; GL-0.9mで灰色細砂, -1.1mでにぶい黄色泥砂, -1.15mで暗灰黄色泥砂, -1.25m~-1.67mで黄褐色砂礫の地山。No.2 ; GL-0.52mで灰色粘土の旧耕作土, -0.75m~-1.35mで灰黄褐色砂礫の地山。	18H215	HR 204	11
五条二坊十二町跡, 西院遺跡	右・西院平町29-1	8/6・8	GL-0.86mで灰色泥砂の旧耕作土, -1.0~-1.09mで灰黄褐色シルトの時期不明包含層。	18H263	HR 224	11
五条三坊八町跡, 西院城跡(小泉城)	右・西院松井町8-1の一部	11/9	GL-0.88mで灰黄褐色粘質土の時期不明包含層, -1.98~-2.5mで黄色粘質土の地山。	18H554	HR 388	10
五条三坊十四町跡, 西京極遺跡	右・西院日照町105	9/10・11	GL-0.75mまで盛土。	18H048	HR 277	10
五条四坊二町跡	右・西院日照町50, 51, 52-2	6/8・12・20	GL-0.6mで黄色灰色粘質土の近世包含層, -0.73mで暗灰黄色粘質土, -0.89mで黒褐色粘質土, -1.2mで明黄褐色粘質土, -1.57mで明黄褐色砂礫。	17H676	HR 117	10
六条一坊一町跡	下・中堂寺北町7-2	5/10	GL-1.35mまで盛土。	17H451	HR 077	11
六条一坊四町跡	下・中堂寺南町131, 130-1の一部	6/11	GL-0.72mでにぶい黄褐色シルトの時期不明包含層, -0.92mで明黄褐色シルトの地山。	17H756	HR 124	11

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条一坊十町跡	下・中堂寺庄ノ内町34-33	4/12	GL-0.43～-0.61mで暗灰黄色泥砂。	17H828	HR 024	11
六条三坊二町跡, 西院遺跡	右・西院南寿町13-6, 14-2	10/17・ 18・22	GL-0.82mでにぶい黄褐色粘質土, -1.1～-1.31mで褐灰色粘土。	18H428	HR 343	10
六条三坊五町跡	右・西院西溝崎町35の一部	7/17	GL-0.1mまで盛土。	17H815	HR 194	10
六条四坊六町跡	右・西京極東大丸町28	9/7・12・ 14	GL-0.72mで暗灰黄色シルト(炭化物含), -0.86mでオリブ褐色シルト(炭化物含), -0.99mでオリブ褐色シルト(炭化物含), -1.13～-1.29mで黄褐色粘土質シルトの地山。	18H332	HR 270	10
七条一坊十一町跡	下・西七条御領町67-2, 67-3, 68-1, 68-2	10/16・19	GL-1.5mまで盛土。	18H508	HR 341	13
七条二坊五町跡, 西市跡, 衣田町遺跡	下・西七条北西野町2	11/27・28, 12/3	GL-0.54mで灰黄褐色礫混シルトの旧耕作土, -0.71mで暗灰黄色微砂混シルトの近世後期包含層, -0.83mで黄灰色細砂混シルト, -0.96～-1.09mで黄褐色砂礫の地山。	18H269	HR 409	13
七条二坊七町跡, 西市跡, 衣田町遺跡	下・西七条西石ヶ坪町16, 18-1	11/5・9・ 20	GL-1.38～-2.1mで明黄褐色砂礫の地山。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。	18H108	HR 377	13
七条三坊四町跡	下・西七条北月読町66-1	5/30, 6/12	GL-0.59mで旧耕作土, -0.69mで灰黄褐色泥砂, -0.95mで灰黄褐色粗砂, -1.28～-2.16mで黄褐色粗砂の地山を切って褐灰色泥砂の時期不明土坑。	17H789	HR 108	12
七条四坊五町跡	右・西京極東町12-2	10/23～11/30	計画中止。	18H207	HR 356	12
八条四坊三町跡	右・西京極畑田町44-4, 44-5各一部	9/5・7・12	GL-0.57mで旧耕作土, -0.64mで暗灰黄色シルト(炭化物含), -0.7～-1.02mでオリブ褐色泥砂の地山。	18H046	HR 264	12
九条一坊六町跡	南・唐橋花園町51, 51-1	10/31, 11/1	GL-0.24mで黄灰色砂礫, -0.44～-0.62mで黄褐色粗砂。	18H257	HR 372	13
九条一坊九町跡, 西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋門脇町21-5(4号地)	5/21	巡回時掘削終了。	17H281	HR 092	13
九条一坊九町跡, 西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋門脇町21-7(3号地)	9/13	GL-0.29mで黄褐色シルトの地山を切って灰黄褐色シルトの時期不明柱穴。	17H282	HR 286	13
九条一坊十町跡, 西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋門脇町36-16	7/9	GL-0.2m～-0.5mで褐灰色シルトの平安包含層。	18H201	HR 183	13
九条一坊十町跡, 西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋門脇町32-4	10/11	GL-0.1mでにぶい黄褐色粘質土, -1.23～-0.34mでにぶい黄褐色粘質土(礫含)。	18H392	HR 330	13
九条一坊十町跡, 西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋門脇町32-3	12/10	GL-0.18mで暗灰黄色泥砂, -0.26～-0.37mでにぶい黄褐色泥砂。	18H598	HR 431	13
九条一坊十三町跡, 史跡西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋西寺町11	9/3	GL-0.92mまで盛土。	30C039	HR 263	13
九条一坊十五・十六町, 二坊二町跡, 西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋門脇町8-2 地先, 唐橋 平垣町24-2 地先	5/28	GL-0.67mまで盛土。	18H075	HR 106	13
九条一坊十五町跡, 西寺跡, 唐橋遺跡	南・唐橋門脇町11-14	6/12	GL-0.16～-0.26mで旧耕作土。	18H091	HR 131	13
九条二坊四・五町跡, 唐橋遺跡	南・唐橋大宮尻町22	10/30, 11/1	GL-0.35mで黄褐色砂泥(礫混), -0.51mで褐色砂泥, -0.57mで灰黄色砂泥(小礫混), -0.82mで灰黄色微砂, -1.00～-1.46mで灰黄色砂礫。	17H809	HR 368	13
九条二坊十五・十六町跡	南・吉祥院西ノ庄門口町3, 4	9/13・20・ 27	GL-0.56mで旧耕作土, -0.71mで灰色シルトの水成堆積, -0.92mで灰色シルトの水成堆積, -1.26mで暗灰黄色粗砂～砂礫の水成堆積, -1.48mで浅黄色粗砂の水成堆積, -1.79～-2.48mで明黄褐色砂礫の水成堆積。	18H226	HR 285	13
九条三坊二町跡	南・吉祥院西ノ庄東屋敷町120	4/19・20	GL-0.92mで暗灰黄色砂礫の近代包含層, -1.86～-2.38mで橙色砂礫の地山。	17H619	HR 045	12
九条三坊十三町跡	南・吉祥院中河原西屋敷町26の一部	5/28	GL-0.48mで旧耕作土, -0.56mで灰黄褐色泥砂(炭含)の近世包含層。	18H035	HR 105	12

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺北造路町30-6	7/6	GL-0.6mで黒褐色シルトの時期不明包含層， -0.91～-1.12mでにぶい黄褐色シルトの地山。	18S148	UZ 179	23-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺瀬戸川町18-39	9/21	GL-0.39mでにぶい黄褐色泥砂(礫混)の時期不明 包含層，-0.6mで黄色シルトの地山，-0.6～-0.71m でにぶい黄色砂礫の地山。	18S285	UZ 296	23-1
嵯峨遺跡， 宝幢寺境内	右・嵯峨北堀町20-191，20-192 ，20-201，20-202	4/9・10	No.1；GL-0.6mでオリーブ黒色泥砂とオリーブ褐 色泥砂の旧耕作土，-0.92mでオリーブ褐色泥砂， -1.14mで黄褐色泥砂の地山。GL-0.78mでオリー ブ褐色泥砂と黄褐色泥砂の旧耕作土，-1.04～-1.25m でオリーブ褐色泥砂(炭含)の時期不明包含層。	17S810	UZ 012	23-1
嵯峨遺跡， 宝幢寺境内	右・嵯峨北堀町32-3，32-27， 32-28	5/24	GL-0.48mでオリーブ褐色粘質土，-0.75～-0.98m で明黄褐色砂礫混粘質土。	17S525	UZ 102	23-1
嵯峨遺跡， 宝幢寺境内	右・嵯峨北堀町20-248	10/9・10・ 11	GL-0.35～-0.38mで明黄褐色粘質土の時期不明 包含層。	18S389	UZ 327	23-1
鳴滝藤ノ木町古墳	右・鳴滝藤ノ木町3-4	12/18	聞き取り調査と古墳の石材を確認。	18A004	UZ 197	20
常盤柏ノ木古墳群	右・常盤柏ノ木町2-2の一部	6/25	GL-0.3mまで盛土。	17S698	UZ 156	20
常盤柏ノ木古墳群	右・常盤下田町9-6 地内	7/23	GL-1.4～-1.57mで黄褐色泥砂(礫多量含)。	18S228	UZ 198	20
常盤仲ノ町遺跡	右・太秦東蜂岡町9-39の一部	6/8	GL-0.5mまで盛土。	18S104	UZ 122	20
常盤仲ノ町遺跡	右・常盤窪町1-9	8/17	GL-0.7mまで盛土。	18S346	UZ 232	20
西野町遺跡	右・嵯峨野千代ノ道町14-19，14-20	4/13	GL-0.13～-0.23mで黄褐色シルトの地山。	17S844	UZ 027	26-4
太秦馬塚町遺跡	右・太秦開日町21-29の一部	9/12・14・ 20	GL-0.37mで黒色泥土の時期不明包含層，-1.5m で黄灰色泥土の土壌化層，-0.67～-1.2mで黄色 粘質土の地山。	17S772	UZ 281	20
上ノ段町遺跡	右・太秦帷子ノ辻町30-4，36-7の 一部，38-1の一部	5/22・25	GL-1.82～-1.95mで明黄褐色粘質土の地山。	17S646	UZ 096	20
上ノ段町遺跡	右・嵯峨野神ノ木町5-6の一部， 5-9の一部	6/11	GL-0.84mで黄色粗砂の地山。	17S718	UZ 127	26-4
上ノ段町遺跡	右・太秦多藪町5-1，5-3，2-4	9/18	GL-0.61mでにぶい黄色泥砂の旧耕作土，-0.75m で灰黄色シルトの時期不明包含層，-0.81～-0.98m で明黄褐色シルトの地山。	18S351	UZ 290	20
蛇塚古墳	右・太秦面影町21-15，25-31，20-51	11/5	GL-0.3mまで盛土。	18S441	UZ 378	20
広隆寺旧境内， 弁天島経塚(群)	右・太秦東蜂岡町5他，太秦蜂岡町 36-8他	12/3	GL-0.31～-0.74mで黄褐色泥砂の時期不明包含層。	18S551	UZ 418	20
和泉式部町遺跡， 森ヶ東瓦窯跡	右・太秦森ヶ東町4-44	10/15	GL-0.09～-0.33mで黄褐色砂質土の地山。	18S361	UZ 334	20
一ノ井遺跡	右・太秦一ノ井町8-6の一部	8/16	GL-0.43mで旧耕作土，-0.57～-0.81mで明黄褐 色シルトの時期不明包含層。	18S235	UZ 231	20
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町7-1，8，8-2，9-1	9/27	GL-0.25mで灰白色シルトの地山を切って黒色泥 砂と褐灰色シルトの時期不明ピット。	18S435	UZ 307	20

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉大鷲町547，548，549	6/7	巡回時掘削終了。	17S831	RH 118	16-2
深泥池窯跡	左・松ヶ崎大谷	4/5	5地点で遺物採集(須恵器，軒丸瓦)。採集地点は 遺跡外に広がる。	18A002	RH 007	23-2
植物園北遺跡	北・上賀茂向繩手町50～上賀茂豊田 町59 地先	4/9～5/2	GL-0.55mで暗褐色シルト(礫混)，-0.75mで明褐 色シルト(礫混)。	17S842	RH 013	23-2
植物園北遺跡	北・上賀茂向繩手町75～上賀茂松本 町69 地先	4/9～5/16	GL-0.16mで褐灰色シルト，-0.43mで暗褐色シル ト，-0.7mで黄褐色シルトの地山。	17S843	RH 014	23-2
植物園北遺跡	北・上賀茂荒草町33-6～上賀茂石計 町14 地先	4/24・25， 5/2・16・ 18	No.1；GL-0.6～-0.8mまでにぶい黄褐色シルトの 地山。No.2；GL-0.53mで灰色粘質土，-0.66～ -1.20mで灰オリーブ色砂泥(小礫混)。	18S034	RH 051	23-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
植物園北遺跡	左・下鴨前萩町18	6/4・12・ 13・14・19	№2；GL-0.36mで黒褐色礫混シルト、-1.09～-1.73mで黒褐色砂礫。№3；GL-0.18mで黄褐色泥砂の地山、-0.55mで明黄褐色泥砂の地山、-1.41m～-1.89mで灰黄色礫の地山。	17S781	RH 110	23-2
植物園北遺跡	北・上賀茂岡本口町23	6/27・29	GL-0.27mで灰黄褐色泥砂、-0.37～-0.62mで明褐色粗砂の地山。	18S143	RH 160	23-2
船山須恵器窯跡	北・西賀茂今原町25-1	11/26	GL-0.07～-0.12mで黄褐色粘土質シルトの地山。	18S626	RH 410	16-3
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町26-55	12/10	GL-0.26mで褐色泥土、-0.39～-0.49mで明褐色泥土。	18S631	RH 432	16-1
御土居跡	北・紫野花ノ坊町35	10/16・22, 11/6	GL-1.5～-1.87mでにぶい赤褐色粗砂(明黄褐色細砂ブロック含、縮り有)の地山。	16S561	RH 339	16-1
雲林院跡	上・大宮通鞍馬口上る若宮堅町～ 北・紫野雲林院町地先	5/1・8・ 16・18・24	GL-0.8～-0.9mで明黄褐色粘質土(礫多量混)。	18S062	RH 066	16-1 17-1
雲林院跡	北・紫野雲林院町32-5	6/22・25	№1；GL-0.53mで黒褐色泥土、-0.80mでにぶい黄褐色泥土、-1.04～-1.10mで黄褐色砂礫。№2；GL-0.18mで黒褐色泥砂、-0.53～-0.83mでにぶい橙色シルト。	18S090	RH 155	16-1 17-1
寺町旧域	北・鞍馬口通寺町東入北側上善寺門 前町340	4/18	GL-0.3～-0.69mでにぶい黄褐色砂礫混粘質土の地山。	17S344	RH042	17-1
寺町旧域	上・寺町通今出川上る表町34-1, 34-3	9/26, 10/1・4	GL-1.54mでオリブ褐色微砂混泥砂、-1.74mで黒褐色砂礫の氾濫堆積を切って暗オリブ褐色泥砂の近世以降土坑。	18S105	RH 294	17-1
寺町旧域	北・天寧寺門前町297, 298-3	10/22	GL-0.19mでにぶい黄褐色泥砂、-0.37～-0.56mで灰黄褐色泥砂(炭含)の時期不明包含層。	18S498	RH 350	17-1
史跡賀茂御祖神社 境内(下鴨神社)	左・下鴨泉川町59	4/16～23, 5/17～29, 6/12～29, 7/2, 9/3～ 28, 10/2～ 31, 11/2	№2；盛土以下、GL-0.24mで暗灰色黄色砂質土の時期不明包含層、-0.36～-0.38mで明黄褐色砂質土。№6；GL-0.1～-0.13mで築地塀の近世基礎石。№7；GL-0.22mで明黄褐色砂質土の地山。№14；GL-0.27mで灰黄褐色砂泥、-0.44～-0.53mで暗褐色泥砂の中世包含層。№32；GL-0.15mで黄褐色粗砂～砂礫の氾濫堆積と切って灰黄褐色粗砂(大礫多量混)の時期不明土坑。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』に報告。	29N114	RH 036	17-2 21
史跡賀茂御祖神社 境内(下鴨神社)	左・下鴨泉川町59	7/9・10	GL-0.5mで黄色砂礫。	30N009	RH 177	17-2 21
相国寺旧境内	上・下柳原北半町204	10/22・24	GL-1.43～-1.65mでオリブ褐色砂礫。	18S502	RH 351	17-1
室町殿跡 (花の御所)	上・新町通室町通之間上立売下る瓢 箆図子町62-1, 64	7/27	GL-0.2mまで盛土。	18S314	RH 205	17-1
室町殿跡 (花の御所)	上・新町通今出川一丁上る東入中御 霊図子町124-2, 127	9/27	GL-0.3mまで盛土。	18S344	RH 308	17-1
室町殿跡 (花の御所)	上・衣棚通上立売下る瓢箆図子町 地先	9/14	GL-0.4mまで配管攪乱。	18S430	RH 288	17-1
上京遺跡	上・寺之内通大宮東入妙蓮寺前町 340-1, 340-3	4/16	GL-0.1mまで盛土。	17S753	RH 035	16-1 17-1
上京遺跡	上・西堀川通元誓願寺上る門前町 400	6/20・22	GL-0.75mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層、-1.01～-1.30mで黄褐色泥砂(大礫多量混)。	18S123	RH 147	17-1
上京遺跡	上・上立売通堀川西入芝薬師町627	7/17	GL-0.63mで灰黄褐色泥砂(炭化物、土器、染付多量含)の近世後期包含層、-0.79mで黒褐色泥砂(砂流含、固く締まる)の室町包含層、-1.08～-1.29mで灰黄褐色粘質土(拳大礫多量含)の室町包含層。	18S282	RH 193	17-1
上京遺跡	上・元新在家町地内	9/19・20	GL-1.05mまで盛土。	17S603	RH 293	17-1
上京遺跡, 世尊寺跡	上・五辻通大宮西入五辻町43-1	9/5	GL-0.6mまで盛土。	18S296	RH 267	16-1 17-1
公家町遺跡	上・京都御苑(京都御所内)	6/14～10/1	GL-2.17mまで盛土。	18H184	RH 135	17-1
北野遺跡, 北野廃寺	北・北野下白梅町地先	6/21	GL-0.20mで灰黄褐色泥砂、-0.48mで黒褐色砂泥、-0.80～-1.80mで浅黄色砂礫の地山。	18S174	RH 150	16-1
北野遺跡, 北野廃寺	北・北野下白梅町29	4/24	GL-0.1mまで盛土。	17S841	RH 053	16-1
北野遺跡, 北野廃寺	北・北野下白梅町16-4	6/29	GL-0.28mで黄褐色シルト、-0.43mに黒色シルト、-0.73～-0.98mで黄褐色砂礫。	18S231	RH 165	16-1

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北白川廃寺	左・北白川大堂町地先(京都市道)	6/28	GL-0.55mで黒褐色泥砂(微砂混)の湿地状堆積, -1.04~-1.58mで黄褐色粗砂。	18S061	KS 162	21
北白川廃寺, 池田町古墳群, 小倉町別当町遺跡	左・北白川上別当町~北白川下池田町地内	4/17~ 11/20	No.2 ; GL-0.3~-0.5mで黒褐色泥砂の時期不明包含層。No.4 ; GL-0.18mで灰色細砂の耕作土, -0.3~-0.5mでにぶい黄褐色粗砂の近世包含層。No.7 ; GL-0.43mでにぶい黄褐色砂泥の地山を切つてにぶい黄褐色砂泥の時期不明土坑。	17S663	KS 040	21
池田町古墳群 小倉町別当町遺跡	左・北白川上池田町3 左・北白川下別当町26の一部	8/1 11/5・6・7	GL-0.36mまで盛土。 No.1 ; GL-0.3mでにぶい黄褐色泥砂の鎌倉包含層, -0.71mで黒褐色泥砂の弥生包含層, -1.05mで黒褐色泥砂, -1.24mで黒褐色細砂~粗砂, -1.44~-1.64mで明黄褐色粗砂(白河砂)。No.2 ; GL-0.42mで灰黄色泥砂の時期不明包含層, -0.64mで黒褐色泥砂の弥生包含層, -1.27~-1.53mで褐色粗砂(白河砂)。	18S264 18S503	KS 214 KS 379	21 21
吉田橋町遺跡, 聖護院川原町遺跡	左・吉田下阿達町~吉田橋町地先	4/24~5/24	GL -0.76~-1.1mでオリブ黄色粗砂の氾濫堆積。	18S045	KS 052	21
聖護院川原町遺跡	左・聖護院川原町地内	9/25~11/12	巡回時掘削終了。	17S604	KS 300	21
得長寿院跡, 白河街区跡, 岡崎遺跡	左・岡崎徳成町6-1, 6-8	8/22・23	古代末~中世のピット群を検出。 本報告57ページ 。	18R225	KS 243	21
得長寿院跡, 白河街区跡, 岡崎遺跡	左・岡崎徳成町5	9/27	GL-0.63mまで盛土。	18R254	KS 299	21
得長寿院跡, 尊勝寺跡, 白河街区跡, 岡崎遺跡	左・岡崎徳成町~岡崎西天王町地先	9/12・13・ 20・26・ 28, 10/4	GL-0.57mで褐灰色砂質土の時期不明包含層, -0.7mで黒色細砂の中世包含層(白磁, 瓦), -0.95~-1.1mで灰白色微砂の地山。	18R424	KS 282	21
尊勝寺跡 白河街区跡, 岡崎遺跡	左・岡崎西天王町82-2, 74-25	6/28	GL-0.36mで褐灰色砂質土の旧耕作土, -0.6~-1.08mでにぶい黄褐色細砂(上面マンガン沈着, ラミナ状堆積)。	18R238	KS 163	21
延勝寺跡, 岡崎遺跡	左・岡崎成勝寺町3-2	11/16	GL-1.92mで浅黄色シルトの地山。	18R083	KS 400	21
円勝寺跡, 岡崎遺跡	左・岡崎円勝寺町124(岡崎公園内)	4/6・9	2014年度京都市美術館発掘調査の堀27の延長部と考えられる東西溝を検出。 本報告59ページ 。	13R450	KS 010	21
法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町1の一部	8/31	GL-0.6mまで盛土。	18R244	KS 260	21
法勝寺跡, 岡崎遺跡	左・岡崎天王町62-30	12/19	GL-0.45mまで盛土。	18R601	KS 447	
白河街区跡	左・聖護院西町19	11/13・15	GL-2.08mで灰オリブ色粘質土の地山。	18S321	KS 394	21
白河街区跡	左・聖護院中町9-2	7/12	GL-0.2mまで盛土。	18S111	KS 189	21
白河街区跡	左・黒谷町21-1, 21-2	4/16	GL-0.27~-0.63mで淡黄色砂礫土の地山。	17S794	KS 037	21
白河街区跡, 岡崎遺跡	左・岡崎徳成町18-5の一部	9/28	GL-0.45mまで盛土。	18R416	KS 313	21
御土居跡	上・寺町通清和院口上る二丁目北之辺町394-10, 394-20, 御車道通清和院口上る九軒町445, 445-4	7/2	GL-0.8mまで盛土。	18S182	KS 169	17-3

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
御土居跡, 寺町旧域	中・寺町通御池下る下本能寺前町522-18, 19, 20	7/19	GL-4.77mまで攪乱。	18S077	RT 196	22
寺町旧域	中・寺町通御池下る下本能寺前町521-1	4/17・18・23	GL-1.25mで暗オリーブ褐色泥砂(土師器含)の近世包含層, -1.33~-1.53mで黄褐色砂礫の地山。	17S463	RT 039	22
寺町旧域	中・寺町通御池下る下本能寺前町521, 521-1	6/7	GL-1.05mまで盛土。	17S464	RT 120	22
寺町旧域	中・三条通寺町東入石橋町26	7/6~8/17	GL-2.9mで黄褐色砂礫の地山。	18S146	RT 180	22
御土居跡	下・河原町通松原上る二丁目富永町354-2他	8/23	GL-0.72~-2.39mでオリーブ褐色砂礫の河川堆積。	18S158	RT 250	22
祇園遺跡	東・四条通大和大路東入祇園町北側347-83	10/19	GL-2.35mで明黄褐色細砂の地山。	18S080	RT 345	22
建仁寺境内	東・大和大路通四条下る四丁目小松町142-1他	4/18・19, 5/22, 7/4	GL-0.3mまで盛土。	17S840	RT 043	22
法観寺旧境内	東・金園町339, 401, 411, 388-6	5/7・8	GL-0.35mで明黄褐色細~中砂の地山を切って黄褐色砂泥とオリーブ褐色泥砂の近世土坑, -0.56~-0.65mで黄褐色砂礫の地山。	17S752	RT 071	22
六波羅蜜寺境内	東・六波羅裏門通東入多門町159	4/4	GL-0.10mまで盛土。	17S762	RT 006	22
六波羅政庁跡	東・松原通大和大路東入弓矢町地先	9/11~20	GL-0.75~-0.9mで黄色粗砂。	18S409	RT 280	22
六波羅政庁跡	東・本町通五条上る森下町535	10/16	GL-0.4mまで盛土。	18S355	RT 340	22
六波羅政庁跡	東・五条橋東二丁目7	7/4	GL-0.7mまで盛土。	18S173	RT 178	22
六波羅政庁跡	東・鞆町通五条下る鞆町一丁目396	5/29	GL-1.1~-1.4mで灰黄色砂礫の地山。	18S030	RT 107	22
六波羅政庁跡	東・建仁寺五条下る一丁目東入芳野町79-2, 115, 455	7/18	GL-2.55mで灰オリーブ色シルトの地山。	17S446	RT 195	22
六波羅政庁跡	東・正面通本町西入正面町298	7/12~30, 8/6~24, 9/14	GL-1.4mで黄灰色泥砂の近世包含層, -1.51mで明黄褐色砂泥の地山, -1.65~-1.77mで灰黄褐色粗砂の地山。	18S183	RT 186	22
六波羅政庁跡	東・本町新五丁目153, 155-2, 157-2	8/1・6・13・24	GL-0.6~-0.88mで黄橙色シルト(径2~3cm大礫混)の地山を切って暗灰黄色砂泥(炭少量含)とオリーブ褐色砂泥の江戸落込。	18S313	RT 213	22
六波羅政庁跡	東・鞆町通七条上る下堀詰町233	4/25, 5/2・15・22	GL-0.2mで灰オリーブ色粗砂, -1.09mで灰色砂礫の氾濫堆積, -1.79mで黄色砂礫の氾濫堆積。	17S832	RT 057	22
六波羅政庁跡, 音羽・五条坂窯跡	東・五条橋東五丁目471	6/29, 7/17・18	GL-0.13mで9段積みの石垣(音羽川南岸護岸), -1.9mで黒褐色粗砂(焼土含), -2.3mで黒褐色シルト。	18S149	RT 166	22
音羽・五条坂窯跡	東・五条橋東五丁目地先	4/16・27	GL-0.3mで黒褐色砂混粘質土, -0.55~-0.75mで褐灰色粘質土の近世包含層。	18S026	RT 038	22
鳥部(辺)野妙法院境内, 法住寺殿跡	東・清閑寺池田町地先	8/27~9/20	GL-1.3mまで盛土。	18S277	RT 253	22
法住寺殿跡	東・常盤町他地先	8/2・6	GL-1.6mまで盛土。	17S370	RT 217	22
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り642, 654, 657	8/30	巡回時掘削終了。	18S017	RT 259	22
法住寺殿跡	東・今熊野池田町~大和大路通塩小路下る南瓦町地先	9/21~27, 10/2・12	GL-0.9mまで盛土。	18S440	RT 297	22
法住寺殿跡	東・大仏南門通大和大路東入三丁目本瓦町656-5・17	7/31, 8/15, 9/21	GL-1.22~-1.75mで明黄褐色シルトの地山。	18S154	RT 208	22
法住寺殿跡	東・今熊野宝蔵町~南瓦町地内	10/1・2・4	GL-1.55mまで盛土。	18S301	RT 314	22
法性寺跡, 今村城跡	東・本町十二丁目236--31他	6/8・11・13	GL-0.87mまで盛土。	17S799	RT 123	24-2
法性寺跡, 月輪遺跡	東・本町十五丁目他地内	4/26~9/14	No.1; GL-0.6~-0.92mで黄橙色シルト層の地山。No.5; GL-0.4~-1.5mでにぶい黄褐色泥砂の地山。	17S695	RT 059	24-2
法性寺跡	東・本町十九丁目418-4	9/25~27	GL-0.2mまで盛土。	18S338	RT 301	24-2
法性寺跡	東・福稲下高松町13-2の一部	10/12	GL-0.25mまで盛土。	18S292	RT 332	24-2
山科本願寺跡(寺内町遺跡)	山・西野離宮町16-11	4/2・4・6	GL-0.67mで灰オリーブ色泥土の旧耕作土, -0.84~-0.97mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層。	17S685	RT 002	25-1
山科本願寺跡(寺内町遺跡)	山・西野山階町12-13の一部	10/30	GL-0.85mまで盛土。	18S466	RT 367	25-1
山科本願寺南殿跡	山・伊勢崎宿町32-11	8/20	GL-0.22mでにぶい黄褐色礫混シルト(炭含)。	18S362	RT 239	27-2
山科本願寺南殿跡	山・伊勢崎宿町32-11	8/7	GL-0.39~-0.53mで暗褐色泥砂。	18S356	RT 225	27-2
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-11	8/17	GL-0.4mまで盛土。	18S176	RT 236	27-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-78	4/13・16	GL-0.35～-0.42mでにぶい黄褐色泥砂(礫混)。	17S744	RT 028	27-2
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町34-43	8/17	No 1 ; GL-0.21mで旧耕作土, -0.51～-0.6mで黒褐色泥土(礫多量混)。	18S372	RT 235	27-2
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町34-42	8/17	GL-0.27mまで盛土。	18S333	RT 233	27-2
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町26-5	7/12・13	No 1 ; GL-0.2mでにぶい黄褐色泥砂, -0.42～-0.7mで褐色泥砂を切って灰黄褐色泥砂の時期不明溝。No 2 ; GL-0.48mでにぶい黄褐色泥砂, -0.69～-0.8mで明黄褐色泥砂。	18S312	RT 190	27-2
中臣遺跡	山・東野舞台町48-8	12/17	GL-0.2mまで盛土。	18N559	RT 445	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町47-11	8/21	GL-0.3mまで盛土。	18N384	RT 244	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町47-8	8/3	GL-0.4mまで盛土。	18N317	RT 219	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町48-9	9/25	GL-0.3mまで盛土。	18N381	RT 302	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町48-10	7/31	GL-0.35mまで盛土。	18N318	RT 209	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町47-3, 47-6	9/6	GL-0.35mまで盛土。	18N342	RT 269	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町48-15	10/22	GL-0.3mまで盛土。	18N336	RT 352	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町	9/25	GL-0.3mまで盛土。	18N454	RT 303	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町58-5, 59-4	7/31	GL-0.35mまで盛土。	17N793	RT 210	25-3
中臣遺跡	山・西野山中臣町	11/5	GL-2.4mまで盛土。	17N560	RT 380	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺東栗栖野町18-23	6/11	GL-0.26～-0.38mまで褐色シルト(よく締まる)。	17N708	RT 126	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺西栗栖野町270	10/29・30	GL-0.29～-0.45mで黒褐色泥土。	18N308	RT 365	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺西栗栖野町270	10/29～11/2	盛土のみ, 現状確認。	18N310	RT 366	25-3
中臣遺跡	山・栲辻番所ヶ口町188, 189	12/10・11・14	GL-0.38mまで盛土。『京都市内遺跡試掘調査報告平成30年度』に報告。	18N289	RT 433	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺東金ヶ崎町6, 13	8/23	GL-0.23mまで盛土。	18N079	RT 251	25-3
中臣遺跡	山・勸修寺東金ヶ崎町101	7/3	GL-0.3mまで耕作土。	18N232	RT 173	25-3
中臣遺跡, 中臣十三塚	山・西野山中臣町71-19	10/26	GL-0.16mまで盛土。	18N365	RT 361	25-3
勸修寺旧境内	山・勸修寺泉玉町76, 77, 78	10/30, 11/1・2	GL-0.46mでオリーブ黒色シルト, -0.66mで灰色泥砂, -0.84～-0.94mでにぶい黄色シルトの地山。	18S280	RT 358	27-4
勸修寺旧境内	山・勸修寺泉玉町89	10/15	GL-1.12mまで盛土。	18S469	RT 336	27-4

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡, 板橋廃寺	伏・板橋町他 地内	8/20～24, 11/5～30, 12/4	GL-0.5mで黒褐色細砂混シルトの近世～近代包含層, -1.45mで黒褐色微砂混シルト, -1.6mで黒褐色シルト(締め良), -1.9～-2.0mで褐色砂礫の地山。	18F170	FD 240	14
伏見城跡	伏・桃山最上町～桃山水野左近東町地先	8/20～30, 10/15	巡回時掘削終了。	18F359	FD 241	14
伏見城跡	伏・鷹匠町3-1, 36-3, 紺屋町196-13	4/3・4・9・10・16	GL-0.92mでオリーブ褐色泥砂を切って暗灰黄色砂泥(瓦多量)の近世土坑, -1.03mで暗灰黄色泥砂, -1.20mで淡黄色粘質土, -1.53mで明黄褐色微砂(固く締まる)の地山, -1.81～-2.15mでにぶい黄褐色細砂の地山。	17F613	FD 004	14
伏見城跡	伏・銀座町三丁目317-4	4/11	GL-0.23mで黒褐色泥砂(炭多量, 焼土, 明赤褐色泥砂ブロック状混), -0.27mで明赤褐色泥砂(固く締まる), -0.35～-0.48mでにぶい黄褐色泥砂。	17F748	FD 022	14
伏見城跡	伏・西町397-1	5/9・15	GL-1.79mで黄褐色泥砂, -2.01mでオリーブ褐色泥砂, -2.04mでにぶい黄褐色泥砂の近世包含層(土師器), -2.28mでにぶい黄褐色シルト(微砂混)の地山, -2.85～-3.15mで明褐色砂礫(固く締まる)の地山。	17F715	FD 075	14
伏見城跡	伏・新町五丁目500-5, 501	8/9	GL-0.71～-0.78mでにぶい黄褐色砂泥。	18F241	FD 229	14
伏見城跡	伏・南部町80-1, 80-2, 82, 84-1	6/26・28, 7/3	GL-0.87mで黄褐色粗砂, -1.17mで明褐色シルト, -1.39mで灰褐色シルト。	18F013	FD 158	14
伏見城跡	伏・西大手町他 地内	4/19, 11/12	GL-1.2mまで盛土。	17F601	FD 044	14

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・常盤町34-1	12/4・5・6	GL-0.44mでにぶい黄褐色泥砂、-0.58mで灰黄褐色泥砂、-0.6mで瓦含む褐色泥砂、-0.78mで染付含むにぶい黄褐色泥土の近世包含層を切って椀状の漆喰をすえた灰オリーブ色粗砂の近世土坑、-1.0mでにぶい黄褐色泥砂を切って灰オリーブ色粗砂とにぶい黄褐色泥砂の土坑、-1.22～-1.59mでにぶい黄色砂礫。	18F467	FD 424	14 15
伏見城跡	伏・桃山町泰長老81-7	7/3	GL-0.43～-0.64mで黄褐色砂礫の地山。	17F804	FD 176	14・15
伏見城跡	伏・深草石橋町他 地内	4/10	GL-0.5mで褐色泥砂、-0.8～-1.15mで黒褐色泥砂(礫混)。	17F374	FD 016	15
伏見城跡	伏・深草中ノ島町18-3, 18-27, 18-28, 18-29	10/5	GL-0.25mまで盛土。	18F432	FD 320	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町805の一部, 804	12/6・7	GL-0.94mまで盛土。	17F669	FD 426	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町370-6, 370-7	5/23, 6/11	GL-0.37～-0.51mで黄褐色細砂。	18F010	FD 101	15
伏見城跡	伏・桃山町大蔵38他	4/27	GL-0.29mで旧耕作土、-0.51mで黄褐色砂礫の伏見城期造成土、-1.05mで明黄褐色中～粗砂、-1.09mで黒褐色砂泥(炭、焼土多量含)、-1.17～-1.23mで黄色砂礫の地山。	17F011	FD 060	15
伏見城跡	伏・桃山町大蔵38, 39, 53, 53-1, 56他	11/30, 12/4・11	GL-0.45mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	18F548	FD 417	15
伏見城跡	伏・桃山町三河49-15の一部, 49-11, 49-19, 56-8, 56-10	9/18・28, 10/2・4	GL-0.75mで灰黄褐色泥砂(大礫含)、-0.8～-1.55mで明黄褐色砂礫の地山を切って黄褐色粗砂(炭化物含)の時期不明土坑。	18F319	FD 291	15
伏見城跡	伏・桃山町鍋島7-1	12/21	GL-0.25～-0.3mで褐色泥砂(礫混、炭含)の時期不明包含層。	18F621	FD 450	15
太閤堤 (小倉堤, 槇島堤)	伏・向島西堤町56-9, 63-1, 63-2	9/5	GL-0.61mで灰黄褐色粗砂混シルト、-0.82mでにぶい黄色粗砂を切ってにぶい黄色粗砂(灰黄褐色粗砂混シルトがブロック状混)の近世土坑(泥面子)、-0.94mでオリーブ褐色粗砂混シルト、-1.12mで明黄褐色中砂～粗砂、-1.3～-1.49mでオリーブ褐色粗砂混シルト。	18S195	FD 268	14 15 28-5
太閤堤 (小倉堤, 槇島堤)	伏・向島中島町41	10/3・15	GL-1.01mで明黄褐色粗砂の時期不明包含層、-1.2～-1.57mで明黄褐色細砂を切って明黄褐色極細砂の時期不明土坑。	18S239	FD 317	14 15 28-5
太閤堤 (小倉堤, 槇島堤)	伏・向島吹田河原町31の一部	4/2	GL-0.24mで明黄褐色微砂、-0.32～-0.53mで黄褐色粗砂。	17S475	FD 003	15
向島城跡	伏・向島本丸町31, 二の丸町68-11, 81	12/10・11・12	GL-0.6～-0.78mまで淡黄色細砂～粗砂。	18S596	FD 434	15 28-5
向島城跡	伏・向島二ノ丸町9の一部, 6-1の一部, 7-1の一部, 4-4の一部	11/8	GL-1.12mで明黄褐色細砂混粘質土、-1.45～-1.84mで淡黄色細砂。	18S022	FD 387	15 28-5
稲荷山古墳群, 伏見稲荷大社境内	伏・深草願成町17-1の一部	7/3・10・20	GL-2.69～-2.98mで黄灰色泥砂の地山。	18S089	FD 174	28-2
伏見稲荷大社境内	伏・深草稲荷御前町66	10/5・12・15	GL-0.69mでオリーブ褐色粘質土の時期不明包含層、-0.98mで黄灰色粘質土、-1.14mで黄灰色粘質土(細砂混)、-1.6mで灰白色粘土の地山。	18S402	FD 319	28-2
安楽行院跡, 深草坊町遺跡	伏・深草僧坊町44-1の一部	7/24	GL-0.08～-0.1mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層。	18S049	FD 200	28-3
嘉祥寺跡	伏・深草真宗院山町～深草瓦町 地先	7/2～26, 8/2～13	No.3 ; GL-0.2mで黒褐色粘土質シルト(炭含)の時期不明包含層、-0.4～-0.8mで黄褐色粗砂～シルトの地山。	18S216	FD 170	28-3
がんせんどう廃寺 深草向ヶ原町遺跡	伏・深草谷口町111-20	5/10～7/3	GL-0.41mで黄褐色細砂、-0.59mで黄色砂礫。	18S005	FD 078	28-4
深草向ヶ原町遺跡	伏・深草向ヶ原町66-11, 66-12, 65-13	4/9	GL-0.13mで浅黄色砂の地山、-0.41mで灰白色シルトの地山。	17S684	FD 015	28-4
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町6	5/11～10/9	GL-0.5mまで盛土。	29N111	FD 079	24-3
法界寺旧境内	伏・日野畑出町2-1, 2-2	11/7・8・22	GL-0.21～-0.6mで明褐色泥砂の地山。	18S008	FD 382	28-6
法界寺旧境内	伏・日野西大道町64, 64-1, 64-2	11/15	GL-0.28～-0.53mで黄色粘質土の地山。	18S412	FD 398	28-6

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥丸町遺跡	南・東九条御霊町22-10, 22-11	11/19, 12/4	GL-0.2～-0.25mで黄褐色泥砂(固く締まる)の平安～鎌倉包含層(土師器)。	18S521	TB 403	27-5
上鳥羽遺跡	南・上鳥羽鴨田15-2	6/21・25	GL-0.72mで灰色泥土, -0.88mで暗灰黄色泥土(細砂混), -1.02mで黄灰色泥土, -1.14mで灰黄色泥砂, -1.35～-1.92mで黄褐色粗砂。	18S050	TB 151	27-7
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町地先	6/22	GL-1.0mまで盛土。	18T015	TB 154	24-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町11	6/18・19	GL-0.4mまで盛土。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	18T003	TB 141	24-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町16, 17	6/18・19	GL-0.33mで旧耕作土, -0.36～-0.40mで灰黄色泥砂。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のため。	18T004	TB 142	24-1
鳥羽離宮跡	伏・中島秋ノ山町91-2	11/26	GL-0.29mで黒褐色細砂混シルト, -0.36mで黒褐色細砂混シルト(炭化物含)の時期不明包含層。	18T558	TB 411	24-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田菩提院町102, 103	6/11・15	GL-1.11m～-1.44mまで灰褐色シルト～泥土(下層砂礫に変化)。	18T188	TB 125	24-1
鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡	伏・竹田田中殿町92-1	11/5・6・ 12	GL-1.44mまで盛土。	16T513	TB 376	24-1
鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡	伏・中島御所ノ内町地先	12/12	GL-0.55mまで盛土。	18T463	TB 438	24-1
鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡	伏・中島宮ノ前町地先	8/29, 9/14	巡回時掘削終了。	18T251	TB 257	24-1
下鳥羽遺跡, 芹川城跡	伏・下鳥羽北ノ口町68の一部, 71	10/12・15	GL-1.2mまで盛土。	18S291	TB 331	27-8
吉祥院日向地藏一 字一石大乘妙典塔	南・吉祥院西ノ茶屋町68	4/3	石塔下で江戸の一石経を検出。	18A001	TB 005	27-6
羽東師志水町遺跡	伏・羽東師志水町78, 100-1の各一部	6/25～7/9	GL-0.16～-0.24mで黄褐色砂泥。	18S142	TB 157	19
淀城跡	伏・淀池上町101の一部, 101-1の 一部, 203-6	4/27, 6/11	GL-0.4mで黄褐色泥砂(焼土, 炭多量含), -0.47mで褐色泥砂(粒子細, 被熱で上面硬化), -0.51mで明赤褐色粗砂, -0.6mで黄褐色粗砂を切って明黄褐色粗砂の胞衣壺埋納土坑, -1.04mで黄褐色極細砂。	18S025	TB 061	25-4

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京						
一条三坊十一町跡	南・久世東土川町35の一部	5/8	GL-0.7mまで盛土。	17NG812	NG 072	25-2
一条四坊二町跡	南・久世大藪町560-13	5/25・28	巡回時掘削終了。	18NG097	NG 103	18-3
二条四坊 八・九町跡	南・久世東土川町387	5/17	GL-0.61mで灰色泥土, -0.93mでにぶい黄色泥土, -1.20mで灰色粘土(明黄褐色粘土混), -1.49mで灰色粘土, -1.69～-1.86mで灰色粗砂。	18NG012	NG 087	18-3
三条四坊十二町跡	伏・久我西出町他地内	5/21, 6/13	巡回時掘削終了。	17NG705	NG 093	19
四条三坊十四町跡	伏・羽東師菱川町537-51	4/13	GL-0.1mまで盛土。	17NG801	NG 029	19
四条三坊十四町跡, 羽東師菱川城跡	伏・羽東師菱川町43-8	11/15	GL-0.34mまで盛土。	18NG520	NG 399	19
四条三坊十四町跡	伏・羽東師菱川町537-25	12/3	GL-0.2mまで盛土。	18NG595	NG 421	19
五条二坊十二町跡	伏・羽東師菱川町366-1	7/30, 8/1・6	GL-0.40mで灰色シルトの旧耕作土, -0.54mで明黄褐色微砂, -0.76mでにぶい黄褐色シルト, -0.91～-1.12mで灰白色粘土。	18NG042	NG 206	19
六条四坊 五・六町跡	伏・淀樋爪町122他地内	12/6	GL-2.59mで灰色粘土の湿地状堆積, -2.82～-2.92mで灰色砂泥の湿地状堆積。	18NG493	NG 427	19
九条三坊十二町跡, 淀城跡	伏・淀本町164	6/19	GL-0.35mまで盛土。	18NG056	NG 145	25-4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
右京						
北辺四坊六町跡	西・大原野上里北ノ町 地内	12/26	巡回時掘削終了。	18NG258	NG 234	25-2
一条三坊十四町跡, 上里遺跡	西・大原野上里男鹿町12-12	12/27	GL-0.5mまで盛土。	18NG589	NG 453	25-2
一条四坊一・八・ 十三町, 二条四坊 十六町跡, 芝古墳 群, 大原野石見遺 跡, 上里遺跡	西・大原野石見町 地内	4/24・25, 6/22	GL-0.4~-1.7mでにぶい黄色粘質土の地山。	17NG817	NG 055	25-2

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山	西・嵐山中尾下町2-8	6/28	GL-0.35mまで盛土。	30N001	MK 164	26-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山中尾下町2-6の一部	5/1	GL-0.3mまで盛土。	29N106	MK068	26-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山風呂ノ橋町23-3, 23-14	12/14	GL-0.35~-1.60mで黄褐色泥砂。	30C044	MK 442	26-1
史跡・名勝嵐山, 嵐山谷ヶ 辻子町遺跡	西・嵐山谷ヶ辻子町74	4/11・12, 5/10・11	GL-0.03mで明黄褐色シルトの地山。	29C129	MK023	26-1
史跡・名勝嵐山, 嵐山谷ヶ 辻子町遺跡	西・嵐山谷ヶ辻子町46-4	11/19	GL-0.25~-0.35mで明黄褐色シルトの地山。	30C047	MK 404	26-1
史跡・名勝嵐山, 嵐山谷ヶ 辻子町遺跡	西・嵐山谷ヶ辻子町46-2	12/3	GL-0.3mまで盛土。	30C088	MK422	26-1
史跡・名勝嵐山, 嵐山谷ヶ 辻子町遺跡	西・嵐山谷ヶ辻子町9-2の一部	4/20	GL-0.4mまで盛土。	29C145	MK047	26-1
史跡・名勝嵐山, 嵐山谷ヶ 辻子町遺跡	西・嵐山谷ヶ辻子町9-2の一部	4/20	GL-0.4mまで盛土。	29C146	MK048	26-1
松室遺跡	西・松室北河原町199	9/18	GL-0.53mまで盛土。	18S185	MK292	28-7
山田桜谷古墳群	西・山田桜谷町, 下山田下園尾町 他	10/29, 12/27	山田桜谷古墳1・2号墳の墳丘を確認。 本報告 64ページ。	18A006	MK373	28-8
浄住寺 (谷之堂)跡	西・山田南町27-5, 27-6	6/08	GL-0.15mまで盛土。	18S028	MK 114	28-8
革嶋館跡	西・川島玉頭町69-2	8/20	中世前半のピット群を検出。 本報告62ページ。	18S132	MK242	29-1
三重古墳	西・榎原井戸~川島松園町他 地内	4/25, 5/1・ 8・15・31, 6/12・19・ 26, 7/19・ 23・24, 8/2・8・30, 9/14	№1 ; GL-0.95mで黄灰色シルト, -1.35~-1.45m まで黄色シルトの地山。№2 ; GL-0.7mで黒褐色 粘質シルトの旧耕作土, -0.85~-1.1mで黄灰色 シルトの湿地状堆積。№7 (推定三重古墳) ; GL-0.65mで灰色シルトと灰オリーブ色シルトの 旧耕作土, -0.77mでにぶい黄色シルトの地山, -1.05~-1.15mでにぶい黄色砂礫の地山。	17S848	MK054	18-1
榎原遺跡, 榎原廃寺瓦窯跡	西・榎原里ノ垣外町18-1他	7/17~8/30	GL-0.32~-0.93mで明黄褐色シルトの地山。	14S350	MK 192	18-1
上久世遺跡	南・久世上久世町 地先	11/27	巡回時掘削終了。	18EE	MK 412	18-2
申久世遺跡	南・久世申久世町二丁目112-4	4/13・16	GL-0.4~-0.5mで褐色粘質土の地山。	17S798	MK030	18-3
申久世遺跡	南・久世申久世町二丁目112-13	4/16	GL-0.3mまで盛土。	17S797	MK031	18-3
申久世遺跡	南・久世殿城町90, 91, 93, 568 の各一部	11/6・26	GL-0.6mまで盛土。	18S523	MK381	18-3
申久世遺跡	南・久世申久世町三丁目89	7/3・5・10	GL-0.74mでオリーブ灰色シルト, -0.89mでオ リーブ灰色シルト, -1.01mで明緑灰色シルト, -1.16mでオリーブ灰色細砂を切って明緑灰色シ ルト(上層)と灰色シルト~細砂(下層)の弥生溝, -1.2mでオリーブ灰色細~中砂, -1.58~-1.69m でにぶい黄色砂礫。	18S223	MK 175	18-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目8-1, 8-2	7/10・11・17	GL-0.25mで旧耕作土の互層, -0.92mで灰白色シルト(マンガン含), -1.08mで灰色泥砂の弥生～古墳湿地堆積, -1.41mで灰白色粗砂の河川堆積, -1.52mで灰色微砂の河川堆積, -1.69～-1.91mで灰オリーブ色微砂(粘質強)粘質の河川堆積。	18S138	MK184	18-3
大藪遺跡, 下久世構跡	南・久世殿城町526-1の一部	8/22	GL-0.49mで灰色細砂～シルトの中世包含層。	18S203	MK247	18-3
大藪遺跡	南・久世築山町103-1, 104-1, 105-1, 106-1, 597	6/13・14, 8/15, 11/12	GL-0.29mでにぶい黄色シルトの旧耕作土, -0.55mで明黄褐色シルトの旧耕作土, -0.67m～-0.75mまで黄灰色泥砂(マンガン含)。	17S712	MK134	18-3
大藪遺跡	南区久世殿城町540の一部	9/11	GL-0.31mで旧耕作土, -0.71～-0.8mで灰黄褐色シルト。	18S320	MK275	18-3
上里北ノ町遺跡	西・大原野上里北ノ町～大原野上里南ノ町地内	9/10・11, 11/12	GL-0.75mで黄褐色粘質土, -1.5～-1.8mで黄橙色粘質土の地山。	18S256	MK274	25-2
福西古墳群	西・大枝北福西町四丁目100-2	4/20, 6/4	GL-1.04mまで盛土。	17S709	MK046	26-2
福西古墳群	西・大枝北福西町三丁目1-1	5/1	GL-0.65～-1.6mで明黄褐色細砂。	17S786	MK067	26-2

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
常照皇寺経塚	右・京北井戸町	9/11	GL-0.3～-0.44mで黄橙色粘土(砂礫多量混)の地山。	18S334	UK 276	29-2

報 告 書 抄 録

ふりがな	きょうとしないいいせきしょうさいぶんぷちようさほうこく へいせいさんじゅうねんど
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・廣富亮太・吉本健吾
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2019年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきようごじよう 平安京左京四條 にぼうじゆうにちようあと 二坊十二町跡	きょうとしなかがきょうくあふらのこうじ 京都市中京区油小路 とおりにじようあがふじもとちよう 通四條上る藤本町549 どくさめがいとおりにしきじょうさが 同区醒ヶ井通錦小路下 る藤西町592-1	26100	1	35度 00分 07秒	135度 45分 10秒	2018/1/12 ~2/9		共同住宅
へいあんきょうさきようごじよう 平安京左京五條 にぼうなちちようあと 二坊七町跡	きょうとしもぎょうくわがみとお 京都市下京区岩上通 あやのこうじさがかりがねちよう 綾小路下る雁金町 411, 409-1, 409-2	26100	1	35度 00分 06秒	135度 45分 05秒	2018/2/16 ~3/12		ホテル
へいあんきょうさきようごじよう 平安京左京五條 さんぼうさんちようあと 三坊三町跡・ からすまあやのこうじいせき 烏丸綾小路遺跡	きょうとししもぎょうく 京都市下京区 ごごうまちとおりにじようあが 御幸町通五條上る あづちちよう 安土町616他	26100	1 712	35度 00分 00秒	135度 45分 23秒	2018/3/19 ~3/30		ホテル
へいあんきょうさきようごじよう 平安京左京六條 にぼうさんちようあと 四坊十五町跡	きょうとししもぎょうく 京都市下京区 ごごうまちとおりにじようあが 御幸町通五條上る あづちちよう 安土町616他	26100	1	34度 59分 47秒	135度 45分 58秒	2018/5/7 ~7/19		ホテル

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京四條 二坊十二町跡	都城跡	平安時代中期 平安時代末~鎌倉時代 鎌倉時代・江戸時代	ピット・溝・土坑	土師器・須恵器 瓦器・陶磁器 砥石・瓦質土器・硯	各時期における 宅地利用を確認。
平安京左京五條 二坊七町跡	都城跡	平安時代末~鎌倉時代	土坑	土師器・須恵器 焼締陶器	平安時代末~鎌倉時代 の土坑群を確認。
平安京左京五條 三坊三町跡・ 烏丸綾小路遺跡	都城跡 集落跡	中世	土坑	土師器・須恵器・陶磁器	
平安京左京六條 四坊十五町跡	都城跡	平安~鎌倉時代・ 江戸時代	落込み 土坑	土師器皿	

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなしいせきしょうさいぶんぶちようさほうこく へいせいさんじゅうねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・廣富亮太・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2019年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうきょうじょう 平安京左京八条 さんぼうじゅうちようあと 二坊十町跡	きょうとししもぎょうく 京都市下京区 あふらのこうじとおりきつやぼしさが 油小路通木津屋橋下る・ どうきたふどうちよう 同区北不動堂町 490-2, 491	26100	1	34度 59分 16秒	135度 45分 13秒	2018/10/23 ～11/2		事務所
へいあんきょうきょうじょう 平安京左京九条 いちぼうじゅういちちようあと 一坊十一町跡・ しせききょうおうこくじ 史跡教王護国寺 境内	きょうとしみなみくじょうちよう 京都市南区九条町1	26100	1 A752	34度 58分 52秒	135度 44分 14秒	2017/10/5 ～2018/7/24		修理
へいあんきょうきょうじょう 平安京右京三条 いちぼうじゅういちちようあと 一坊十一町跡・ みぶいせき 壬生遺跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 にしのきょうひがしげつこうちよう 西ノ京東月光町24-1	26100	1 462	35度 00分 37秒	135度 44分 42秒	2018/11/29		保育所
へいあんきょうきょうじょう 平安京右京九条 いちぼうじゅうよんちようあと 一坊十四町跡・ しせきさいじあと 史跡西寺跡・ からほしいせき 唐橋遺跡	きょうとしみなみ 京都市南区 からほしいせいちよう 唐橋西寺町 地先	26100	1 A751 756	34度 58分 51秒	135度 44分 14秒	2017/5/31 ～2018/1/1		排水管 布設替
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京左京八条 二坊十町跡	都城跡	平安時代前期 平安時代末～鎌倉時代 室町時代・江戸時代	ピット・溝・土坑	土師器・須恵器 瓦器・灰釉陶器 緑釉陶器・瓦質土器・瓦		平安時代前期の町内 内溝を検出。 墨書土器が出土。		
平安京左京九条 一坊十一町跡・ 史跡教王護国寺 境内	都城跡	平安時代	国宝御影堂 前堂礎石 基壇化粧土	土師器		御影堂基壇土を 確認。		
平安京右京三条 一坊十一町跡・ 壬生遺跡	都城跡	古墳時代後期 平安時代中期	溝・ピット・土坑	土師器・須恵器・黒色土器 白磁・緑釉陶器		平安時代中期のピットを 検出。 古墳時代後期の小溝 (竪穴?)を検出。		
平安京右京九条 一坊十四町跡・ 史跡西寺跡・ 唐橋遺跡	都城跡 史跡 集落跡	平安時代	整地層	土師器・瓦				

報 告 書 抄 録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこく へいせいさんじゅうねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・廣富亮太・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2019年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あたごやまいせき 愛宕山遺跡	きょうとしうきょうく 京都市右京区 さがあたごちやう 嵯峨愛宕町1	26100	831	35度 03分 33秒	135度 38分 07秒	2017/12/2 ~2018/8/5		表採
しめいしやうさんぜんいん 市名勝三千院 ゆうせいえんていせんおよ 有清園庭園及び しゅうへきえんていせん おおほら 聚碧園庭園・大原 えんりやくくべつじんけいだい 延暦寺別院境内	きょうとしききょうく 京都市左京区 おおほらいにじゆういんちやう 大原来迎院町540	26100	C 330 349	35度 07分 09秒	135度 50分 05秒	2018/2/15 ~2/21		庭園修理
とくちやうじやういんあと 得長寿院跡・ しらかわがいくあと 白河街区跡・ おかざきいせき 岡崎遺跡	きょうとしききょうく 京都市左京区 おかざきとくせいちやう 岡崎徳成町6-1, 6-8	26100	417-9 417 418	35度 00分 50秒	135度 46分 38秒	2018/8/21 ~22		個人住宅
えんしやうじあと 円勝寺跡・ おかざきいせき 岡崎遺跡	きょうとしみさきやうく 京都市左京区 おかざきえんしやうじちやう 岡崎円勝寺町124 (岡崎公園)	26100	417-4 418	35度 03分 46秒	135度 47分 00秒	2017/5/31 ~2018/1/1		美術館
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
愛宕山遺跡	寺院跡	江戸時代	遺物散布地	江戸時代前半の 陶磁器類				
市名勝三千院 有清園庭園及び 聚碧園庭園・大原 延暦寺別院境内	名勝 寺院跡	江戸時代	園池	土師器等				
得長寿院跡・ 白河街区跡・ 岡崎遺跡	寺院跡 邸宅跡 集落跡	鎌倉時代	ピット 土坑	土師器		得長寿院の西限付近で ピットを複数検出。		
円勝寺跡・ 岡崎遺跡	寺院跡 邸宅跡 集落跡	近世	溝	土師器等				

報 告 書 抄 録

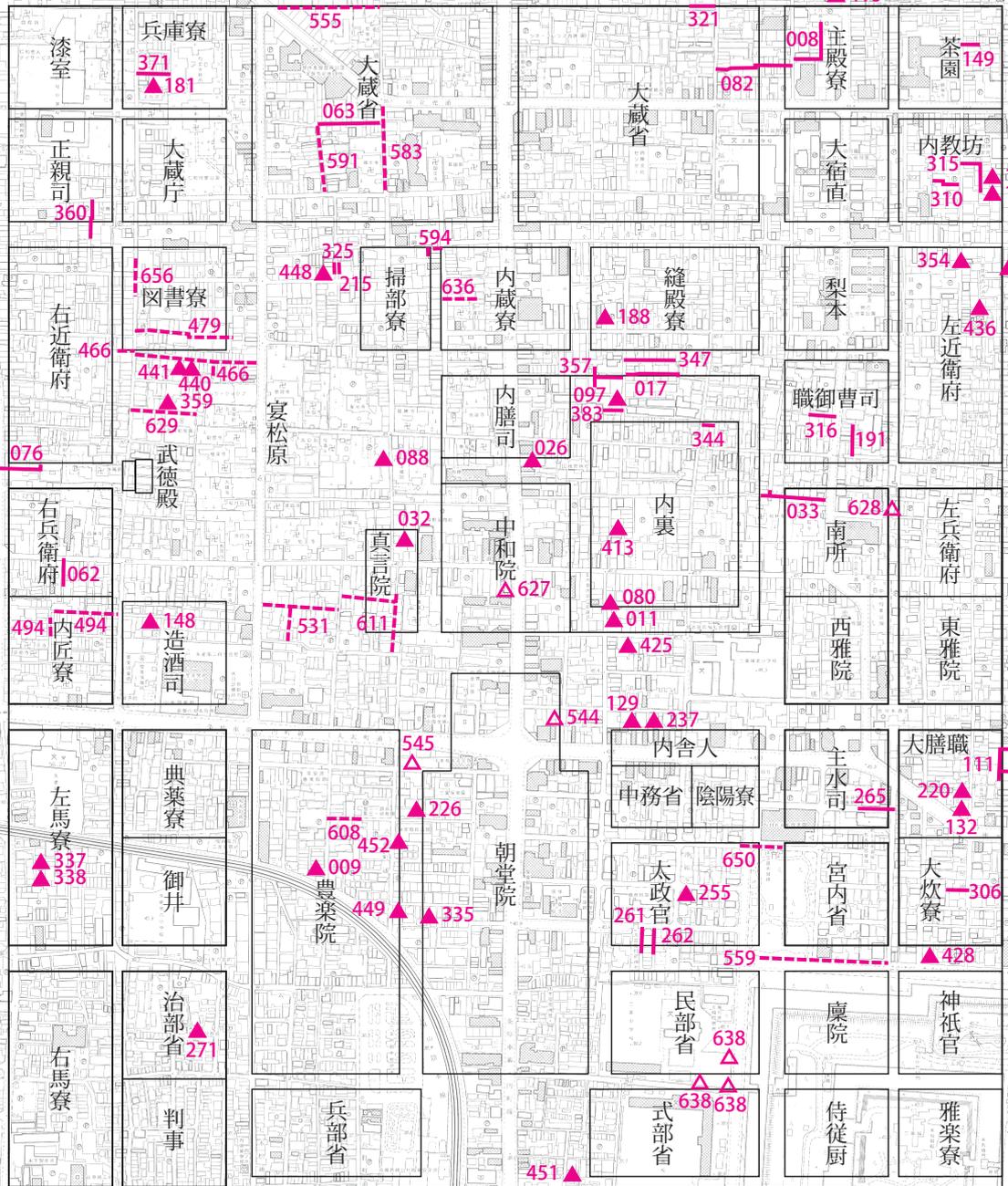
ふりがな	きょうとしなしいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこく へいせいさんじゅうねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正見・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・廣富亮太・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2019年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かわしまやかたあと 草嶋館跡	きょうとしにしきょうく 京都市西京区 かわしまたまかしらちょう 川島玉頭町69-2	26100	997	34度 58分 31秒	135度 42分 01秒	2018/8/20		共同住宅
やまださくらだにこふんぐん 山田桜谷古墳群	きょうとしにしきょうく 京都市西京区 やまださくらだにちょう どうく 山田桜谷町・同区 しもやまだしもぞのおちょう 下山田下園尾町	26100	974	34度 59分 17秒	135度 41分 03秒	2018/4/21 ～12/27		範囲確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
草嶋館跡	城跡	鎌倉時代	ピット	土師器				
山田桜谷古墳群	古墳	古墳時代	墳丘	埴輪		山田桜谷1号墳・2号墳を踏査。赤色レーザー測量を実施。		

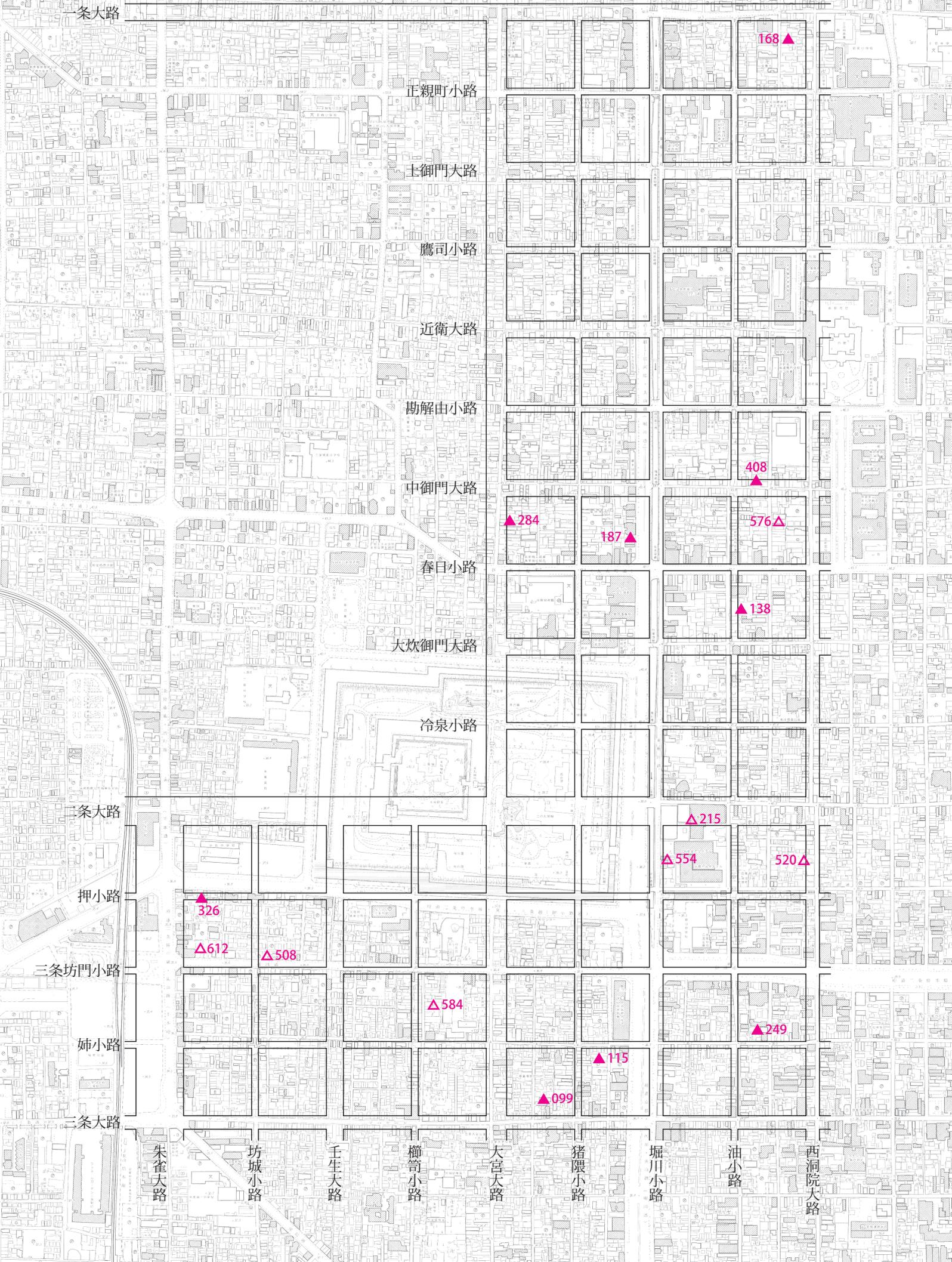
图

版

凡 例

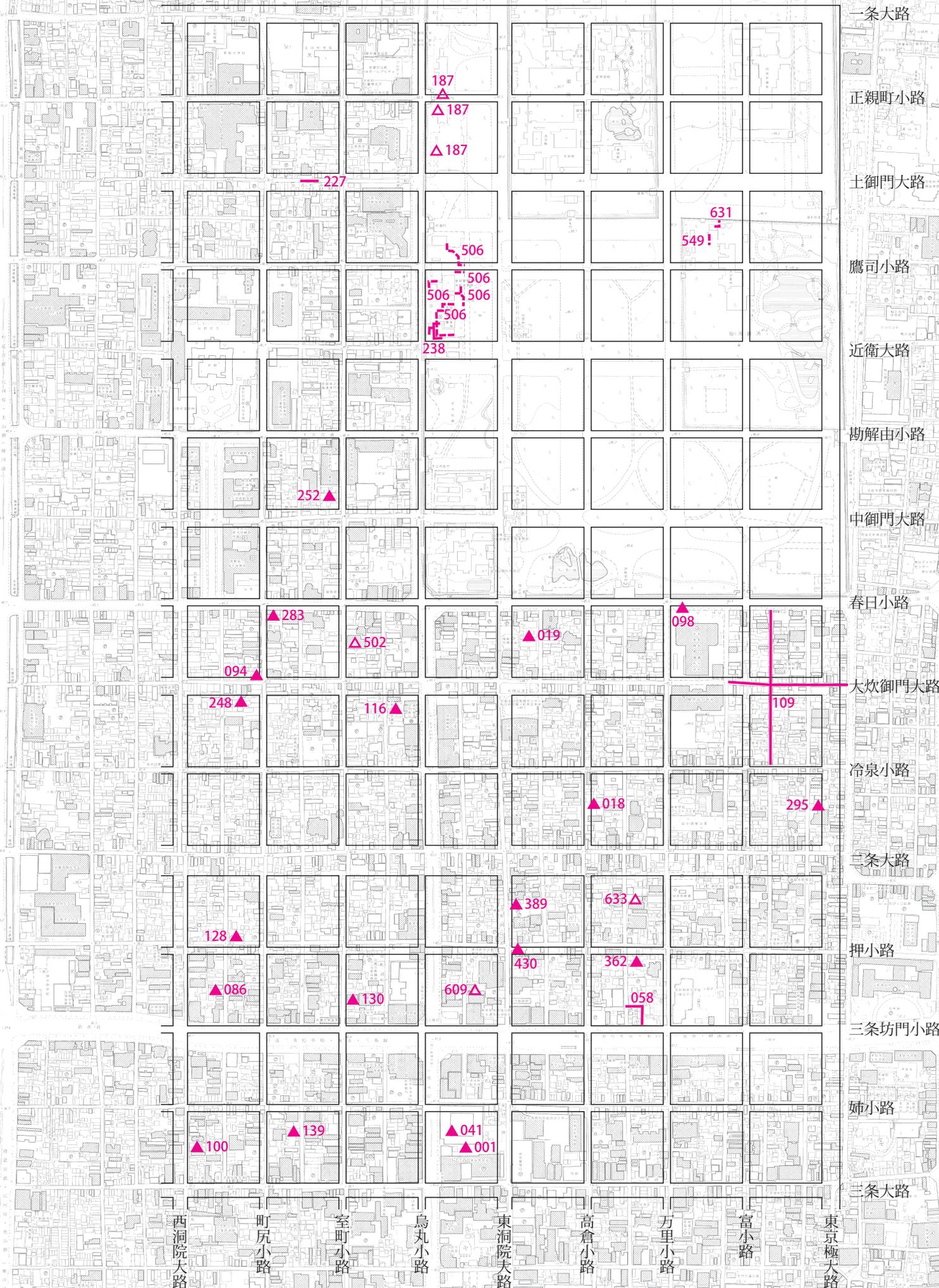
- △ ----- 2018年1～3月期(平成29年度)詳細分布調査地点
- ▲ ————— 2018年4～12月期(平成30年度)詳細分布調査地点

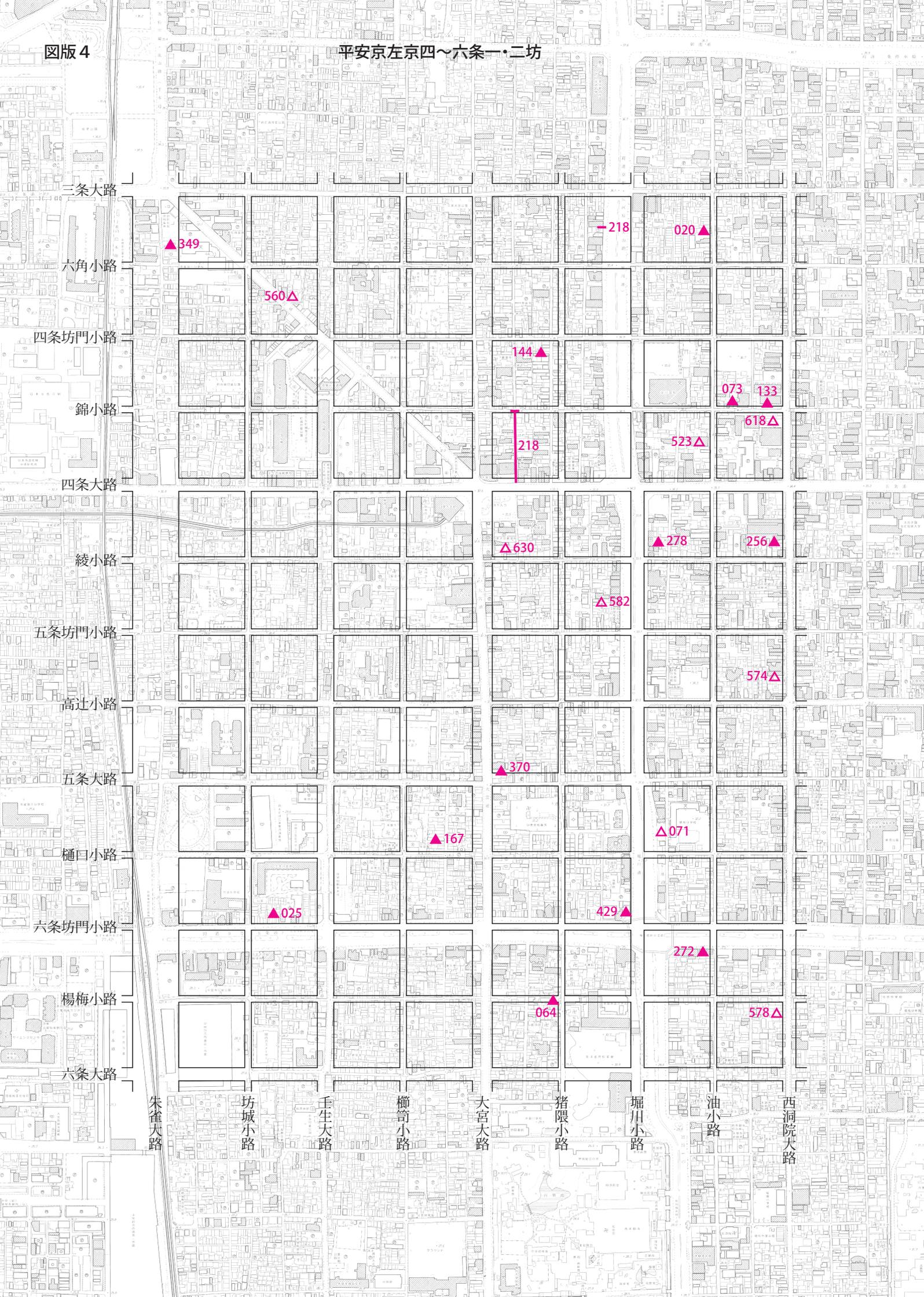


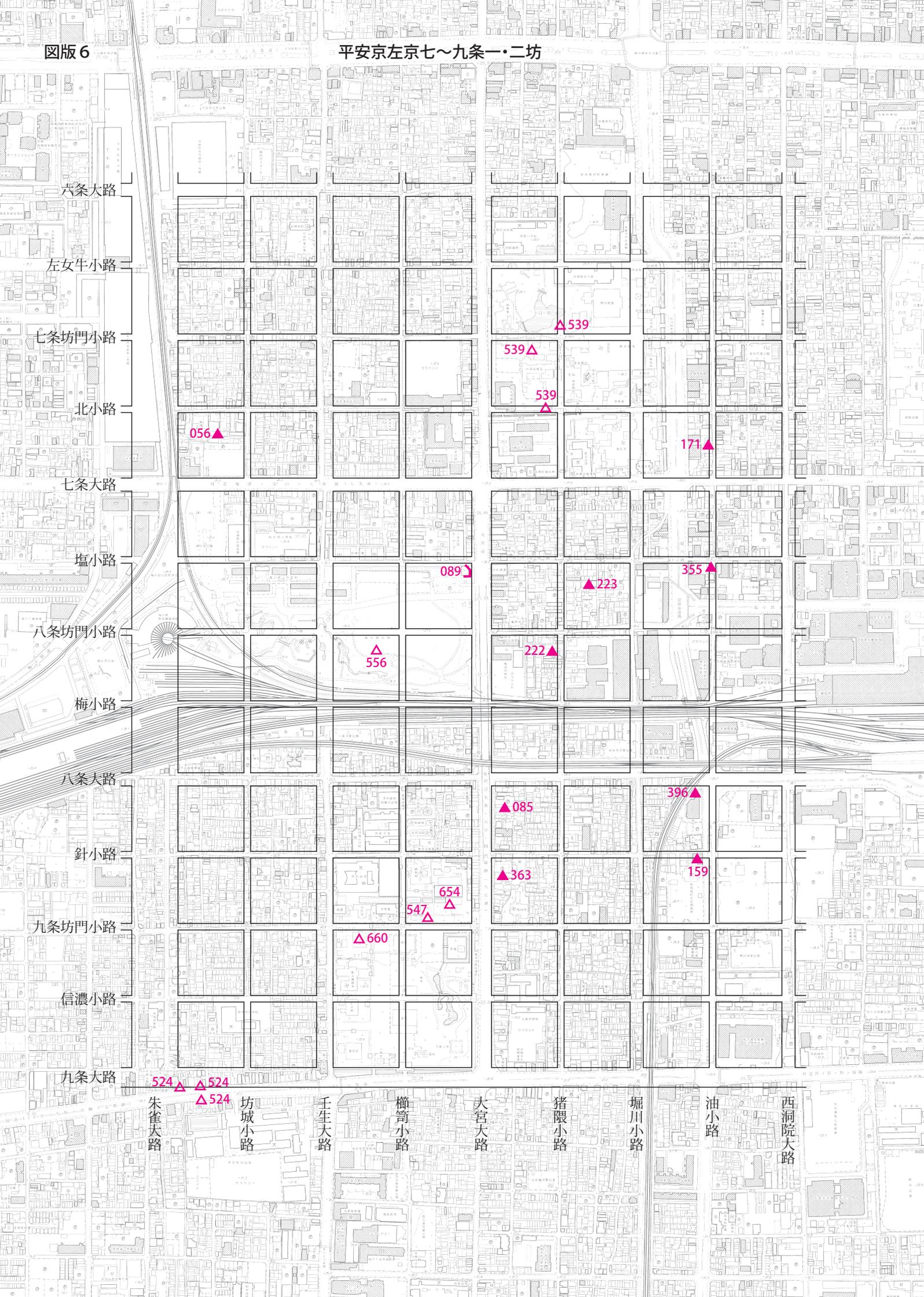


平安京左京北辺～三条三・四坊

図版 3







六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

524▲

▲524

▲524

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

櫛笥小路

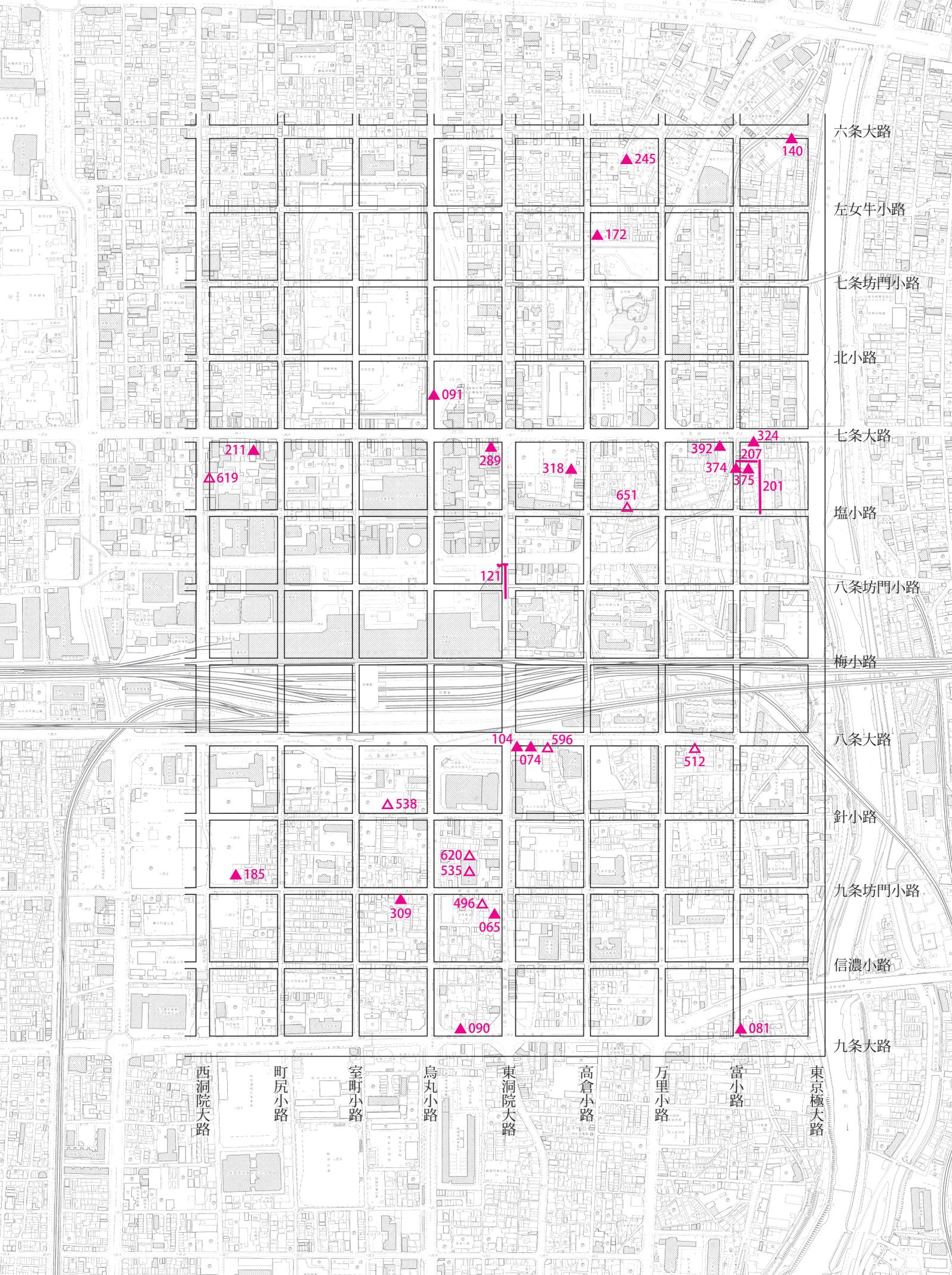
大宮大路

猪隈小路

堀川小路

油小路

西洞院大路



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西洞院大路

町尻小路

室町小路

烏丸小路

東洞院大路

高倉小路

万里小路

富小路

東京極大路

▲245

▲140

▲172

▲091

▲211 ▲619

▲289

▲318

▲651

▲392 ▲374

▲324 ▲207 ▲375 ▲201

▲121

▲104

▲074

▲596

▲512

▲538

▲185

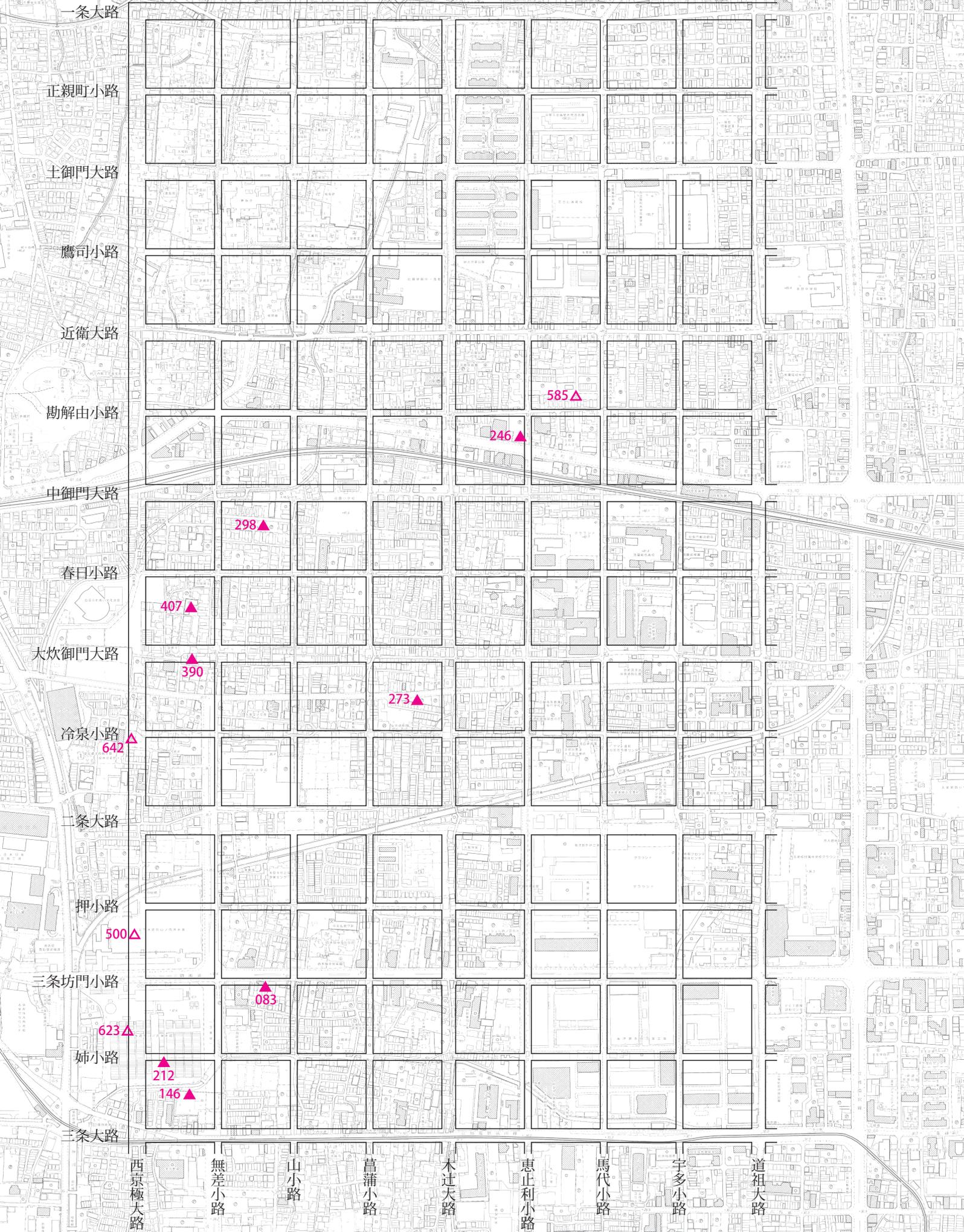
▲620 ▲535

▲309

▲496 ▲065

▲090

▲081



585▲

246▲

298▲

407▲

390▲

642▲

500▲

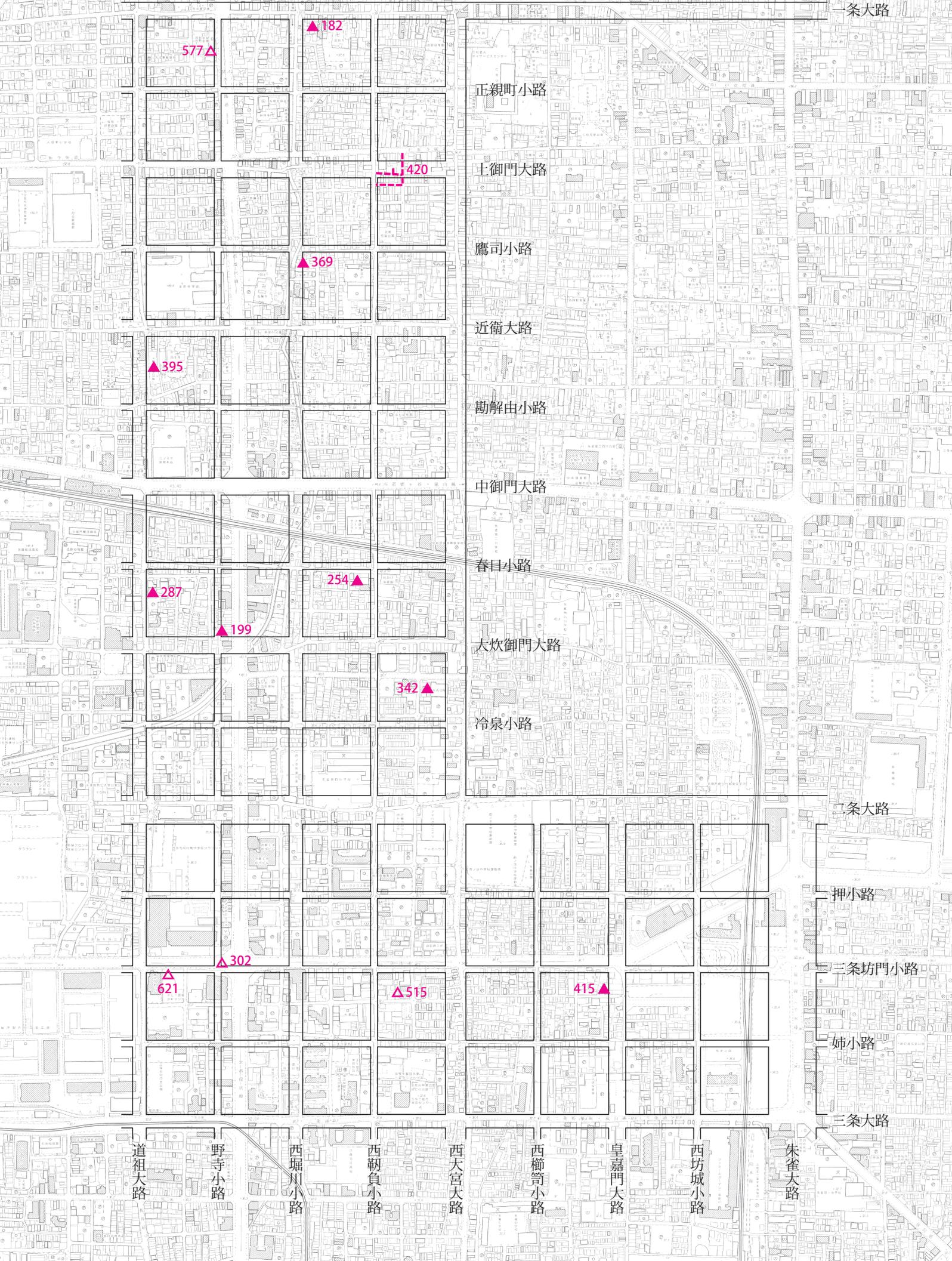
623▲

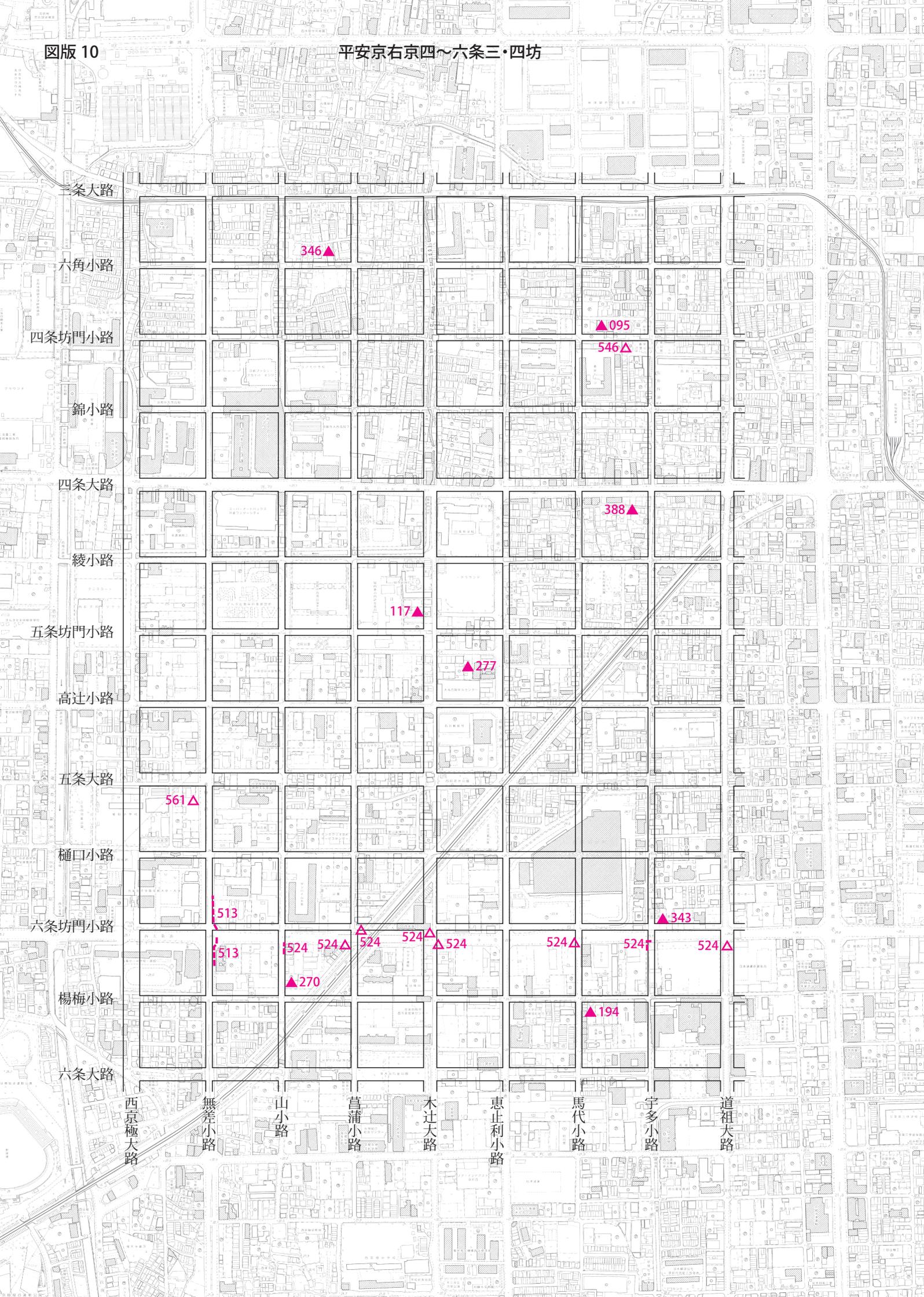
212▲

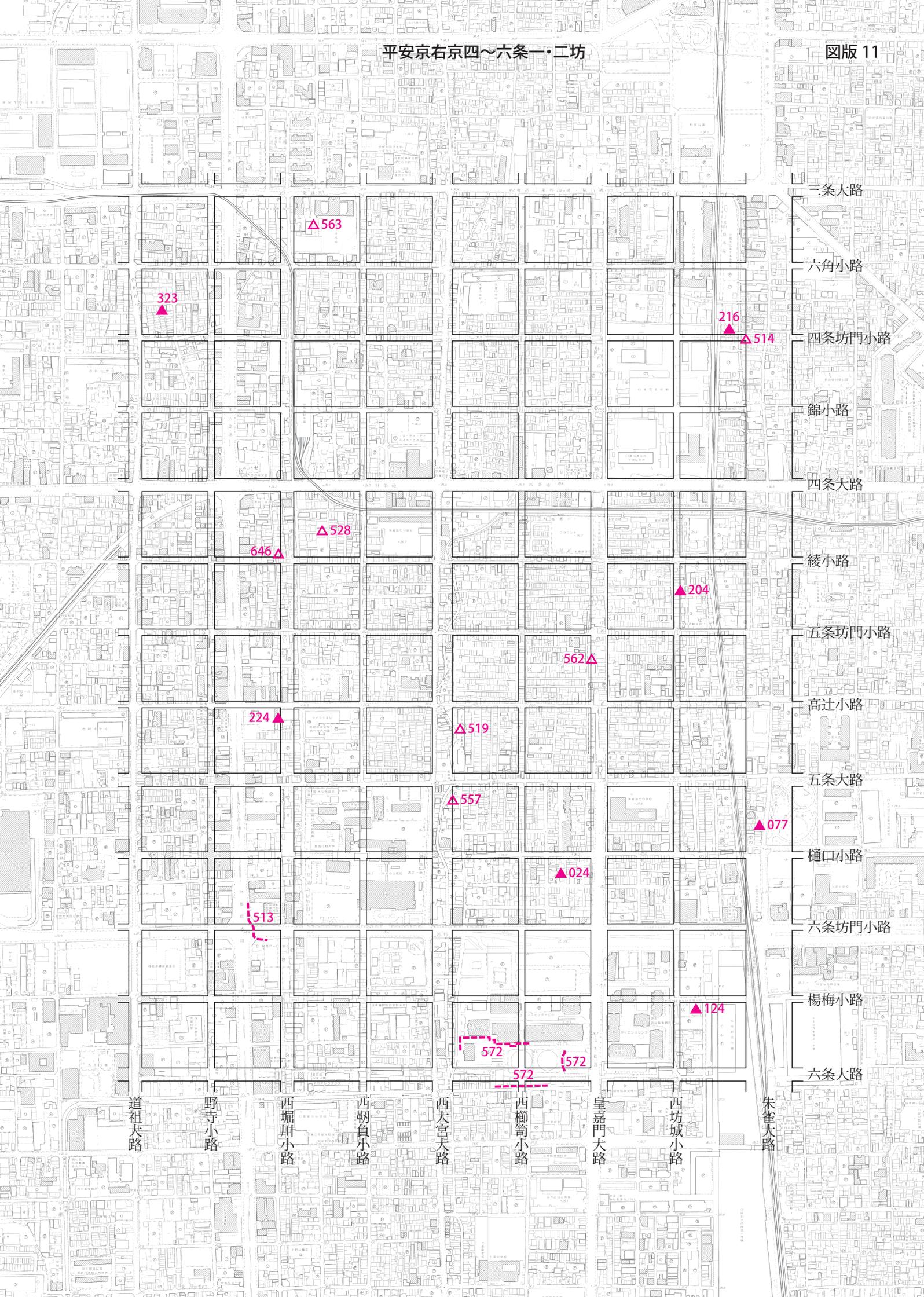
146▲

083▲

273▲







三条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西朝負小路

西大宮大路

西櫛笥小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路

▲563

▲323

▲216

▲514

▲528

▲646

▲204

▲562

▲224

▲519

▲557

▲077

▲024

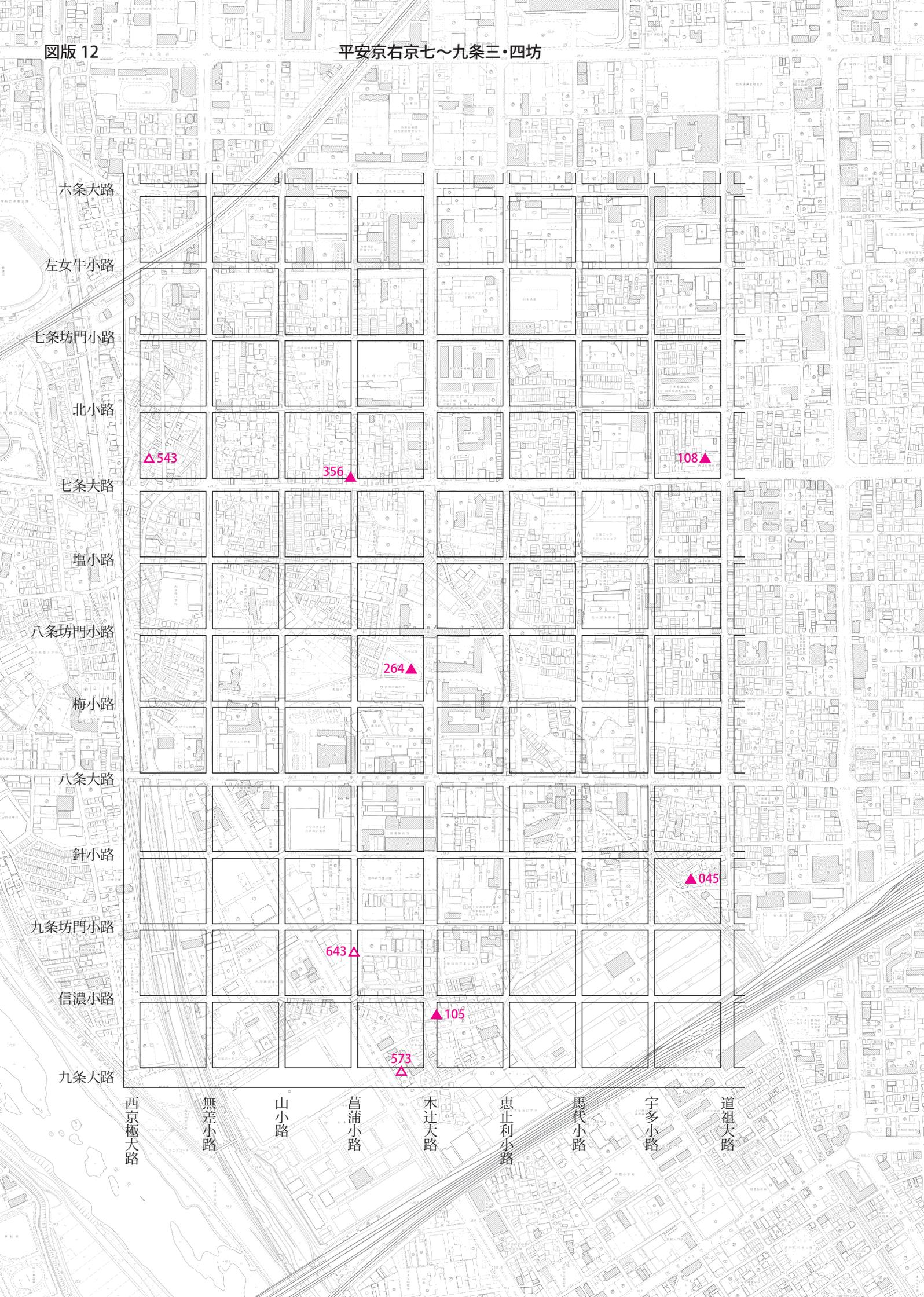
▲513

▲572

▲572

▲124

▲572



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

▲ 543

▲ 356

▲ 108

▲ 264

▲ 045

▲ 643

▲ 105

▲ 573

西京極大路

無差小路

山小路

菖蒲小路

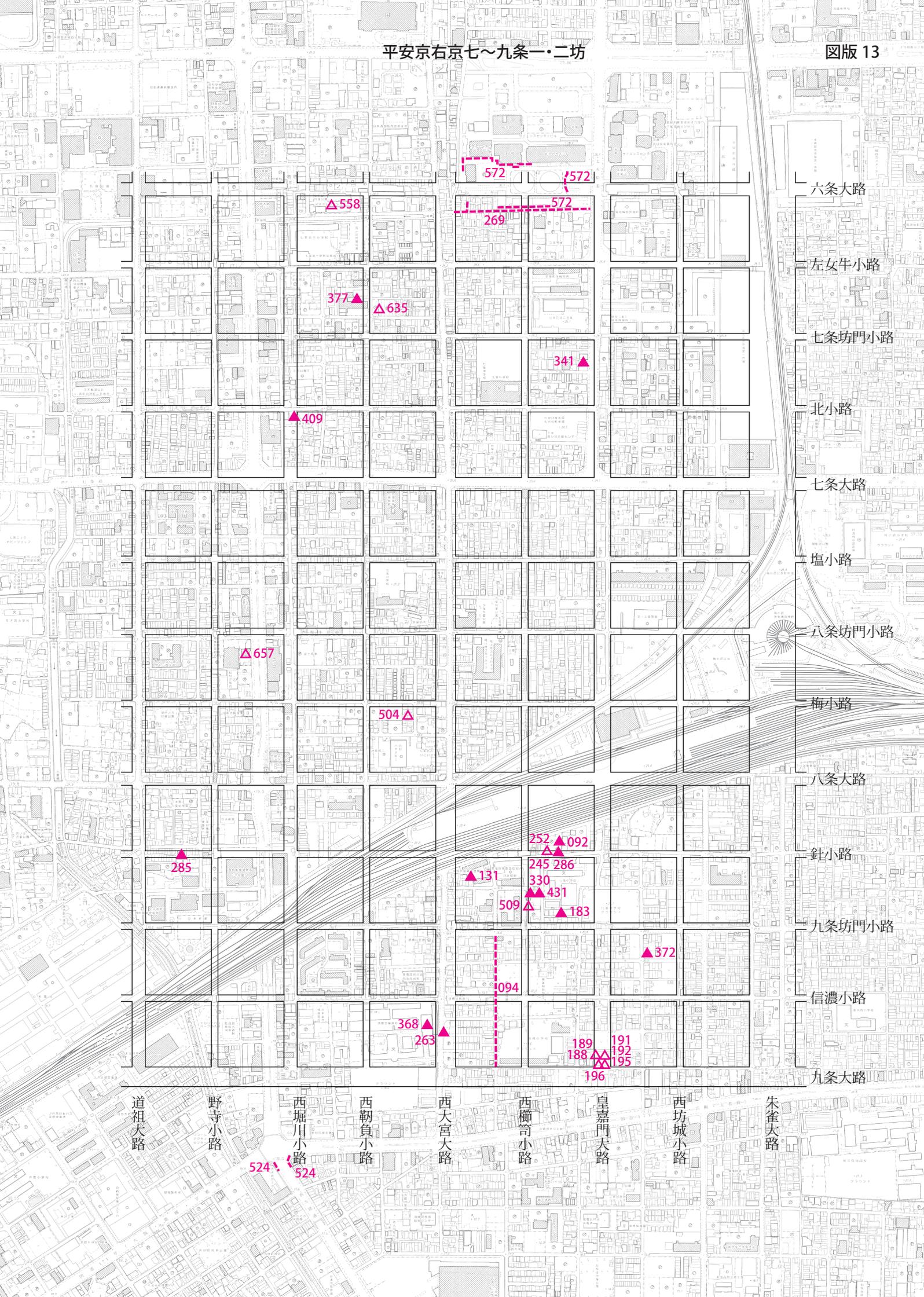
木辻大路

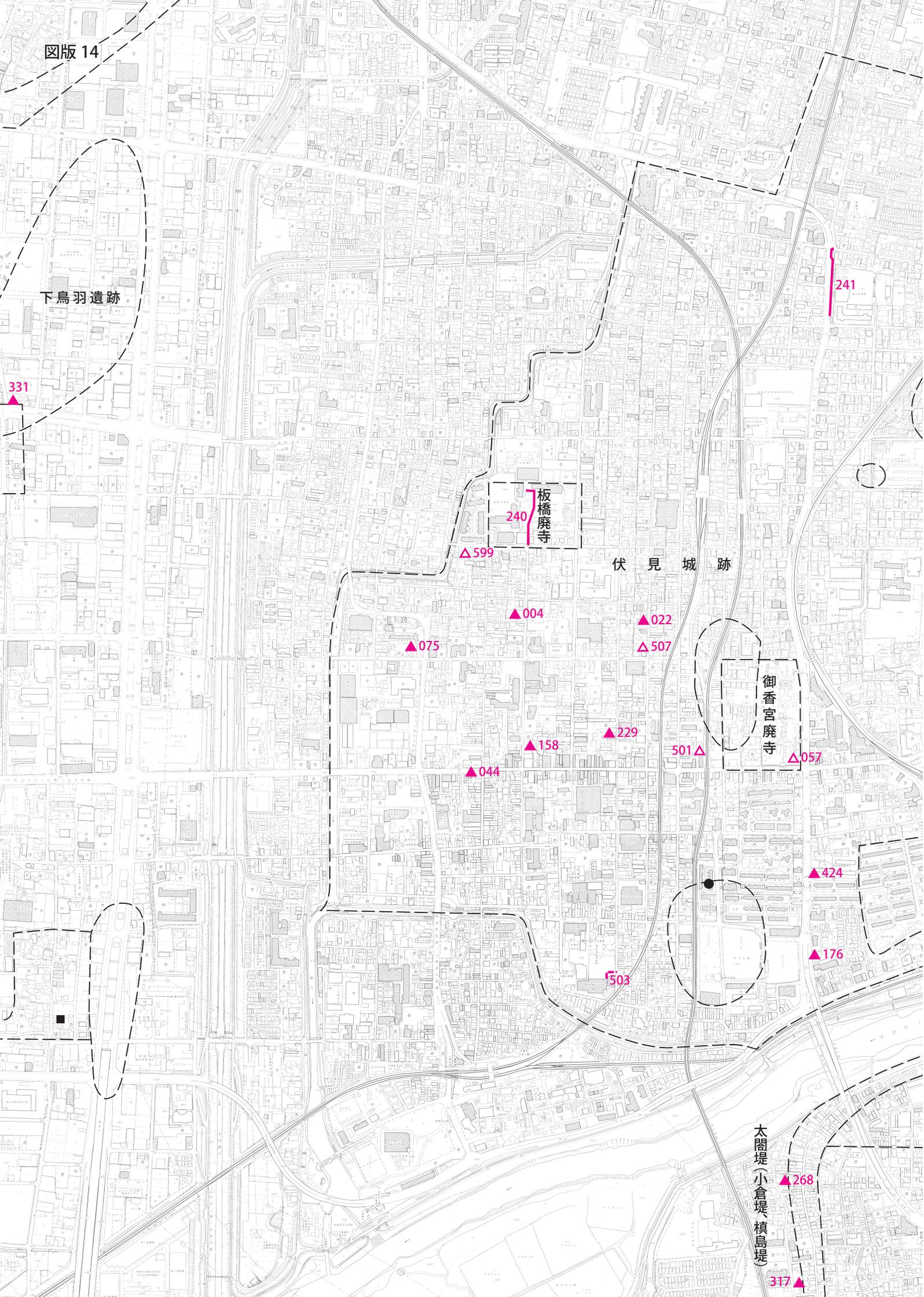
恵止利小路

馬代小路

宇多小路

道祖大路





下鳥羽遺跡

板橋廢寺
240

伏見城跡

御香宮廢寺

大閘堤 (小倉堤、槇島堤)

331

599

075

004

022

507

158

229

501

057

044

424

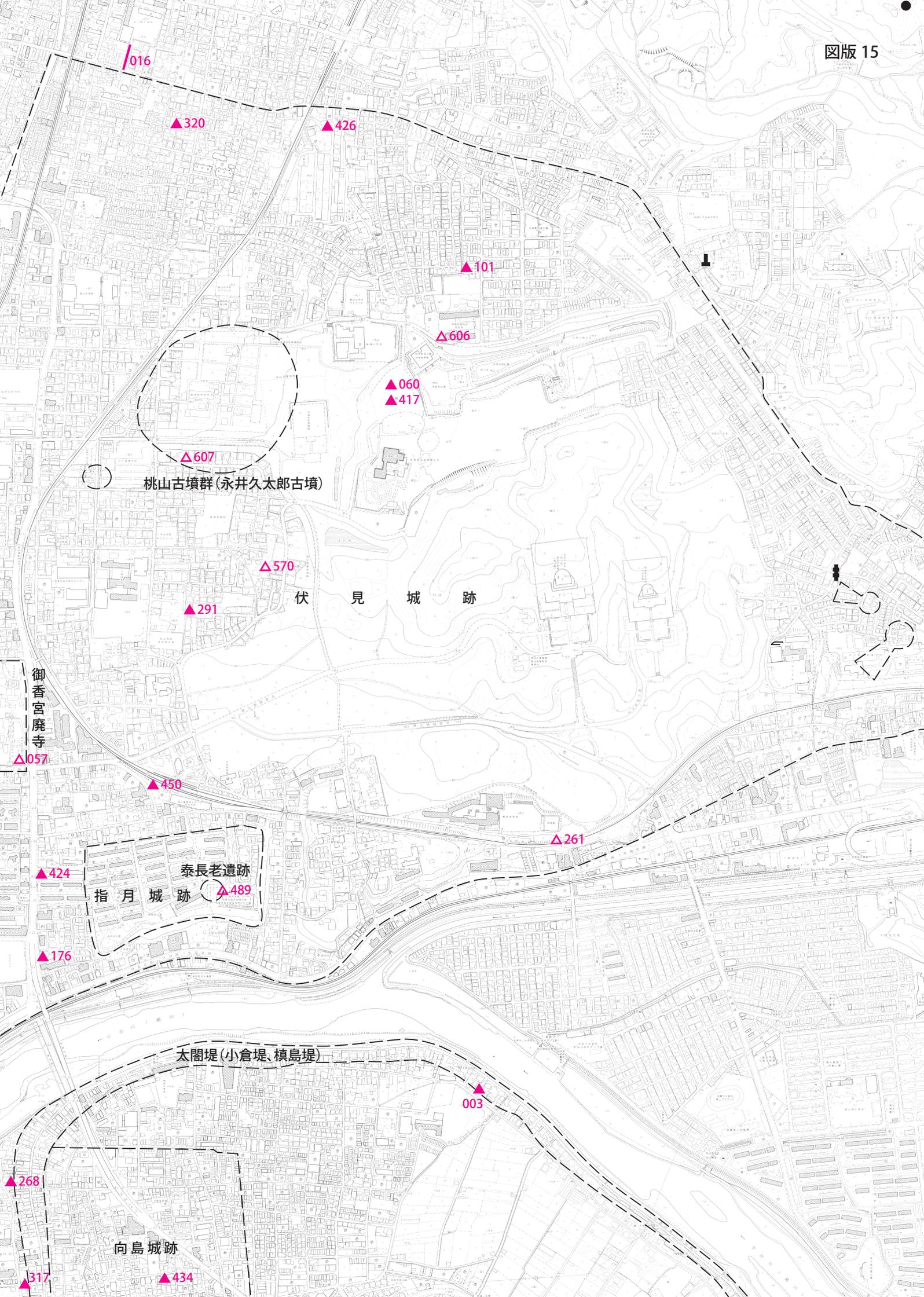
176

503

268

317

241



016

▲320

▲426

▲101

▲606

▲607
▲417

桃山古墳群(永井久太郎古墳)

▲570

伏見城跡

▲291

御香宮麩寺
▲057

▲450

▲261

▲424

泰長老遺跡

指月城跡

▲489

▲176

太閤堤(小倉堤、槇島堤)

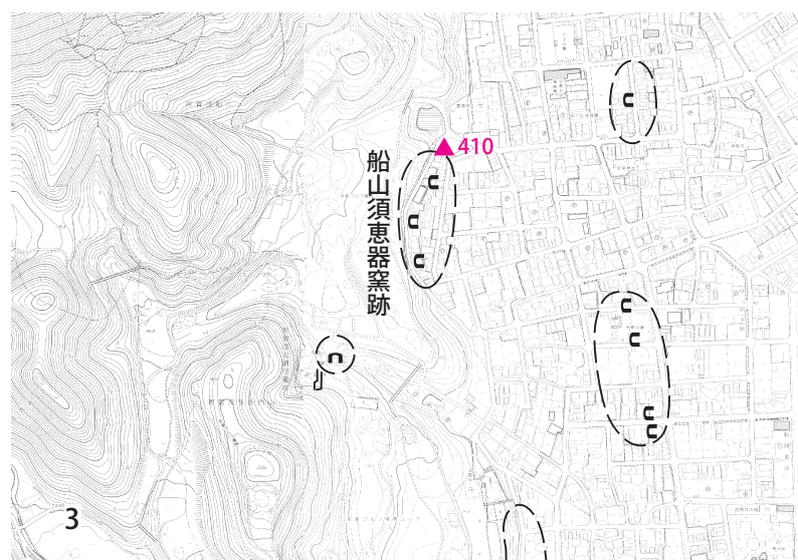
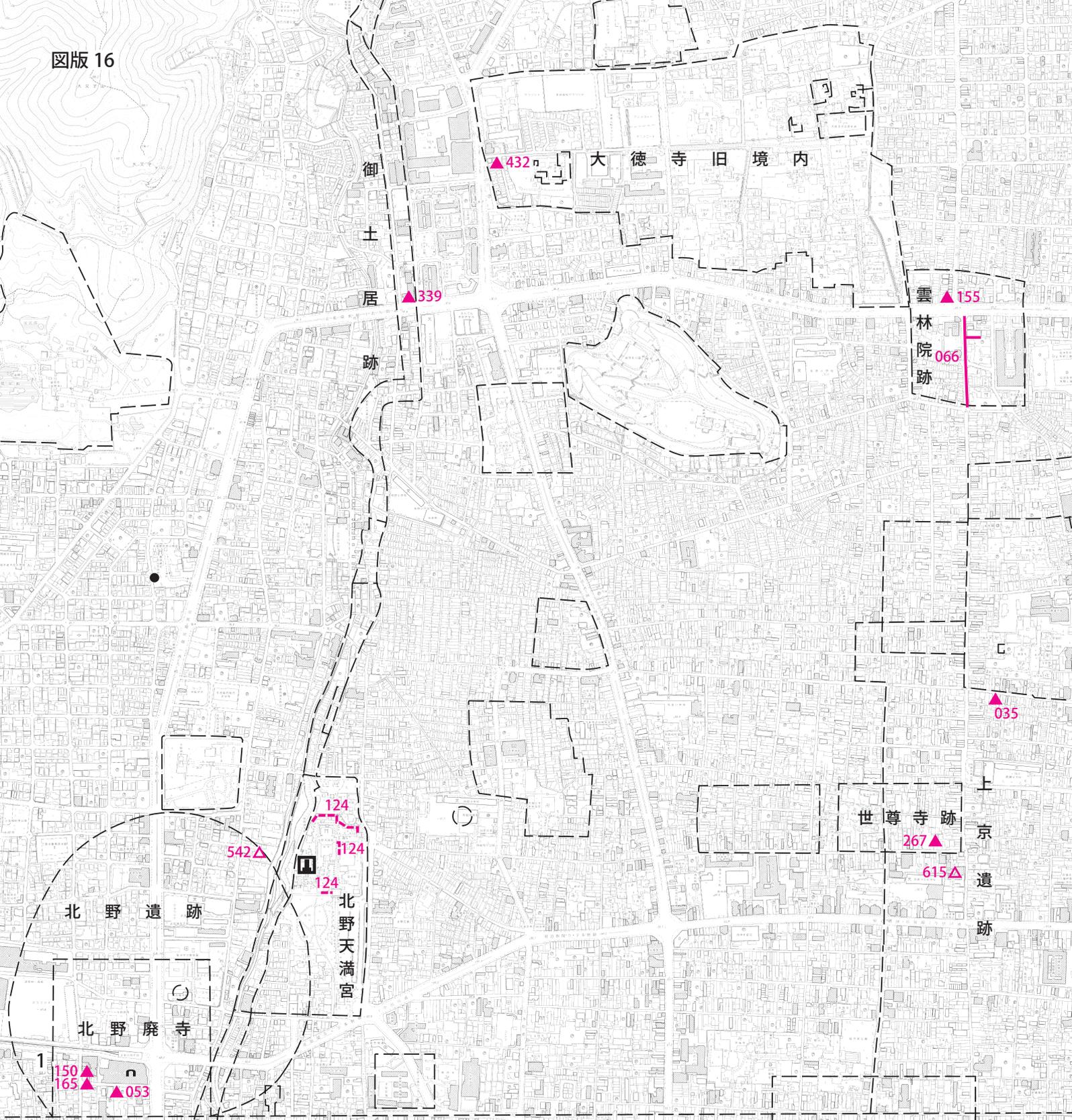
▲003

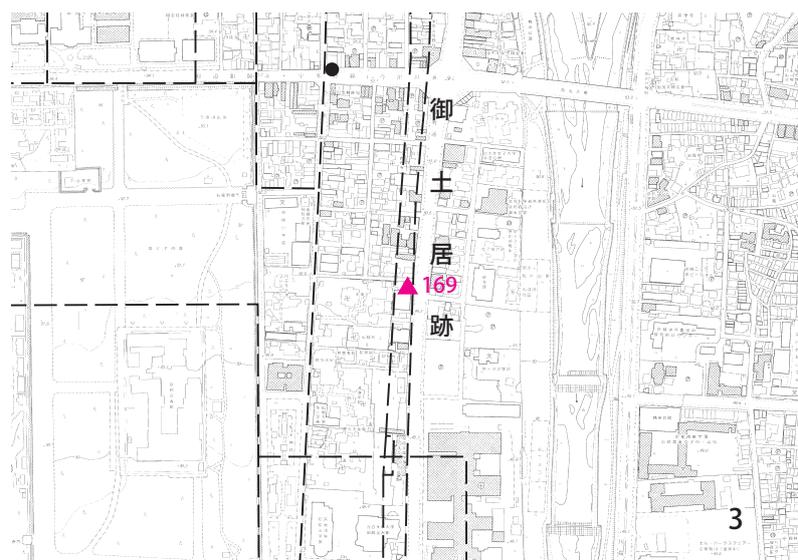
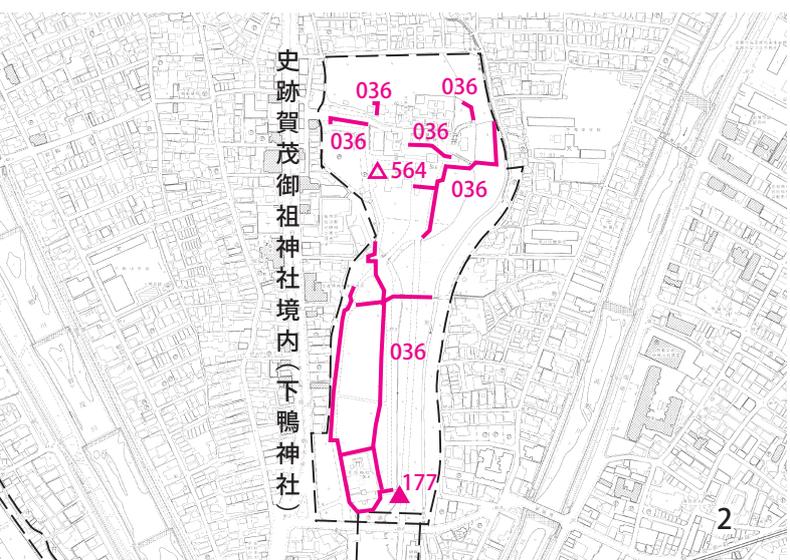
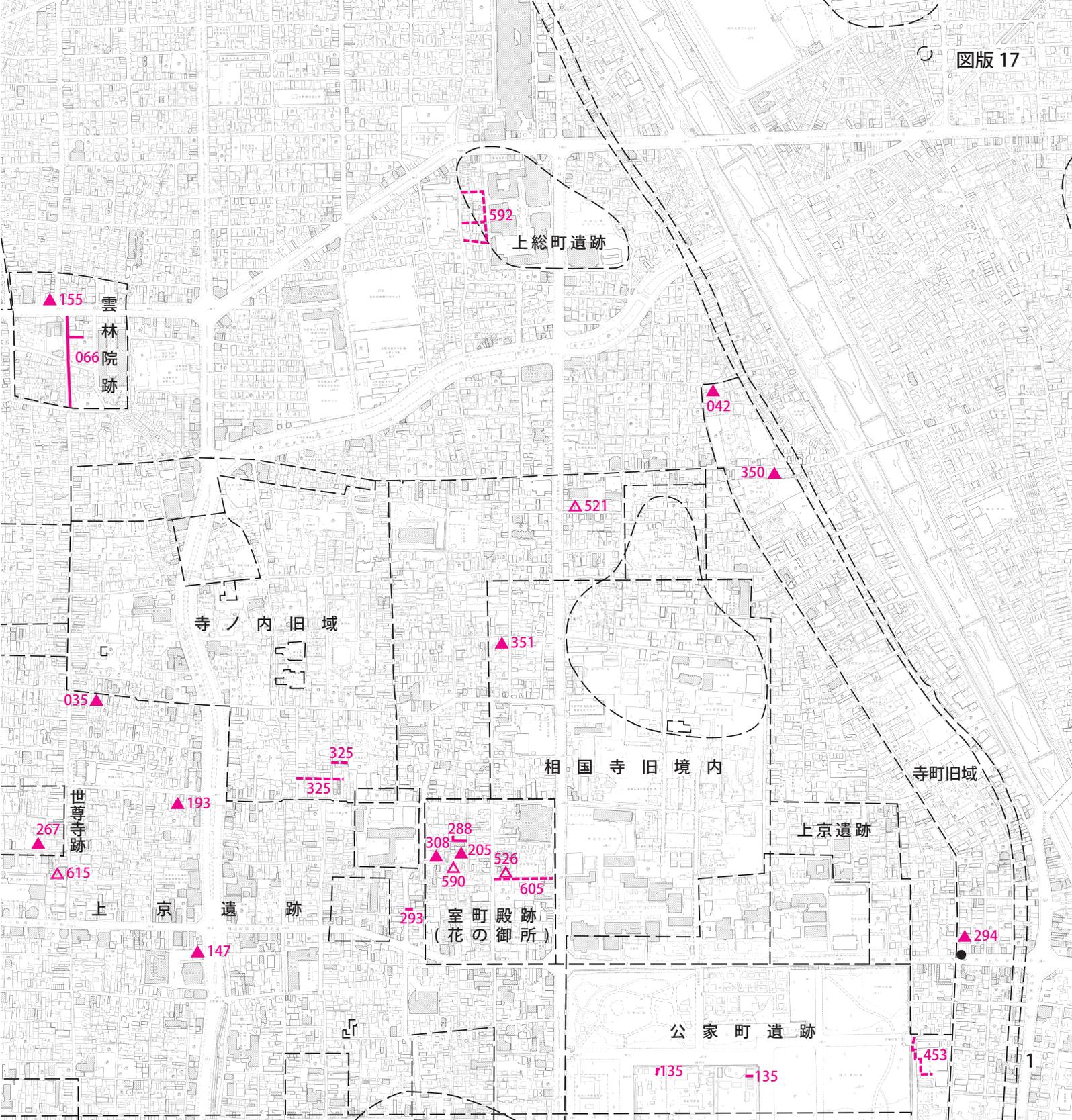
▲268

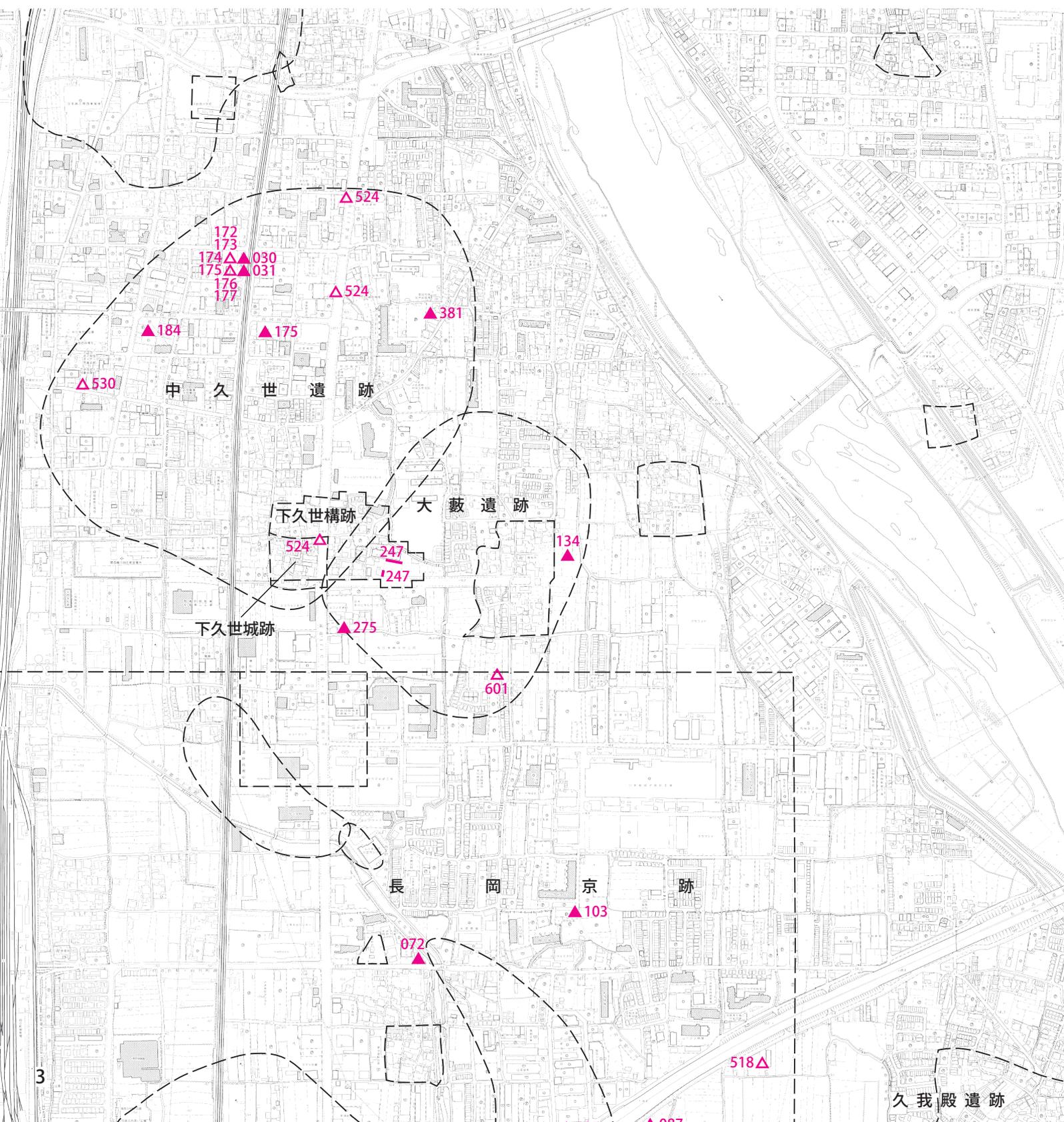
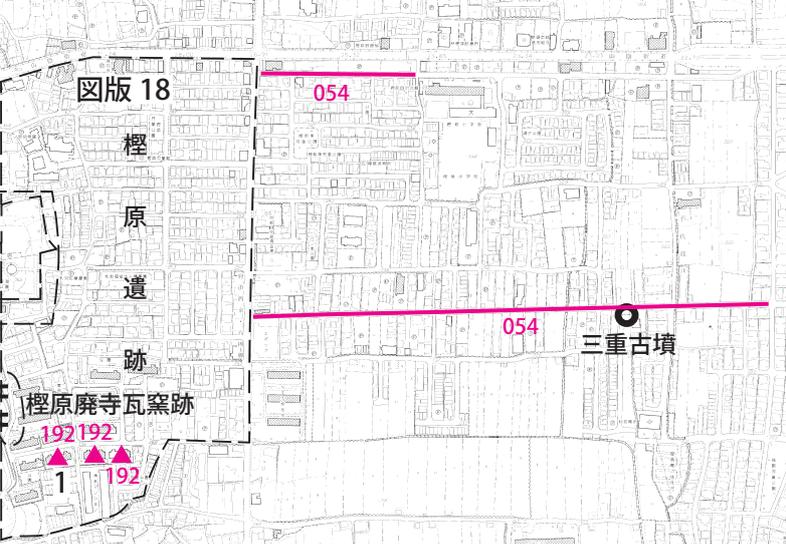
向島城跡

▲317

▲434







久我殿遺跡

▲566

▲525

▲087

東土川遺跡

▲093

▲093

長岡京跡

▲029

▲421

▲399

羽束師菱川城跡

▲589

久我東町遺跡

羽束師志水町遺跡

▲157

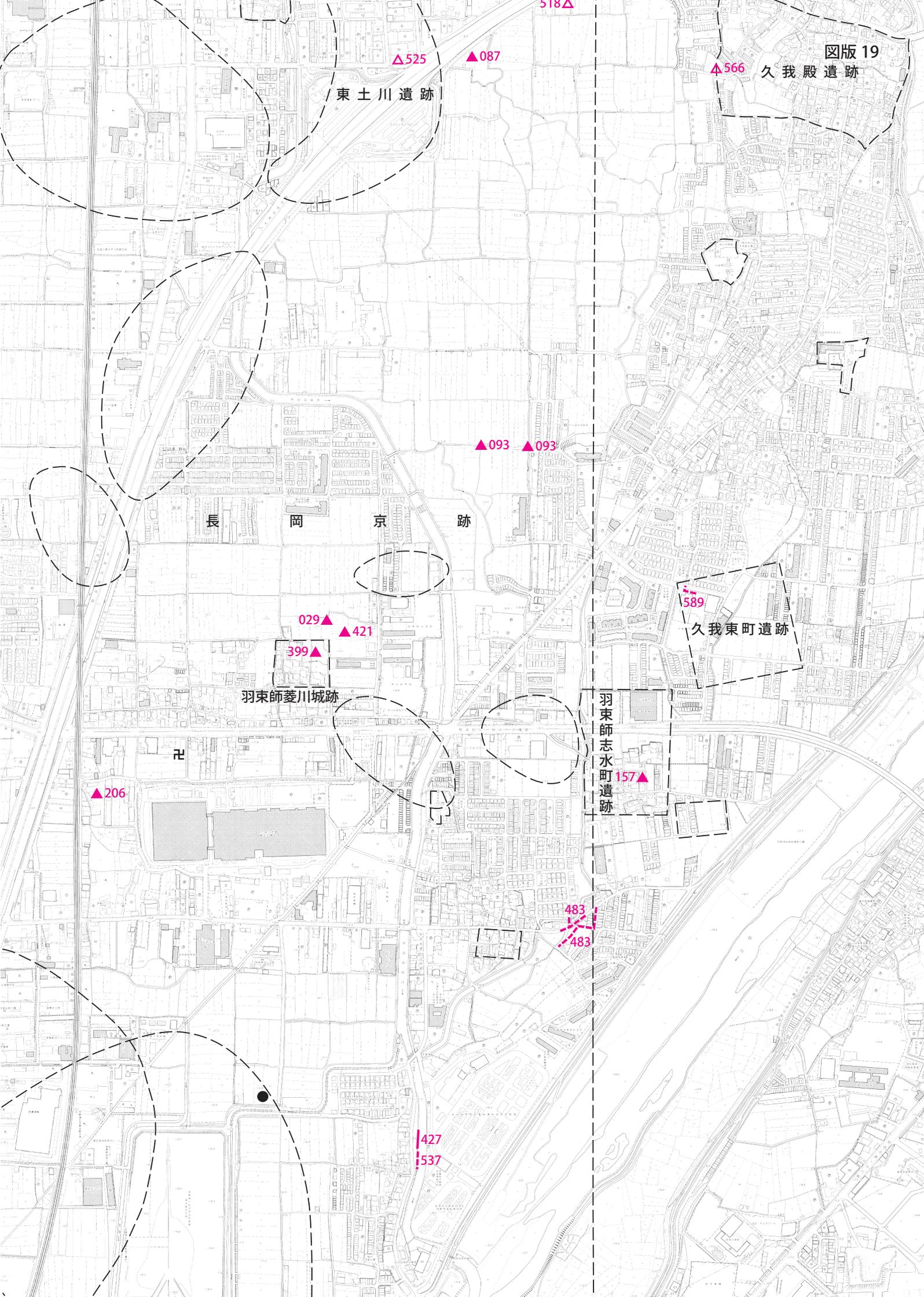
▲206

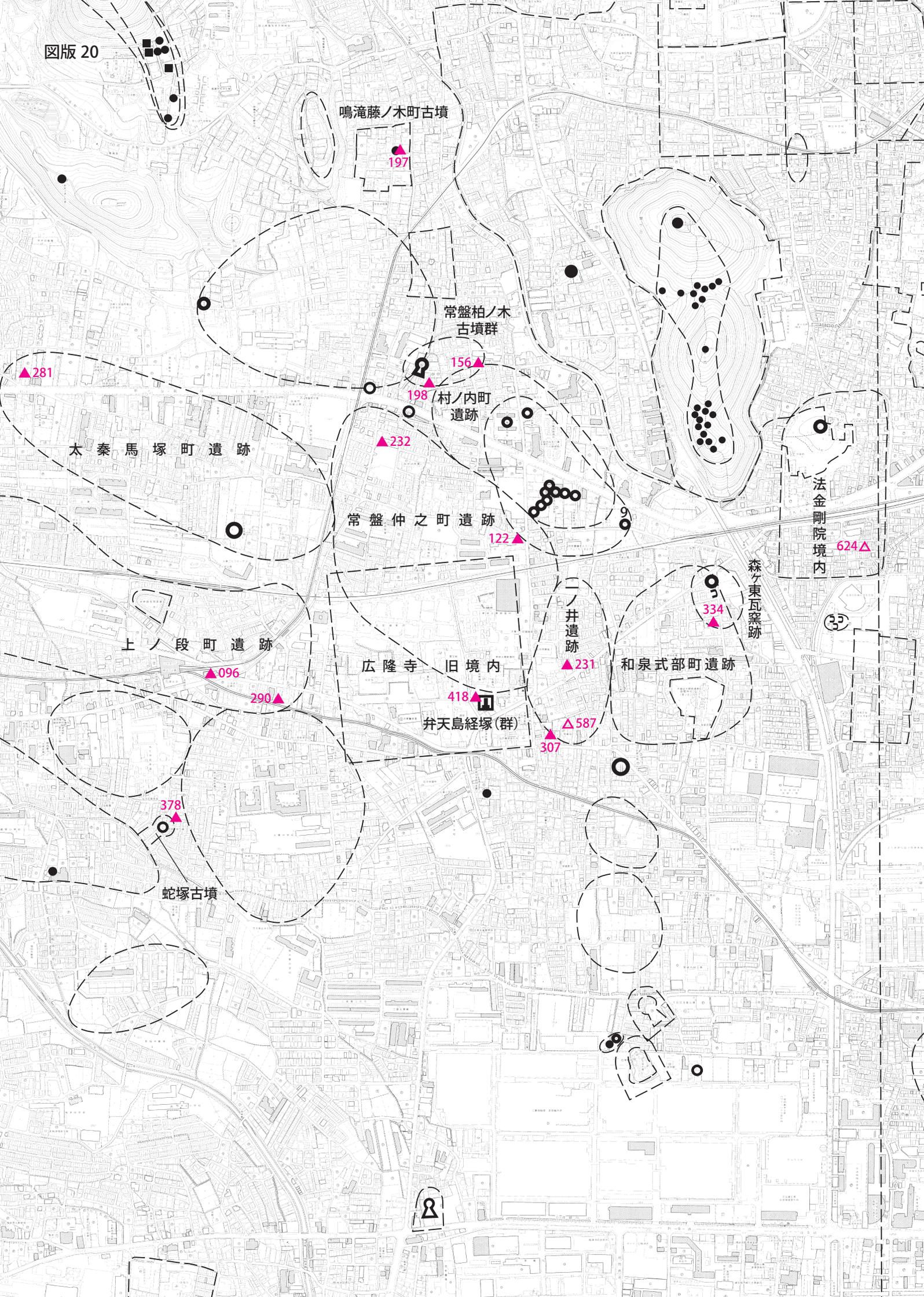
▲483

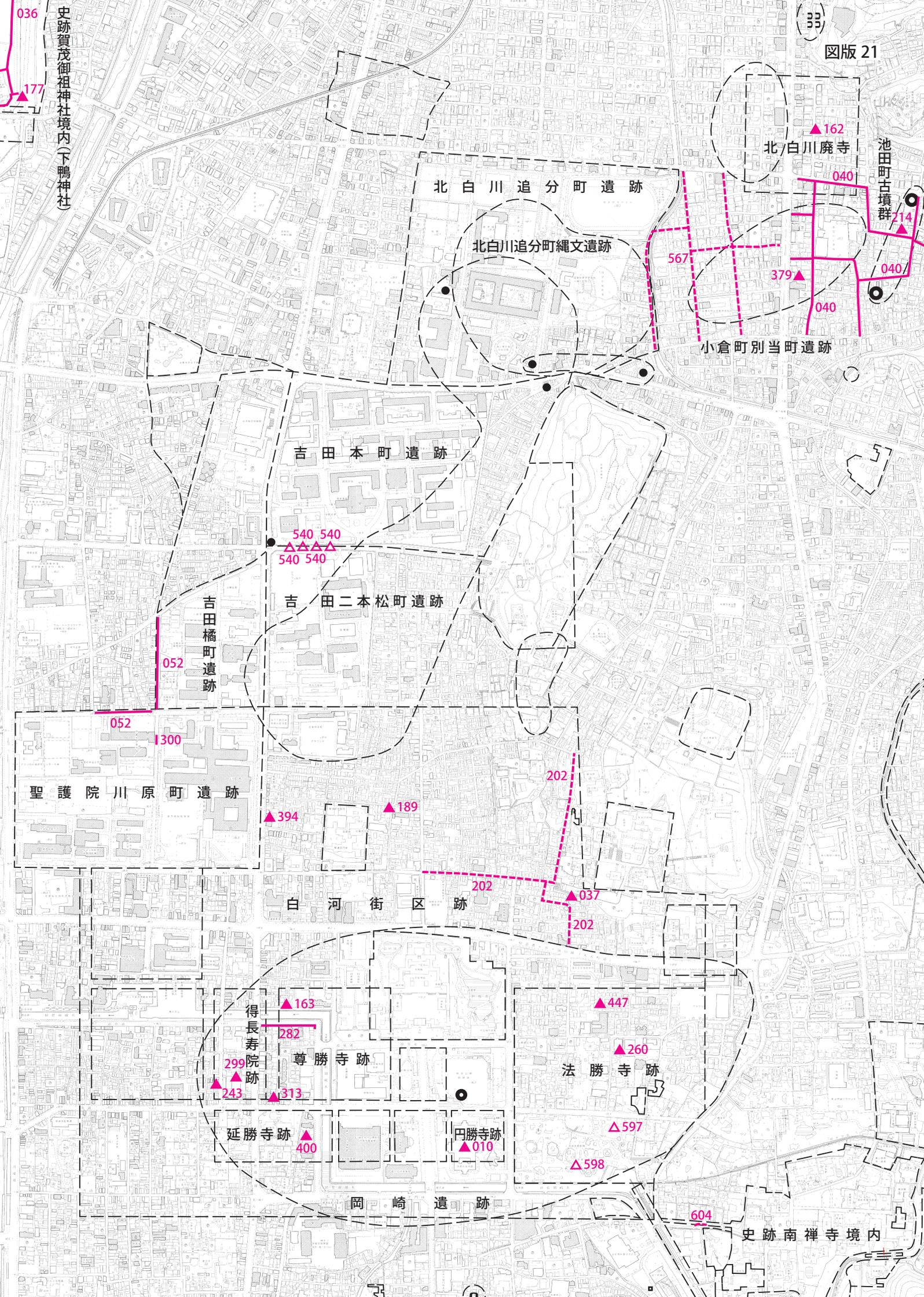
▲483

▲427

▲537







史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)

北白川追分町遺跡

北白川追分町縄文遺跡

北白川廃寺

池田町古墳群

小倉町別当町遺跡

吉田本町遺跡

吉田二本松町遺跡

吉田橘町遺跡

聖護院川原町遺跡

白河街区跡

得長寿院跡

尊勝寺跡

法勝寺跡

延勝寺跡

円勝寺跡

岡崎遺跡

史跡南禅寺境内

036

177

052

052

1300

540 540
540 540

▲394

▲189

202

▲037

202

▲163

282

▲299

▲243

▲313

▲400

▲010

▲447

▲260

▲597

▲598

604

▲162

040

▲379

040

▲114

040

196 ▲
039 ▲
120 ▲
180 ▲
寺町旧域

御土居跡

649 ▲

250 ▲

▲533

建仁寺境内

▲043

280

六波羅蜜寺寺
旧境内

▲340

▲006

▲178

▲038

▲038

▲107

音羽・五条坂築跡

▲195

▲166

六波羅政庁跡

方広寺跡

▲186

▲213

217
妙法院境内

▲652

▲640

▲057

▲648

法住寺殿跡

▲259

297

▲208

▲314

法観寺旧境内

▲071

史跡青蓮院
旧仮御所

593 ▲

▲593

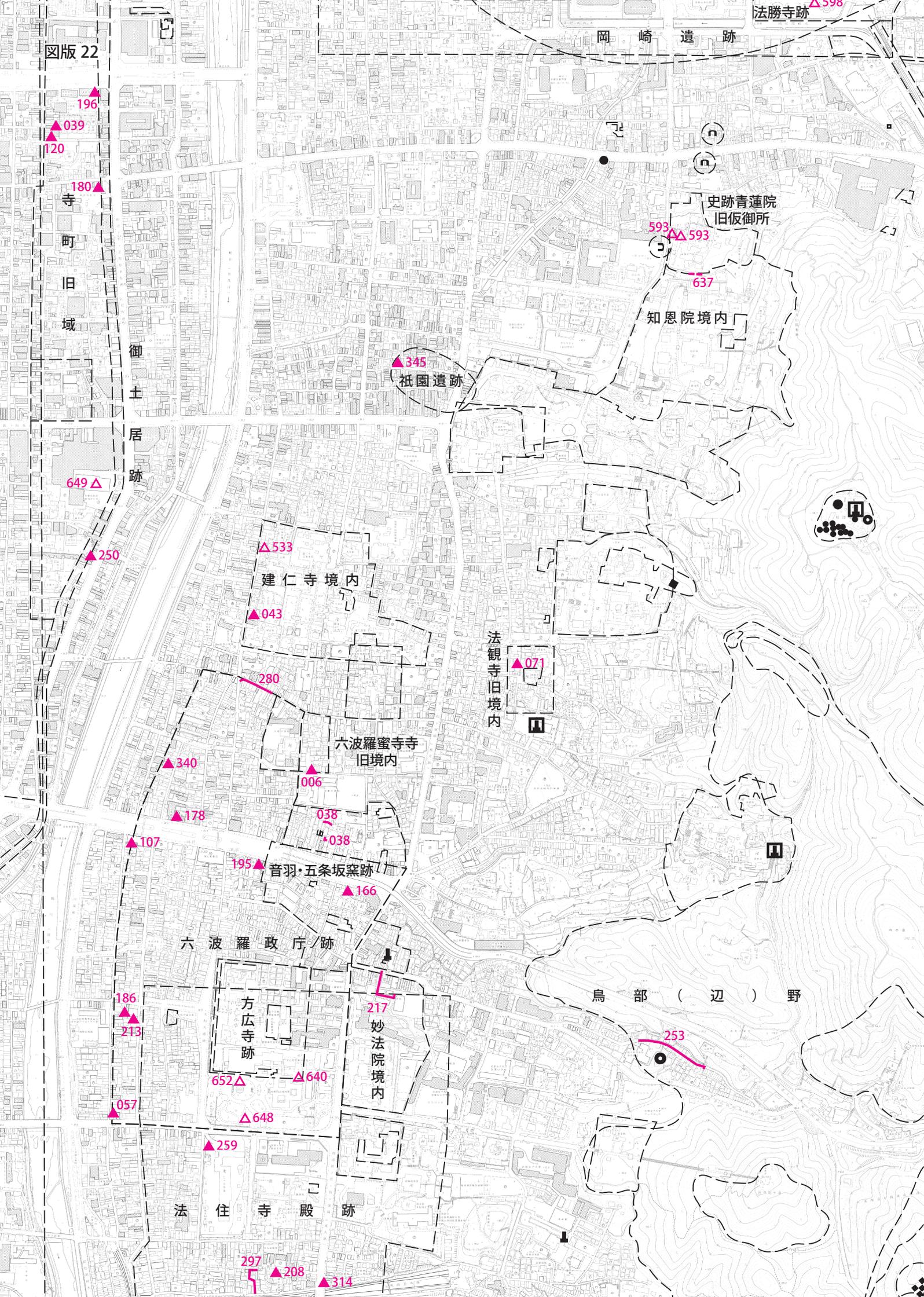
知恩院境内

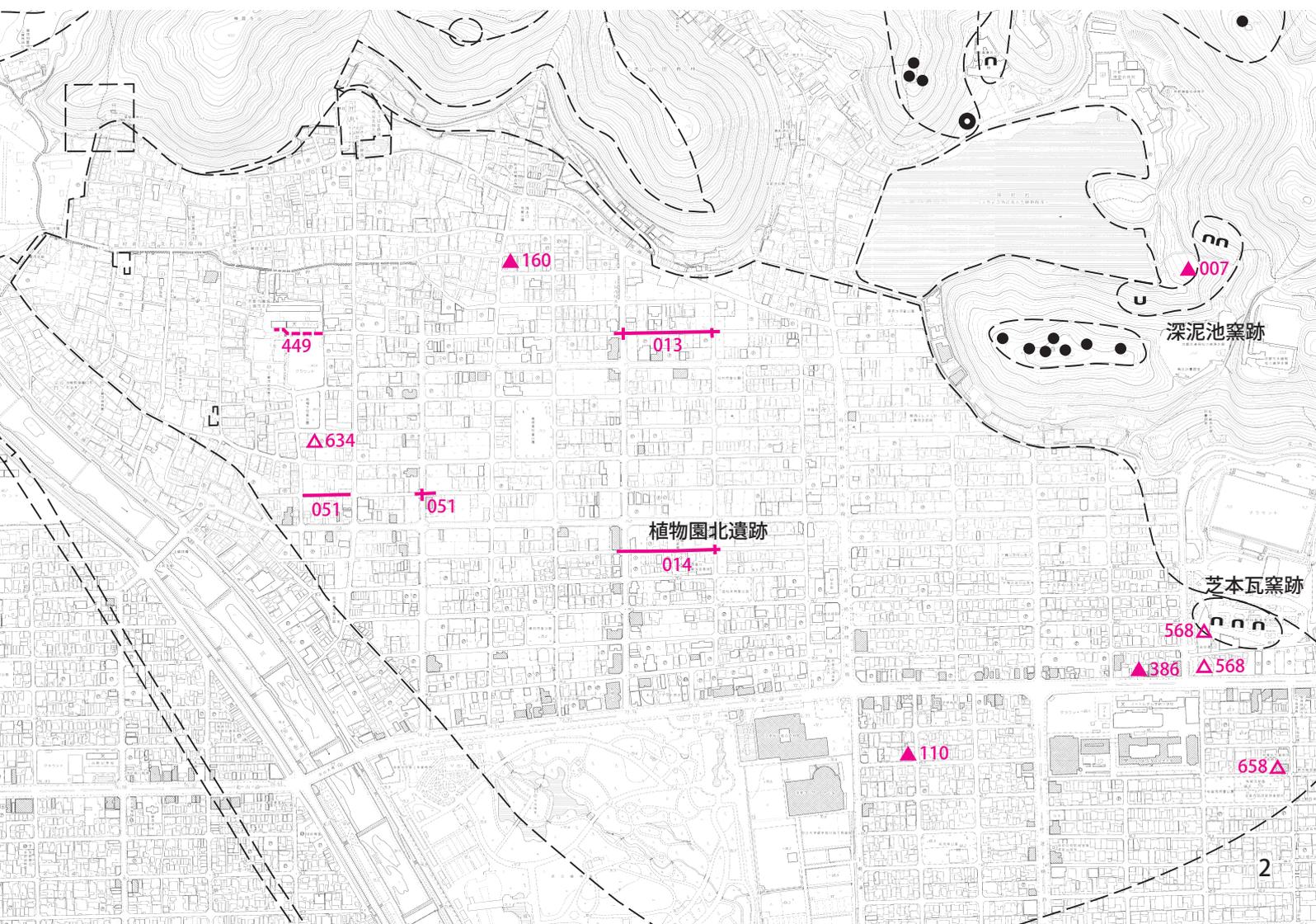
637

▲345
祇園遺跡

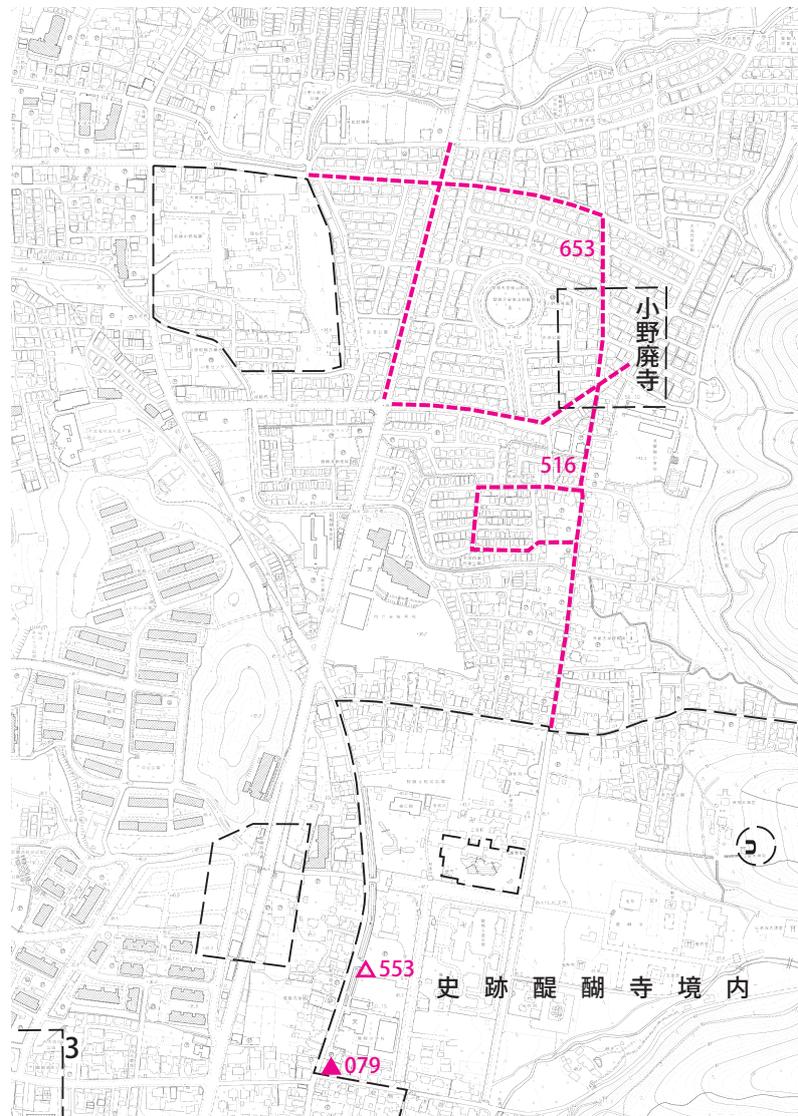
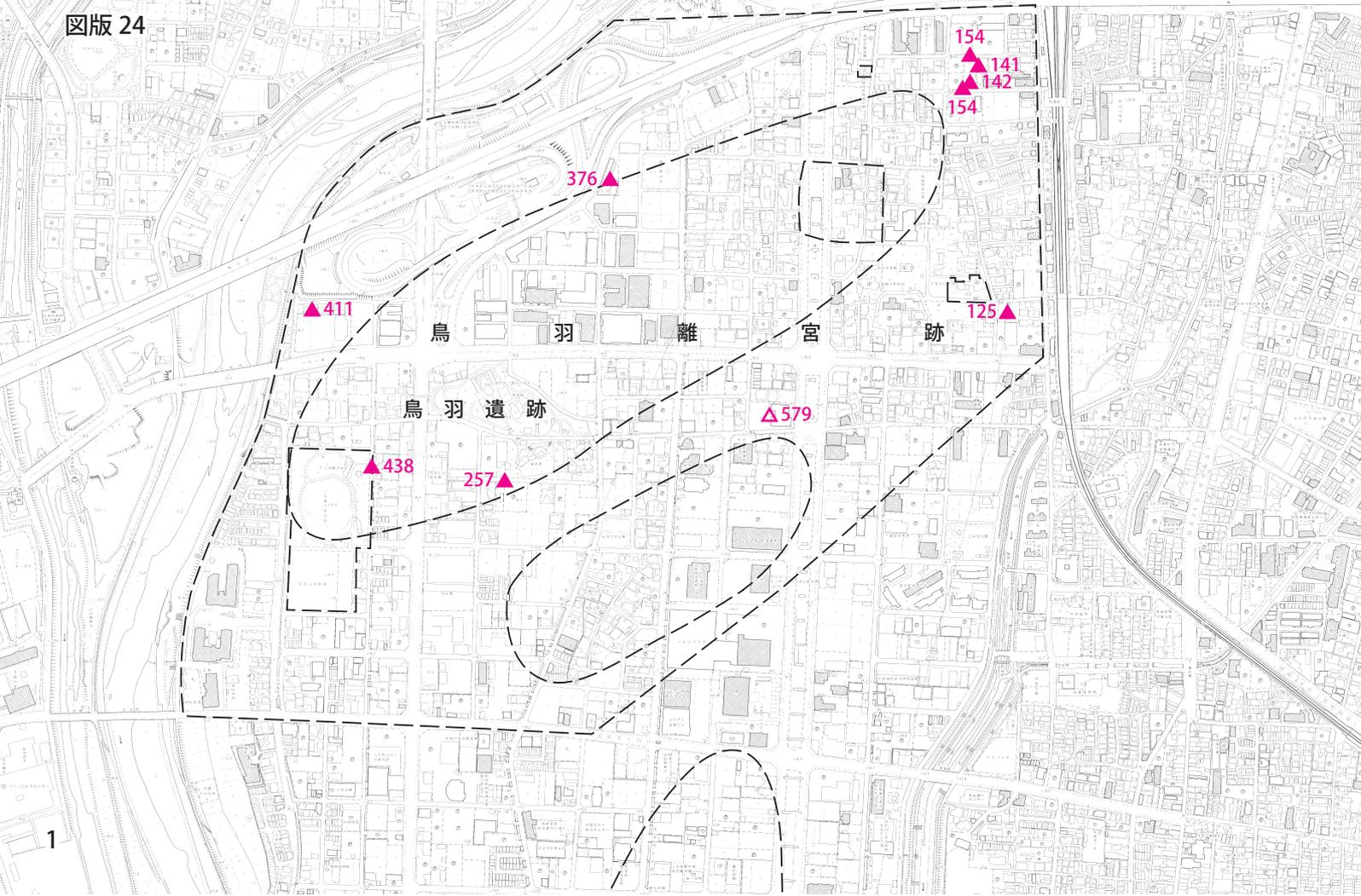
鳥部(辺)野

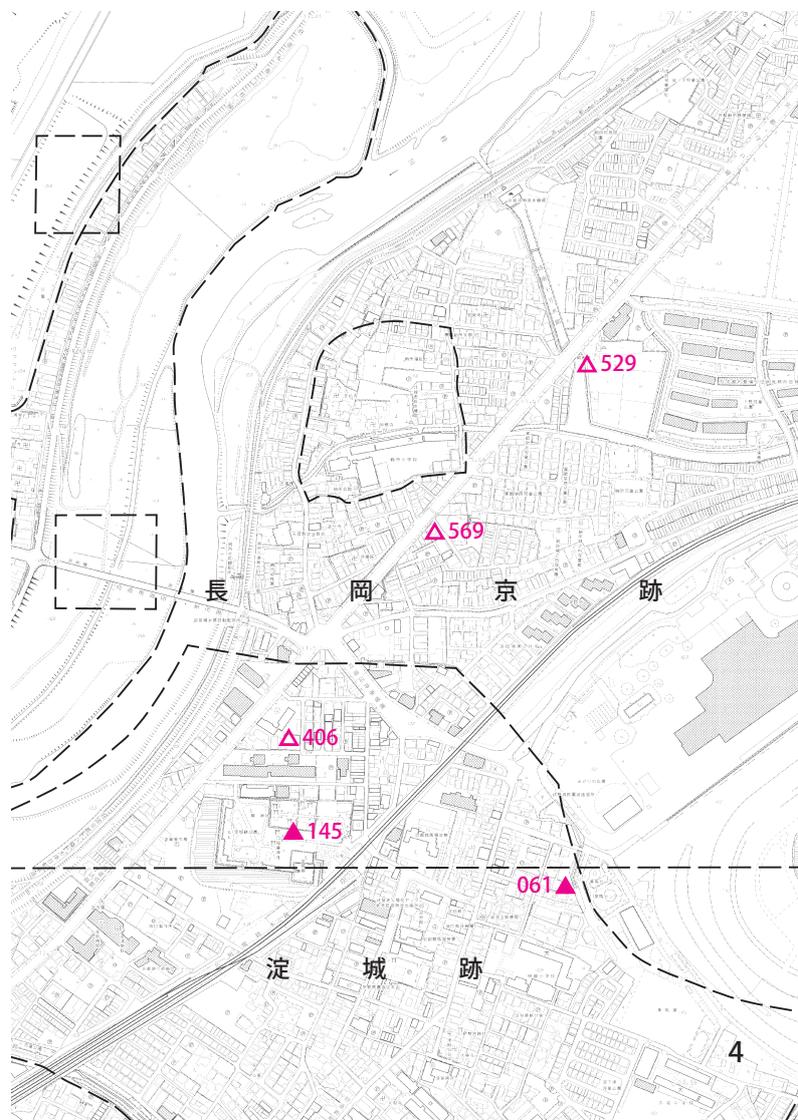
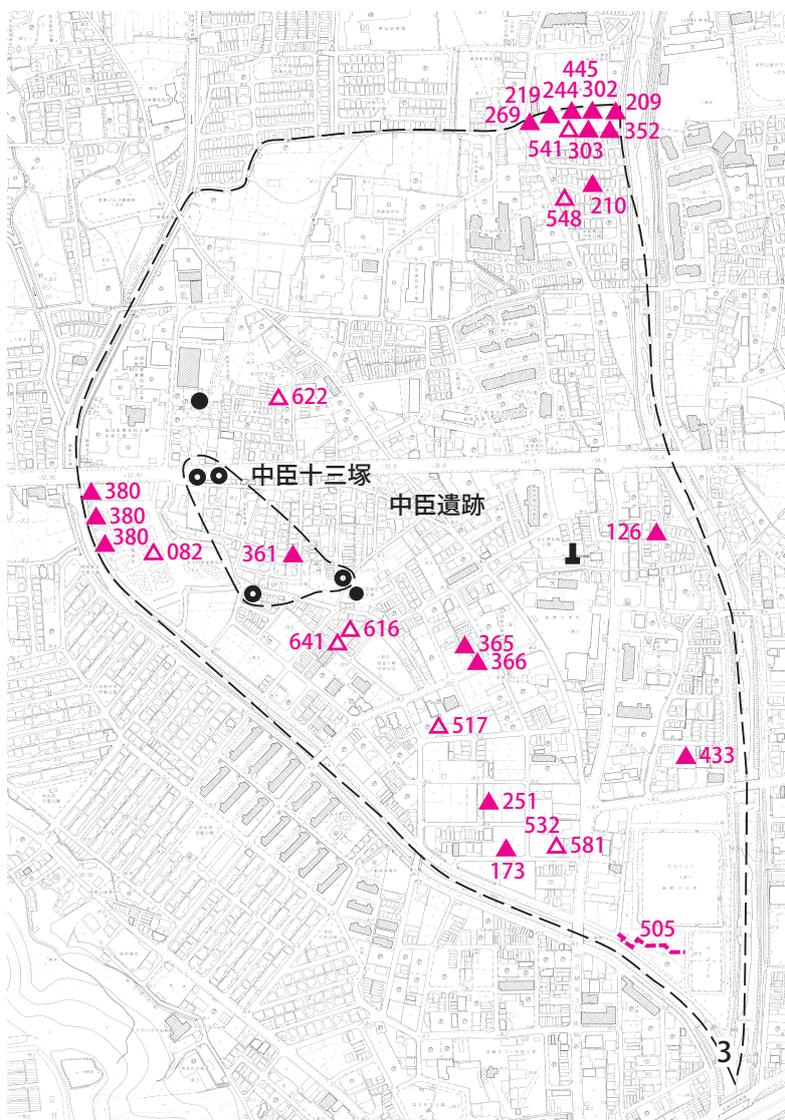
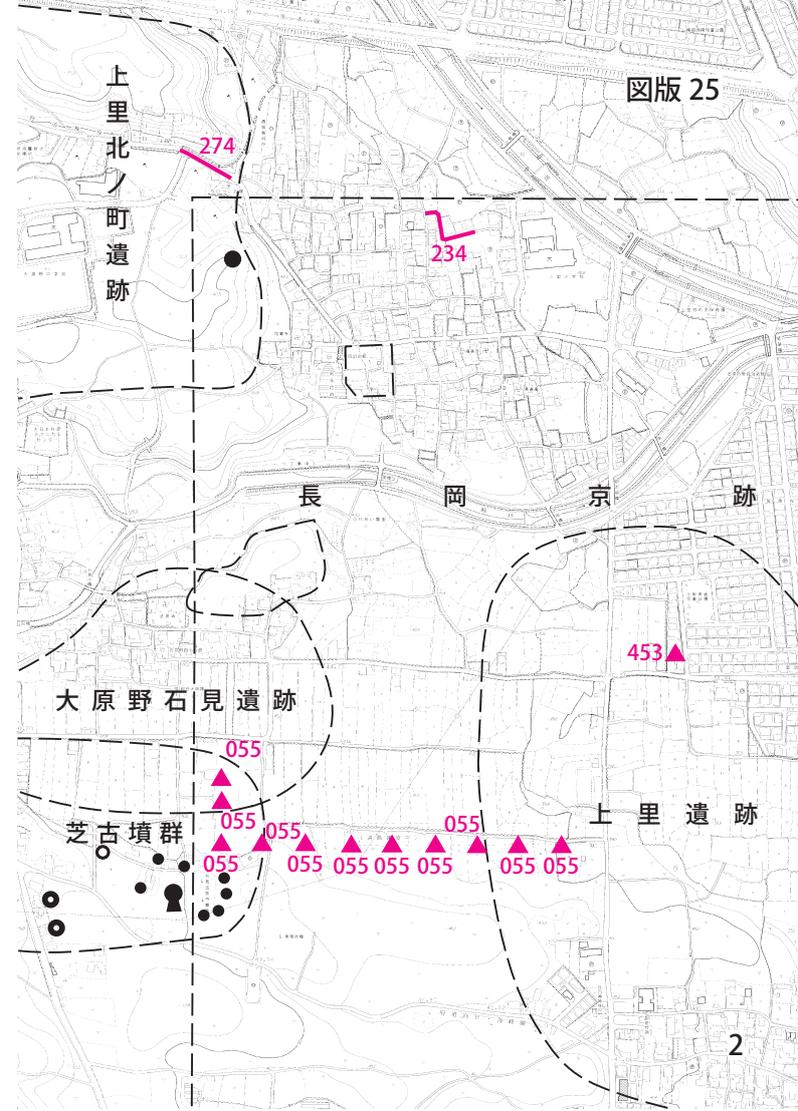
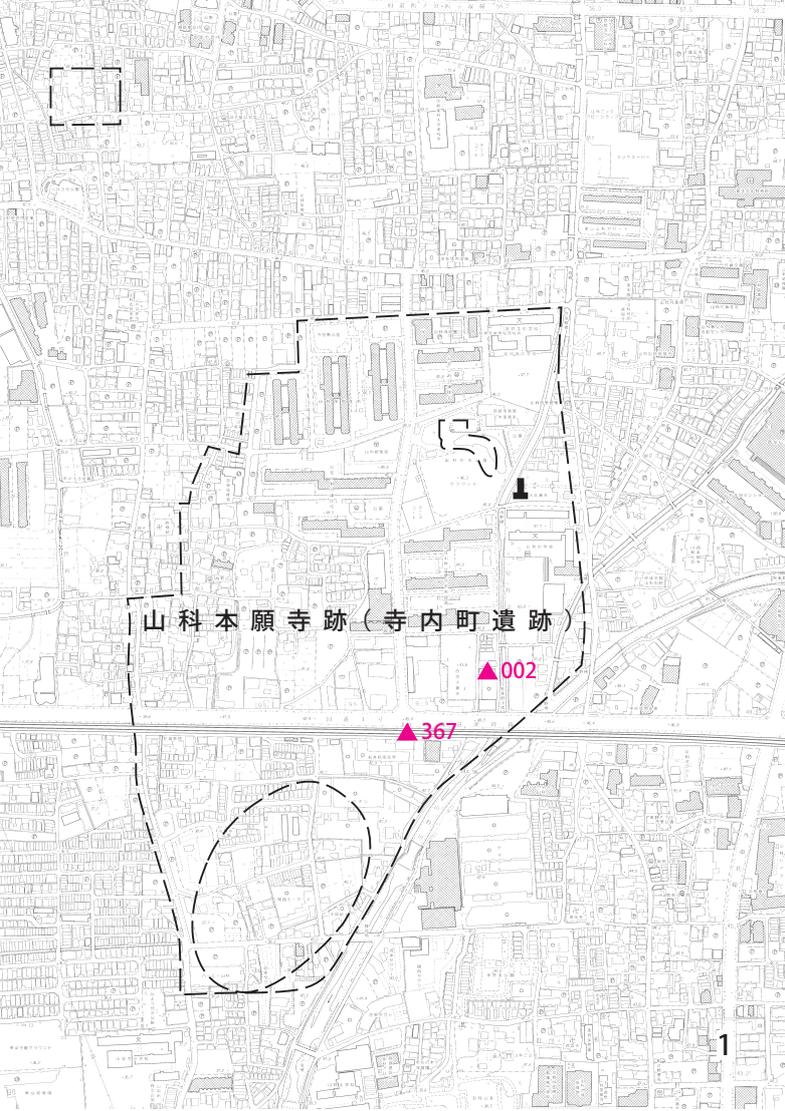
253

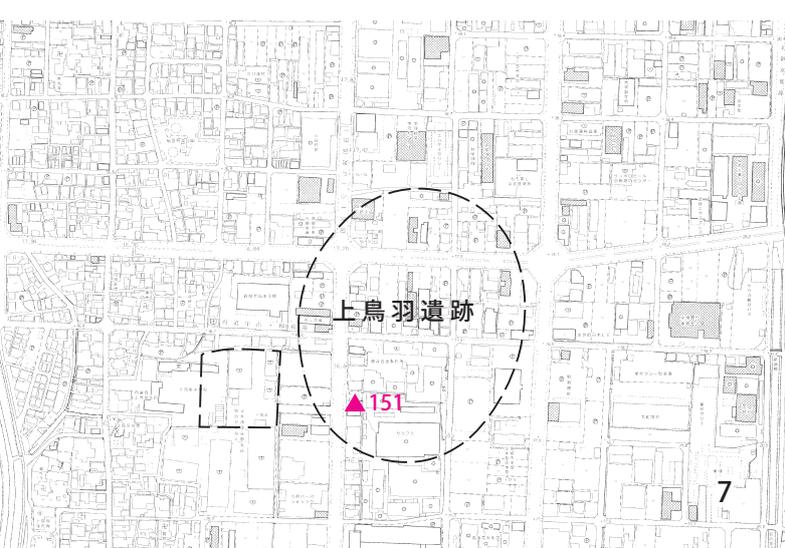
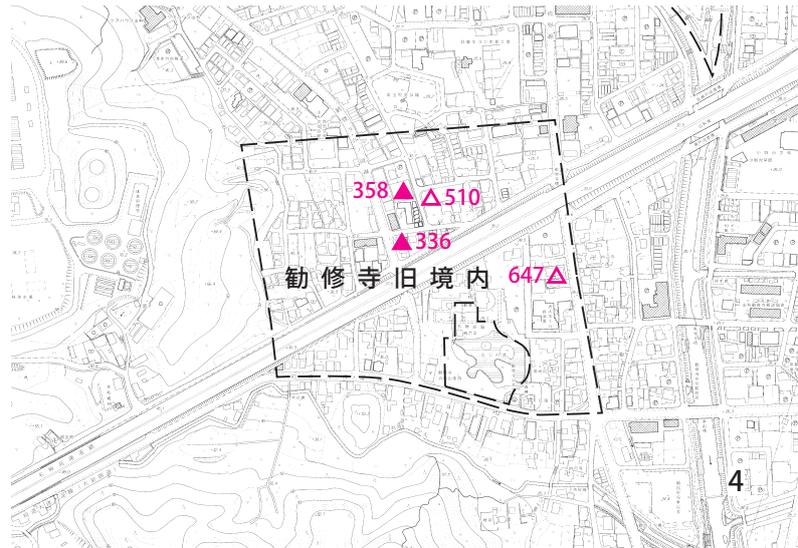
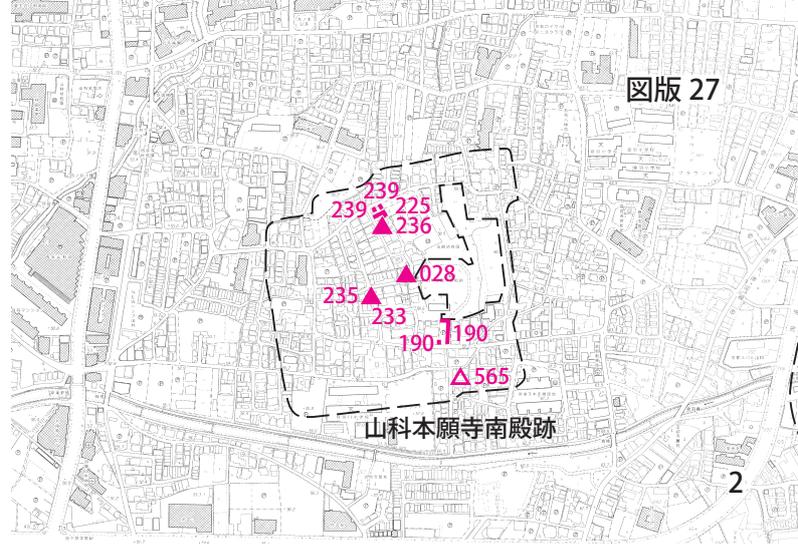
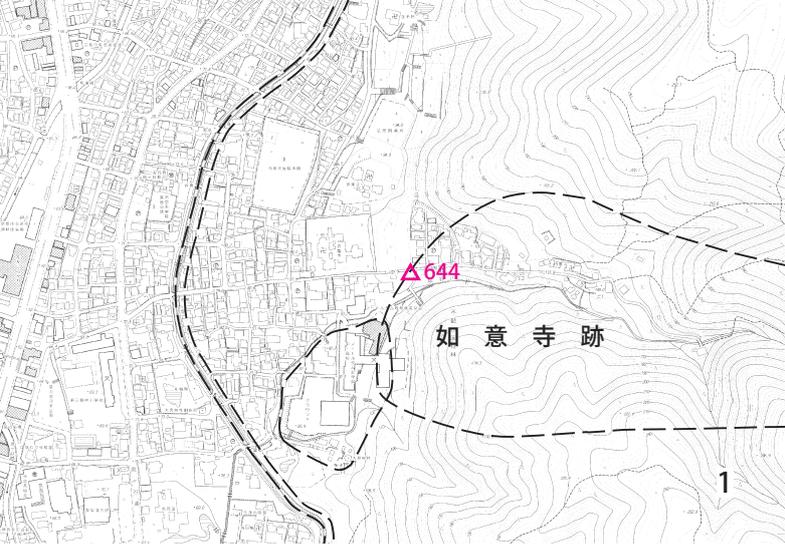




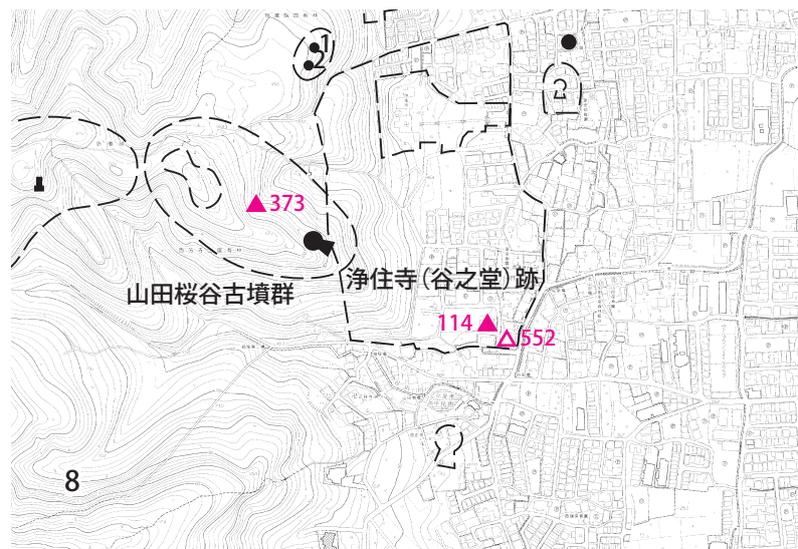
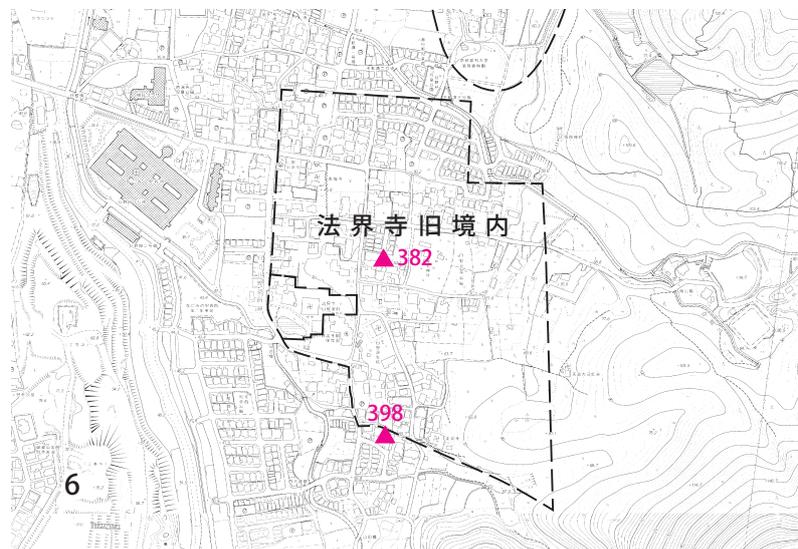
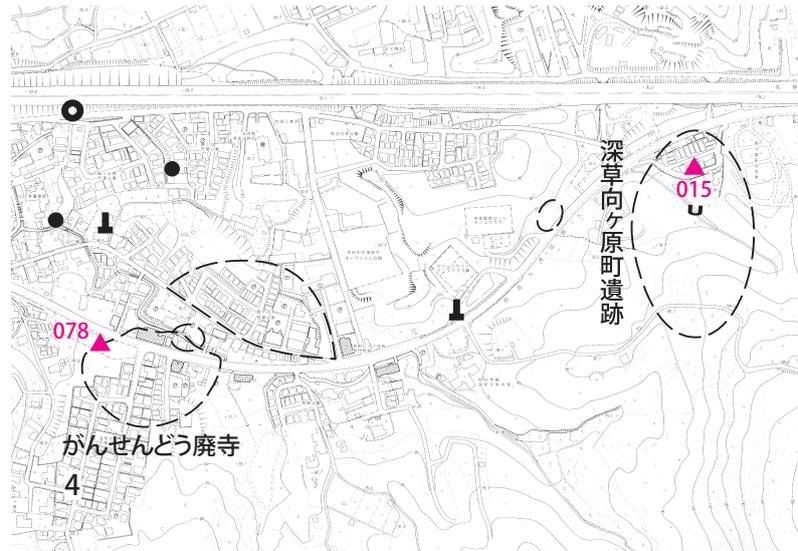
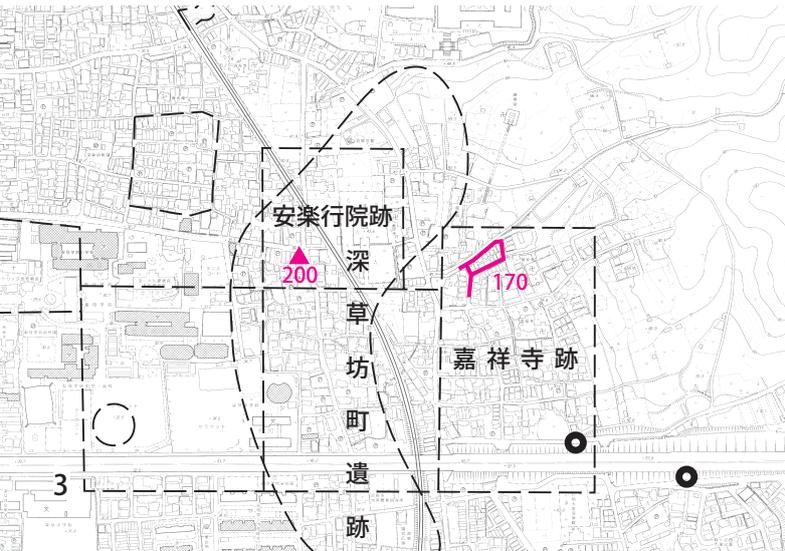
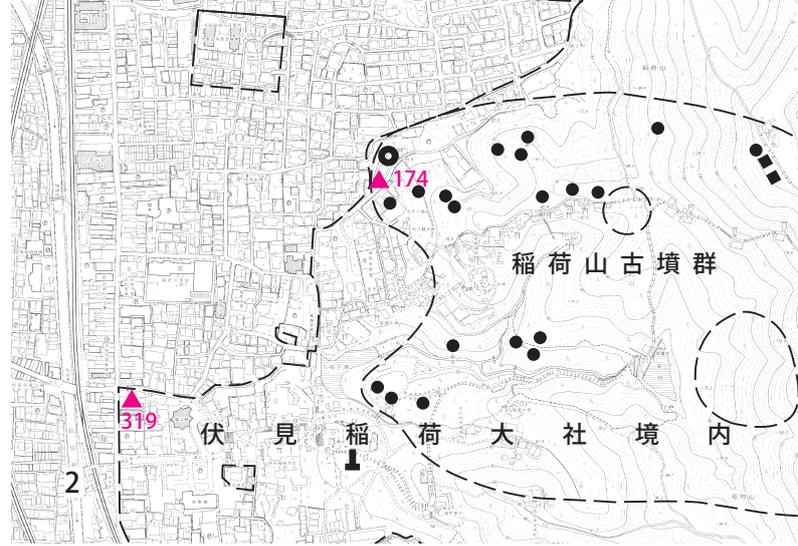
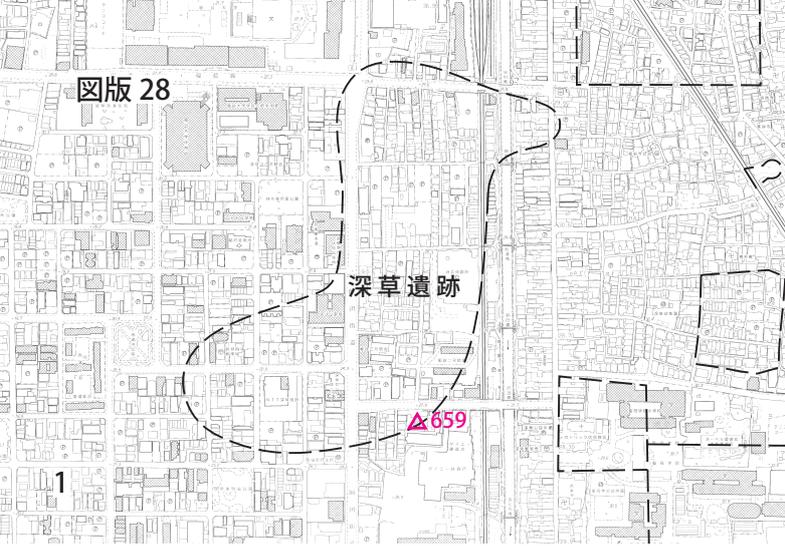
図版 24

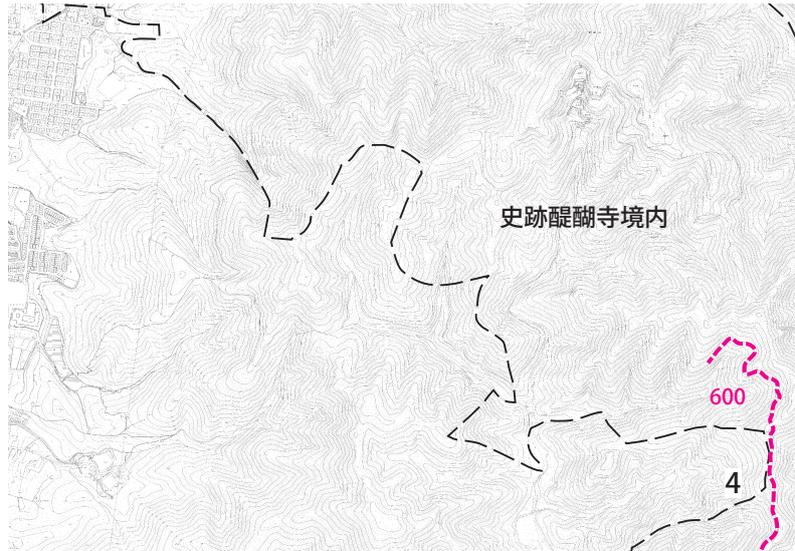
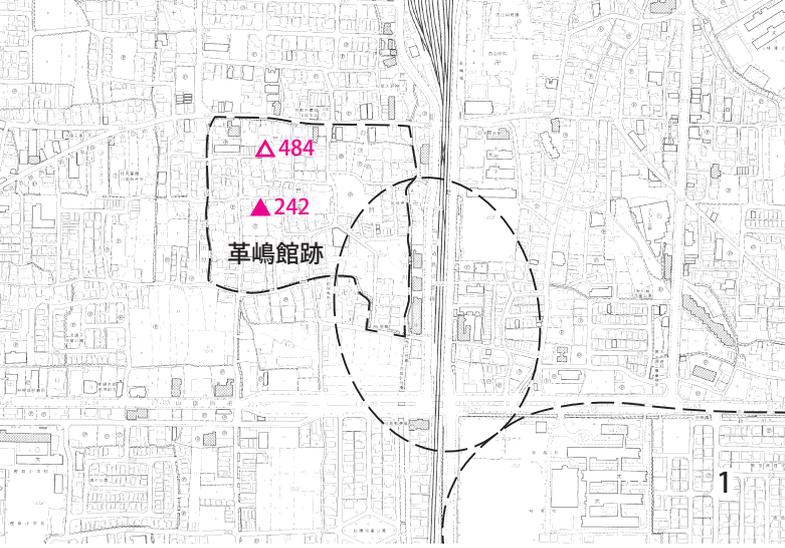






図版 28







1 第1区全景（北東から）



2 第1区全景（南西から）

京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成30年度

発行日 2019年3月29日
発行 京都市文化市民局
編集 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課
住所 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394
Y・J・Kビル2階
TEL.(075)366-1498
印刷 奥田印刷株式会社
TEL.(075)441-7060